

高須賀中台東遺跡

一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 26 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第382集

たかすかなかだいひがし
高須賀中台東遺跡

一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 26 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を推進しています。

その一環として国土交通省が整備を推進している首都圏中央連絡自動車道は、都心部と中核都市を結ぶ3環状9放射の道路ネットワークです。道路網の整備により、首都圏の交通混雑が緩和されるほか、環境改善、経済効率の向上など、様々な効果が期待されます。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である高須賀中台東遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成22年7月から平成23年3月までの9か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、高須賀中台東遺跡の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成26年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木 欣一

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）が平成 22 年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市高良田元上新田字中臺 682 番地の 1 ほか^{たかすかなかだいりがし}に所在する高須賀中台東遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
整理 平成 24 年 4 月 1 日～7 月 31 日
平成 25 年 8 月 1 日～平成 26 年 1 月 31 日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 皆川 修
首席調査員 小澤 重雄 平成 22 年 11 月 1 日～12 月 31 日
首席調査員 酒井 雄一 平成 22 年 7 月 1 日～10 月 31 日
平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日
主任調査員 坂本 勝彦 平成 22 年 7 月 1 日～9 月 30 日
調査員 宮崎 剛 平成 22 年 10 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、次席調査員坂本勝彦が担当した。
- 5 石器集中地点から出土した石器の実測と観察表の作成については、株式会社シン技術コンサルに委託した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、 $X = + 8,600 \text{ m}$ 、 $Y = + 16,040 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …、西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3, … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット PG - ピット群 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑
SS - 石器集中地点 TP - 陥し穴

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器

土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩  炉・火床面・種子範囲・繊維
 粘土範囲・黒色処理  炭化材・煤
●土器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 - - - 硬化面

※石器集中地点における表示についてはこの限りではない。

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位は m, cm, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SI30 → PG12 SK292 → SE 1 SK60 → TP 1 SK247 → TP 2 SK248 → TP 3

SK273 → TP 4 SK294 → TP 5

欠番 SK43・62・74・81・82・116・155・157

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
高須賀中台東遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	12
1 旧石器時代の遺構と遺物	12
石器集中地点	13
2 縄文時代の遺構と遺物	20
(1) 竪穴建物跡	20
(2) 陥し穴	29
(3) 土坑	32
(4) 集石遺構	40
3 古墳時代の遺構と遺物	42
(1) 竪穴建物跡	42
(2) 土坑	102
4 その他の遺構と遺物	107
(1) 竪穴建物跡	107
(2) 井戸跡	108
(3) 土坑	109
(4) 溝跡	133
(5) ピット群	139
(6) 遺構外出土遺物	152
第4節 まとめ	157
写真図版	PL 1～PL34
抄 録	
付 図	

たかすかなかだいひがし 高須賀中台東遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

高須賀中台東遺跡は、つくば市の西部、小貝川左岸の標高 21 m ほどの台地縁辺部に立地しています。一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 22 年度に 11,942m²について発掘調査を行いました。



調査の内容

調査によって、^{たてあなたてものあと} 竪穴建物跡 31 棟（縄文時代、古墳時代、不明）のほか、^{おと} 陥^{あな}し穴（縄文時代）、^{どころ} 土坑（縄文時代、古墳時代、不明）、^{しゅうせきいこう} 集石遺構（縄文時代）、^{みぞあと} 溝跡（不明）、^{せつきしゅうちゅうちてん} 石器集中地点（旧石器時代）などを確認しました。これにより、後期旧石器時代には石器製作地点として、縄文時代前期（約 6,000 年前）と古墳時代前期（約 1,700 年前）には集落として当地が利用されていたことが分か



調査区全景（南西方向から）



出土したナイフ形石器と石刃



出土した小形甕とミニチュア土器

りました。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、土製品、石器・石製品、鉄器・鉄製品、銅製品、自然遺物などです。

調査の結果

人々の生活の痕跡を確認したのは、後期旧石器時代からです。ナイフ形石器^{がたせつき}や石刃^{せきじん}、石器を製作する際に母岩^{ぼがん}から剥がれ落ちた剥片^{はくへん}など、石器集中地点3か所から42点の石器が出土しました。石器を製作していた地点と考えられ、狩猟^{しゅりょう}を中心とした生活をしていたことが分かりました。

縄文時代の遺構は、竪穴建物跡6棟などを確認しました。時期はいずれも前期(約6,000年前)で、集落が形成されていた様子がうかがえます。また、陥し穴や集石遺構などを確認するとともに、後期や晩期の遺物も出土していることから、前期以外の時期にも人々が生活していたことが想定できます。

当遺跡で集落が最も拡大したのは古墳時代前期(約1,700年前)で、竪穴建物跡24棟などを確認しました。建物形態の特徴は、中央部の北寄りに炉^ろをもつ建物が多いこと、大形の建物は南壁際^{まじき}に間仕切り溝^{みぞ}があること、出入り口近くの壁際^{ちよぞうけつ}に貯蔵穴^{ちよぞうけつ}があることなどです。今回確認した建物の多くは、焼土や炭化材が出土していることから焼失住居と考えられます。出土した土器は、その多くが接合関係にあり、また、炉床面から出土した鏡形土製品^{かがみがたどせいひん}や糸巻形土製品^{いとまきがたどせいひん}などから、建物の廃絶^{はいぜつ}に係る祭祀^{さいし}的な行為が想定できます。

いにしえの時代から、人々は神聖なるものへ畏敬^{いけい}の念をもちながら暮らしていたその一端が、少しずつ明らかになってきました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成17年9月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及び取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成17年10月7日に現地踏査を、平成21年3月24・26日、11月18・19日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成21年3月30日、12月15日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に高須賀中台東遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成22年2月22日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成22年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年2月22日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成22年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、高須賀中台東遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として、財団法人茨城県教育財団（平成24年4月から公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年7月1日から平成23年3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

高須賀中台東遺跡の調査は、平成22年7月1日から平成23年3月31日までの9か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間		平成22年				平成23年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■							
遺構調査			■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注記 写真整理	■	■	■	■	■	■	■	■	■
撤収									■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

高須賀中台東遺跡は、茨城県つくば市高良田元上新田字中臺 682 番地の 1 ほかにも所在している。

つくば市は、筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約 20～25 m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。また、それぞれの河川によって大きく開析された流域には、標高 5～10 m の沖積地が発達している。さらに、筑波・稲敷台地には、東から花室川、蓮沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎砂礫層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層 (0.3～5.0 m) 及び褐色の関東ローム層 (0.5～2.0 m) が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

当遺跡はつくば市南西部旧谷田部町域の高須賀地区・高良田地区に所在し、西谷田川と小貝川に挟まれた南北に細長い台地上の西部、北西・南東方向に約 250 m、北東・南西方向に約 75m の範囲に位置しており、標高は 19～21 m である。当遺跡北西部は、西側の小貝川に向かってやや落ち込む地形となっており、南部は、南側に谷津が入り込んでいる。それぞれ高良田地区の台地は主に畑地として、また低地は水田としてそれぞれ利用されており、台地と水田面の比高は約 6 m である。当遺跡の調査前の現況は畑地及び山林であり、畑地は主に野菜畑として利用されていた。

第2節 歴史的環境

高須賀中台東遺跡周辺の小貝川や西谷田川流域の台地上には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く所在している。ここでは周辺遺跡の中世までの様相について、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、西谷田川左岸台地上の^{てごまる}手子生遺跡〈26〉や^{もとみやもとまへやま}元宮本前山遺跡²⁾〈39〉、^{しもかわらざきやなかだい}下河原崎谷中台遺跡³⁾〈41〉が確認されている。元宮本前山遺跡からは、石器集中地点 1 か所が確認され、ナイフ形石器や石核・台石などが出土している。下河原崎谷中台遺跡では、石器集中地点 2 か所が確認され、ナイフ形石器、角錐状石器のほか石核や剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は、西谷田川左岸の台地縁辺部に位置する元宮本前山遺跡で早期後葉の炉穴が、下河原崎谷中台遺跡では早期の炉穴や後・晩期の竪穴建物跡が確認されている。小貝川左岸の台地上に位置する^{たかす かなか}高須賀中台遺跡⁴⁾〈13〉からは、前期の竪穴建物跡 1 棟が確認されている。^{かみこうかみやもり}上郷神谷森遺跡⁵⁾〈5〉からは前期から後期にかけての土器が出土するとともに、中期の竪穴建物跡 18 棟が確認されている。^{たかす かくま やま}高須賀熊の山遺跡⁶⁾〈7〉では、試掘調査によって後期の土器が出土したことが確認されている。^{ませやまだ}真瀬山田遺跡〈47〉からは、中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し、隣接する^{ませほりつきがね}真瀬堀附南遺跡〈49〉、^{ませやまだ}真瀬山田北遺跡〈46〉、^{なべぬましん}鍋沼新田長峰遺跡〈45〉などからも縄文土器片が出土している。これらのことから、当該地域は早期から晩期にかけ

で断続的に集落が営まれてきたことがうかがえる。

弥生時代の遺跡は少なく、当該地域では高須賀熊の山遺跡と、中期から後期の遺物が出土した下河原崎高山遺跡〈42〉の2遺跡が確認されているのみである。

古墳時代の遺跡は多く、当遺跡周辺の各地で見られるようになる。前期では、高須賀中台遺跡において竪穴建物跡2棟が確認されている。上郷神谷森遺跡では竪穴建物跡28棟が確認されており、その中には、出土遺物が1,000点を超える竪穴建物跡や1辺が7mを超える比較的大形の竪穴建物跡があり、当該期から集落が形成されていったことが明らかになっている。

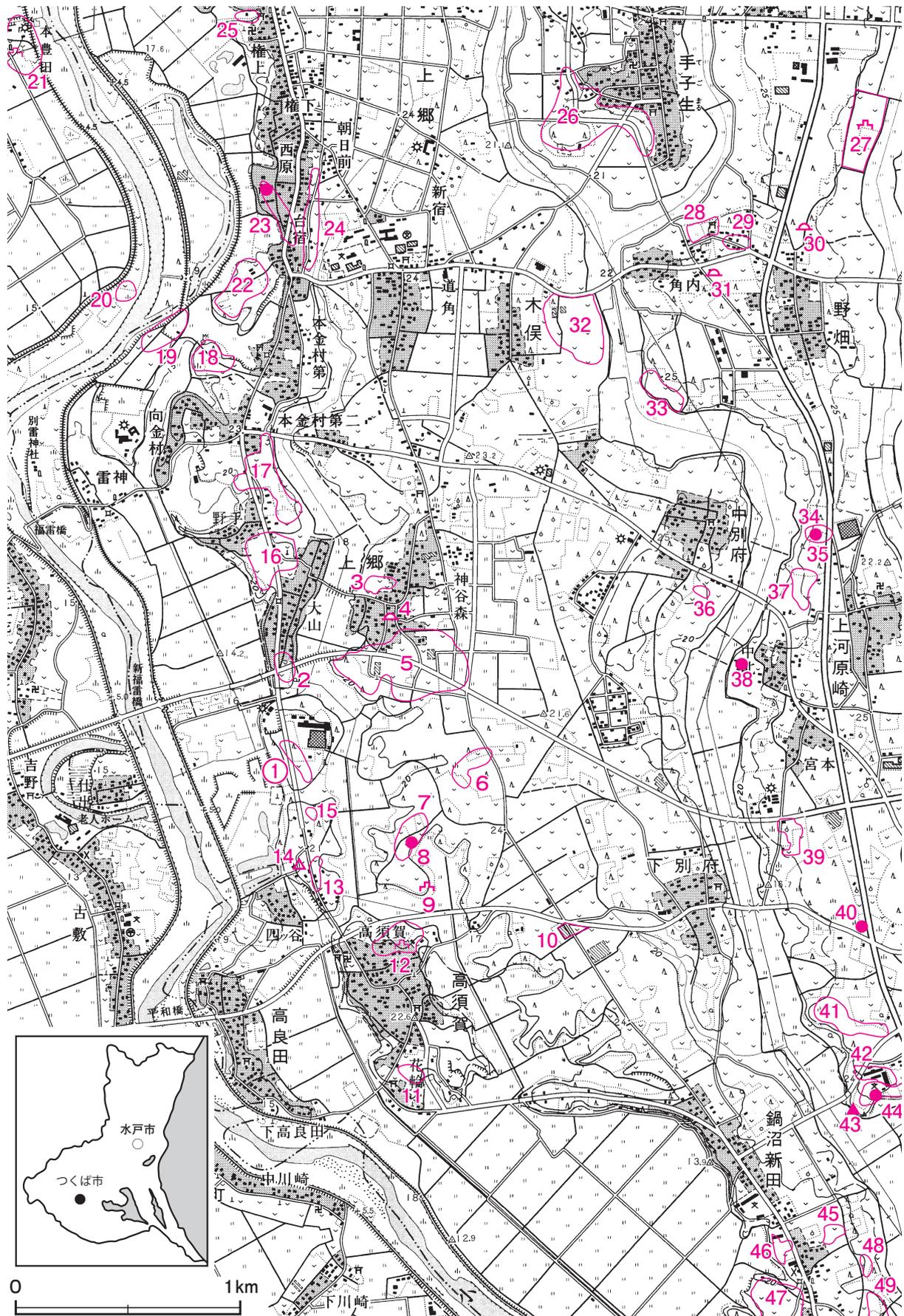
中期になると、集落は西谷田川沿いにまで広がりを見せ、数多くの竪穴建物跡が確認されている。元宮本前山遺跡では、集落内に滑石模造品製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品が出土している。高須賀熊の山古墳群〈8〉からは前・中期の土器が出土し、周辺に人々が生活していたことを示唆している。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、集落の立地や形成には、台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強いと想定されている。

集落跡の様相は、中期においては台地縁辺部から低地にかけて小規模な集落が形成されてきたのに対し、後期になるとしだいに大集落が形成され、台地の内陸部まで及ぶようになっていく。当遺跡から東方約4kmに位置する島名熊の山遺跡⁷⁾からは、中・後期から平安時代までの2,300棟以上に及ぶ竪穴建物跡が確認されており、その規模は県内でも最大級のものである。また、当該期には当遺跡周辺においても古墳が築造されるようになり、高須賀熊の山古墳群では円墳6基、上郷台宿古墳群〈23〉では円墳4基、上河原崎小山台古墳〈35〉では円墳1基、元中北鹿島明神古墳〈38〉では円墳1基、下河原崎古墳群〈40〉では円墳135基（推定円墳も含む）、下河原崎高山古墳群⁸⁾〈44〉では円墳17基などが確認されている。今日では湮滅等により古墳群の全容を解明することは極めて困難であるが、当該期の人々が多くの古墳を築造していったことがみて取れる。

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代から集落が継続している島名熊の山遺跡や、9世紀前半の火葬墓が検出された下河原崎谷中台遺跡がある。高須賀地区・高良田地区は、『新編常陸国誌』によると律令期には河内郡嶋名郷に属していたと推定され、当遺跡は嶋名郷の北西端部に位置している。高良田地区の北側に隣接する上郷地区は、筑波郡方穂郷に属していたと推定されているが、当時の境界線については時代によって若干の変化がある。なお、嶋名郷・方穂郷ともに同じ台地上に位置していることなどから、人的・物的交流を行っていたであろうことは容易に想像できる。

中世の遺跡は、塚や城館跡がその大半を占めている。鎌倉幕府の成立後、小田氏の支配下となった近隣一帯には、多くの城が築かれた。中でも当遺跡から南南東に1kmの場所に所在する高須賀城¹²⁾は、建保2年(1214)、豊田下総守治基の三男山田遠江守が築いたものである。高須賀北方の約2haの台地がその跡といわれ、土塁や堀の跡が今でも残っている。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は『茨城県教育財団文化財調査報告』第142集を基にし、若干加筆したものである。



第1図 高須賀中台東遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000 分の 1 「谷部」「上郷」)

表1 高須賀中台東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	高須賀中台東遺跡	○	○		○				26	手子生遺跡	○			○	○	○	○
2	上郷大山南遺跡		○		○	○			27	野畑高野館跡						○	○
3	上郷神谷森北遺跡		○			○	○	○	28	上郷陣屋跡							○
4	上郷福性院塚							○	○	29	上郷角内遺跡		○				
5	上郷神谷森遺跡		○		○				30	野畑天神後塚群						○	○
6	上郷院内山遺跡		○						31	上郷山ノ神塚						○	○
7	高須賀熊の山遺跡		○	○	○				32	木俣本田遺跡							○
8	高須賀熊の山古墳群				○				33	上郷角内南遺跡				○	○		
9	熊の山城跡						○		34	上河原崎八幡前遺跡				○			
10	高須賀遺跡				○			○	35	上河原崎小山台古墳				○			
11	高須賀ハナ遺跡		○						36	中別府宮前遺跡				○	○	○	○
12	高須賀城跡						○		37	上河原崎本田遺跡				○	○		○
13	高須賀中台遺跡		○		○				38	元中北鹿島明神古墳				○			
14	高須賀中台貝塚		○						39	元宮本前山遺跡	○	○		○			
15	高須賀中台北遺跡				○			○	40	下河原崎古墳群				○			
16	上郷大山遺跡						○	○	41	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		○
17	上郷野手遺跡					○			42	下河原崎高山遺跡			○	○			
18	上郷金村遺跡				○	○			43	下河原崎高山窯跡				○			
19	上郷赤ぼっけ遺跡		○						44	下河原崎高山古墳群				○			
20	曲田遺跡				○				45	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
21	豊田城跡						○		46	真瀬山田北遺跡		○		○			
22	上郷台宿西遺跡				○	○			47	真瀬山田遺跡		○		○	○		
23	上郷台宿古墳群				○				48	真瀬堀附北遺跡				○			
24	上郷台宿東遺跡				○	○			49	真瀬堀附南遺跡		○		○			
25	上郷権上遺跡		○														

註

- 1) 日本の地質 『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 高野裕璽「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 3) a 高野裕璽「下河原崎谷中台遺跡 島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡 下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 茂木悦男「一般県道赤浜谷田部線県単道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 高須賀中台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第142集 1998年11月
- 5) 小泉光正「一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 神谷森遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第66集 1991年3月
- 6) 石橋充 広瀬季一郎 関口友紀「史跡小田城跡 第33・34・35次発掘調査 高須賀熊の山遺跡 試掘調査」『つくば市内遺跡 -平成11年度発掘調査報告-』2000年3月 つくば市教育委員会
- 7) 清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第380集 2013年3月
- 8) 註3)に同じ

参考文献

- 『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月
豊里町史編纂委員会『豊里の歴史』豊里町 1985年3月



第2図 高須賀中台東遺跡調査区設定図 (つくば市都市計画図 2,500分の1から作成)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

高須賀中台東遺跡は、つくば市の西部に位置し、小貝川左岸の標高約19～21mの南北に長い台地上の西端部に立地している。遺跡の範囲は、2011年版『茨城県遺跡地図』によると調査区と同一となっている。調査面積は11,942㎡で、調査前の現況は畑地及び山林である。

調査の結果、竪穴建物跡31棟（縄文時代6・古墳時代24・不明1）、井戸跡1基（不明）、陥し穴5基（縄文時代）、土坑292基（縄文時代29・古墳時代33・不明230）、集石遺構2か所（縄文時代）、溝跡12条（不明）、ピット群12か所（不明）、石器集中地点3か所（旧石器時代）を検出した。

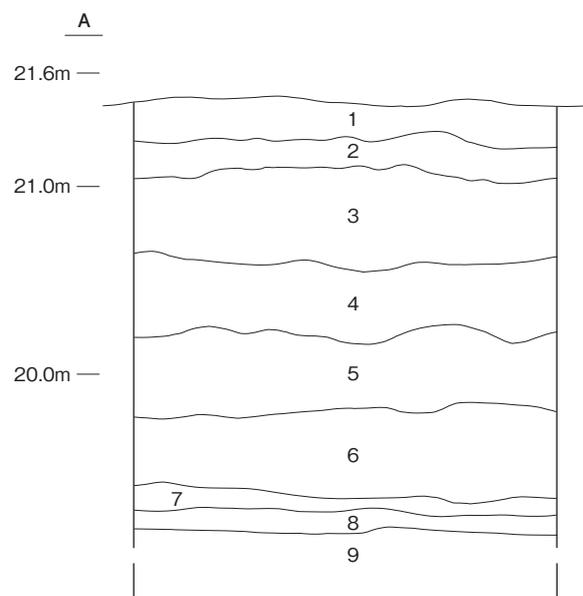
遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に41箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（椀・埴・器台・高坏・壺・台付甕・甕・ミニチュア土器・手捏土器・炉器台）、土製品（土玉・管状土錘・鏡形土製品・糸巻形土製品・翼状土製品）、石器・石製品（ナイフ形石器・石刃・鎌・砥石・有孔円板）、鉄製品（鎌・鑿・槍鉋）、銅製品（煙管・銭貨）、自然遺物（炭化種子類）などである。

第2節 基本層序

調査区中央部の台地平坦部にあたるD4d1区にテストピットを設定し、深さ2.3mまで掘り下げて基本土層の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

第1層は、現在の耕作土である。層厚は14～26cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。炭化物・白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は14～24cmである。



第3図 基本土層図

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子・白色粒子を微量、ガラス質粒子を極微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は38～56cmである。ガラス質粒子が下部にかけてやや見られるようになることから、第3層下部が始良Tn火山灰(AT)を含む層と考えられる。

第4層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量、白色粒子を極微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は32～47cmである。第2黒色帯と考えられる。

第5層は、明褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を極微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は33～47cmである。

第6層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は34～53cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈する粘土層への漸移層である。粘土粒子を中量、赤色粒子・黒色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は6～16cmである。

第8層は、にぶい黄橙色を呈する粘土層への漸移層である。粘土粒子・赤色粒子を中量、黒色粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は6～13cmである。

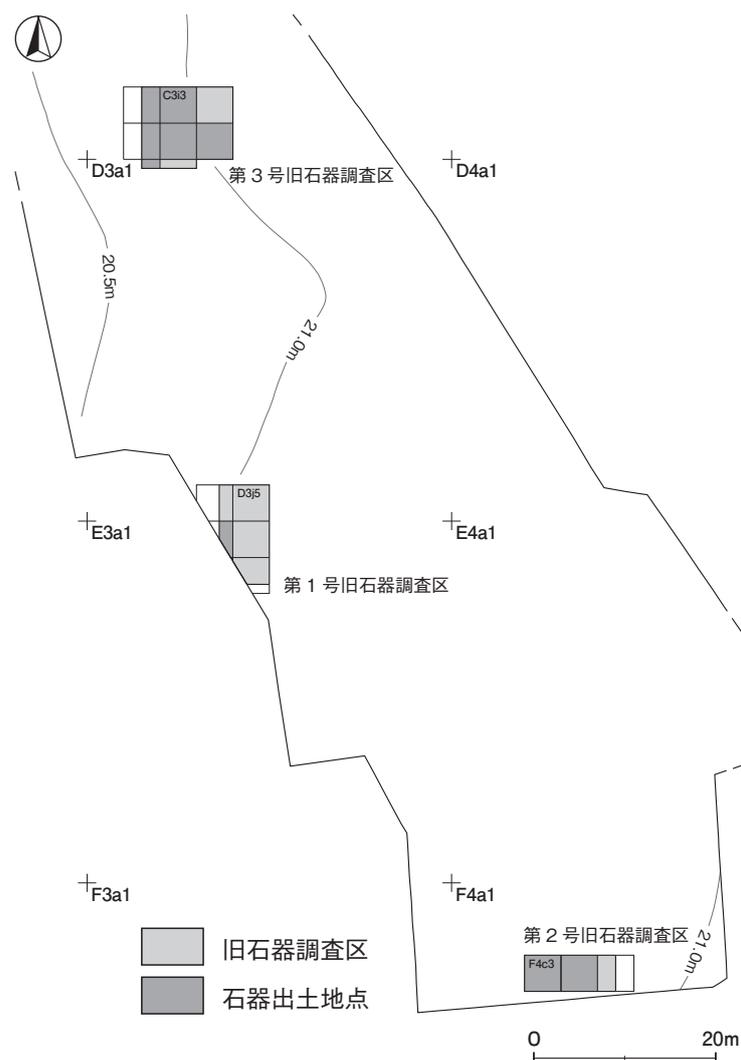
第9層は、灰白色を呈する粘土層である。赤色粒子を中量、白色粒子・黒色粒子を少量含み、粘性は極めて強く、締まりは強い。層厚は12cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。常総粘土層である。

なお、竪穴建物跡などの遺構は、第2層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

旧石器時代の石器が複数出土したため、石器集中地点の可能性のある3地点に調査区を設定し、ローム層の掘削を行った。まず四方に土層観察用ベルトを残し、掘り込みの範囲を拡張しながら、石器の分布範囲の見極めに努めた。第1号旧石器調査区は調査区中央部の標高約20.9～21.2mの台地平坦部に位置し、D3j4・D3j5・E3a4・E3a5・E3b4・E3b5区の6グリッドで、調査面積は59㎡である。第2号旧石器調査区は調査区南部の標高約21.1～21.3mの台地平坦部に位置し、F4c3・F4c4・F4c5区の3グリッドで、調査面積は40㎡である。第3号旧石器調査区は調査区北部の標高約20.8～21.0mの台地平坦部に位置し、C3i2・C3i3・C3i4・C3j2・C3j3・C3j4・D3a2・D3a3区の8グリッドで、調査面積は95㎡である。調査の結果、第1号旧石器調査区のE3a4区と第2号旧石器調査区のF4c3・F4c4区、第3号旧石器調査区のC3i2・C3i3・C3j2・C3j3・C3j4・D3a2区において、石器出土地点を確認した。各旧石器調査区の石器出土範囲を第1号石器集中地点、第2号石器集中地点、第3号石器集中地点とした。



第4図 旧石器時代調査区設定図

石器集中地点

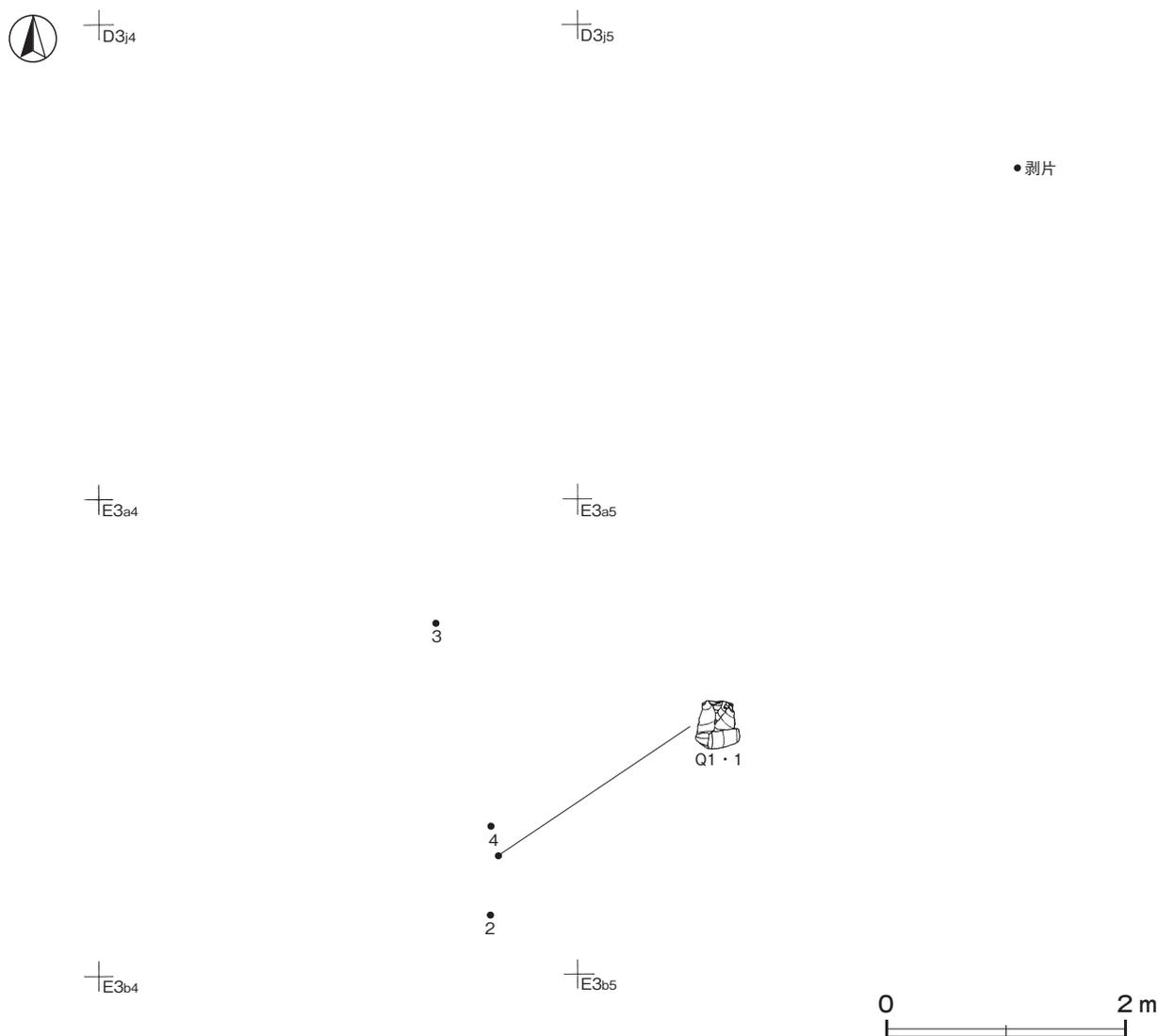
石器集中地点3か所を確認した。第1～3号石器集中地点は黒曜石，珪質頁岩，ガラス質安山岩，瑪瑙を主体としている。以下，それぞれの石器集中地点と出土した石器について記述する。なお，石器集中地点における遺物番号は，出土石器すべてに通し番号を付し，実測図を掲載している石器については備考欄にQ番号を記載するものとする。それ以外の石器については，観察表中の特徴は記載していない。

第1号石器集中地点（第5・6図）

位置 調査区中央部，E3a4区の台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 剥片4点（瑪瑙3，ガラス質安山岩1）が出土している。南北3.0 m，東西1.0 mの範囲で，基本層序の第3層（ハードローム層）から出土した。

所見 時期は，出土遺物と出土層位から後期旧石器時代に比定できる。編年上は，下総Ⅱa～Ⅱb期に該当する。出土点数が少ないため詳細は不明であるが，小規模な剥片剥離が行われ，剥片が廃棄された地点の可能性はある。また，近接するE3e6区に位置する第23号竪穴建物跡の覆土中から剥片1点（珪質頁岩）が出土している。これは本来，当石器集中地点に帰属していたと推定できる。



第5図 第1号石器集中地点器種別分布図



D3j4

D3j5

A'

A'

■ 瑪瑙
△ ガラス質安山岩

E3a4

E3a5

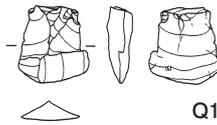
E3b4

E3b5

A

A-21.4m

0 2 m



Q1

0 5 cm

第6図 第1号石器集中地点石材別分布図・出土遺物実測図

第1号石器集中地点出土遺物観察表（第6図）

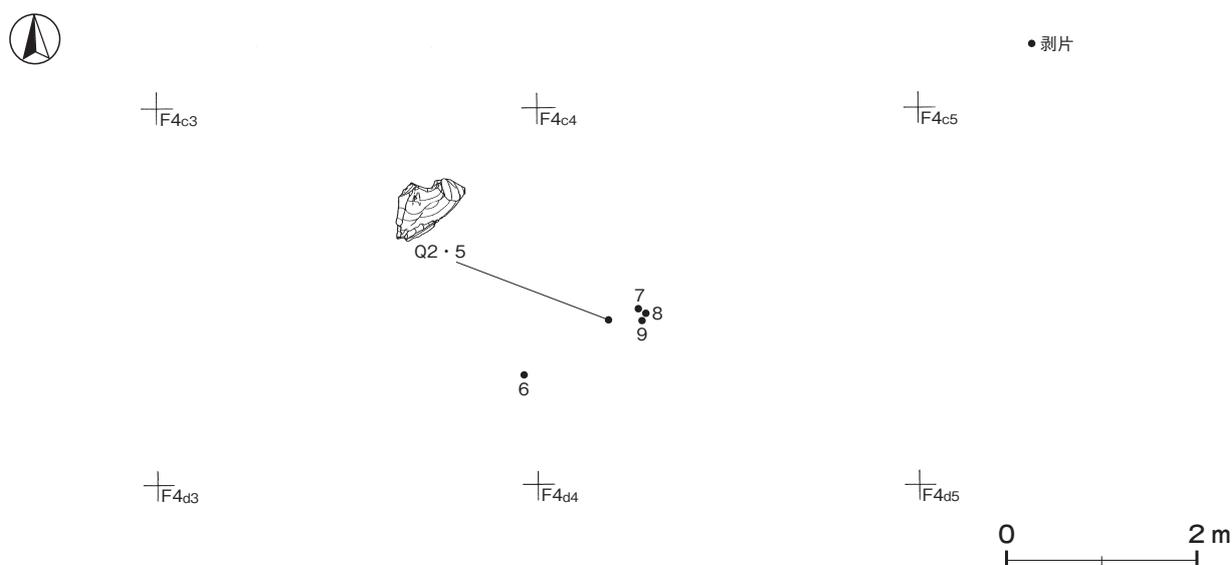
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	特 徴	出土位置	標高 (m)	備 考
1	剥片	2.0	1.8	0.7	2.1	瑪瑙	平坦打面	E 3 a4	20.928	Q 1 PL32
2	剥片	1.7	1.0	0.4	0.4	瑪瑙		E 3 a4	20.938	
3	剥片	1.5	0.9	0.3	0.5	瑪瑙		E 3 a4	20.791	
4	剥片	2.2	1.1	0.8	1.6	ガラス質安山岩		E 3 a4	20.840	

第2号石器集中地点（第7・8図）

位置 調査区南部，F 4 c3・F 4 c4 区の台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 剥片5点（瑪瑙3，ガラス質安山岩2）が出土している。南北1.0 m，東西1.5 mの範囲で，基本層序の第2・3層（ソフトローム層・ハードローム層）から出土した。

所見 時期は，出土遺物と出土層位から後期旧石器時代に比定できる。編年上は，下総Ⅱ a～Ⅱ b期に該当する。出土点数が少ないため詳細は不明であるが，小規模な剥片剥離が行われ，剥片が廃棄された地点の可能性はある。なお，F 4 c4 区に位置する第2号集石遺構の覆土中からガラス質安山岩の剥片2点が出土している。接合関係は認められないものの，これらは本来，当石器集中地点に帰属していたと推定できる。



第7図 第2号石器集中地点器種別分布図

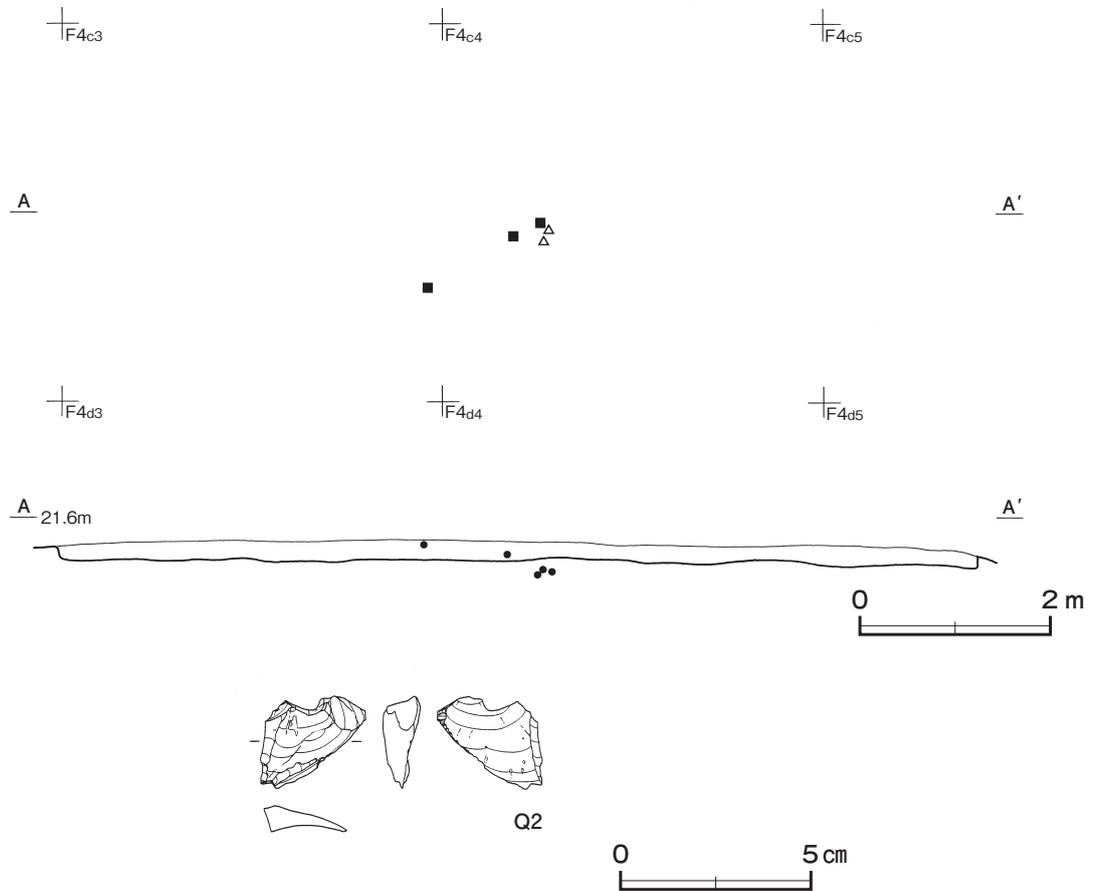
第2号石器集中地点出土遺物観察表（第8図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石 材	特 徴	出土位置	標高 (m)	備 考
5	剥片	2.5	2.8	1.0	3.3	瑪瑙	打面欠失	F 4 c4	21.222	Q 2 PL32
6	剥片	1.8	0.8	0.1	0.2	瑪瑙		F 4 c3	21.329	
7	剥片	0.9	0.6	0.3	0.2	瑪瑙		F 4 c4	21.011	
8	剥片	3.6	2.9	0.7	8.0	ガラス質安山岩		F 4 c4	21.031	
9	剥片	4.1	3.3	1.2	15.0	ガラス質安山岩		F 4 c4	21.013	



■ 瑪瑙

△ ガラス質安山岩



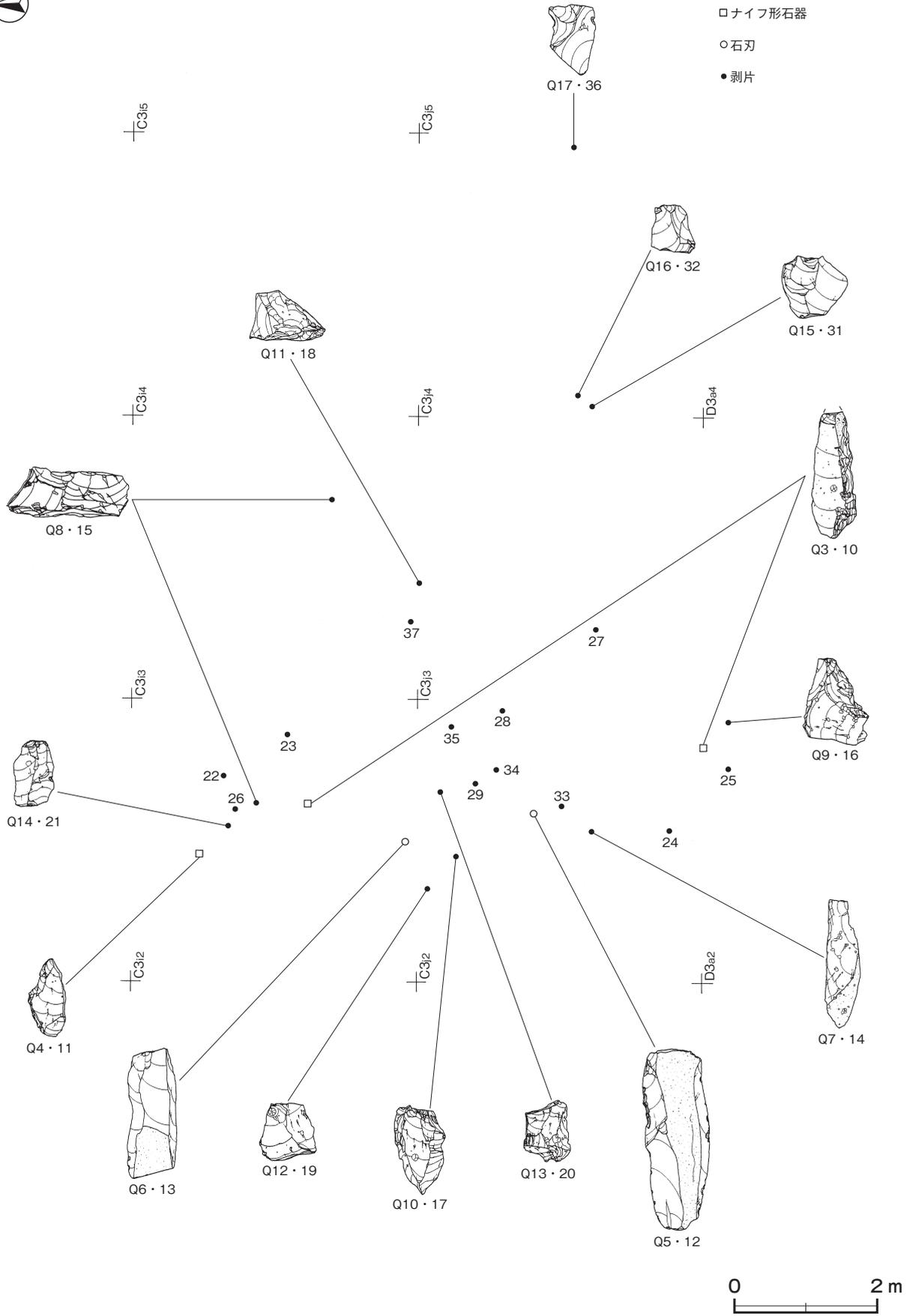
第8図 第2号石器集中地点石材別分布図・出土遺物実測図

第3号石器集中地点 (第9～11図)

位置 調査区北部, C 3 i2・C 3 i3・C 3 j2・C 3 j3・C 3 j4・D 3 a2 区の台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 ナイフ形石器2点(黒曜石), 石刃2点(珪質頁岩), 剥片24点(黒曜石17, 珪質頁岩5, 瑪瑙2)が出土した。南北6.5 m, 東西9.5 mの範囲で, 基本層序の第3層(ハードローム層)から出土している。Q 3はC 3 i2区とC 3 j2区, Q 8はC 3 i2区とC 3 i3区からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

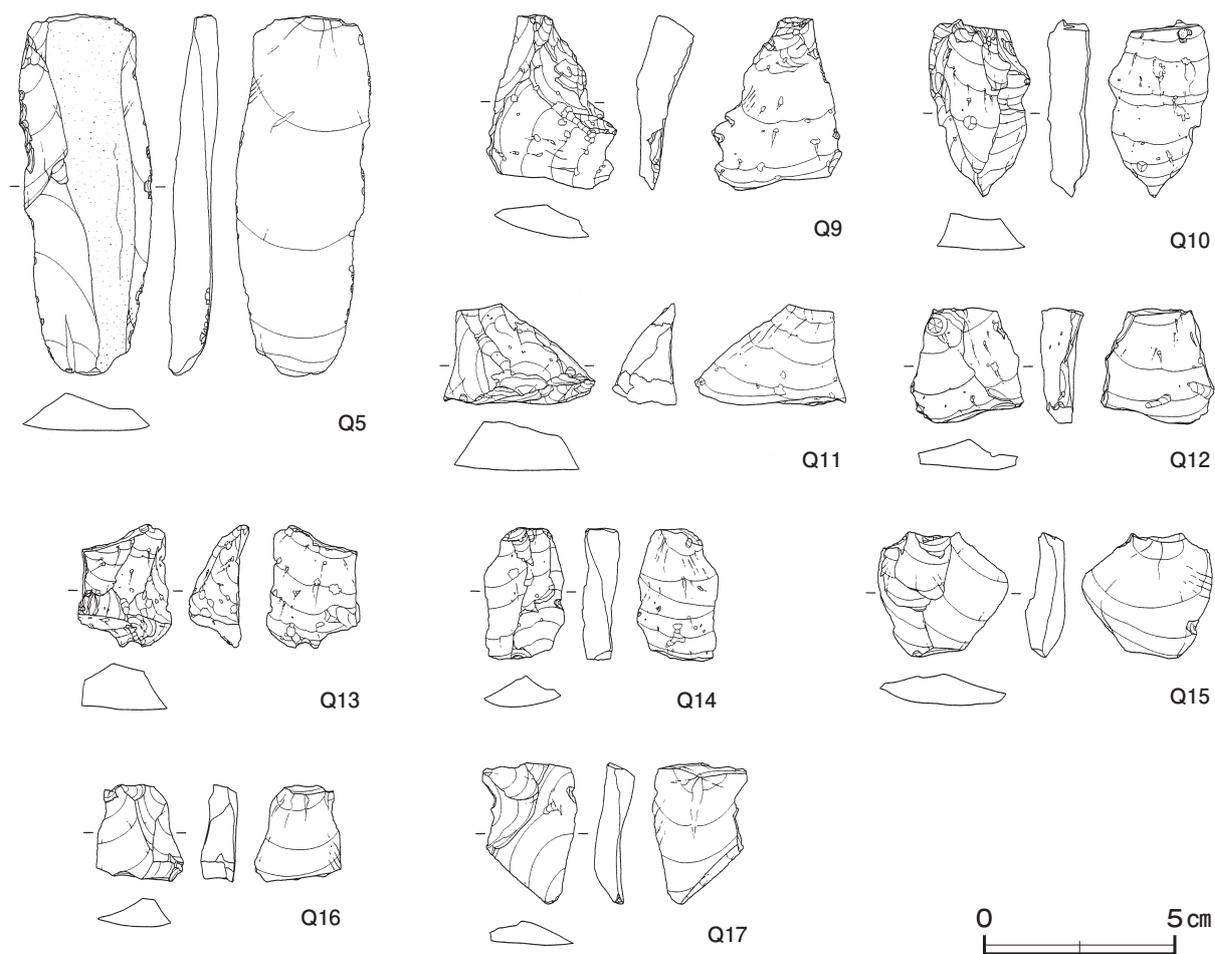
所見 時期は, 出土遺物と出土層位から後期旧石器時代に比定できる。編年上は, 下総Ⅱ a～Ⅱ b期に該当する。当石器集中地点は石器を製作した地点の可能性がある。Q 3は破片の状態出土していることから, 製作段階の過程で欠損したものと考えられる。隣接するD 3 a3区に位置する第26号竪穴建物跡の覆土中から剥片2点(黒曜石)が, C 3 h4区に位置する第28号竪穴建物跡の覆土中から剥片2点(黒曜石, 珪質頁岩)が, 第309号土坑の覆土中から剥片1点(珪質頁岩)がそれぞれ出土している。これらは本来, 当石器集中地点に帰属していたと推定できる。



第9図 第3号石器集中地点器種別分布図



第 10 図 第 3 号石器集中地点石材別分布図・出土遺物実測図



第 11 図 第 3 号石器集中地点出土遺物実測図

第 3 号石器集中地点出土遺物観察表 (第 10・11 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	標高 (m)	備考
10	ナイフ形石器	(6.7)	2.3	1.3	(17.5)	黒曜石	右側縁に調整 先端部欠損 2点が接合	C 3i2・C 3j2	20.600・20.733	Q 3 PL32
11	ナイフ形石器	4.1	2.0	0.6	4.4	黒曜石	両縁調整	C 3i2	20.733	Q 4 PL32
12	石刃	9.6	3.5	1.3	35.5	珪質頁岩	打面調整あり	C 3j2	20.700	Q 5 PL32
13	石刃	6.9	2.6	1.0	18.9	珪質頁岩	打面欠失	C 3i2	20.676	Q 6 PL32
14	剥片	6.8	1.9	1.8	15.6	黒曜石	上左側縁部に二次加工	C 3j2	20.711	Q 7 PL32
15	剥片	2.6	6.3	1.3	17.9	黒曜石	主要剥離面側からの調整 2点が接合	C 3i2・C 3i3	20.770・20.875	Q 8 PL32
16	剥片	4.6	3.4	1.5	8.8	黒曜石	打面調整あり	D 3a2	20.760	Q 9 PL32
17	剥片	4.7	2.7	1.1	13.2	黒曜石	打面欠失	C 3j2	20.691	Q 10 PL32
18	剥片	2.2	4.0	1.7	11.2	黒曜石	下端部に二次加工	C 3j3	20.876	Q 11 PL32
19	剥片	3.0	3.0	1.1	8.2	黒曜石	打面欠失	C 3j2	20.637	Q 12 PL32
20	剥片	3.3	2.5	1.6	8.6	黒曜石	打面欠失	C 3j2	20.697	Q 13 PL32
21	剥片	3.5	2.1	1.0	5.4	黒曜石	両縁に微細剥離	C 3i2	20.806	Q 14 PL32
22	剥片	4.6	1.7	0.9	4.5	黒曜石		C 3i2	20.847	
23	剥片	4.4	3.6	1.9	18.0	黒曜石		C 3i2	20.841	
24	剥片	2.0	1.9	1.4	4.3	黒曜石		C 3j2	20.739	
25	剥片	2.1	1.2	0.6	1.3	黒曜石		D 3a2	20.696	
26	剥片	1.8	0.8	0.5	0.7	黒曜石		C 3i2	20.747	
27	剥片	1.9	1.0	0.8	1.1	黒曜石		C 3i3	20.842	
28	剥片	2.6	1.5	0.9	2.6	黒曜石		C 3i2	20.781	
29	剥片	2.1	1.2	0.6	1.2	黒曜石		C 3i2	20.499	
30	剥片	2.7	2.3	0.9	4.1	黒曜石		不明	不明	
31	剥片	3.3	3.5	1.0	8.4	珪質頁岩	平坦打面	C 3j4	20.695	Q 15 PL32
32	剥片	2.6	2.3	1.0	4.6	珪質頁岩	平坦打面	C 3j4	20.805	Q 16 PL32
33	剥片	2.4	1.9	0.6	2.4	珪質頁岩		C 3i2	20.713	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特徴	出土位置	標高 (m)	備考
34	剥片	2.1	1.3	0.5	1.0	珪質頁岩		C 3i2	20.692	
35	剥片	5.2	2.1	1.2	8.8	珪質頁岩		C 3i2	20.689	
36	剥片	3.8	2.5	1.1	6.5	瑪瑙	平坦打面	C 3j4	20.921	Q 17 PL32
37	剥片	1.7	1.1	0.7	1.3	瑪瑙		C 3i3	20.875	

2 縄文時代の遺構と遺物

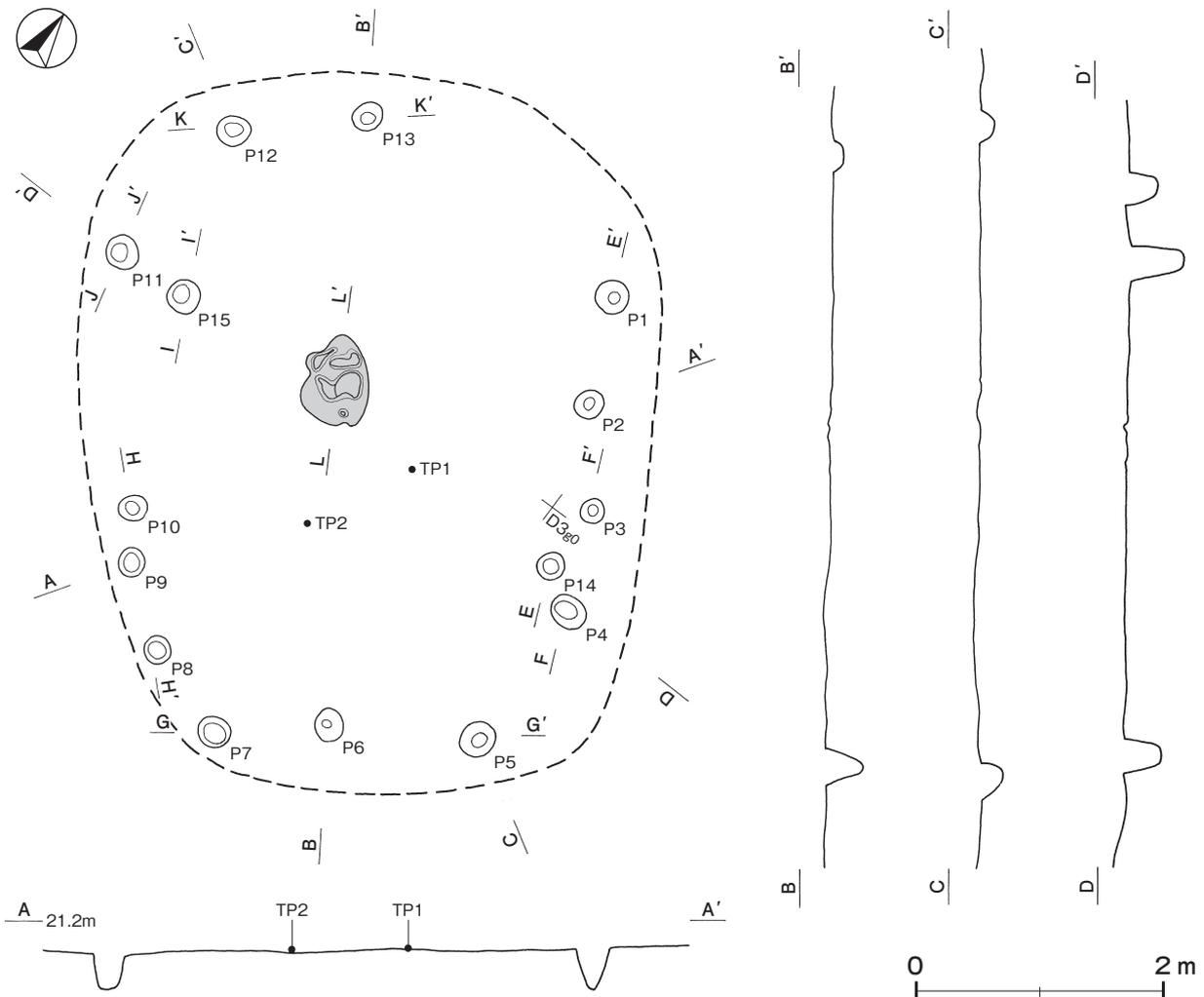
当時代の遺構は、竪穴建物跡6棟、陥し穴5基、土坑29基、集石遺構2か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

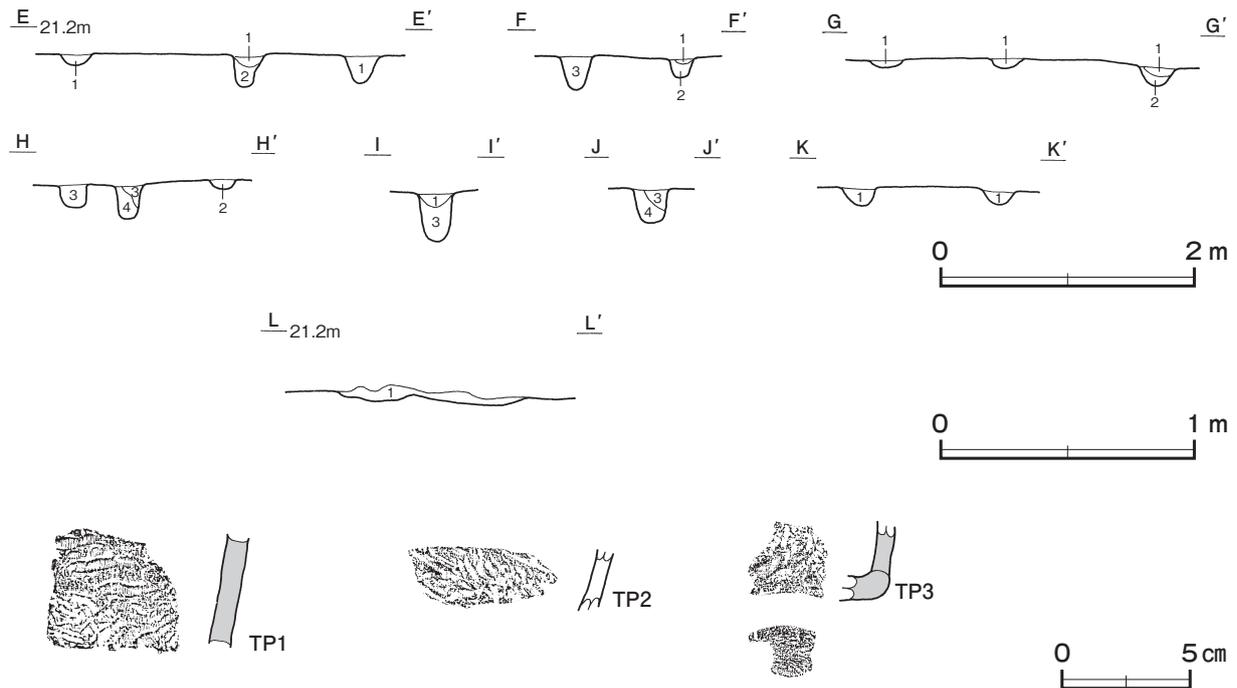
確認した竪穴建物跡6棟は、耕作による削平のため壁や床面が検出できなかった。しかし、炉やピットが確認できたことや、縄文土器片が出土したことなどから竪穴建物跡と判断した。

第4号竪穴建物跡 (第12・13図)

位置 調査区中央部のD3g9区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。



第12図 第4号竪穴建物跡実測図



第 13 図 第 4 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 ピットの配置から、長径 5.8 m、短径 4.6 m の楕円形と推定できる。長径方向は N - 38° - W と推定できる。

炉 中央部に位置している。長径 72cm、短径 53cm の不整楕円形を呈する地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量

ピット 15 か所。P 1 ~ P 13 は深さ 6 ~ 37cm で、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P 14・P 15 は深さ 8 cm・45cm で、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 39 点 (深鉢) が出土している。TP 1・TP 2 はそれぞれ中央部の確認面から出土している。TP 3 は確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半に比定できる。

第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 13 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	L の無節縄文	確認面	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	淡黄	R の無節縄文	確認面	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・繊維	にぶい黄橙	LR の単節縄文	確認面	

第 14 号竪穴建物跡 (第 14・15 図)

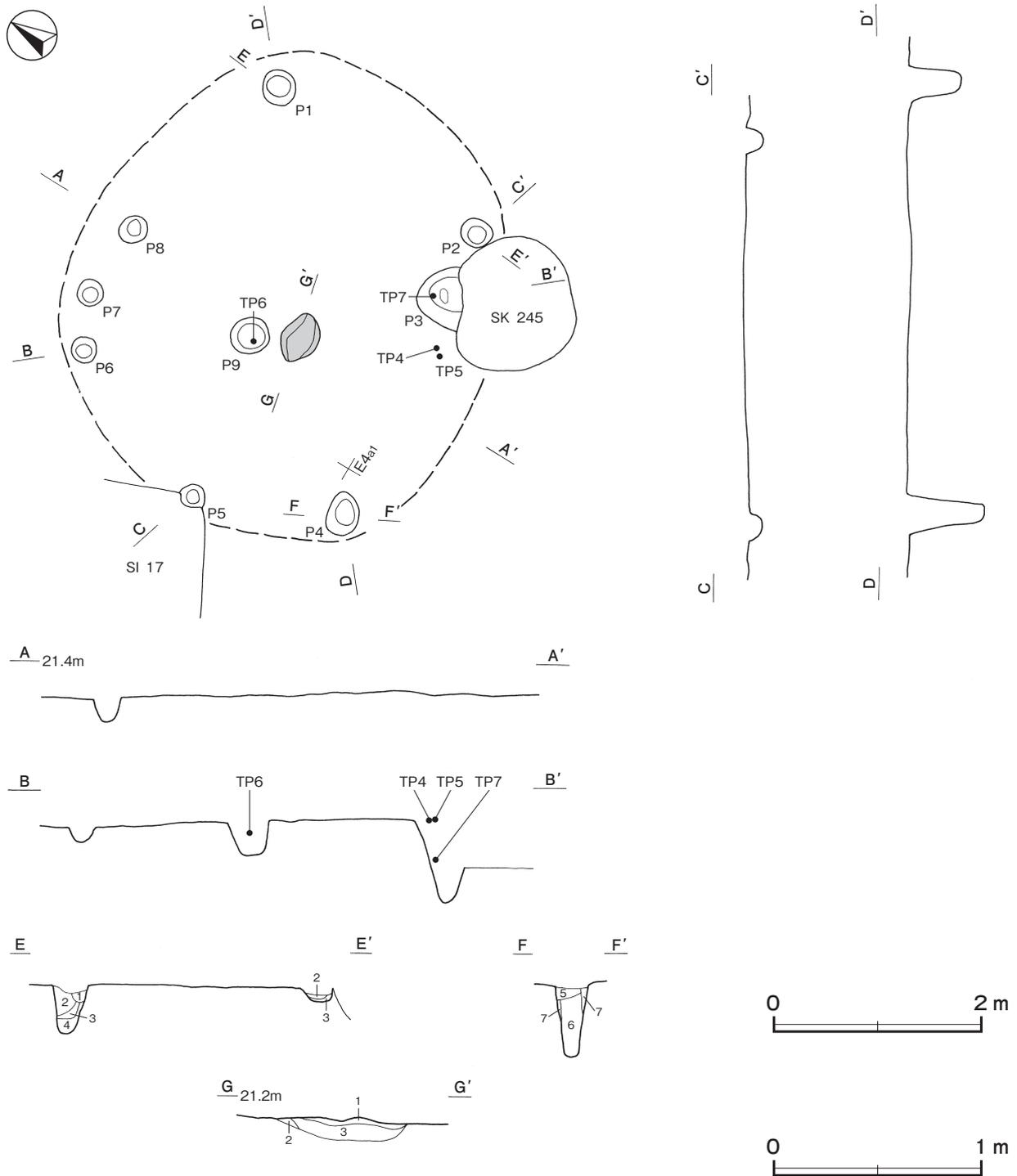
位置 調査区中央部の D 4 j1 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 耕作地として利用されていたことから床面まで削平されており、炉及びピットを確認した。

重複関係 第17号竪穴建物、第245号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 ピットの配置から、長径4.6m、短径4.1mの楕円形と推定できる。長径方向はN-67°-Eと推定できる。

炉 中央部に位置している。長径45cm、短径39cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床面は赤変硬化している。



第14図 第14号竪穴建物跡実測図

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

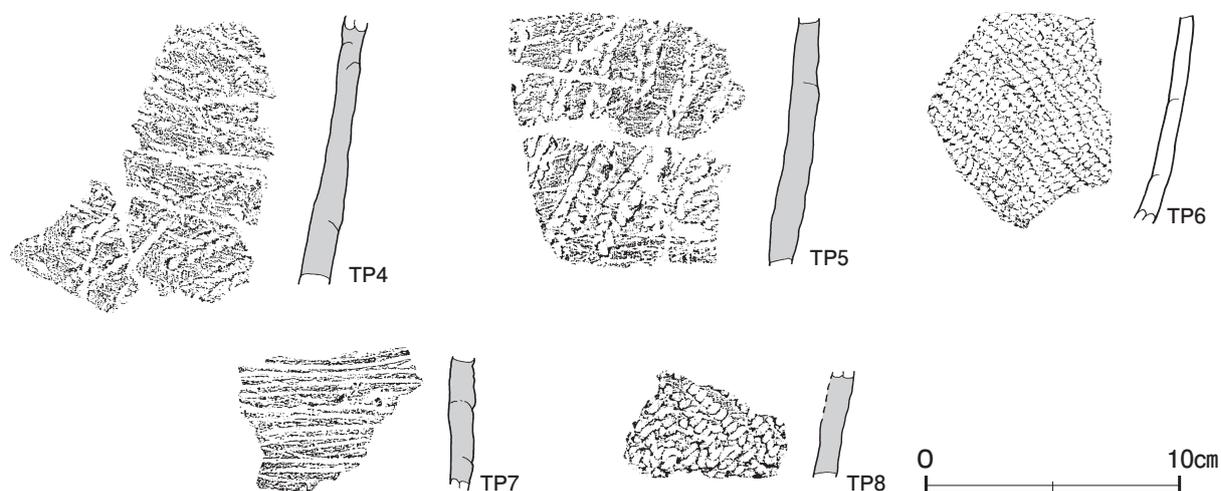
ピット 9か所。P 1～P 8は深さ14～80cmで、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P 9は深さ36cmで、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 5 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 6 褐色 ロームブロック・炭化物微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量 7 褐色 ロームブロック中量
 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片70点(深鉢), 礫1点が出土している。TP 7はP 3の覆土中層から, TP 6はP 9の覆土上層からそれぞれ出土している。TP 4・TP 5はそれぞれ南部の確認面から出土している。TP 8は確認面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半に比定できる。



第15図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図

第14号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RL・LRの単節縄文を羽状に構成	確認面	PL29
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・繊維	にぶい黄褐	組紐文	確認面	PL29
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	RLの単節縄文	P 9上層	PL29
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	5本単位の横位の櫛歯文	P 3中層	
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・細礫・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	確認面	

第16号竪穴建物跡 (第16図)

位置 調査区中央部のE 4 c5区, 標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号集石遺構と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 ピットの配置から, 長軸5.4 m, 短軸5.1 mの隅丸方形と推定できる。長軸方向はN - 39° - Eと推定できる。

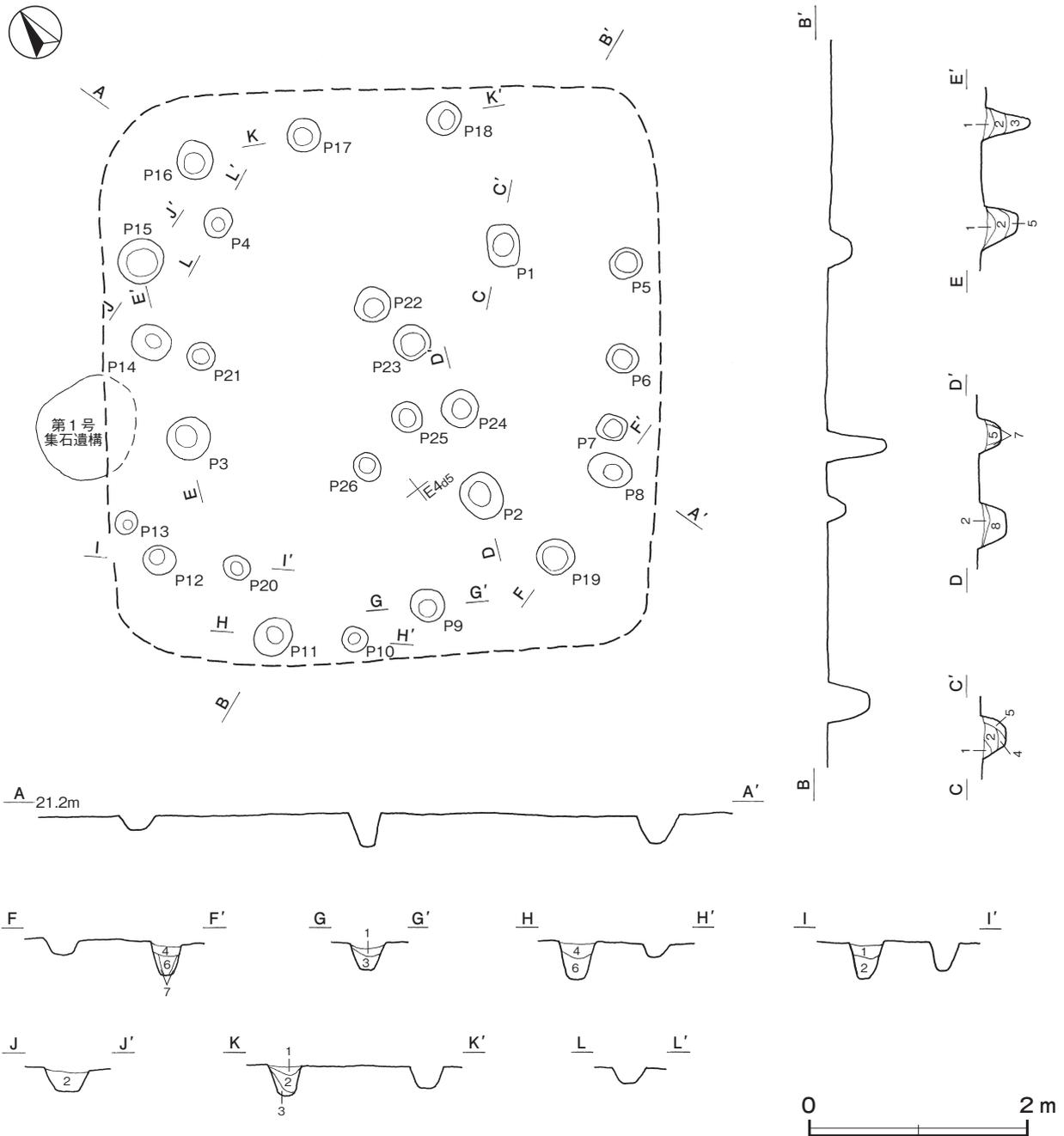
ピット 26か所。P1～P4は深さ14～33cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5～P18は深さ12～33cmで、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P19～P26は深さ12～55cmで、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢), 礫13点が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から前期前半に比定できる。

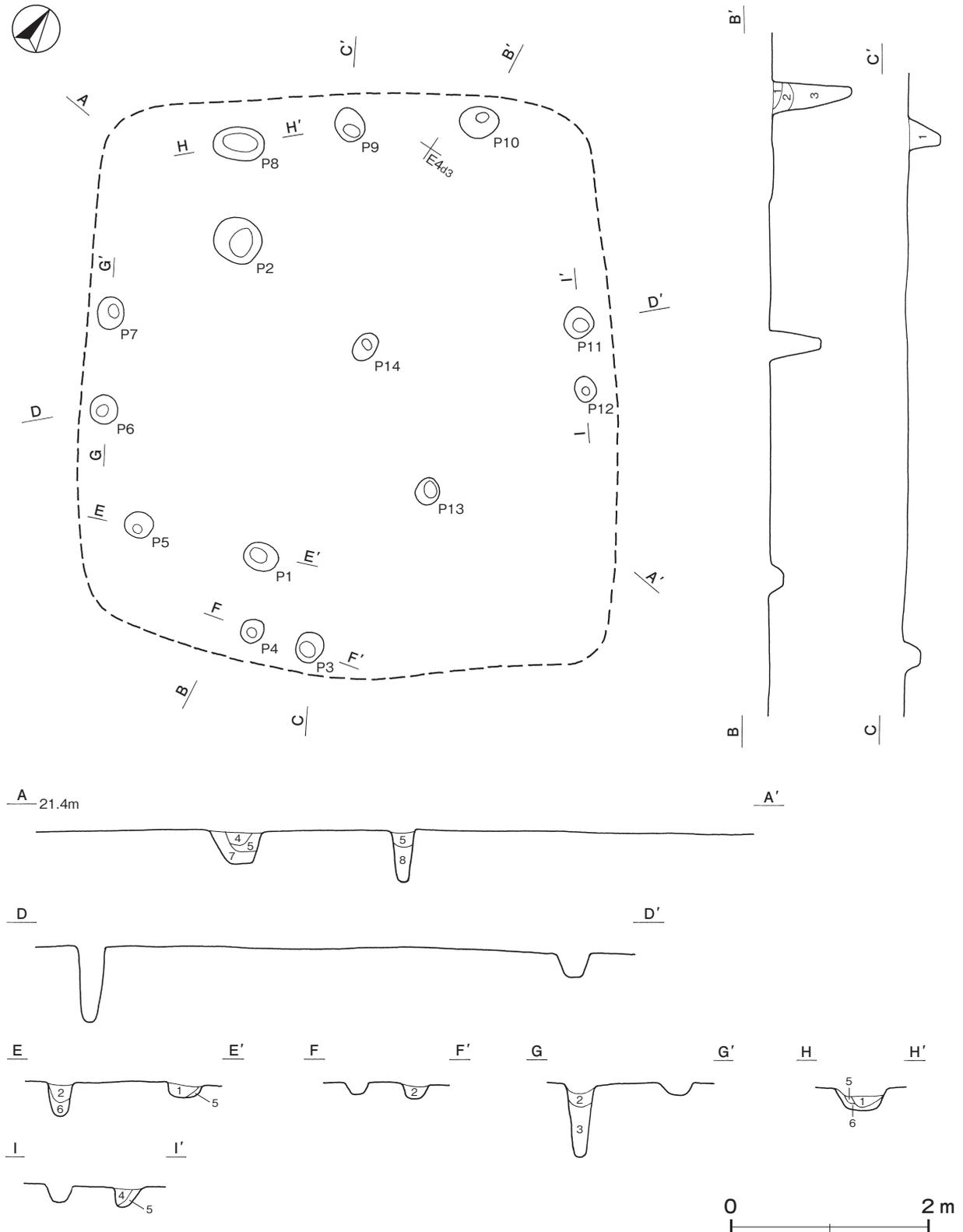


第16図 第16号竪穴建物跡実測図

第 18 号 竪穴建物跡 (第 17 図)

位置 調査区中央部の E 4 d3 区, 標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 ピットの配置から, 長軸 5.9 m, 短軸 5.3 m の隅丸長方形と推定できる。長軸方向は $N - 34^\circ - W$ と推定できる。



第 17 図 第 18 号 竪穴建物跡実測図

ピット 14か所。P1・P2は深さ16cm・34cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P3～P12は深さ16～78cmで、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P13・P14は深さ15cm・53cmで、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

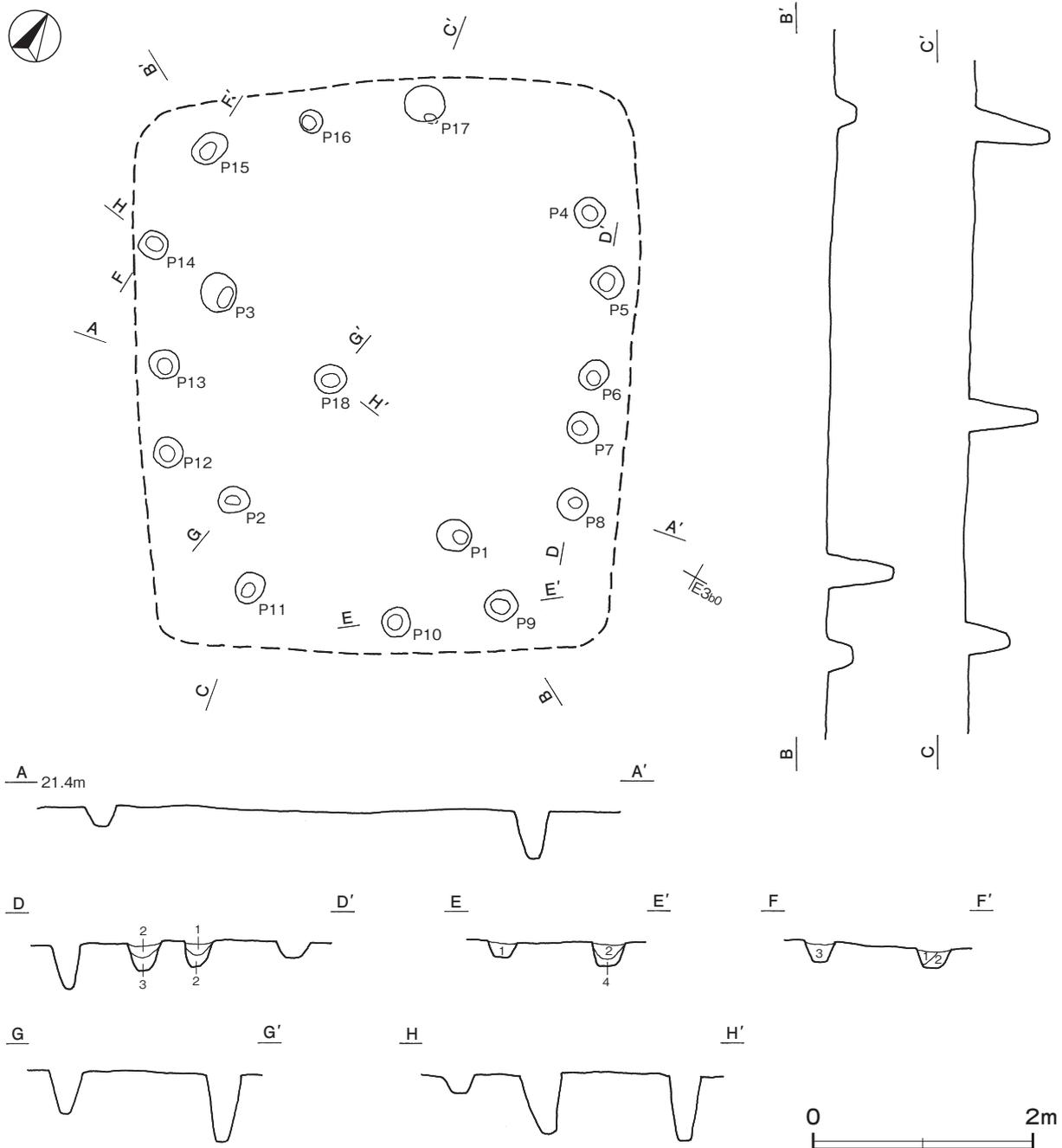
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器から前期前半に比定できる。

第19号竪穴建物跡 (第18・19図)

位置 調査区中央部のE3a9区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。



第18図 第19号竪穴建物跡実測図

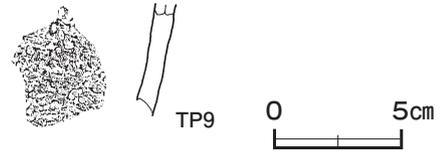
規模と形状 ピットの配置から、長軸 5.2 m、短軸 4.5 m の隅丸長方形と推定できる。長径方向は N - 31° - W と推定できる。

ピット 18 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 38 ~ 60cm で、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 4 ~ P 17 は深さ 12 ~ 69cm で、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P 18 は深さ 63cm で、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 2 点 (深鉢) が出土している。TP 9 は確認面から出土している。



所見 時期は、出土土器から前期前半に比定できる。

第 19 図 第 19 号 縦穴建物跡出土遺物実測図

第 19 号 縦穴建物跡出土遺物観察表 (第 19 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文	確認面	

第 27 号 縦穴建物跡 (第 20 図)

位置 調査区中央部の D 3 b9 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 109 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 ピットの配置から、長径 8.0 m、短径 6.5 m の楕円形と推定できる。長径方向は N - 29° - W と推定できる。

炉 2 か所。炉 1 は中央部に位置している。長径 147cm、短径 72cm の不整楕円形を呈する地床炉である。炉床面は赤変硬化している。炉 2 は南東部に位置している。径 34cm の円形を呈する地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説 (炉 1・炉 2 共通)

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子微量
- 4 赤褐色 焼土ブロック中量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 6 赤褐色 焼土粒子中量
- 7 暗赤褐色 焼土ブロック微量
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子微量

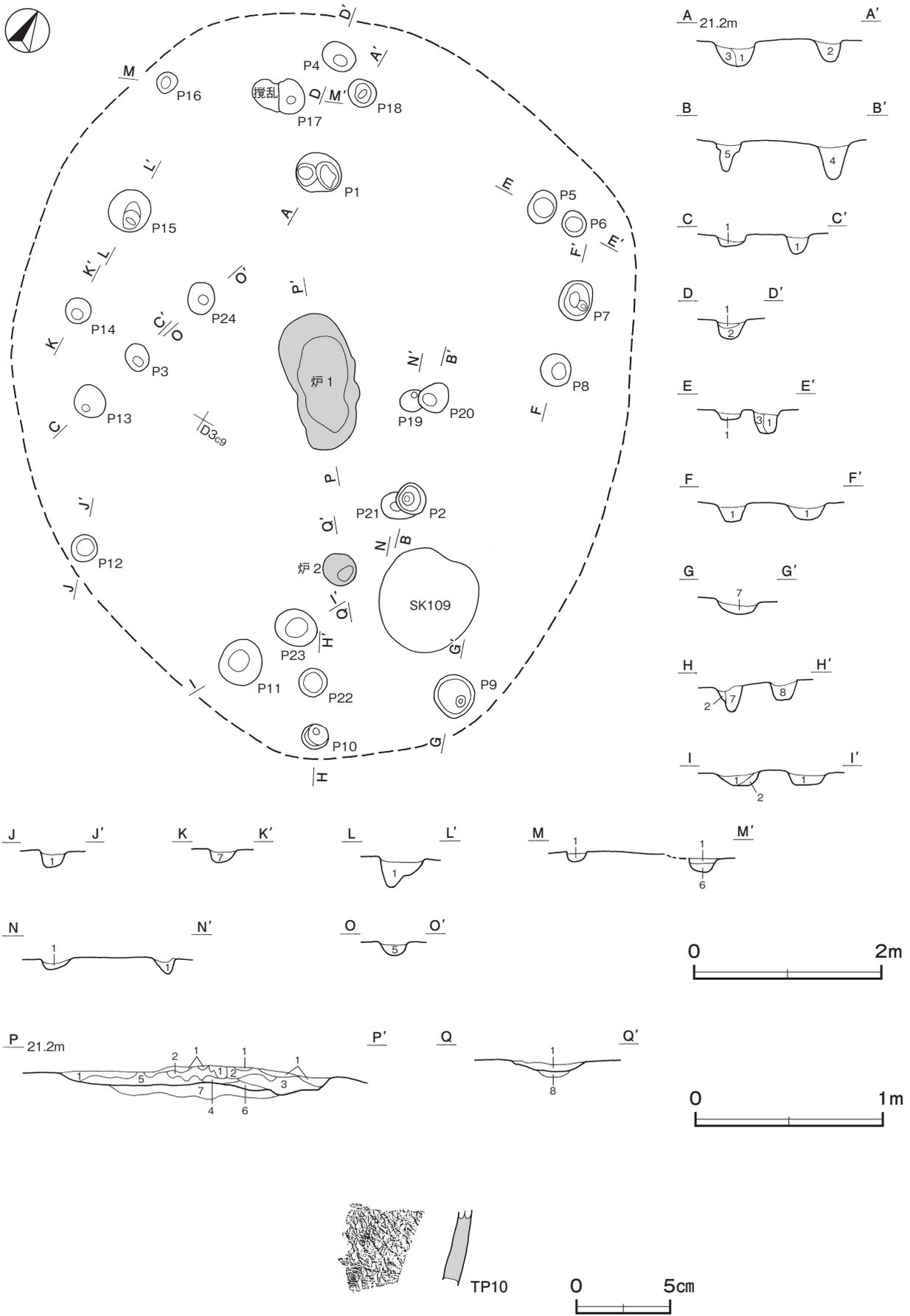
ピット 24 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 22 ~ 33cm で、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 4 ~ P 16 は深さ 10 ~ 36cm で、規模と配置から壁柱穴と考えられる。P 17 ~ P 24 は深さ 15 ~ 41cm で、性格不明である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片 15 点 (深鉢) が出土している。TP10 は確認面から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半に比定できる。



第 20 图 第 27 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 27 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 20 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・黒色粒子・繊維	にぶい黄橙	Rの無節縄文	確認面	

表 2 縄文時代竖穴建物跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴				
4	D3g9	[楕円形]	[N-38°-W]	[5.8×4.6]	-	-	-	-	-	15	1	-	-	縄文土器片	前期前半	
14	D4j1	[楕円形]	[N-67°-E]	[4.6×4.1]	-	-	-	-	-	9	1	-	-	縄文土器片, 礫	前期前半	本跡→SI17, SK245
16	E4c5	[隅丸方形]	[N-39°-E]	[5.4×5.1]	-	-	-	4	-	22	-	-	-	縄文土器片, 礫	前期前半	集石1新旧不明
18	E4d3	[隅丸長方形]	[N-34°-W]	[5.9×5.3]	-	-	-	2	-	12	-	-	-	縄文土器片	前期前半	
19	E3a9	[隅丸長方形]	[N-31°-W]	[5.2×4.5]	-	-	-	3	-	15	-	-	-	縄文土器片	前期前半	
27	D3b9	[楕円形]	[N-29°-W]	[8.0×6.5]	-	-	-	3	-	21	2	-	-	縄文土器片	前期前半	本跡→SK109

(2) 陥し穴

第 1 号陥し穴 (第 21 図)

位置 調査区南部の F 4 b2 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

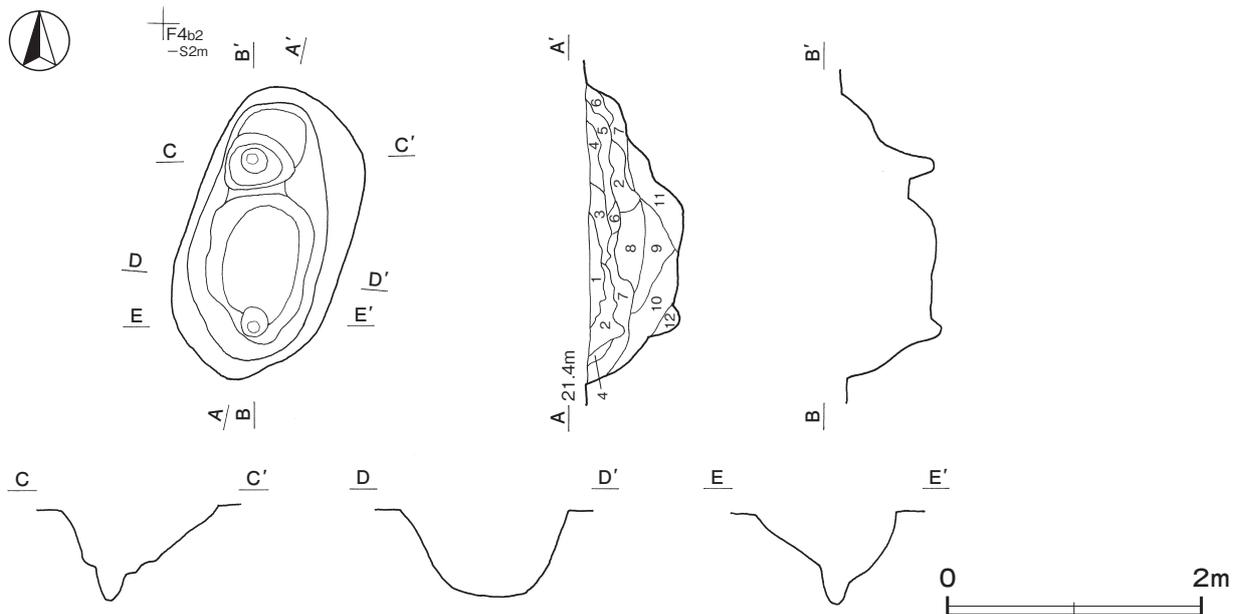
規模と形状 長径 2.38 m, 短径 1.27 m の楕円形で, 長径方向は N-8°-E である。深さは 75cm で, 底面は凹凸がある。底面で逆茂木の跡と想定できるピット 2 か所を確認した。短径の断面形は V 字状を呈している。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

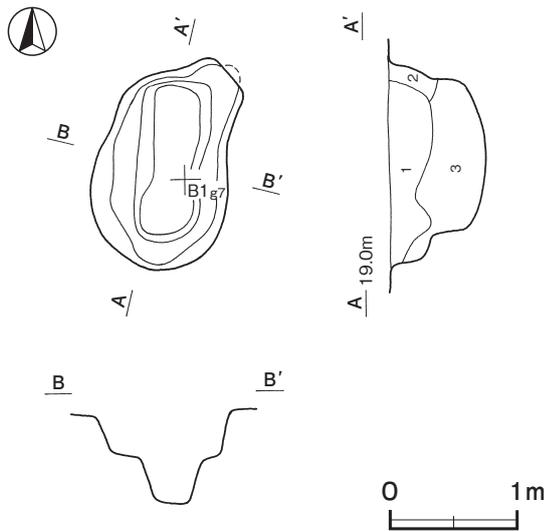
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量 |

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第 21 図 第 1 号陥し穴実測図

第2号陥し穴 (第22図)



第22図 第2号陥し穴実測図

位置 調査区北西部のB 1 f6区, 標高19 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.73 m, 短径1.03 mの楕円形である。長径方向はN - 20° - Eで, 台地の傾斜に対してほぼ直交している。深さは71cmで, 底面は皿状である。短径の断面形は階段状を呈している。

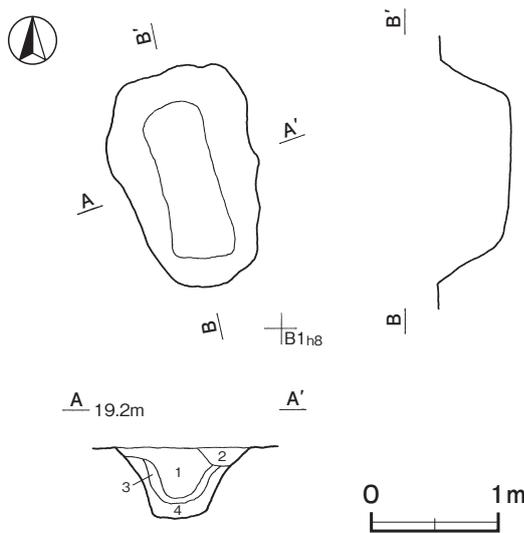
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量, 砂粒微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第3号陥し穴 (第23図)



第23図 第3号陥し穴実測図

位置 調査区北西部のB 1 g7区, 標高19 mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.78 m, 短径1.10 mの楕円形である。長径方向はN - 13° - Wで, 台地の傾斜に対してほぼ直交している。深さは54cmで, 底面はほぼ平坦である。短径の断面形は逆台形を呈している。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第4号陥し穴 (第24図)

位置 調査区北西部のB 1 c7区, 標高20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第280号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を掘り込まれているため, 短径は1.47 mで, 長径は2.58 mしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。長径方向はN - 18° - Wで, 台地の傾斜に対してほぼ直交している。深さは101cmで, 底面は皿状である。短径の断面形はV字状を呈している。

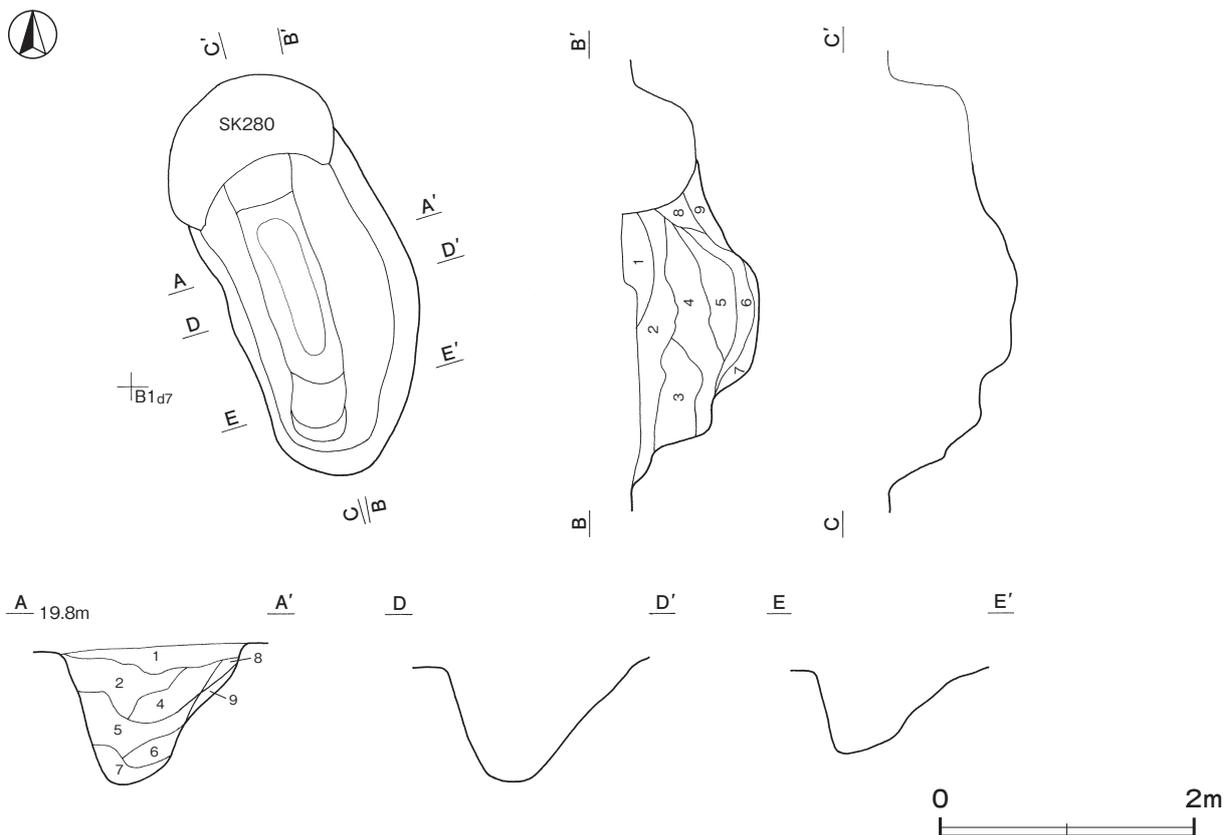
覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 2点 (深鉢) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 遺構の形状から陥し穴と考えられる。時期は、出土土器や重複関係から、前期かそれ以前と考えられる。



第 24 図 第 4 号陥し穴実測図

第 5 号陥し穴 (第 25 図)

位置 調査区北西部の B 1 g8 区, 標高 19 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

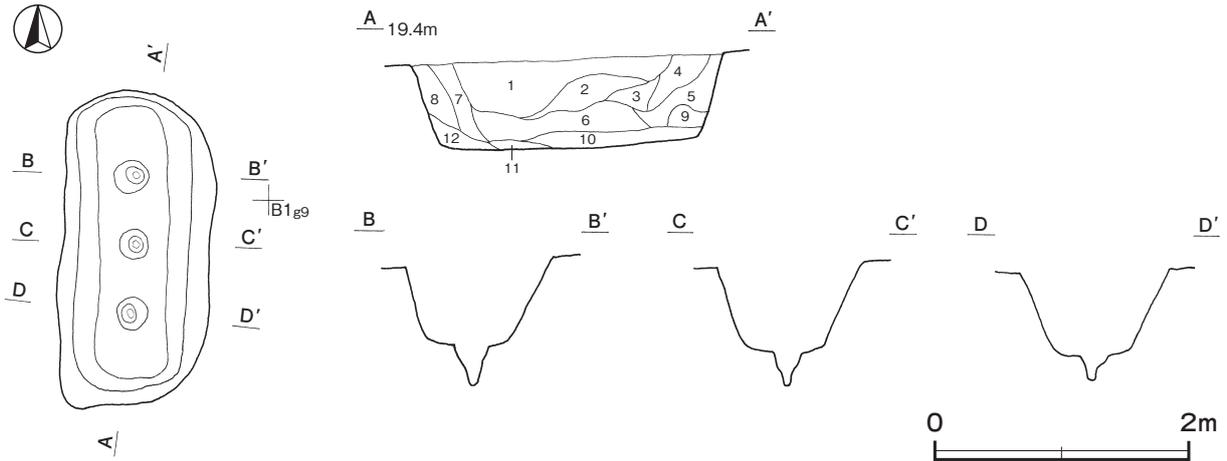
規模と形状 長径 2.48 m, 短径 1.18 m の楕円形である。長径方向は N - 1° - E で, 台地の傾斜に対してほぼ直交している。深さは 68cm で, 底面は平坦である。底面で逆茂木の跡と想定されるピット 3 か所を確認した。短径の断面形は V 字状を呈している。

覆土 12 層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量・粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 ぶい黄橙色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |

所見 遺構の形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第25図 第5号陥し穴実測図

表3 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	F4b2	N-8°-E	楕円形	2.38 × 1.27	75	凹凸	V字状	人為		
2	B1f6	N-20°-E	楕円形	1.73 × 1.03	71	皿状	階段状	人為		
3	B1g7	N-13°-W	楕円形	1.78 × 1.10	54	平坦	逆台形	人為		
4	B1c7	N-18°-W	[楕円形]	(2.58) × 1.47	101	皿状	V字状	人為	縄文土器片	本跡→SK280
5	B1g8	N-1°-E	楕円形	2.48 × 1.18	68	平坦	V字状	人為		

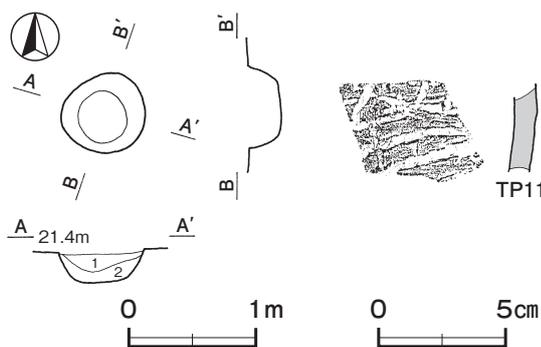
(3) 土坑

確認した土坑 29 基のうち、出土遺物が図示できる 6 基について本文と実測図を記載する。遺物が細片のため図示できないその他 23 基の土坑については、実測図と一覧表を掲載する。

第1号土坑 (第26図)

位置 調査区南部のE 4j2区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.66m、短径0.61mの円形である。深さは26cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第26図 第1号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から前期前半と考えられる。

第1号土坑出土遺物観察表 (第26図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	Lの無節縄文	覆土中	

第160号土坑 (第27図)

位置 調査区中央部のD3e4区, 標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.33m, 短径0.78mの楕円形で, 長径方向はN-42°-Eである。深さは52cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜している。

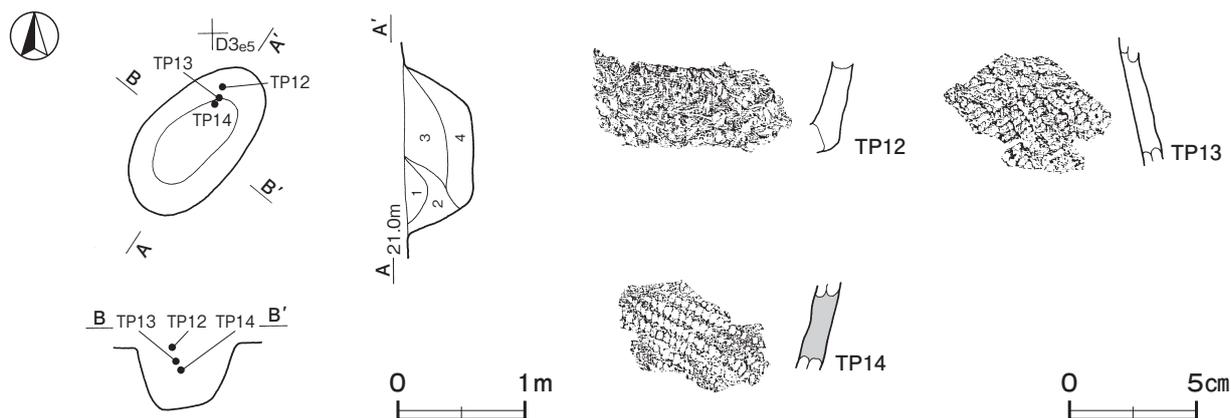
覆土 4層に分層できる。流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片17点(深鉢)が出土している。TP14は北部の覆土中層から, TP12・TP13は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第27図 第160号土坑・出土遺物実測図

第160号土坑出土遺物観察表 (第27図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの単節縄文 外面摩滅	覆土上層	
TP13	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土中層	

第171号土坑 (第28図)

位置 調査区中央部のD3c5区, 標高21mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.95m, 短径1.20mの楕円形で, 長径方向はN-45°-Eである。深さは46cmで, 底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜している。

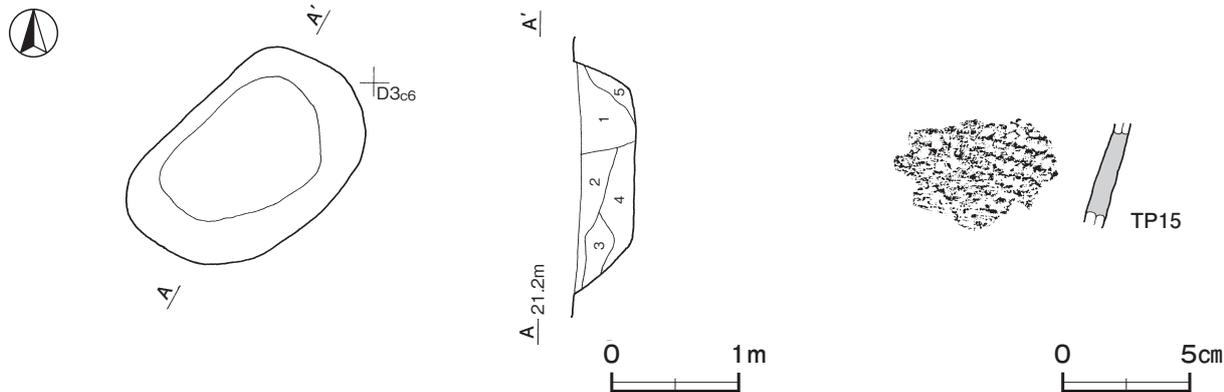
覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|----|-------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 12 点 (深鉢) が出土している。TP15 は覆土中から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 28 図 第 171 号土坑・出土遺物実測図

第 171 号土坑出土遺物観察表 (第 28 図)

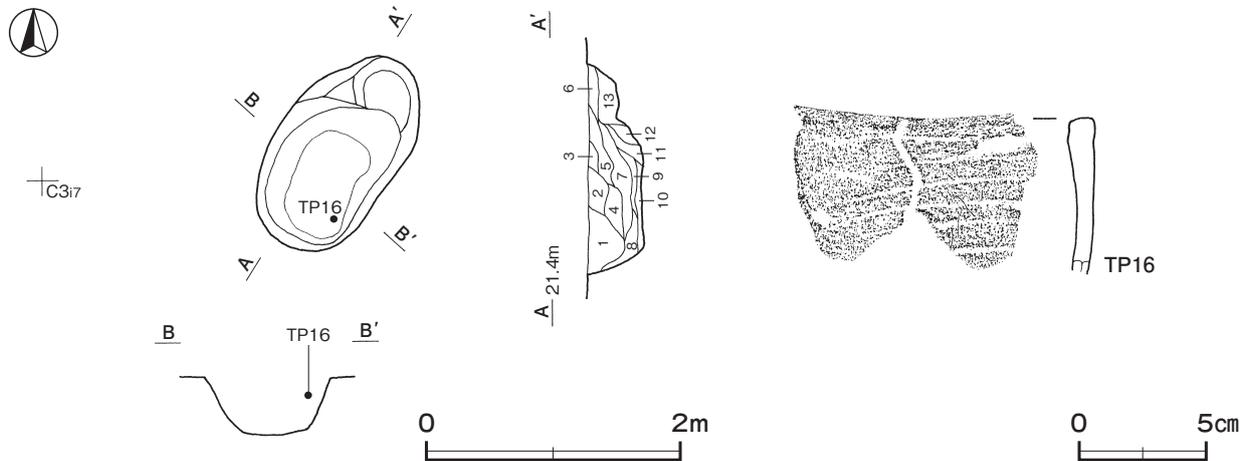
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土中	

第 274 号土坑 (第 29 図)

位置 調査区北部の C 3i7 区, 標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.70 m, 短径 0.96 m の楕円形で, 長径方向は N - 33° - E である。深さは 44cm で, 底面は平坦である。壁は外傾または緩やかに傾斜している。

覆土 13 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



第 29 図 第 274 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-----------|-------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 11 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 12 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ローム粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 16 点（深鉢）が出土している。TP16 は南部の覆土上層から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期後半と考えられる。

第 274 号土坑出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	5 本単位の横位の櫛歯文	覆土上層	PL29

第 283 号土坑（第 30 図）

位置 調査区北西部の B 1 f9 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 0.96 m、短径 0.78 m の楕円形で、長径方向は N - 66° - E である。深さは 32cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜している。

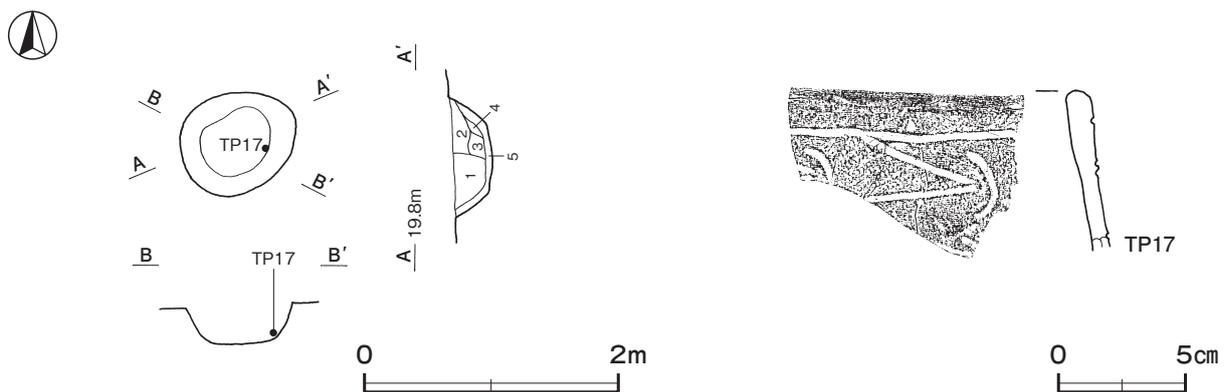
覆土 5 層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示していることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 4 点（深鉢）が出土している。TP17 は東部の覆土下層から出土している。

所見 性格は不明である。時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第 30 図 第 283 号土坑・出土遺物実測図

第 283 号土坑出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい赤褐	LR の単節縄文を地文に半截竹管状工具による沈線文	覆土下層	PL29

第 291 号土坑 (第 31 図)

位置 調査区北西部の B 1 i 0 区, 標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.34 m, 短径 0.95 m の楕円形で, 長径方向は N - 22° - W である。深さは 36cm で, 底面は皿状である。壁は外傾または緩やかに傾斜している。

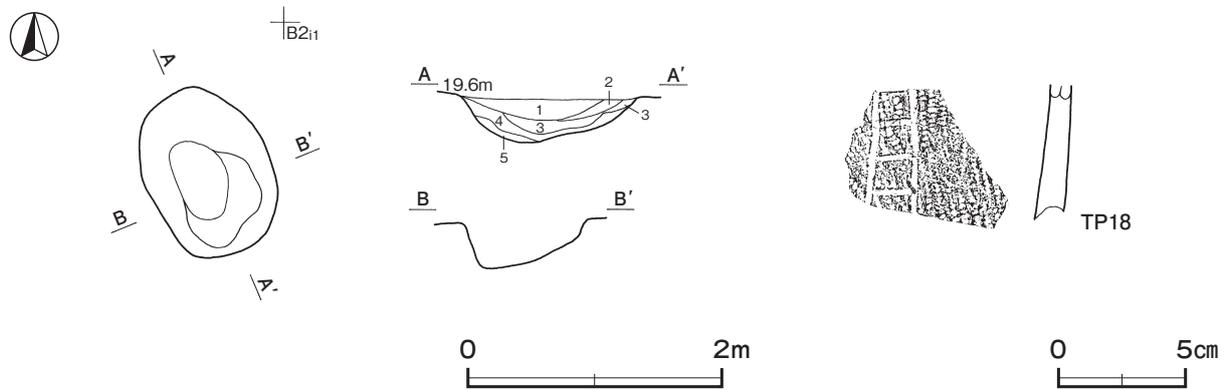
覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が覆土中から出土している。

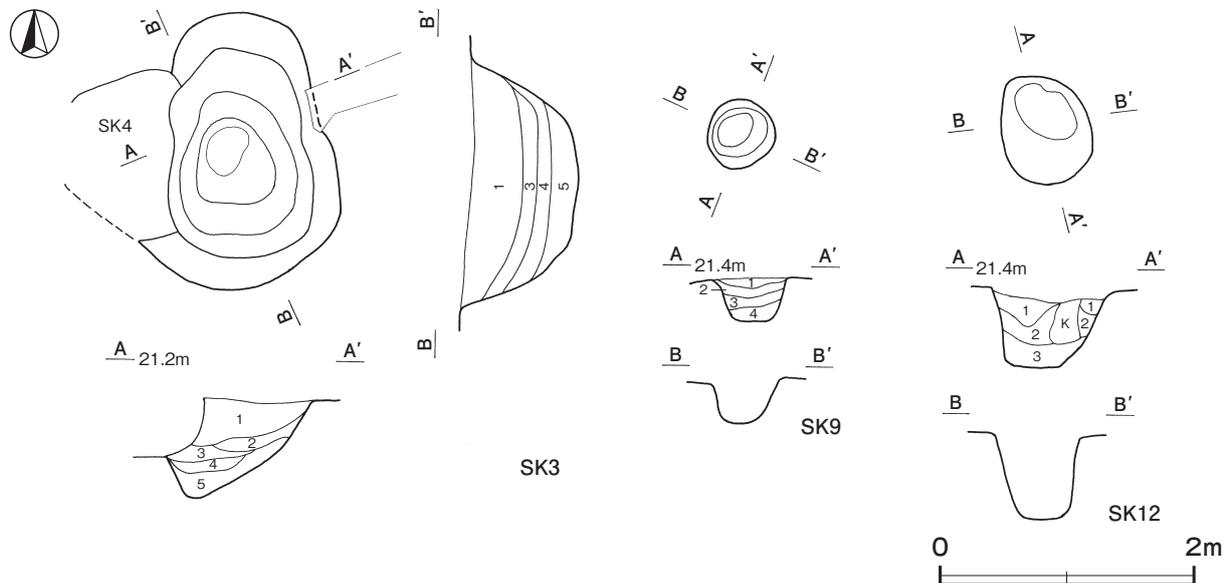
所見 性格は不明である。時期は, 出土土器から後期前半と考えられる。



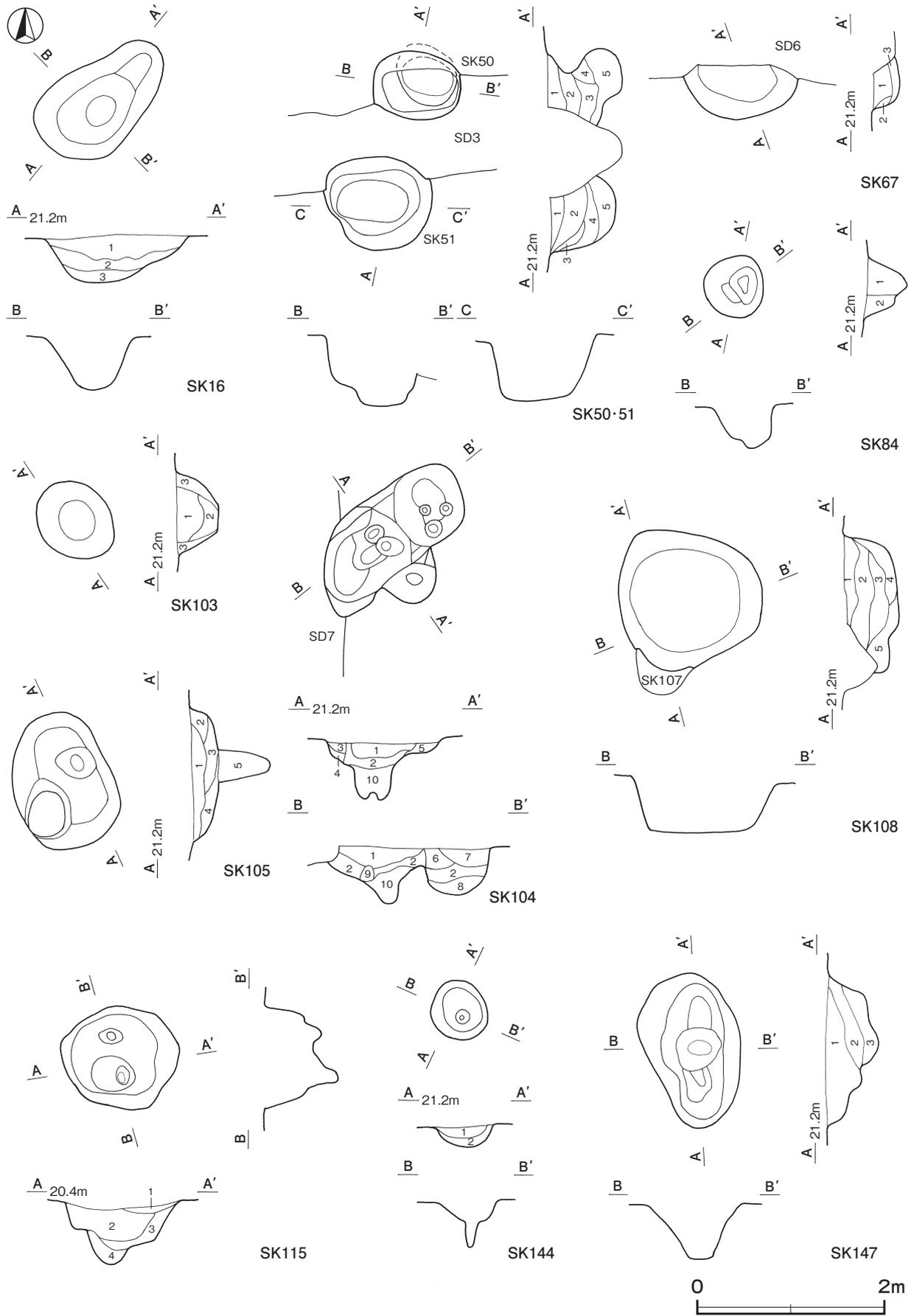
第 31 図 第 291 号土坑・出土遺物実測図

第 291 号土坑出土遺物観察表 (第 31 図)

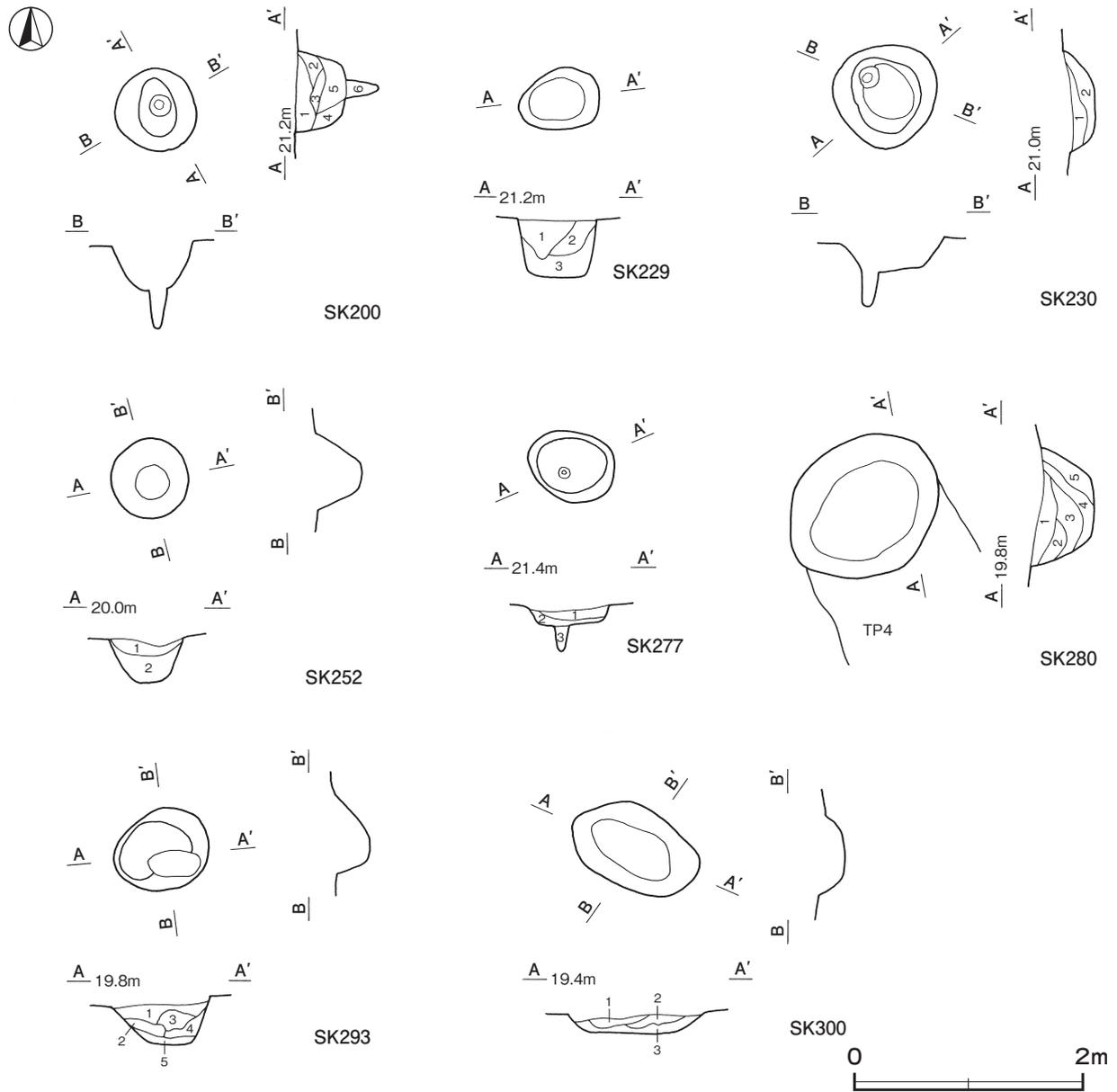
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫・黒色粒子	にぶい橙	RL の単節縄文を地文に梯子状沈線文	覆土中	PL29



第 32 図 縄文時代土坑実測図 (1)



第 33 図 縄文時代土坑実測図 (2)



第34図 縄文時代土坑実測図(3)

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子少量

第50号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第51号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第 67 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 84 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 103 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 104 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 7 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 8 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 9 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 褐 色 ローム粒子中量

第 105 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 108 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 115 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 144 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 147 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 229 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 230 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 252 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第 277 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 280 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 293 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 300 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

表 4 縄文時代土坑一覧表

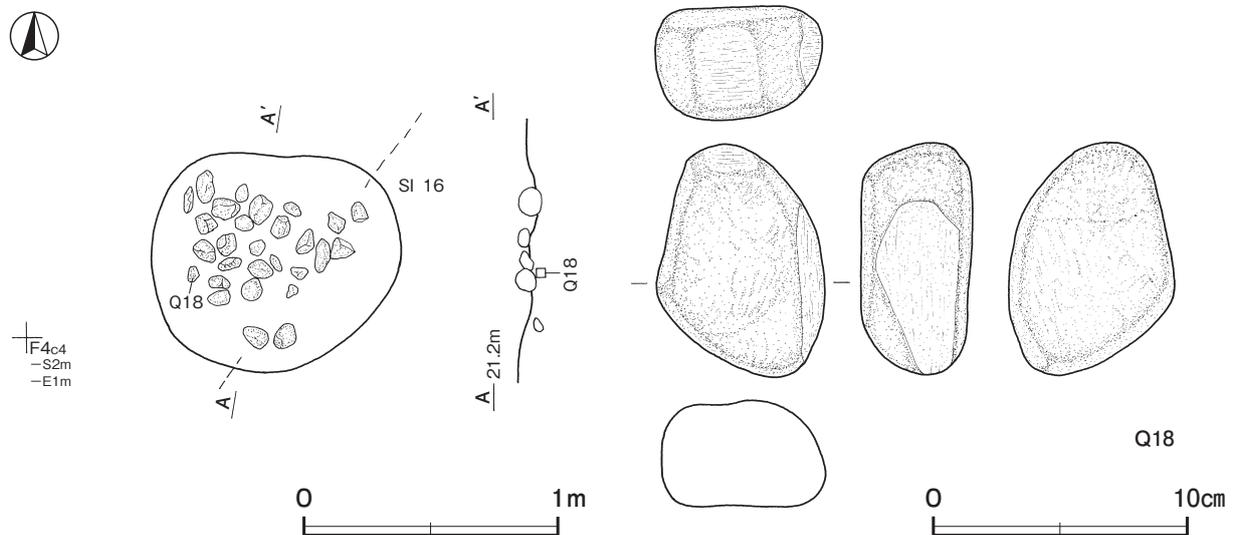
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	E4j2	-	円形	0.66 × 0.61	26	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
3	E4c6	N - 1° - E	不定形	2.20 × (1.30)	90	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	本跡→SK4
9	F4c2	-	円形	0.56 × 0.53	35	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
12	E4h3	N - 22° - W	楕円形	0.90 × 0.69	67	平坦	直立・緩斜	人為	縄文土器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
16	D4f2	N - 42° - E	楕円形	1.55 × 0.94	56	皿状	外傾・緩斜	自然	縄文土器片	
50	D4i1	N - 72° - W	[楕円形]	0.95 × (0.74)	77	平坦	外傾・内彎	人為	縄文土器片	本跡→SD3
51	D4i1	-	[楕円形]	1.14 × (1.01)	69	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SD3
67	D3j6	-	[円形・楕円形]	1.20 × (0.52)	27	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SD6
84	D3e4	-	円形	0.66 × 0.65	45	凹凸	外傾	人為	縄文土器片	
103	D3c9	N - 37° - W	楕円形	0.92 × 0.75	47	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
104	D3f6	N - 53° - E	不定形	(1.77) × 1.22	68	凹凸	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	本跡→SD7
105	D3e6	N - 20° - W	楕円形	1.46 × 1.05	80	皿状	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	
108	D3a8	-	[円形]	1.55 × (1.50)	61	平坦	外傾	人為	縄文土器片	本跡→SK107
115	D2a9	-	円形	1.20 × 1.17	80	凹凸	外傾	自然	縄文土器片	
144	D3c4	-	円形	0.65 × 0.60	50	皿状	緩斜	自然	縄文土器片	
147	D3b7	N - 8° - W	楕円形	1.67 × 1.06	59	段状	緩斜	人為	縄文土器片	
160	D3e4	N - 42° - E	楕円形	1.33 × 0.78	52	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
171	D3c5	N - 45° - E	楕円形	1.95 × 1.20	46	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
200	C3i6	-	円形	0.72 × 0.70	74	皿状	外傾	人為	縄文土器片	
229	B3j2	N - 82° - E	楕円形	0.71 × 0.53	50	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
230	B2f6	-	円形	0.90 × 0.87	56	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
252	C2b3	-	円形	0.67 × 0.67	40	皿状	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	
274	C3i7	N - 33° - E	楕円形	1.70 × 0.96	44	平坦	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	
277	C3i7	N - 69° - W	楕円形	0.78 × 0.60	39	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
280	B1c7	N - 43° - E	楕円形	1.46 × 1.20	50	平坦	外傾	自然	縄文土器片	TP4 → 本跡
283	B1f9	N - 66° - E	楕円形	0.96 × 0.78	32	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
291	B1i0	N - 22° - W	楕円形	1.34 × 0.95	36	皿状	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	
293	B2i1	N - 68° - E	楕円形	0.85 × 0.71	30	皿状	外傾・緩斜	人為	縄文土器片	
300	C2h3	N - 61° - W	楕円形	1.17 × 0.72	22	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	

(4) 集石遺構

第1号集石遺構 (第35図)

位置 調査区中央部のE 4 c4区, 標高21mほどの台地平坦部に位置している。



第35図 第1号集石遺構・出土遺物実測図

重複関係 第16号竪穴建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長径1.02 m、短径0.91 mの範囲に礫が確認された。範囲の形状は不整楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。掘り込みは確認できなかった。

遺物出土状況 確認面の高さで32点の礫が出土している。石材は石英斑岩25点、砂岩5点、ホルンフェルス2点である。大きさは、長さ3.8～14.4cm、幅2.7～10.2cm、重さ31～1,104 gである。総重量は13,928 gで、平均の重量は約435 gである。出土した礫のうち、一部または全体に火を受けたと思われる痕が11個体からは確認でき、火を受けている方向は一定していない。また、本跡から出土した礫と周辺部から出土した礫に接合関係が確認された。Q18は西部の確認面から出土している。

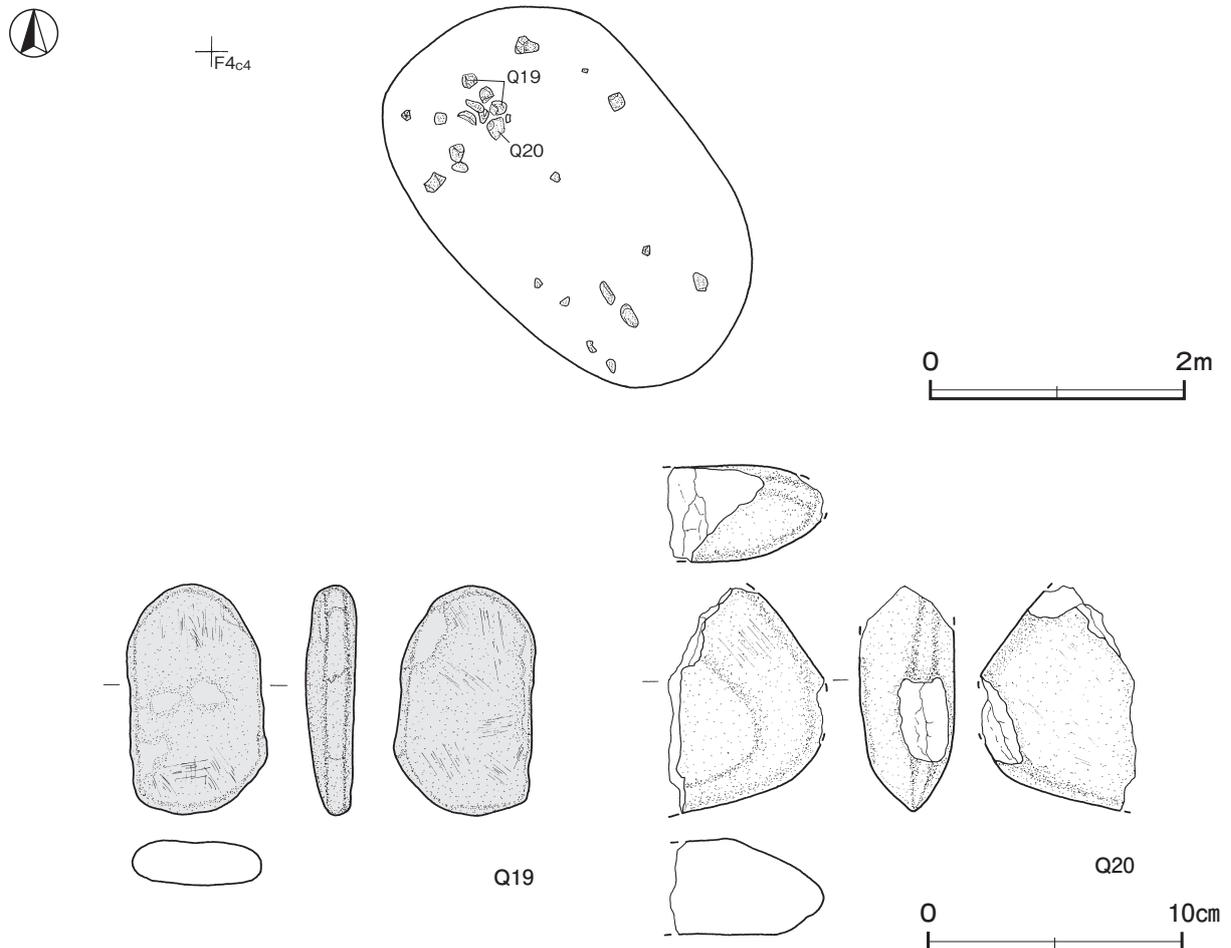
所見 本跡の底面からは、火を受けて赤変した部分や硬化した部分が確認できなかったことから、他の場所で火を受け持ち込まれたか、廃棄された可能性がある。本跡の時期は前期と考えられる。

第1号集石遺構出土遺物観察表（第35図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	磨石	9.2	6.6	4.4	379	ホルンフェルス	2面研磨痕	確認面	PL31

第2号集石遺構（第36図）

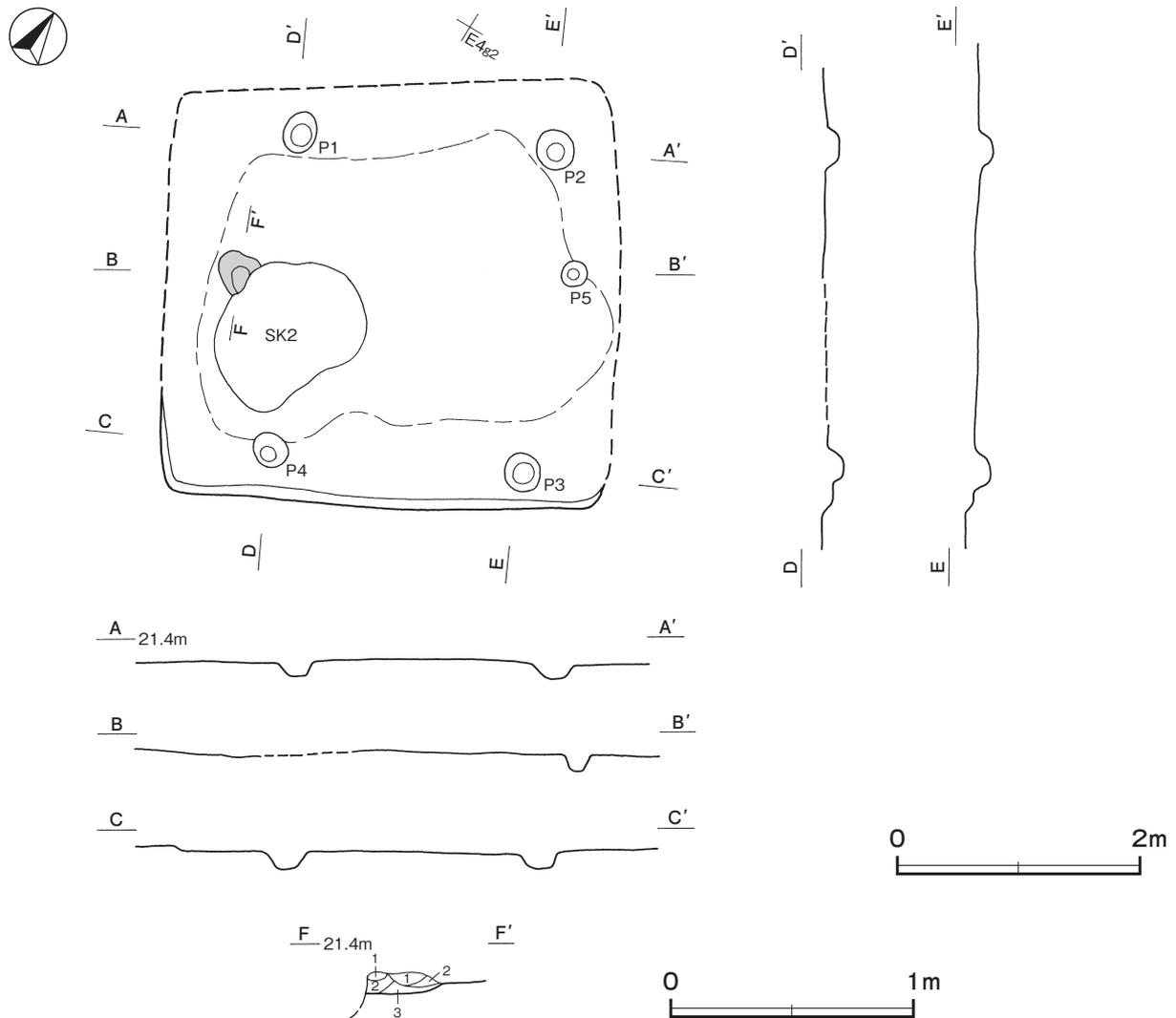
位置 調査区南部のF4c4区、標高21 mほどの台地平坦部に位置している。



第36図 第2号集石遺構・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片6点（甕）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構の様相から4世紀代と考えられる。



第37図 第1号竪穴建物跡実測図

第2号竪穴建物跡（第38・39図）

位置 調査区南部のF 4 b3区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.00m、短軸4.40mの長方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は8~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径69cm、短径39cmの楕円形で、床面を21cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

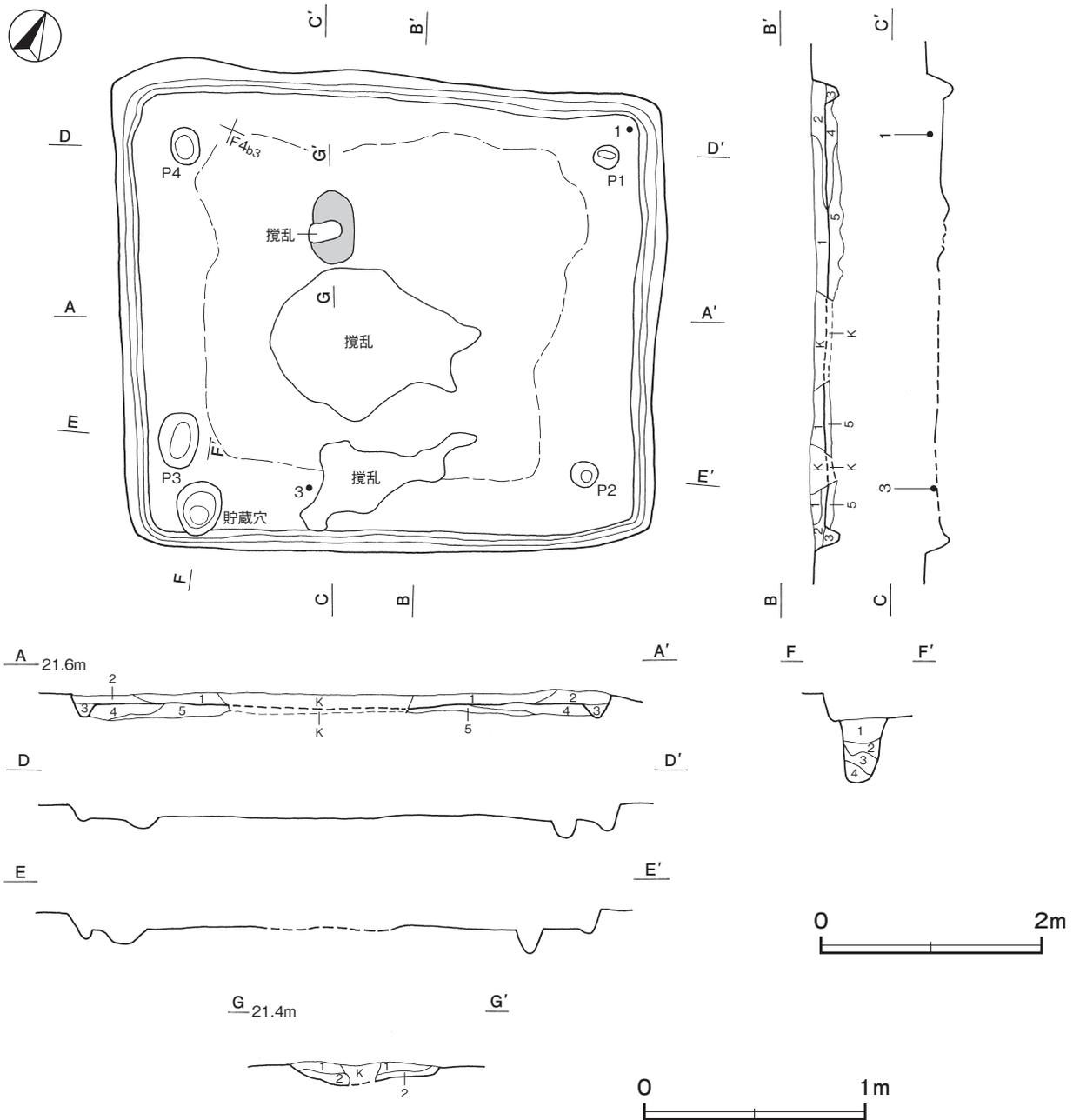
炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量

2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット 4か所。P1~P4は深さ10~22cmで、規模と配置から支柱穴である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置している。長径45cm、短径39cmの楕円形で、深さは62cmである。底面は平坦で、



第38図 第2号竪穴建物跡実測図

壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |

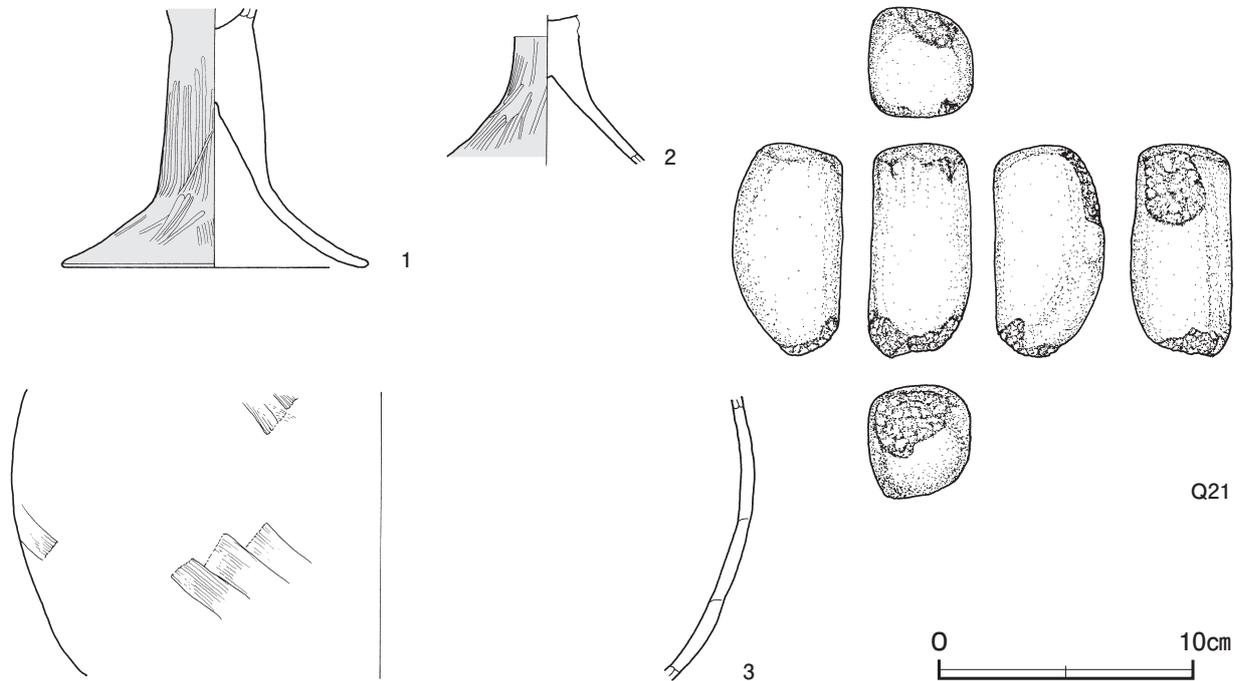
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示していることから自然堆積である。第4・5層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片94点(埴6, 高坏9, 甕類79), 石器1点(磨石)が出土している。3は南部の床面,

1は北東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。2・Q 21はそれぞれ覆土中から出土している。
所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第39図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	-	(10.2)	[12.0]	長石・石英・ 黒色粒子・砂粒	赤	普通	脚部外面へラ磨き 裾部外面横ナデ後へラ磨き 内面横ナデ	覆土中層	40%
2	土師器	高坏	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	脚部外面へラ磨き 内面横ナデ	覆土中	30%
3	土師器	甕	-	(11.3)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 21	磨石	8.5	4.0	4.4	241.0	石英斑岩	3面研磨痕	覆土中	PL31

第3号竪穴建物跡 (第40～44図)

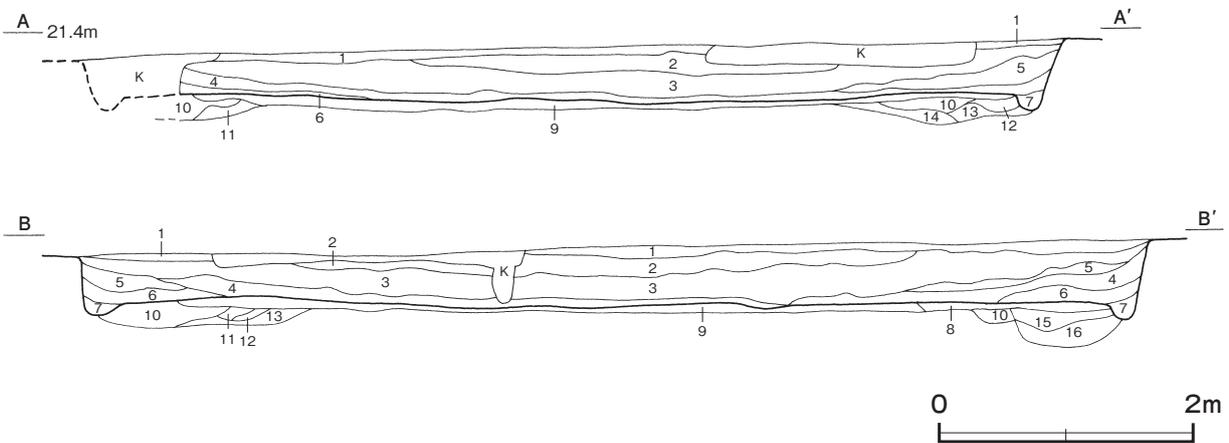
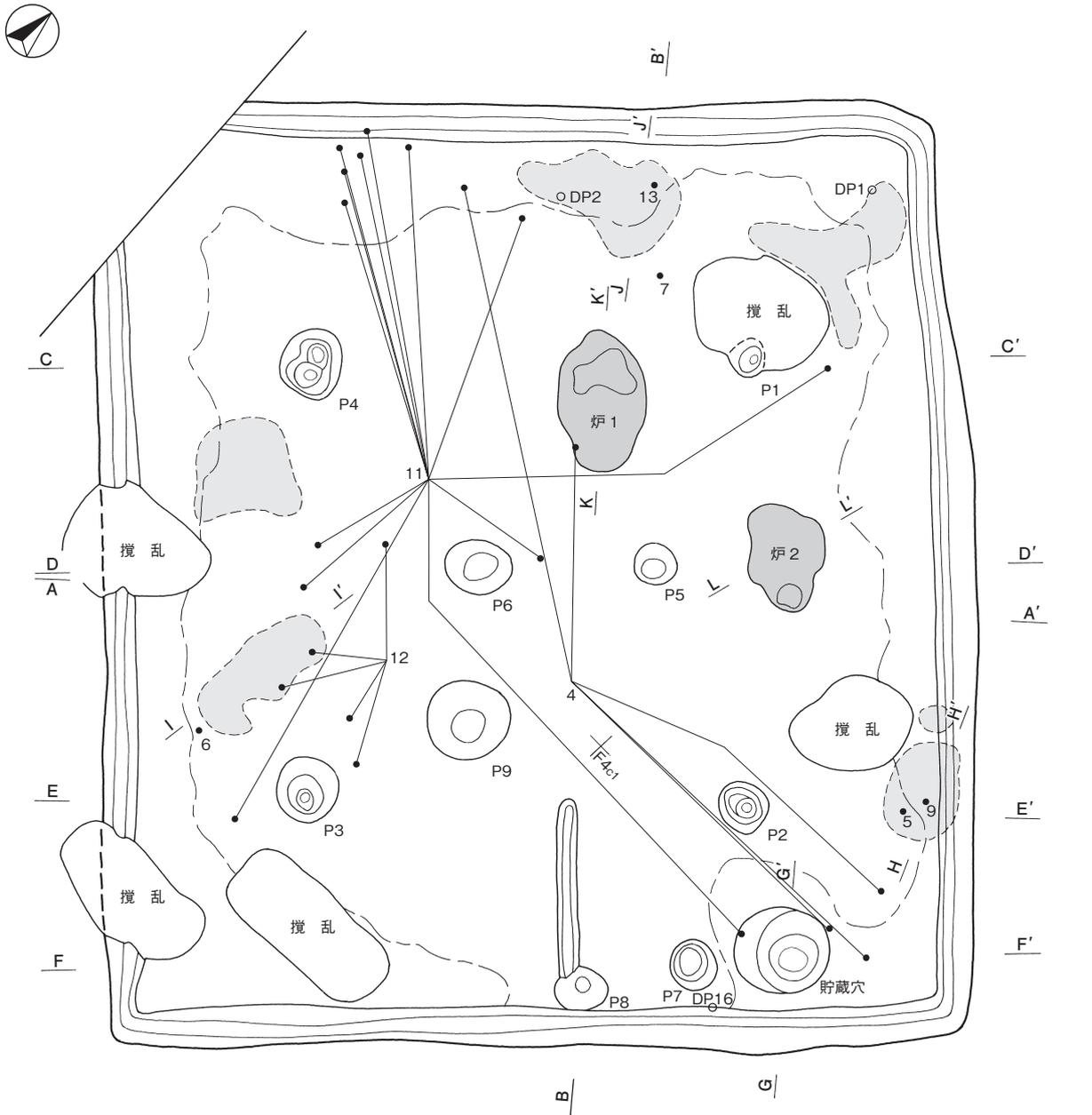
位置 調査区南部のF 3 b0区、標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西コーナー部が調査区域外へ延びている。長軸8.38 m、短軸7.75 mの方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁高は24～40cmで、外傾して立ち上がっている。

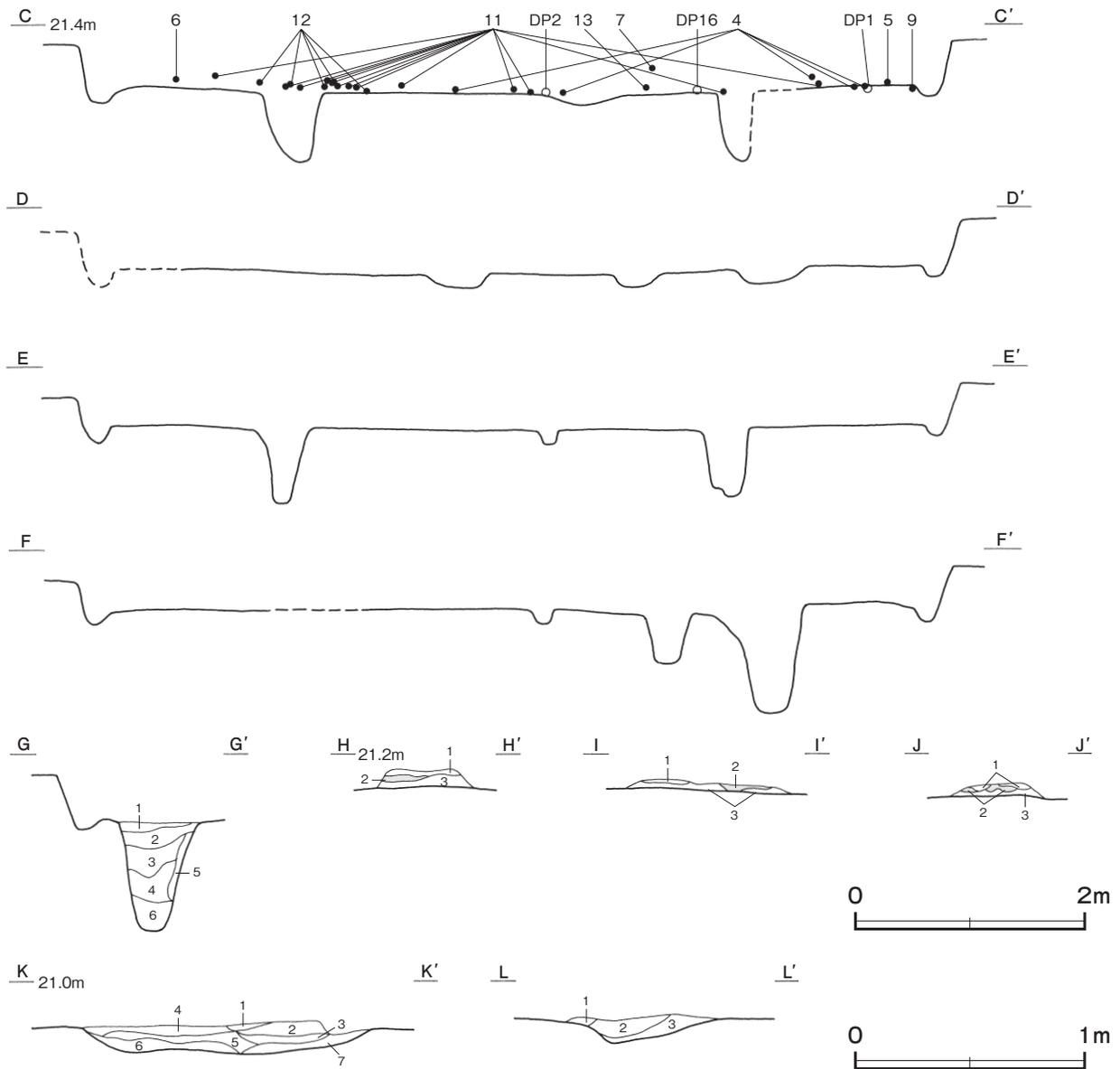
床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部が浅く、壁際に向かって深く掘り込み、ロームブロックを主体とする第8～16層を埋土して構築されている。北西壁際の床下に、長さ396cm、幅78～91cm、深さ38cmで、北西壁に沿って延びる溝状の床下土坑を確認した。南東壁際のほぼ中央部に、南東壁に直交する間仕切り溝を確認した。規模は、長さ154cm、幅18～21cm、深さ10～14cmで、断面は浅いU字状をしている。また、壁際を中心に焼土塊6か所を確認した。

焼土塊土層解説 (H～J共通)

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
 2 赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量
 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第40図 第3号竖穴建物跡実測図(1)



第41図 第3号竪穴建物跡実測図(2)

炉 2か所。炉1は、中央部のやや北西壁寄りに位置している。長径125cm、短径79cmの楕円形で、床面を26cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉2は、中央部のやや北東壁寄りに位置している。長径97cm、短径72cmの不定形で、床面を19cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて硬化しているが、赤変は弱い。炉の新旧関係は不明である。

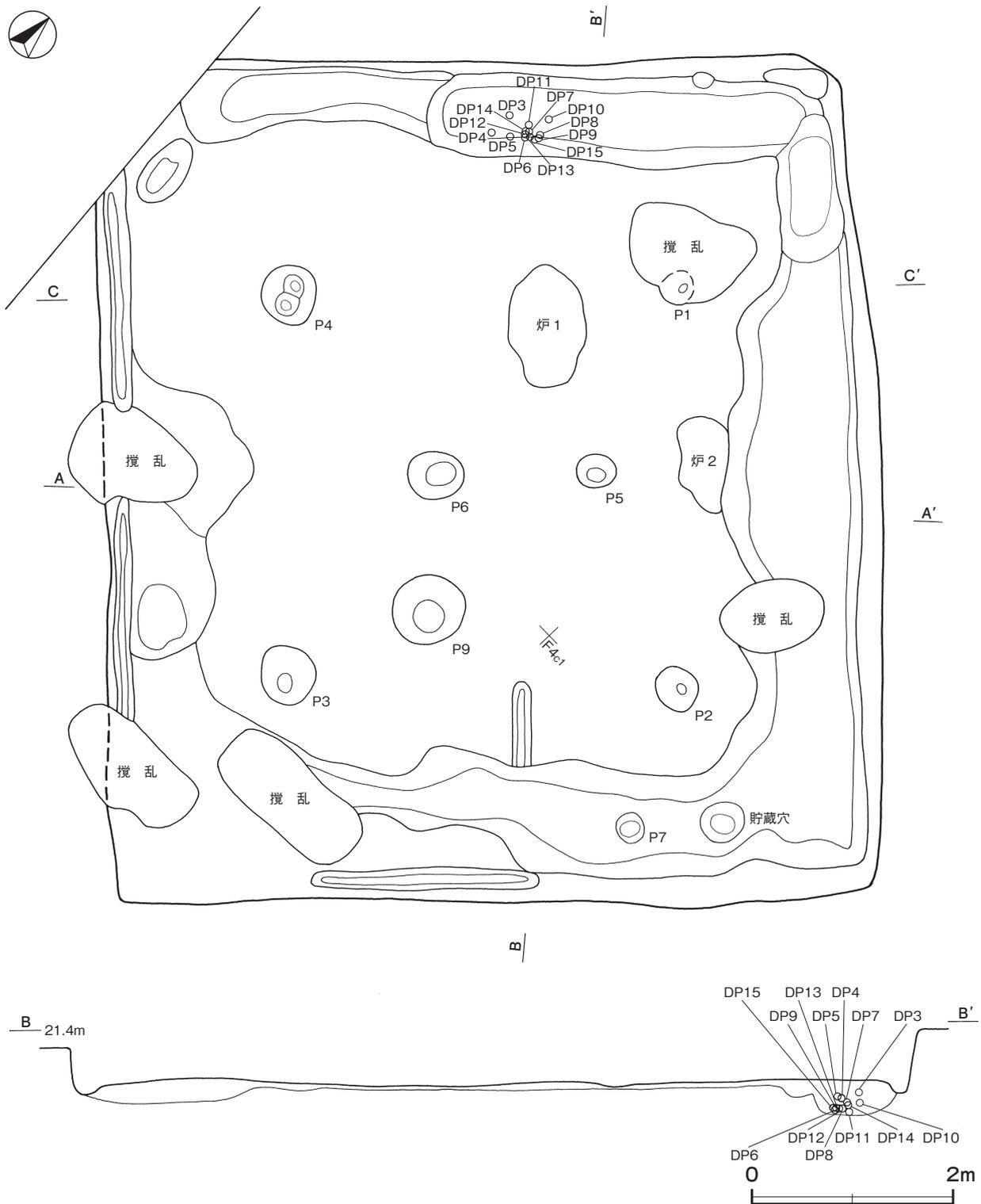
炉1土層解説

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化物少量, ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | |

炉2土層解説

- | | |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | |

ピット 9か所。P1～P4は深さ61～66cmで、規模と配置から支柱穴である。P5・P6は深さ12cm・15cmで、配置から補助柱穴の可能性はある。P7は深さ45cmで、位置や硬化面の広がりから、出入り口施設に伴うピット



第42図 第3号竪穴建物跡実測図(3)

ットと考えられる。P8は深さ19cmで、間仕切り溝に伴うピットと考えられるが詳細は不明である。P9は深さ48cmで、性格不明である。P4からは柱のあたりが2か所確認され、柱が立て替えられた可能性がある。
貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径85cm、短径72cmの楕円形で、深さは95cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 褐色	ローム粒子微量	6 極暗褐色	ロームブロック少量

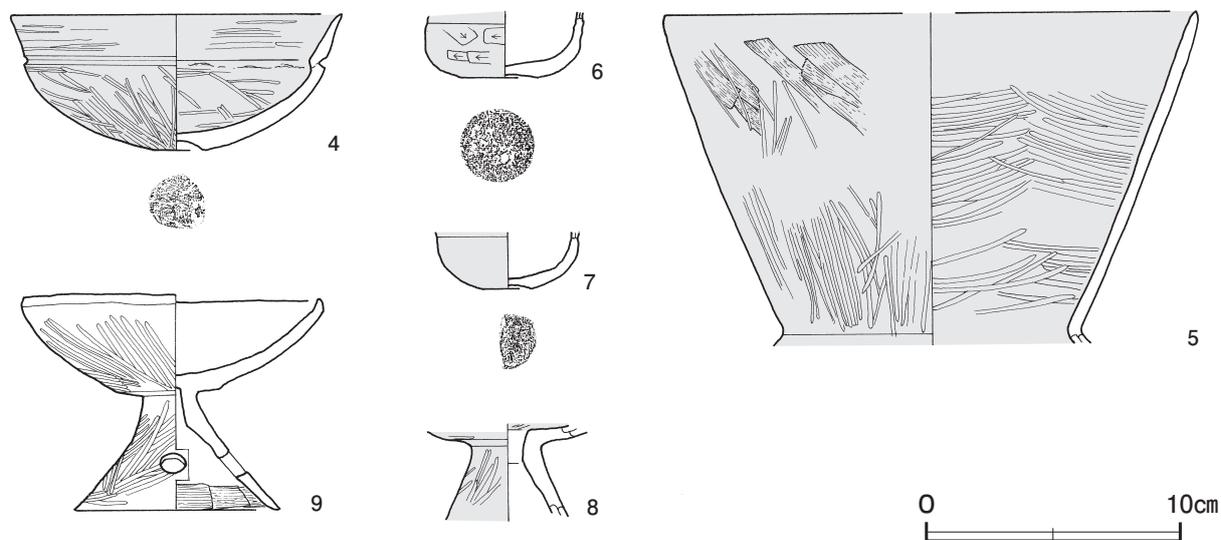
覆土 7層に分層できる。第3～7層は、覆土中の含有物や堆積状況から埋め戻され、その後、第1・2層が自然堆積したものと考えられる。第8～14層は貼床の構築土であり、第15・16層は床下土坑の覆土である。

土層解説

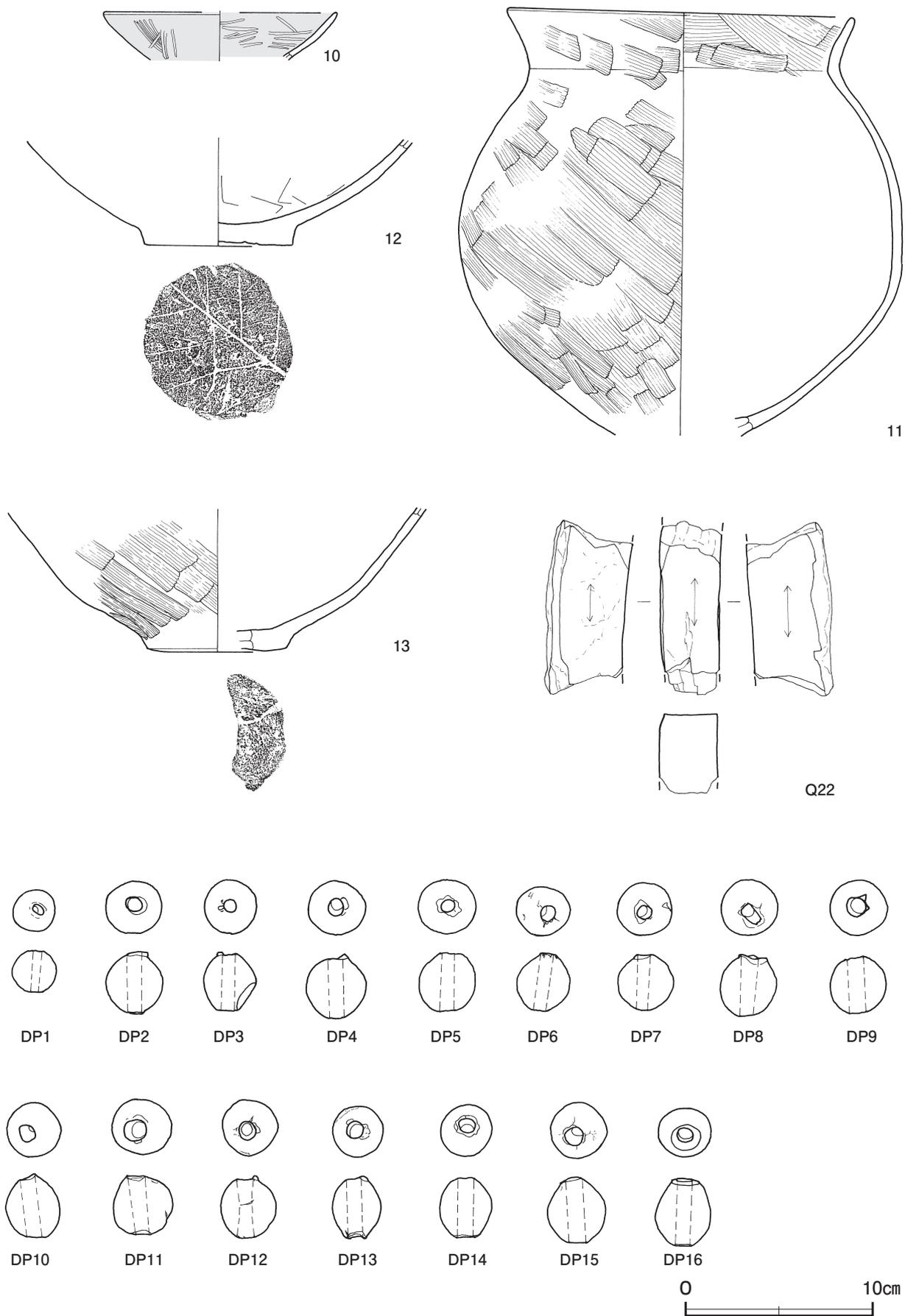
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック中量
7 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1,249 点 (椀 5, 埴 39, 器台 5, 高坏 316, 鉢 1, 台付甕 3, 甕類 880), 土製品 18 点 (土玉 17, 不明 1), 石器 1 点 (砥石) のほか, 剥片 4 点が, 広い範囲の各層から出土している。DP 6～DP15 は掘方調査により北西壁際の床下土坑の底面から出土している。DP 4 は同じく床下土坑の覆土中層, DP 3・DP 5 は同じく覆土上層からそれぞれ出土している。5・9・DP16 は東コーナー部壁際, DP 1 は北コーナー部, DP 2 は北西壁際のそれぞれ床面から出土している。4 は東コーナー部・中央部・北西壁際, 12 は南西部, 11 は広い範囲の床面から覆土下層にかけて出土した破片がそれぞれ接合したものである。6 は南西壁際の覆土下層, 13 は北西壁際の覆土下層, 7 は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。8・10・Q 22 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。床下土坑から土玉 13 点が出土していることから, 本跡の構築時に何らかの祭祀的行為が行われ, その際に埋納された可能性がある。これらの土玉は漁労具としてではなく, 祭祀に関わる道具として利用されたと想定できる。4・11・12 は広範囲に散在していた破片が接合しており, 本跡の廃絶に際して行われた祭祀的行為に関わるものと考えられる。また, 壁際を中心に複数の焼土塊を確認していることから, 焼失住居の可能性はある。



第 43 図 第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第44图 第3号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表 (43・44 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	椀	13.0	5.4	2.1	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面ナデ後ヘラ磨き 体部外・内面ナデ後ヘラ磨き	床面・覆土下層	70% PL22
5	土師器	埴	[20.9]	(13.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 内面ヘラ磨き	床面	10%
6	土師器	埴	-	(2.7)	3.1	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	40% PL22
7	土師器	埴	-	(2.2)	1.8	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ナデ	覆土中層	30%
8	土師器	器台	-	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	器受部外面ナデ 内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ磨き 内面ナデ 器受部貫通孔あり	覆土中	20%
9	土師器	高坏	11.6	8.6	7.8	長石・石英	橙	普通	坏部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ 脚部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ハケ目調整 3窓うち1か所穿孔未貫通	床面	80% PL23
10	土師器	高坏	[12.3]	(2.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外・内面ナデ後ヘラ磨き	覆土中	10%
11	土師器	甕	18.2	(23.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ 台付甕	床面・覆土下層	80% PL25
12	土師器	甕	-	(5.7)	8.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面ヘラナデ	床面・覆土下層	10%
13	土師器	甕	-	(7.7)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	2.2	2.2	0.4	11.7	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL30
DP 2	土玉	3.0	3.3	0.8	24.9	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL30
DP 3	土玉	2.9	3.1	0.7	22.7	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑上層	PL30
DP 4	土玉	3.1	3.5	0.8	27.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑中層	PL30
DP 5	土玉	3.0	3.2	0.9	24.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑上層	PL30
DP 6	土玉	2.8	3.1	0.8	19.0	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP 7	土玉	2.9	3.0	0.7	22.9	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP 8	土玉	2.9	3.3	1.0	25.4	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP 9	土玉	3.0	3.1	1.0	23.9	長石・石英・雲母	ナデ 二方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP10	土玉	2.9	3.3	0.9	24.5	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP11	土玉	3.1	3.2	1.0	28.6	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP12	土玉	3.0	3.4	1.0	22.6	長石・石英・雲母	ナデ 二方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP13	土玉	2.7	3.3	0.8	20.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP14	土玉	2.8	3.2	0.8	21.2	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP15	土玉	3.0	3.5	0.9	26.9	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床下土坑底面	PL30
DP16	土玉	2.9	3.7	0.8	24.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	砥石	(9.4)	3.3	(4.7)	(206.0)	凝灰岩	砥面3面 他2面は破断面	覆土中	PL31

第5号竪穴建物跡 (第45・46 図)

位置 調査区南部のF 4 a6 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 18～21 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.20 m、短軸 4.60 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 37° - W である。壁高は 12～20cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部を浅く、壁際をやや深く掘り込み、ロームブロックを主体とする第 9～12 層を埋土して構築されている。南東壁際のほぼ中央部に、南東壁に直交する間仕切り溝を確認した。規模は、長さ 93cm、幅 20～24cm、深さ 13～15cm で、断面が浅い U 字状をしている。また、南コーナー部と南東部の壁際から焼土塊 3 か所、南東部の壁際から粘土塊 1 か所をそれぞれ確認した。

焼土塊・粘土塊土層解説 (H・I 共通)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量 | |

炉 中央部やや北寄りに位置している。長径 108cm, 短径 59cmの楕円形で, 床面を 11cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ 41～53cmで, 規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ 30cmで, 位置や硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ 29cmで, 性格不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径 87cm, 短径 58cmの楕円形で, 深さは 42cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

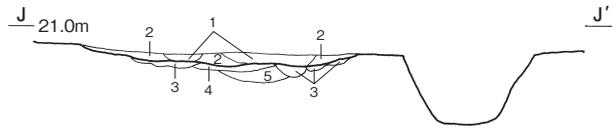
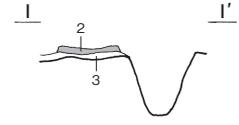
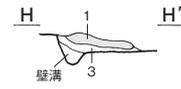
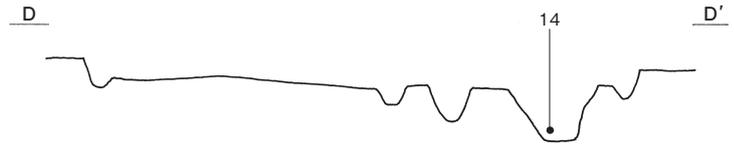
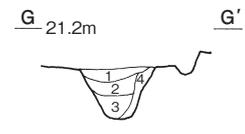
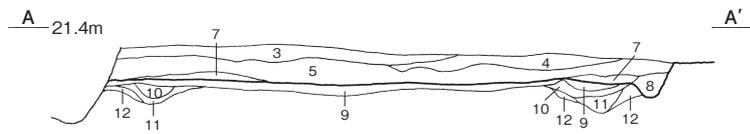
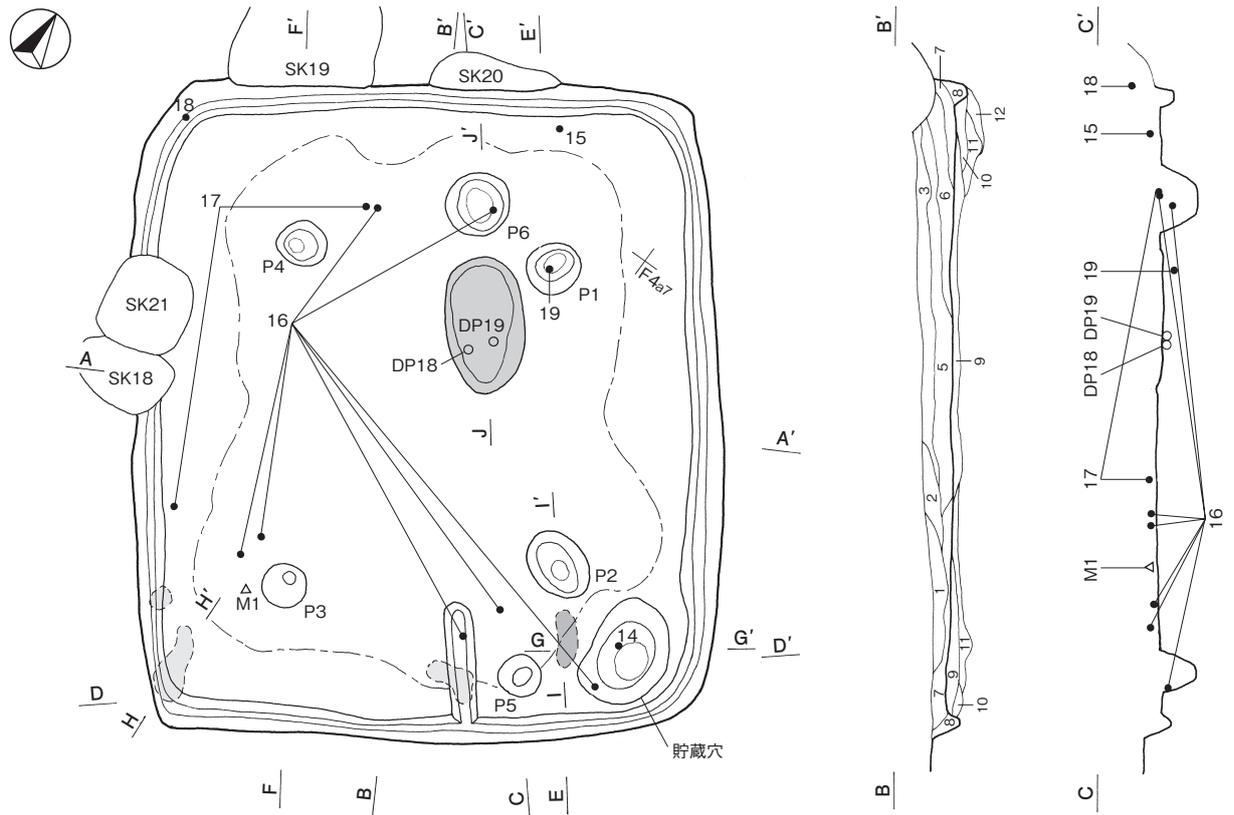
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 9～12層は貼床の構築土である。

土層解説

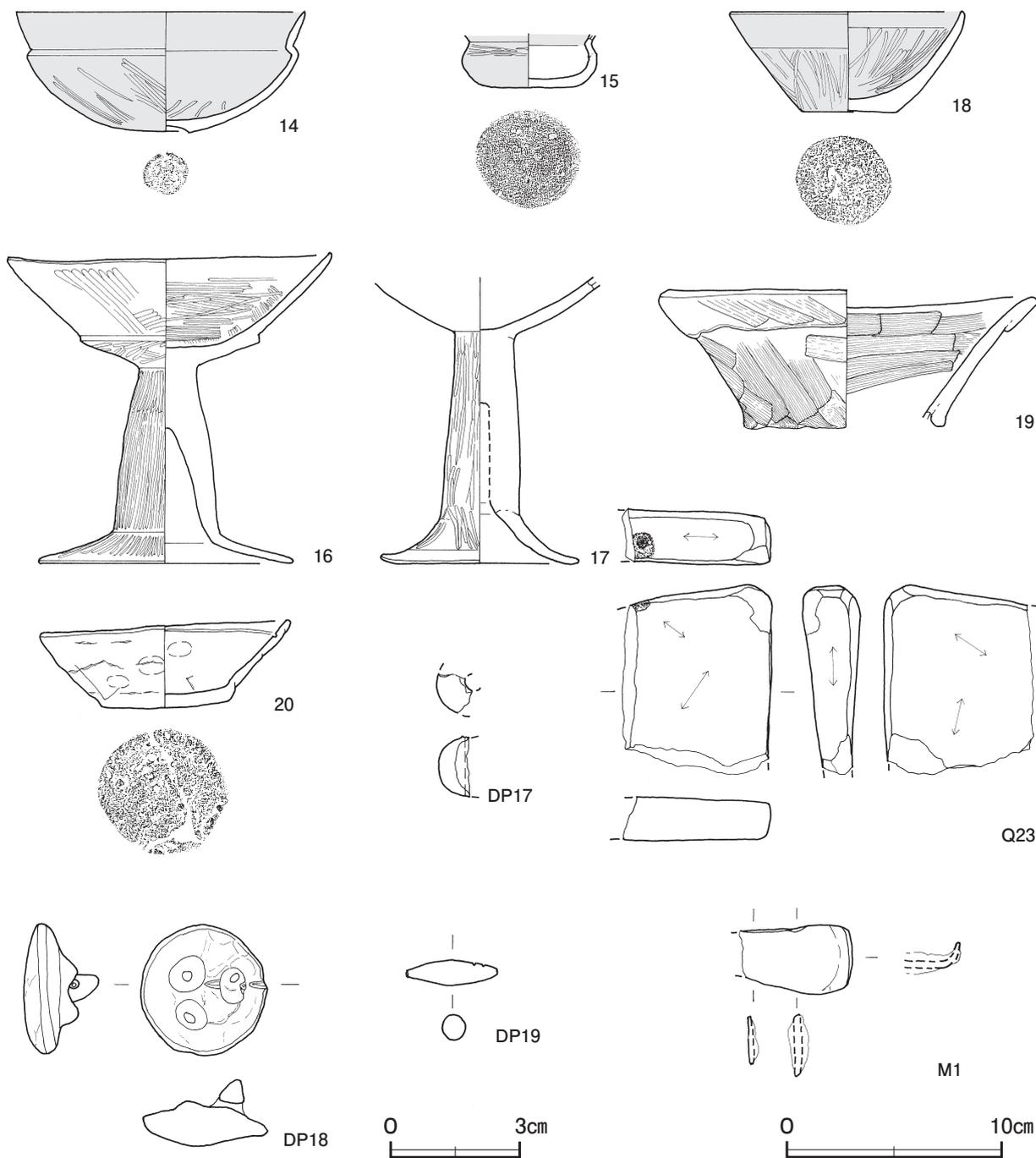
- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 12 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 524 点 (坏 3, 埴 26, 器台 4, 高坏 38, 壺 2, 甕類 439, 小形甕 2, ミニチュア土器 1, 手捏土器 9), 土製品 3 点 (土玉, 鏡形土製品, 糸巻形土製品), 石器 1 点 (砥石), 鉄器・鉄製品 2 点 (鎌, 不明), 自然遺物 1 点 (種子) が, 広い範囲の各層から出土している。14 は貯蔵穴の覆土下層, 19 は P 1 の覆土上層からそれぞれ出土している。DP18・DP19 は, 炉床面の南東部から出土している。M 1 は南部の床面から出土している。16 は西部・東部・南部, 17 は西部と南部のそれぞれ床面から出土した破片が接合したものである。15 は北西壁寄りの覆土下層, 18 は西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。20・DP17・Q 23 はそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。炉床面から出土した鏡形土製品と糸巻形土製品は, どちらも火を受けた痕跡は認められない。これは, 炉の使用を終えた後に置かれた状況であると考えられることから, 住居廃絶に伴う祭祀的行為が行われた可能性を示唆している。また, 16・17 は床面の広い範囲に散在していた破片が接合しており, 前述の土製品と同じく, 廃絶時の祭祀的行為との関わりが想定される。壁際を中心に複数の焼土塊を確認していることから, 焼失住居の可能性はある。



第 45 图 第 5 号竖穴建物迹实测图



第46図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	椀	13.4	5.6	2.0	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ後ヘラ磨き	貯蔵穴 覆土下層	90% PL22
15	土師器	埴	-	(2.5)	4.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	覆土下層	50% PL22
16	土師器	高坏	14.9	14.6	11.6	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外・内面ナデ後ヘラ磨き 脚部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	床面	80% PL23
17	土師器	高坏	-	(13.4)	9.3	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部外・内面ナデ 脚部外面ナデ後ヘラ磨き 裾部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	床面	50%
18	土師器	椀	10.7	4.8	4.5	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ後ヘラ磨き	覆土上層	100% PL22
19	土師器	壺	17.0	(6.5)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 折り返し口縁	P1 覆土上層	20% PL23
20	土師器	ミニチュア 土器	11.5	4.1	5.9	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ 指頭痕	覆土中	60% PL28

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	土玉	[2.8]	(2.7)	[0.8]	(5.6)	長石・石英	ナデ 二方向からの穿孔 欠損	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP18	鏡形土製品	3.1	2.9	1.7	7.5	長石・石英・砂粒	鈕は両側から鉄状のオールで穿孔を貼り付けてつまみ出している	炉床面	PL30
DP19	糸巻形土製品	2.1	0.6	0.6	0.6	長石・石英・白色粒子	全面ナデ 若干の凹あり	炉床面	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	砥石	(8.9)	(6.9)	2.7	(216.0)	砂岩	砥面4面 他は破断面	覆土中	PL31

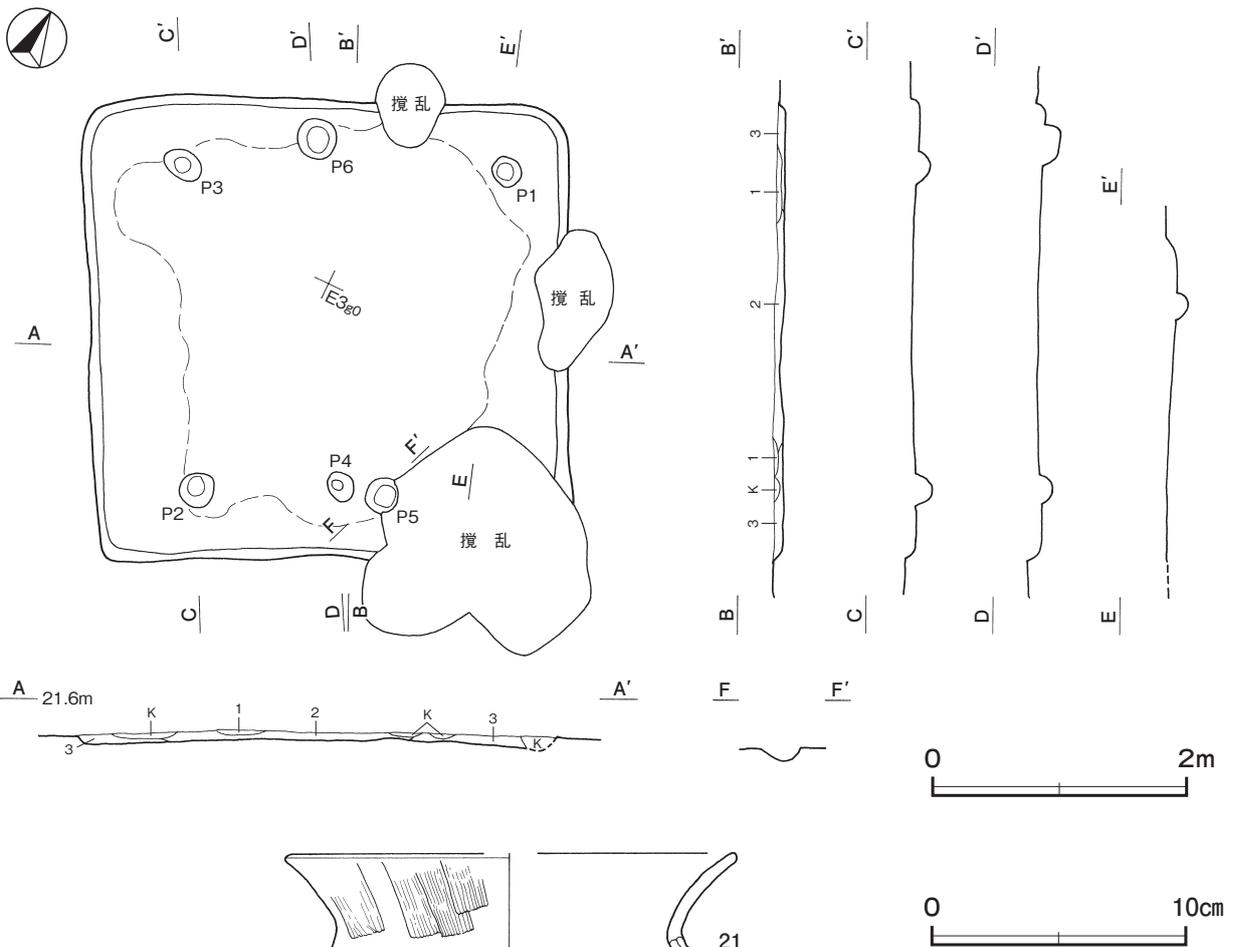
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(5.2)	3.3	0.2~0.3	(15.6)	鉄	装着部 刃部欠損	床面	PL34

第6号竪穴建物跡 (第47・48図)

位置 調査区中央部のE 3g9区、標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.68mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁高は6~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。



第47図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 6か所。P1～P3は深さ12～14cmで、規模と配置から主柱穴である。P4・P5は深さ9cm・11cmで、位置や硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ21cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片20点(埴1, 高坏4, 甕15)が出土している。21は北西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師器	甕	[17.5]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土中	5%

第7号竪穴建物跡(第48図)

位置 調査区中央部のE4e1区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第39号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.20m, 短軸3.33mの長方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は5～15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部を浅く、壁際に向かっては深く掘りくぼめたところに、ロームブロックを主体とする暗褐色土を埋土して構築されている。北西壁際で焼土塊を6か所確認した。

焼土塊土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

炉 2か所。炉1は、北西部の北西壁寄りに位置している。長径72cm, 短径51cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。炉2は、北西部の炉1の東側に位置している。長径45cm, 短径37cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて硬化しているが、赤変は弱い。炉の新旧関係は、炉2の上面からは、わずかではあるが硬化した床面が確認できたことから、炉2が古く、炉1が新しいと考えられる。

炉1土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------|----------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量 | 3 におい赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

炉2土層解説

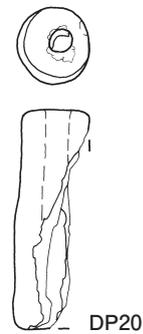
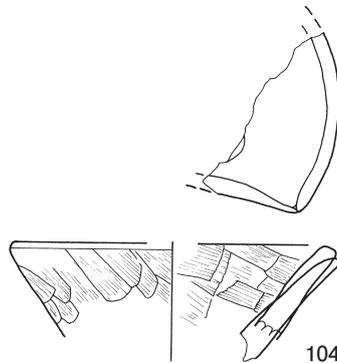
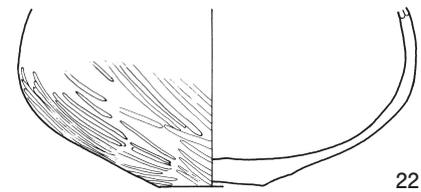
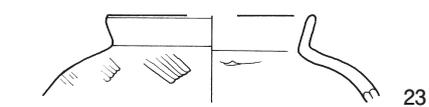
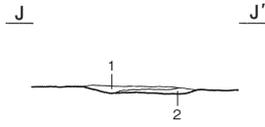
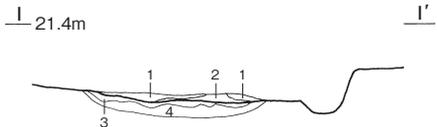
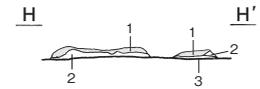
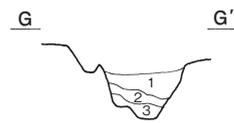
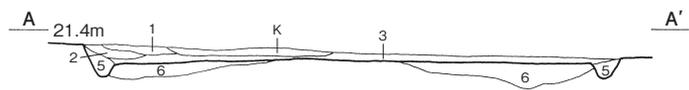
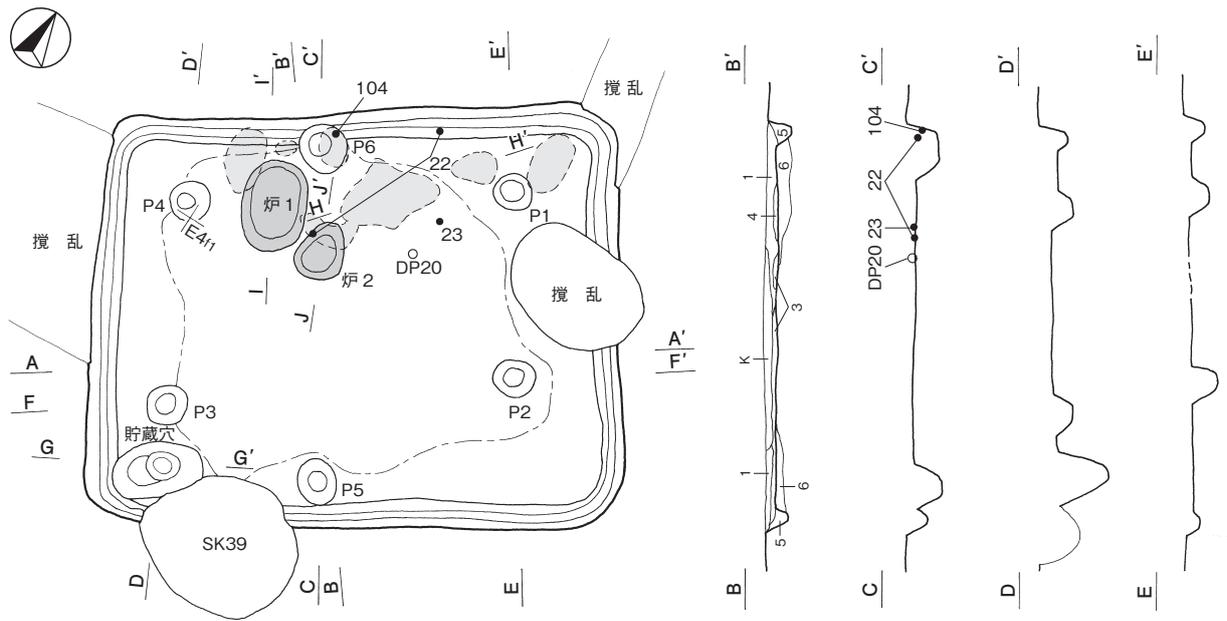
- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物少量, ローム粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量 |
|--------|--------------------------|-------|-----------------------|

ピット 6か所。P1～P4は深さ15～20cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ19cmで、位置や硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。東部が第39号土坑に掘り込まれているため、長径は72cmで、短径は44cmしか確認できなかった。楕円形になると推定でき、深さは44cmである。底面は皿状で、壁は南西部に段をもち、それ以外は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第 48 图 第 7 号竖穴建物跡・出土遺物実測图

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 137 点 (埴 7, 小形壺 2, 台付甕 1, 甕類 126, 炉器台 1), 土製品 1 点 (管状土錘) が出土している。23・DP20 は中央部北寄りの床面からそれぞれ出土している。104 は北西壁際の壁溝から出土している。22 は北西壁際の壁溝と北西部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。本跡の壁際を中心に複数の焼土塊を確認していることから, 焼失住居であると想定できる。

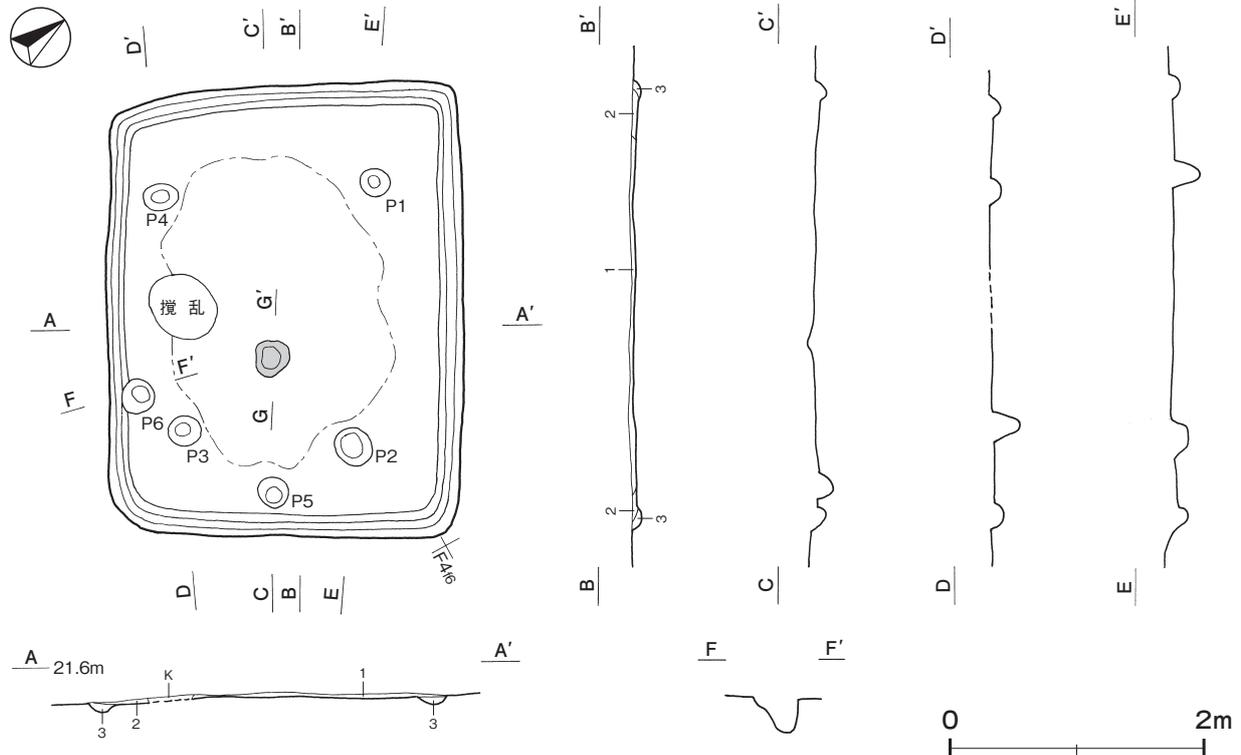
第 7 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	土師器	埴	-	(7.1)	4.0	長石・石英・砂粒	橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	壁溝・床面	50%
23	土師器	小形壺	[7.8]	(3.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	5%
104	土師器	炉器台	[12.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	器受部外面ハケ目調整後ナデ 内面ハケ目調整	壁溝	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	管状土錘	8.6	3.1	0.9	(63.2)	長石・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 欠損	床面	

第 8 号竪穴建物跡 (第 49・50 図)

位置 調査区南部の F 4 f5 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 49 図 第 8 号竪穴建物跡実測図 (1)



第50図 第8号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 長軸 3.59 m, 短軸 2.80 m の長方形で, 主軸方向は N - 61° - W である。壁高は 2 ~ 4 cm である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

炉 中央部南東寄りに位置している。径 28cm の不整形円形で, 床面を 11cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 10 ~ 21cm で, 規模と配置から支柱穴である。P 5 は深さ 13cm で, 位置や硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 27cm で, 性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片 20 点 (埴 5, 器台 1, 甕 14) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀代と考えられる。

第9号竪穴建物跡 (第51図)

位置 調査区南部の F 4 g6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 上面が削平されており, 硬化面や炉跡を確認した。

規模と形状 長軸 3.90 m, 短軸 3.78 m の方形で, 主軸方向は N - 72° - W である。壁高は 2 ~ 8 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 中央部を浅く, 壁際を溝状に深く掘りくぼめたところに, ロームブロックを主体とする黒褐色土や暗褐色土を埋土して構築されている。

炉 北西部に位置している。長径 68cm, 短径 54cm の不整形円形で, 床面を 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
|------------------------------------|--------------------------------|

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 16 ~ 22cm で, 規模と配置から支柱穴である。P 5 は深さ 12cm で, 位置や硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

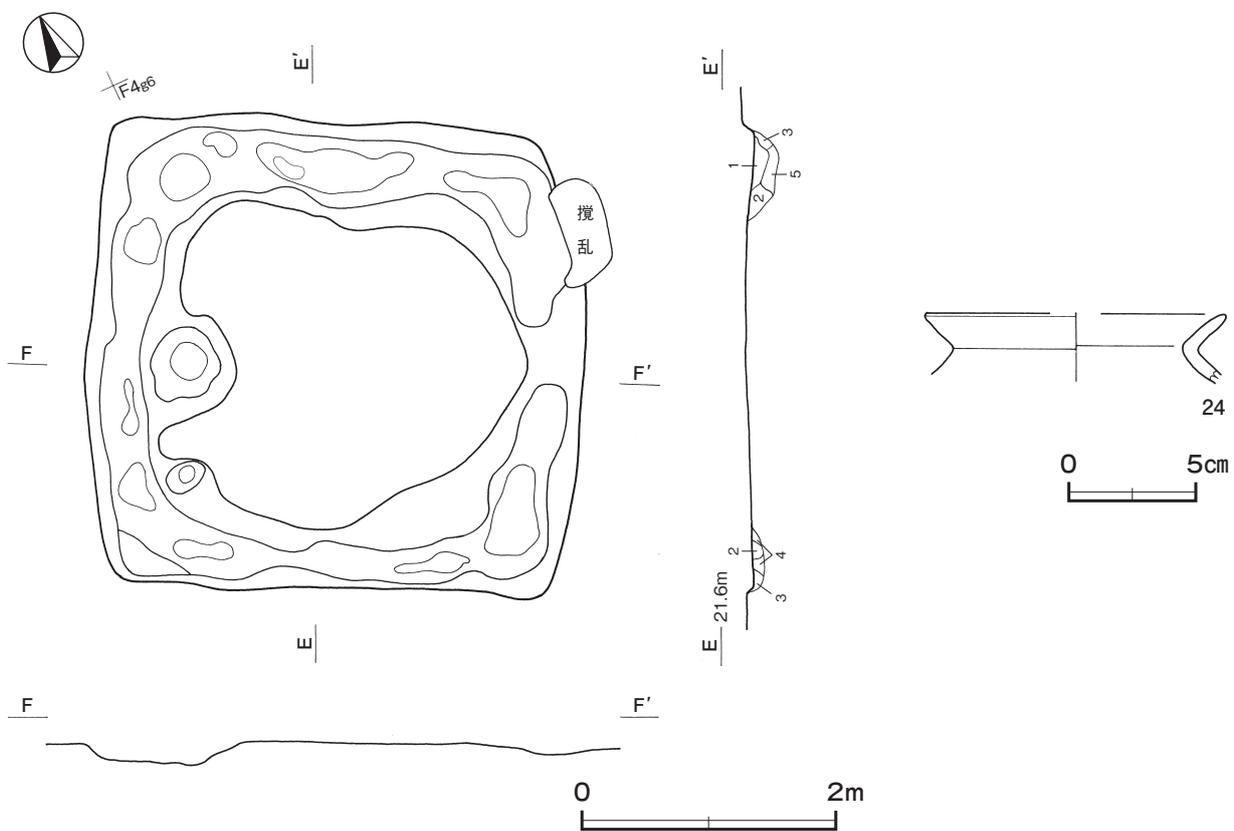
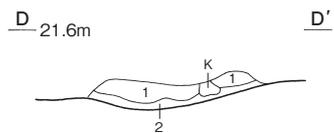
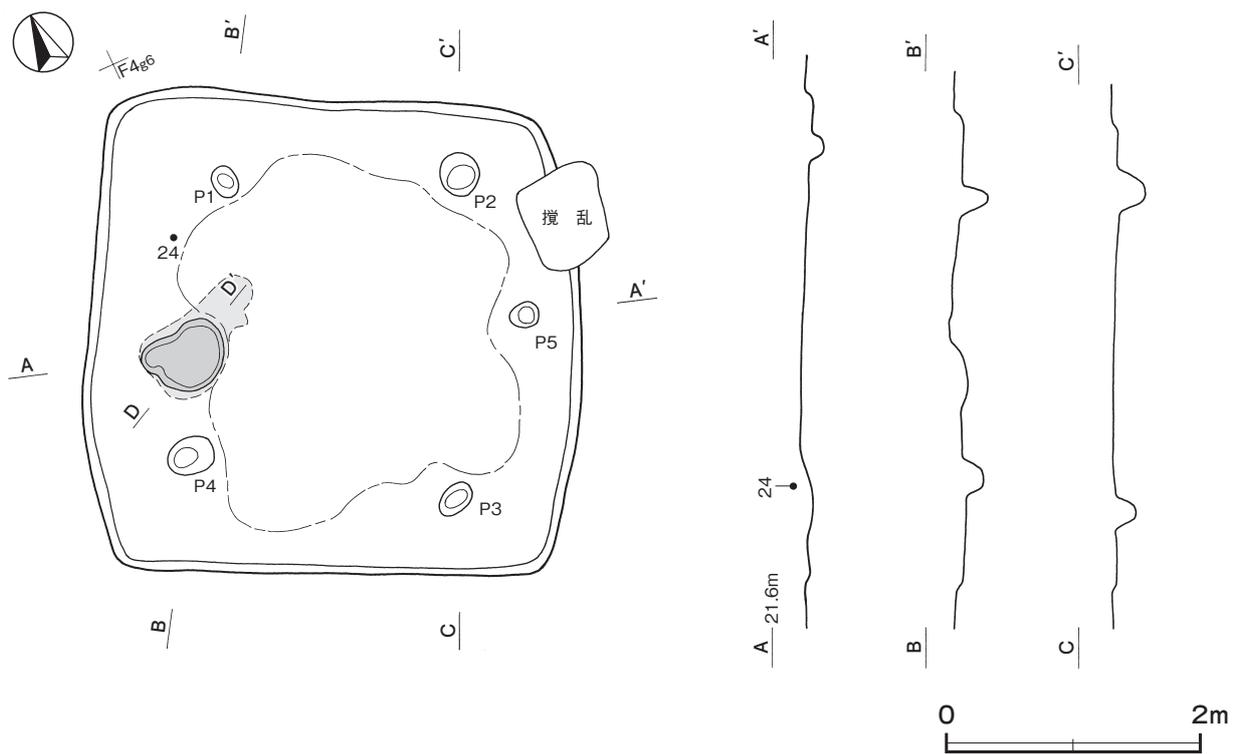
覆土 大変薄く, 堆積状況は不明である。第 1 ~ 5 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量 | |

遺物出土状況 土師器片 78 点 (埴 3, 高坏 2, 甕類 73) が出土している。24 は北部の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀代と考えられる。



第51图 第9号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	土師器	甕	[11.5]	(28)	-	長石・石英・砂粒	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	5%

第10号竪穴建物跡 (第52・53図)

位置 調査区南部のF 4e1区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 大半が調査区域外に延びているため, 東コーナー部のみを確認した。

規模と形状 東コーナー部以外の大部分が調査区域外に延びているため, 北東・南西軸は3.92m, 北西・南東軸は3.41mしか確認できなかった。北西・南東軸方向はN-42°-Wで, 平面形は方形または長方形と推定できる。壁高は13~22cmで, ほぼ直立している。

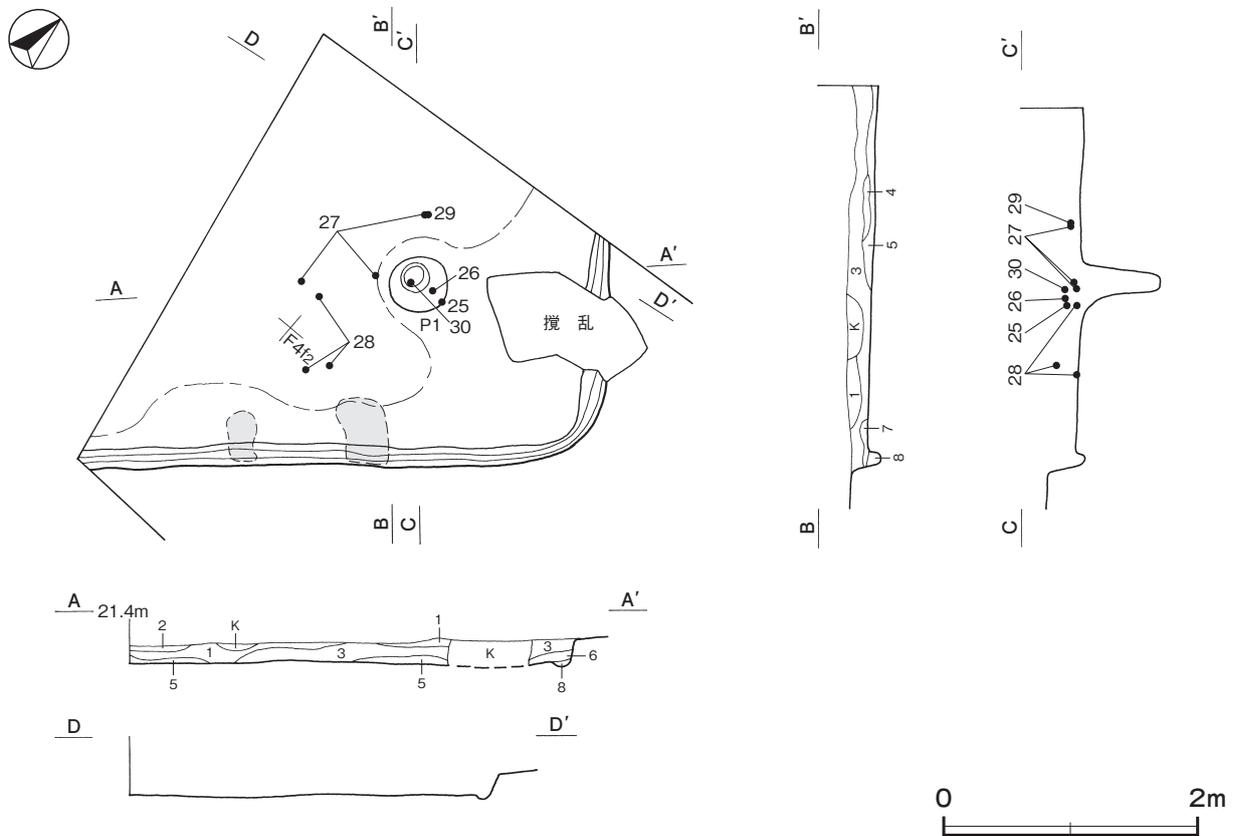
床 平坦で, 壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。壁際を中心に焼土塊2か所を確認した。

ピット P1は深さ65cmで, 規模と位置から支柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

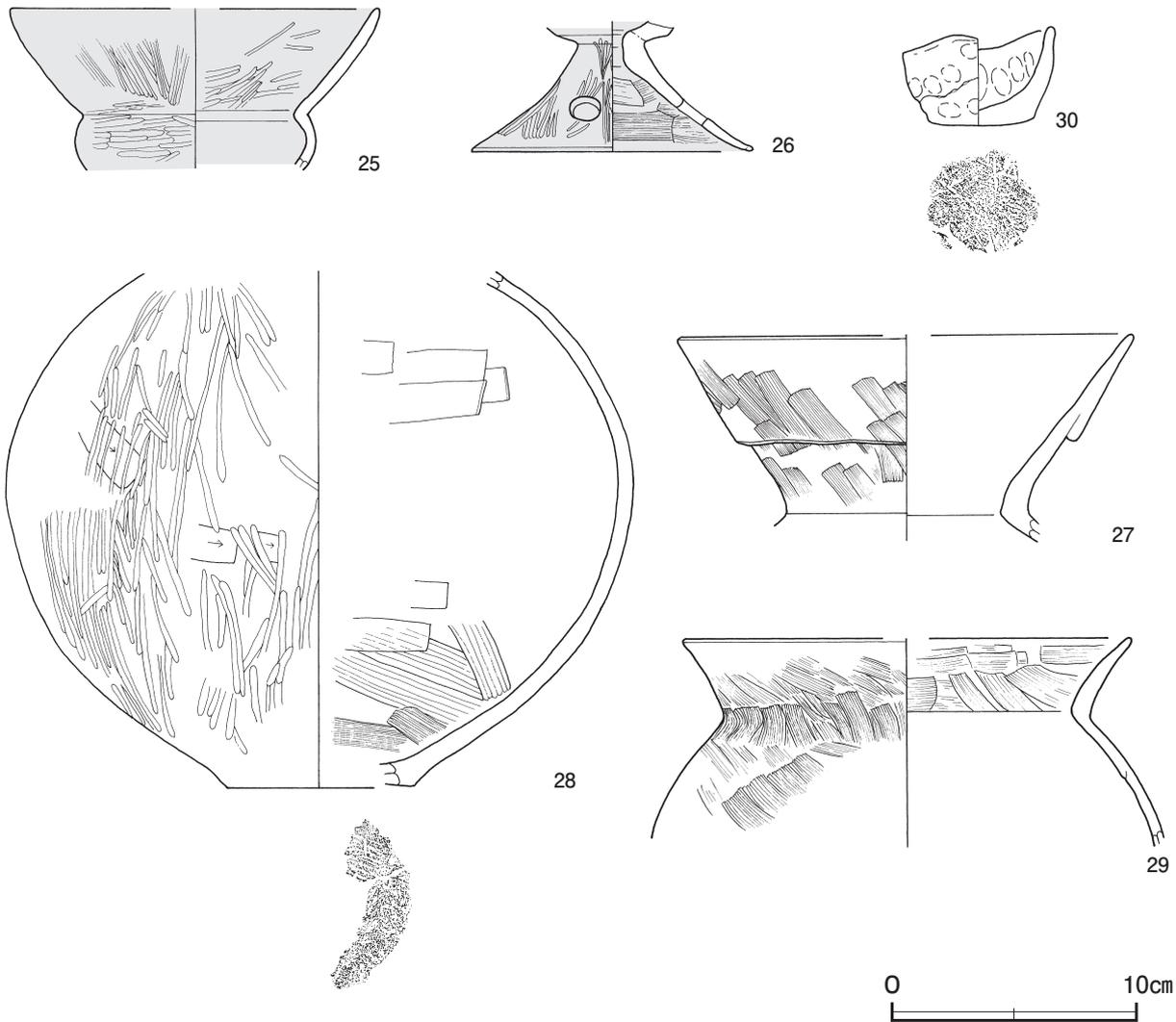
- | | | | |
|-------|------------------------|------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | | |



第52図 第10号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 335 点（埴 31, 器台 3, 壺 1, 甕類 299, 手捏土器 1）が、広い範囲の各層から出土している。29 は東部の床面から出土している。28 は東部の床面から覆土中層, 27 は東部の床面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。25・26・30 はいずれも東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。焼土塊 2 か所を検出していることから、焼失住居の可能性はある。



第 53 図 第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 53 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	土師器	埴	[14.8]	(6.6)	-	長石・石英・細礫	赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ後へラ磨き 体部外面ナデ後へラ磨き 内面ナデ	覆土下層	20% PL22
26	土師器	器台	-	(5.4)	[11.5]	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部外面ナデ後へラ磨き 内面ハケ目調整後ナデ 器受部中央に貫通孔 3窓	覆土下層	20%
27	土師器	壺	[18.2]	(8.6)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ 折り返し口縁	床面	10%
28	土師器	壺	-	(21.2)	[7.5]	長石・石英	橙	普通	体部外面へラ削り後へラ磨き 内面上位へラナデ 下位ハケ目調整後ナデ	床面・覆土中層	30%
29	土師器	甕	[18.3]	(8.6)	-	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	10%
30	土師器	手捏土器	6.0	4.1	4.1	長石・石英・砂粒	にぶい橙	普通	外・内面指頭痕	覆土下層	95% PL27

第 11 号 竪穴建物跡 (第 54 図)

位置 調査区南部の F 4 e6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 12 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部を除いて大半が調査区域外に延びているため, 長軸は 2.35 m, 短軸は 0.80 m しか確認できなかった。壁高は 5 ~ 12cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 明確な硬化面は確認できなかった。

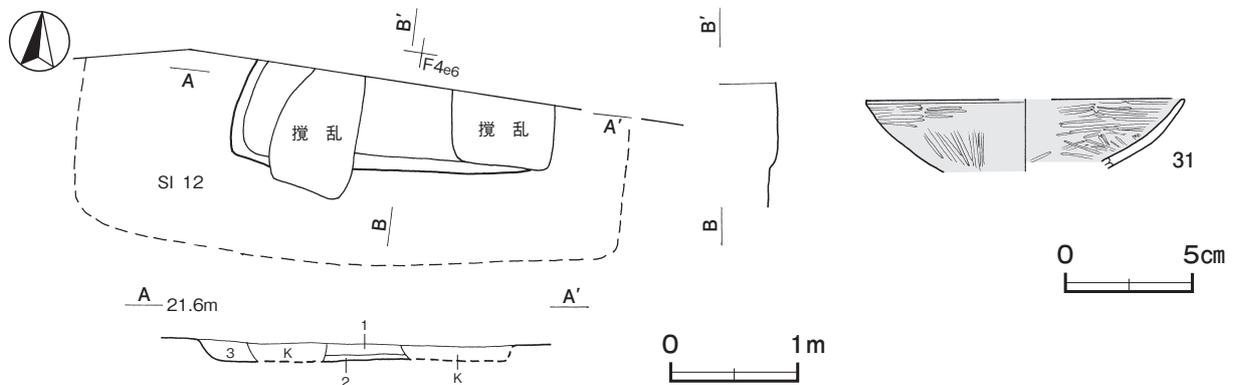
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師器片 4 点 (高坏 2, 甕 2) が出土している。31 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 4 世紀中葉と考えられる。



第 54 図 第 11 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 11 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 54 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	土師器	高坏	[12.4]	(28)	-	長石・石英・ 黒色粒子	浅黄橙	普通	坏部外・内面ナデ後ヘラ磨き	覆土中	10%

第 12 号 竪穴建物跡 (第 55 図)

位置 調査区南部の F 4 e6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 床面まで削平されており, ピット及び土器片を検出したことから建物跡とした。

重複関係 第 11 号 竪穴建物に掘り込まれている。

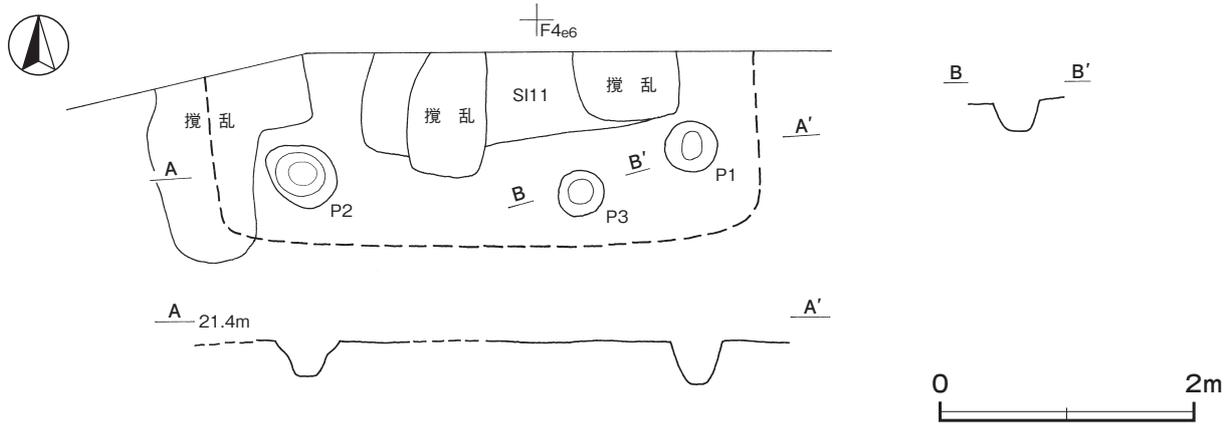
規模と形状 北部が調査区域外へ延び, 壁の立ち上がりが確認できないため, ピットの配置から, 東西軸は 4.3 m ほどで, 南北軸は 1.5 m ほどを確認した。南北軸方向は N - 3° - W で, 平面形は方形もしくは長方形と推定できる。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 36cm・24cm で, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 3 は深さ 21cm で, P 1・P 2 との位置関係から, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片 10 点 (埴 2, 器台 1, 高坏 1, 甕 6) が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から, 第 11 号 竪穴建物より以前の 4 世紀代と考えられる。



第 55 図 第 12 号竪穴建物跡実測図

第 13 号竪穴建物跡 (第 56・57 図)

位置 調査区中央部の E 4 c1 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.16 m, 短軸 4.40 m の長方形で, 主軸方向は N - 36° - W である。壁高は 4 ~ 7 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 北東部を除いて壁際まで踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 確認面から 12 ~ 26cm 掘り込み, ロームブロックを含む第 4 層を埋土して構築されている。

炉 中央部西寄りに位置している。長径 79cm, 短径 48cm の楕円形で, 床面を 16cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化物微量 | |

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 16 ~ 70cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 21cm で, 南東壁際の中央に位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 はいずれも深さ 15 cm で, 補助的な柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。径 53cm の円形で, 深さは 40cm である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

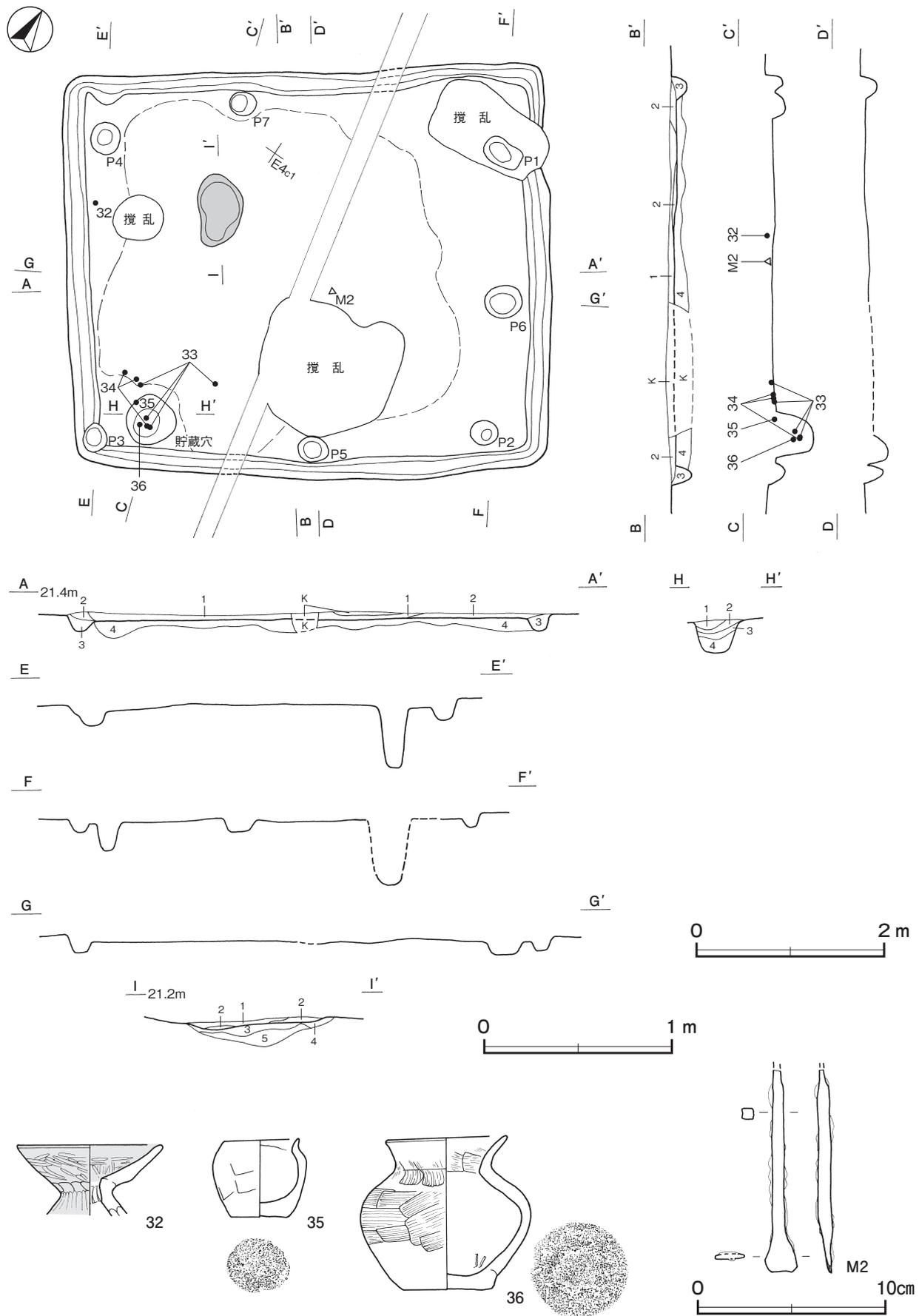
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 4 層は貼床の構築土である。

土層解説

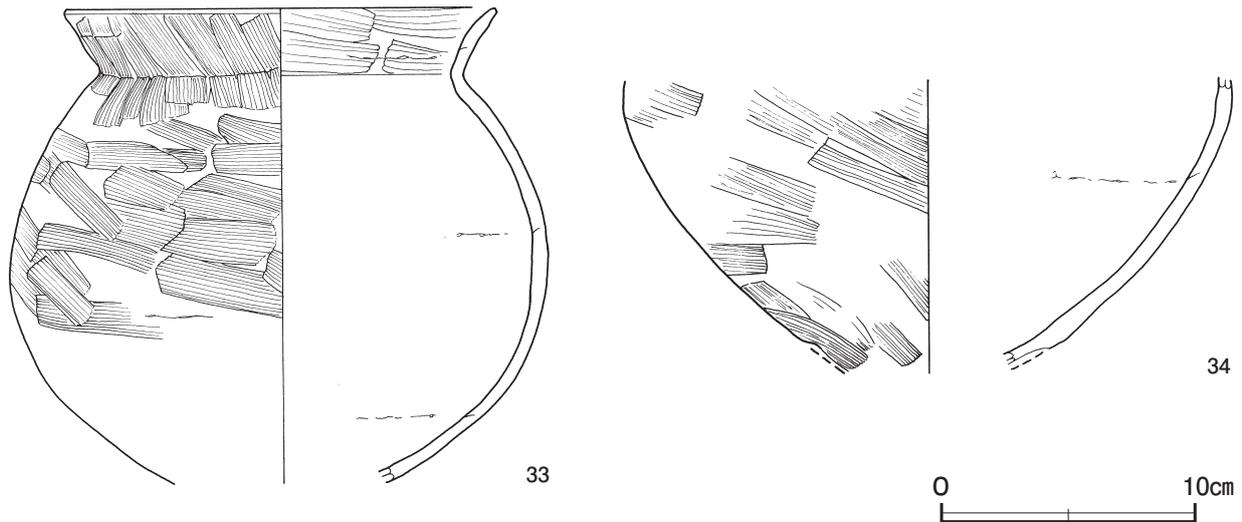
- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 126 点 (埴 15, 器台 5, 壺 1, 甕類 103, ミニチュア土器 2), 鉄器 1 点 (鏝) が出土している。33・34 は貯蔵穴の覆土中層と南部の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。36 は貯蔵穴の覆土中層から出土している。35 は南部, M 2 は中央部の床面からそれぞれ出土している。32 は南西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。



第 56 图 第 13 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 57 図 第 13 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 56・57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土師器	器台	7.6	(3.8)	-	長石・石英・黒色 粒子・赤色粒子	浅黄橙	普通	器受部外・内面ヘラ磨き 内面ナデ 脚部外面ヘラ磨き 器受部中央に貫通孔	覆土下層	25%
33	土師器	甕	16.7	(18.8)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整 目調整後ナデ 体部外面上半ハケ 目調整後ナデ 外面下半・内面ナデ	貯蔵穴中層 ・床面	70% PL26
34	土師器	甕	-	(11.5)	-	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	貯蔵穴中層 ・床面	30%
35	土師器	ミニチュア 土器	3.9	4.2	3.2	長石・石英・ 赤色粒子	黄橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面ナデ	床面	100% PL27
36	土師器	ミニチュア 土器	6.2	8.3	4.9	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 目調整 内面ヘラナデ 体部外面ハ ケ目調整	貯蔵穴中層	100% PL28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鑿	(10.9)	1.7	0.6	(29.2)	鉄	一部欠損	床面	PL34

第 17 号竪穴建物跡 (第 58 図)

位置 調査区中央部の D 3j0 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 床面まで削平されており, 壁の一部で若干の立ち上がりや炉, ピット及び硬化面を確認した。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 244 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が削平されているため, 北東・南西軸は 3.31 m で, 北西・南東軸は 2.30 m しか確認できなかった。方形または長方形と推定できる。主軸方向は N - 60° - E である。壁高は 3 cm を確認した。

床 平坦な貼床で, 壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 確認面から 5 ~ 8 cm 掘り込み, ローム粒子を含む第 1 層を埋土して構築されている。

炉 東部南寄りに位置している。長径 52 cm, 短径 44 cm の楕円形で, 床面を 10 cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 12 ~ 15 cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 4 は深さ 14 cm で, 位置や硬化面の広がりから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5 は深さ 16 cm で, 性格不明である。

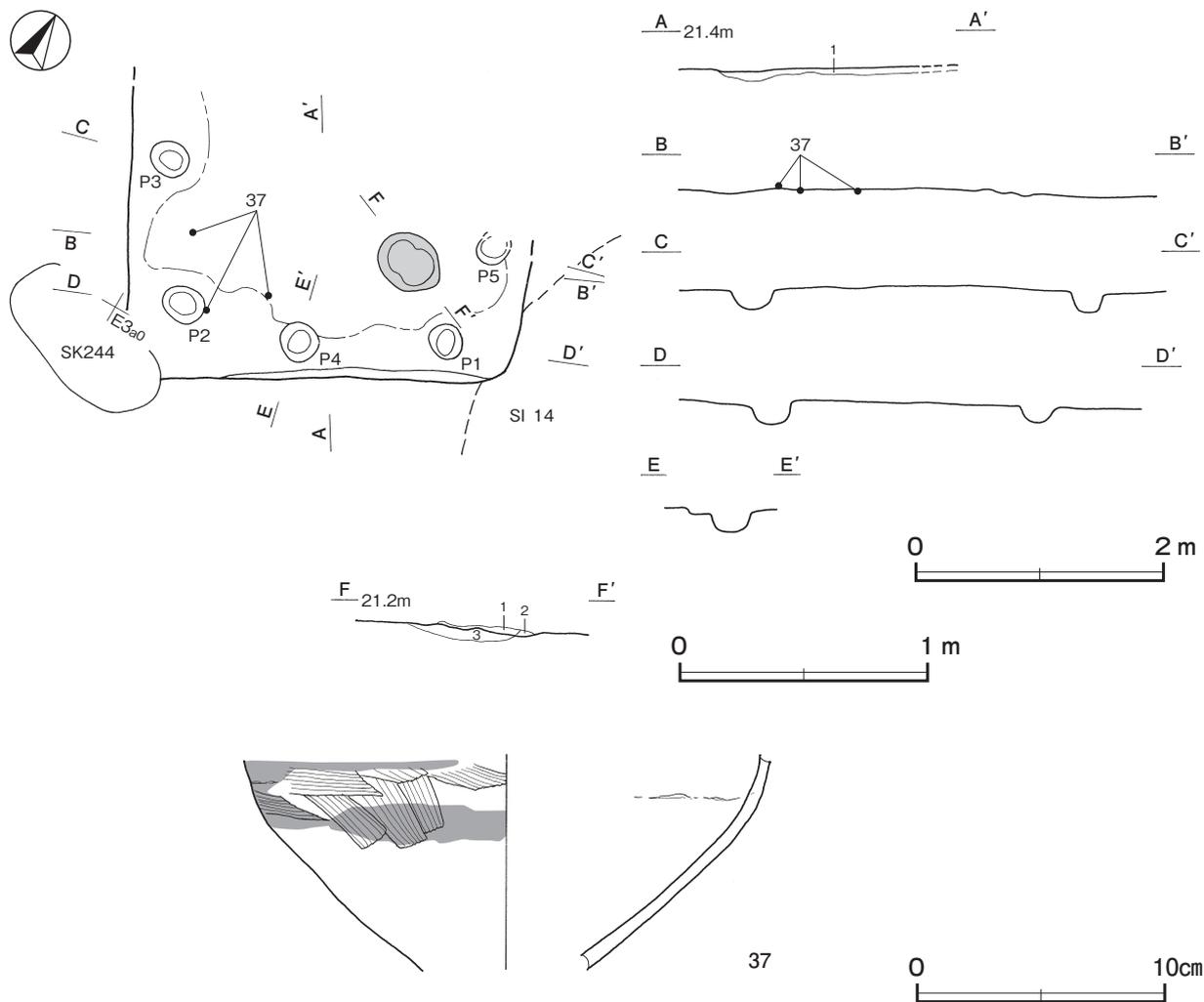
覆土 覆土は確認できなかった。第 1 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 8 点（台付甕_カ 1, 甕₇）が出土している。37 は南部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器や遺構の形状から 4 世紀代と考えられる。



第 58 図 第 17 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 58 図）

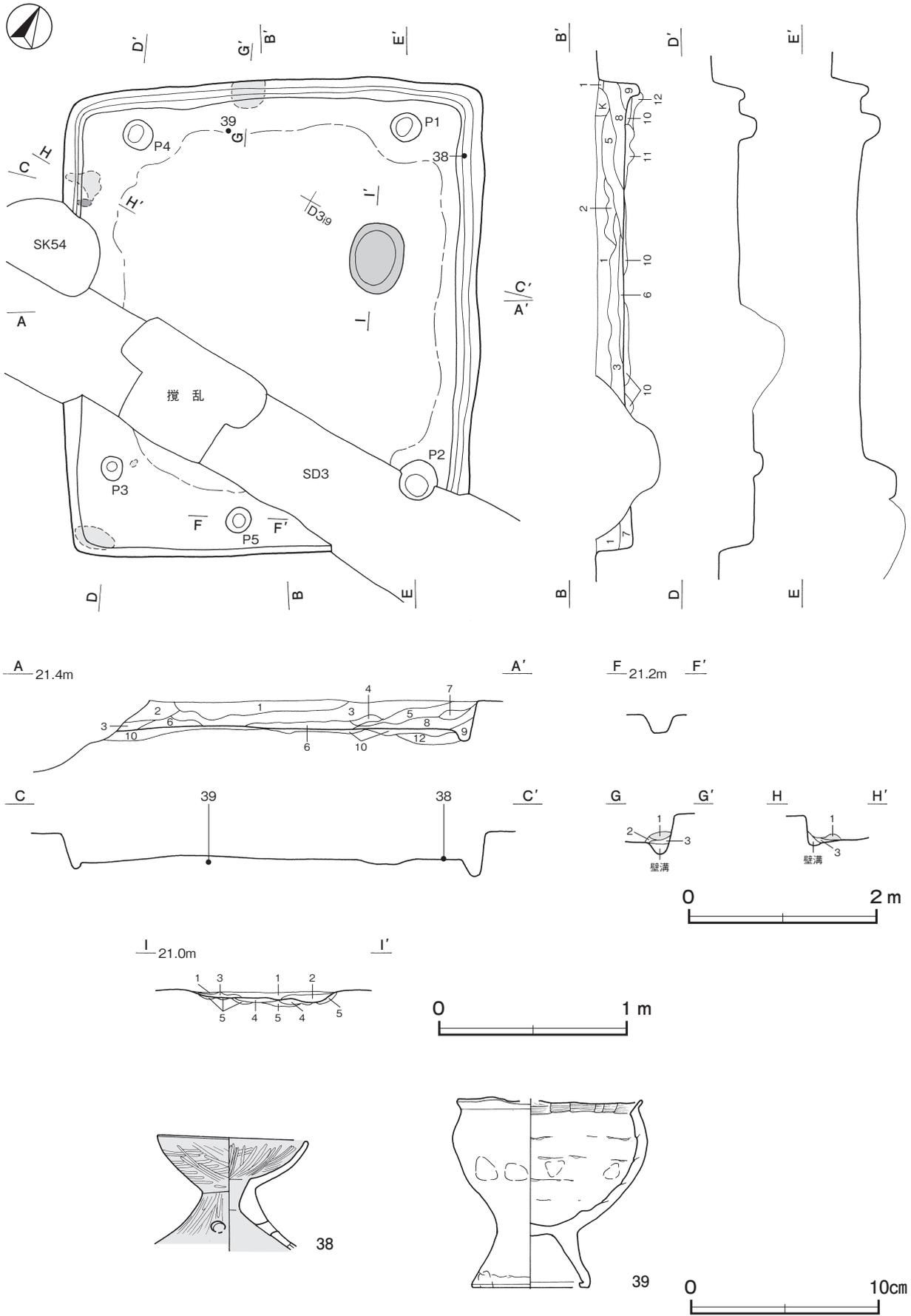
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	土師器	台付甕 _カ	-	(8.7)	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	橙	普通	体部外面中位ハケ目調整後ナデ 下面ナデ 下位ナデ 内	床面	30%

第 20 号竪穴建物跡（第 59 図）

位置 調査区中央部の D 3i9 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 54 号土坑, 第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.10 m, 短軸 4.48 m の長方形で, 主軸方向は N - 29° - W である。壁高は 25 ~ 36 cm で, ほぼ直立している。



第 59 图 第 20 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、壁際まで踏み固められている。貼床は、中央部を浅く、壁際に向かってはやや深く掘りくぼめたところに、ロームブロックを主体とする明褐色土・暗褐色土を埋土して構築されている。西コーナー部の壁下から、北西壁・北東壁にかけての壁下には、壁溝が巡っている。北西壁、南西壁から南コーナー部にかけての覆土下層から焼土塊4か所を確認した。

焼土塊土層解説 (G, H共通)

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

炉 中央部北東寄りに位置している。長径77cm, 短径58cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 におい赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ10～35cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ17cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第10～12層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量
- 9 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 10 明褐色 ロームブロック多量
- 11 明褐色 ロームブロック中量
- 12 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片41点(埴8, 器台1, 高坏1, 甕29, ミニチュア台付甕1, 炉器台1)が出土している。39は北西壁際の床面から、38は北コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉に比定できる。壁際を中心に複数の焼土塊が確認されていることから、焼失住居の可能性がある。

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
38	土師器	器台	7.8	(6.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	器受部外・内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ 器受部中央に貫通孔 脚部円孔4か所	覆土下層	60% PL24
39	土師器	ミニチュア台付甕	[9.7]	10.2	6.2	長石・石英・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目調整 体部・脚部外・内面ナデ 指頭痕	床面	90% PL26

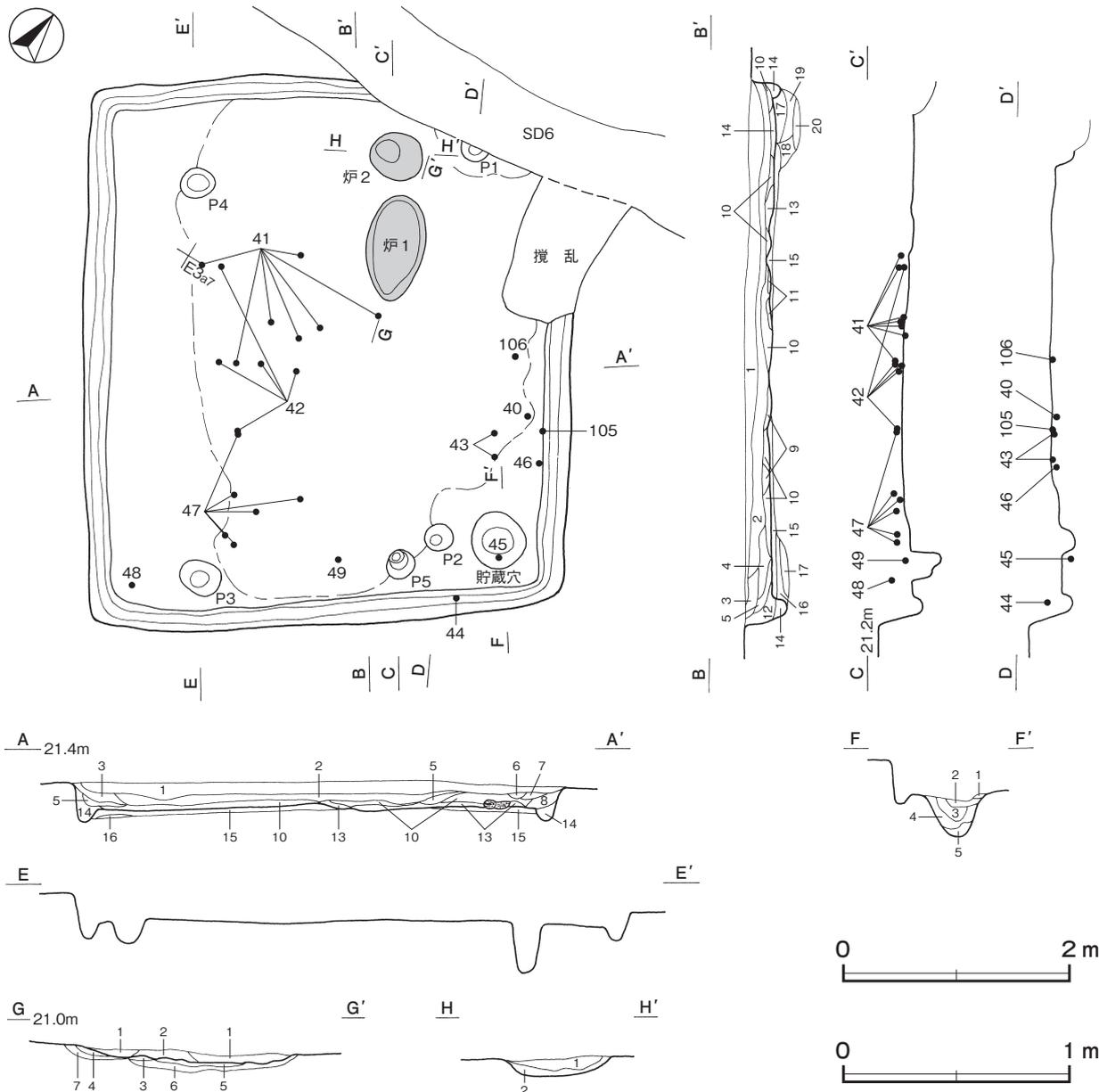
第21号竪穴建物跡 (第60～63図)

位置 調査区中央部のE3a7区, 標高21mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.94m, 短軸4.30mの長方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は16～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、南西部を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部を浅く、南北の壁際を溝状に深く掘りくぼめたところに、ロームブロックを主体とする褐色土を埋土して構築されている。壁際を中心とした広い範囲で焼土塊を確認した。



第60図 第21号竪穴建物跡実測図(1)

焼土塊土層解説 (I~L共通)

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量 | 4 極暗赤褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, ローム粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化物少量 | 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |

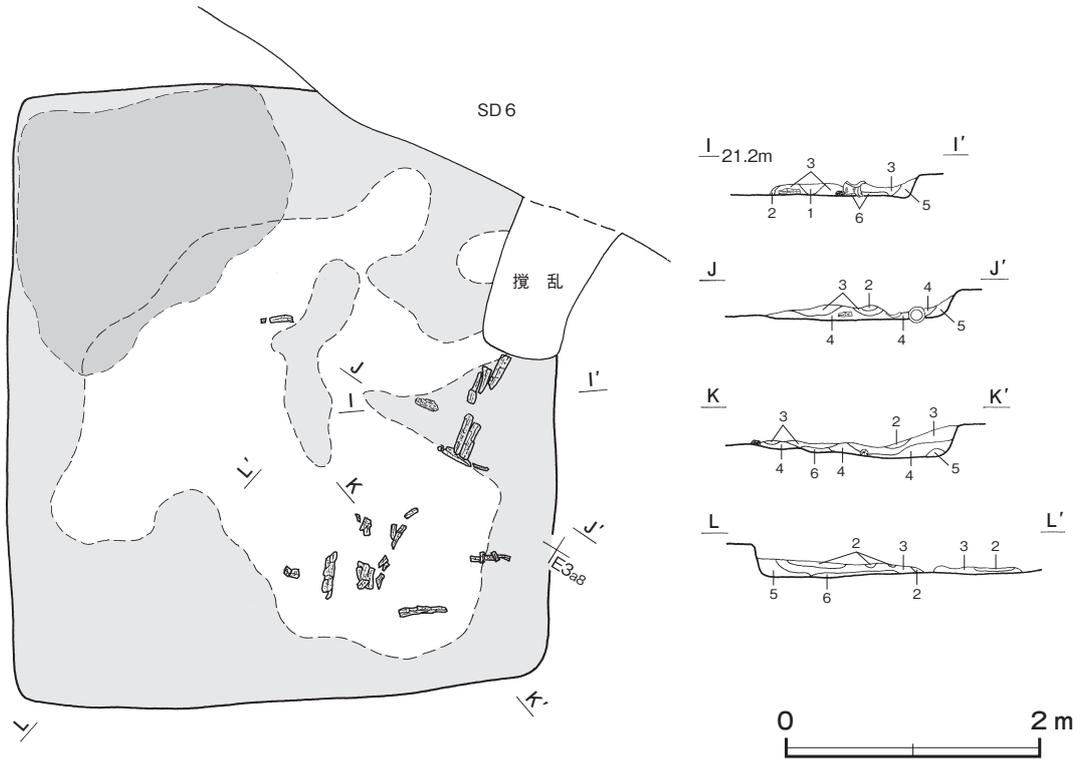
炉 2か所。炉1は中央部やや北寄りに位置している。長径97cm, 短径52cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉2は北西壁寄りに位置している。長径44cm, 短径42cmの円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変し、強く硬化している。炉の新旧関係は、炉2の炉床面が固く締まっていることから、炉2が古く、炉1が新しい。

炉1土層解説

- | |
|---------------------------|
| 1 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |

炉2土層解説

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
|------------------------|----------------------------|



第 61 図 第 21 号竪穴建物跡実測図 (2)

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 14～46cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5は深さ 25cmで、位置や硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。径 50cmほどの円形で、深さは 40cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子中量 | 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 2 褐色 | 炭化粒子多量, 焼土ブロック少量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | | |

覆土 14層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 15～20層は貼床の構築土である。

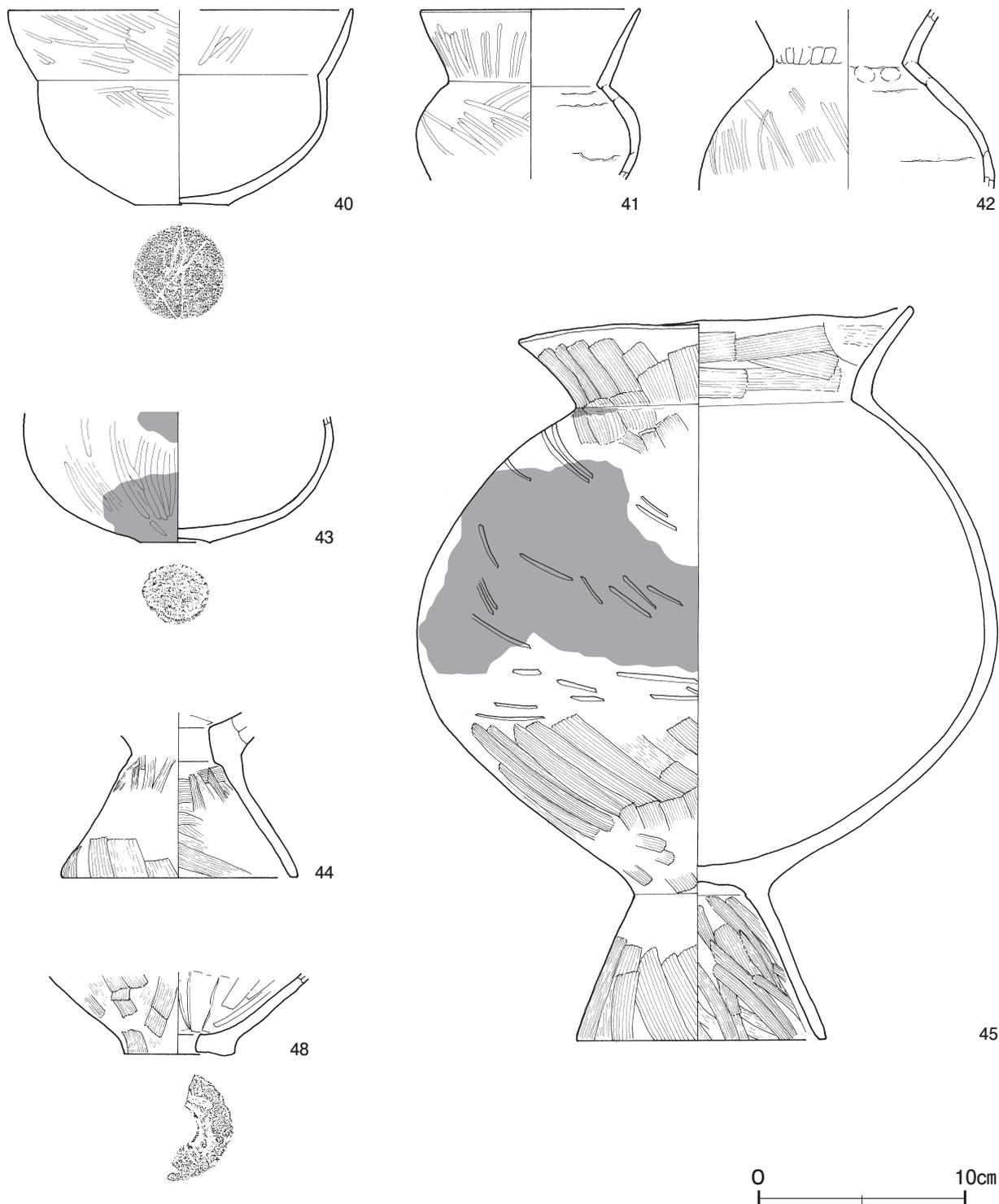
土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土ブロック微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | 炭化物中量, ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化材中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量, ロームブロック少量 | 15 褐色 | ローム粒子多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 16 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 17 褐色 | ロームブロック多量 |
| 8 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック中量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 | 19 褐色 | ローム粒子中量 |
| 10 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化物少量 | 20 暗褐色 | ロームブロック少量 |

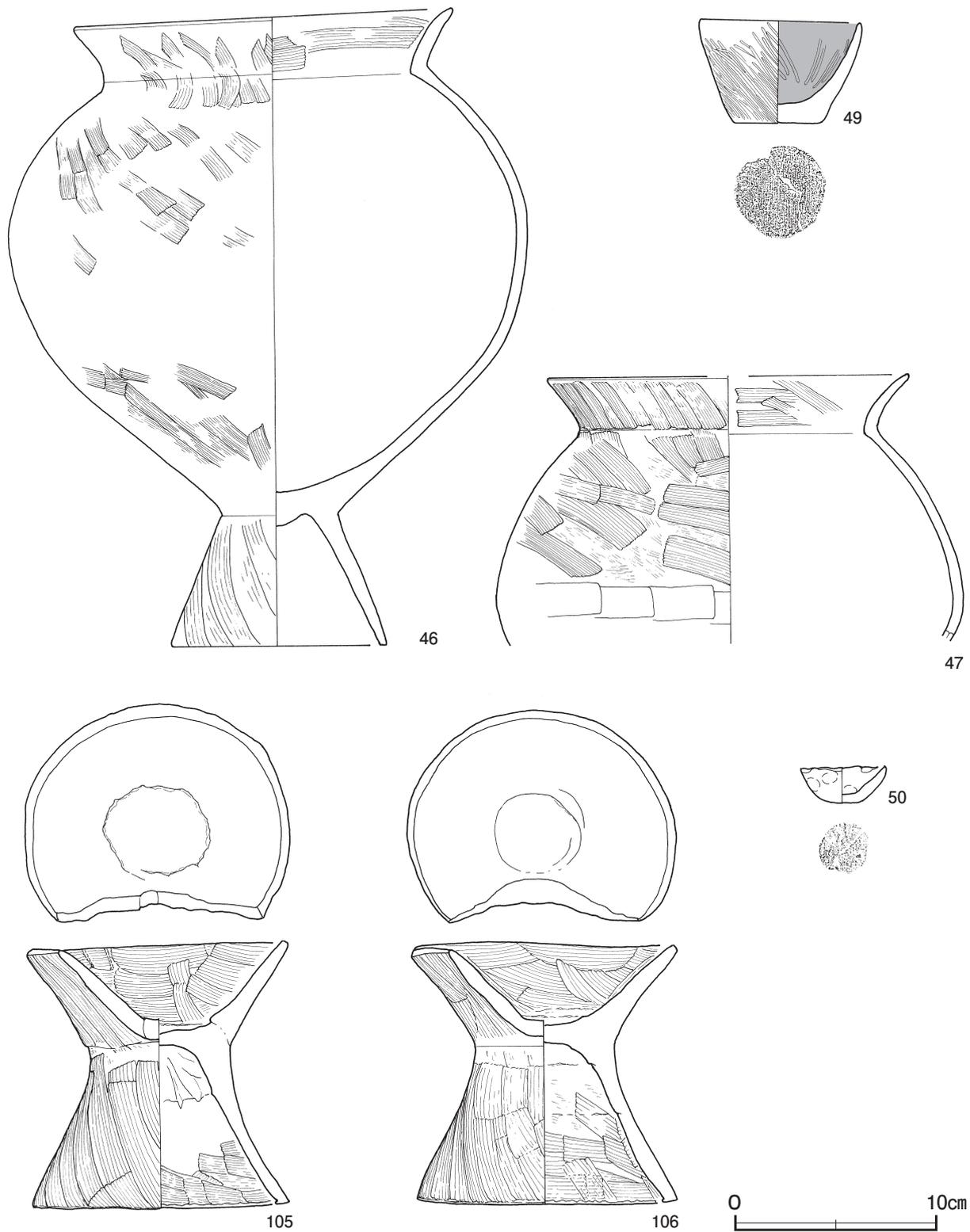
遺物出土状況 土器器片 630点 (椀 14, 埴 58, 器台 2, 高坏 1, 壺 58, 甕類 412, 小形甕 8, 台付甕 70, 甌 1, ミニチュア土器 2, 手捏土器 2, 炉器台 2), 炭化材 29点 (不明), 炭化植物 3,767点 (野蒜) が, 広い範囲の各層から出土している。49は南東壁際, 40・46・105・106は北東壁際のそれぞれ床面から出土している。43は北東壁際の床面から出土した破片が接合したものである。45は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

41・42はいずれも中央部から西部の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。47は南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。44は東部、48は南コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。野蒜は西コーナー部床面の東西2.0m、南北2.6mの範囲を中心に出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。41・42・47は広範囲に散在していた破片が接合しており、廃絶に際して行われた祭祀的行為に関わる可能性がある。また、壁際を中心に複数の焼土塊を確認しており、床面直上からも焼土塊や炭化材が多く出土している。このことから、本跡は焼失住居であると考えられる。



第62図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 63 図 第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 62・63 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
40	土師器	埴	[16.5]	9.5	4.4	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ヘラ磨き 内面摩滅	体部外面ヘラ磨き	床面	70% PL22
41	土師器	埴	10.5	(8.3)	-	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ヘラ磨き 磨き 内面ナデ	内面ナデ 体部外面ヘラ	床面・ 覆土下層	40% PL22

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
42	土師器	埴	-	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ 指頭痕	床面・覆土下層	60%
43	土師器	埴	-	(6.3)	3.0	長石・石英・砂粒	橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	床面	20%
44	土師器	器台	-	(8.0)	[11.4]	長石・赤色粒子	明黄褐	普通	器受部内面ヘラナデ 脚部外・内面ハケ目調整 後ナデ 器受部中央に貫通孔	覆土中層	10%
45	土師器	台付甕	19.0	35.9	12.3	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 体部外面上・ 下位ハケ目調整後ナデ 中位ヘラナデ 内面ナ デ 台部外・内面ハケ目調整後ナデ	貯蔵穴上層	80% PL25
46	土師器	台付甕	18.6	32.0	10.6	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 体部外面 ハケ目調整後ナデ 内面ナデ 台部外面ハケ目 調整後ナデ 内面ナデ	床面	80% PL25
47	土師器	甕	[17.7]	(13.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ 体部外面 上位ハケ目調整後ナデ 中位ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	覆土下層	20%
48	土師器	甌	-	(4.0)	[5.2]	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	5%
49	土師器	ミニチュア 土器	7.8	5.3	4.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ後ヘラ磨き 体部外面ナ デ後ヘラ磨き	床面	60% PL28
50	土師器	手捏土器	4.1	1.9	2.2	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ 指頭痕	覆土中	95% PL27
105	土師器	炉器台	12.4	13.3	12.7	長石・石英・雲母・ 黒色粒子・細礫	橙	普通	器受部外・内面ハケ目調整 脚部外・内面ハケ 目調整後ナデ	床面	100% PL30
106	土師器	炉器台	12.7	13.1	12.9	長石・石英・赤 色粒子・細礫	橙	普通	器受部外面ハケ目調整後ナデ 内面ハケ目調整 脚部外面ハケ目調整後ナデ 内面ハケ目調整	床面	100% PL30

第 22 号 竪穴建物跡 (第 64・65 図)

位置 調査区中央部の E 3e8 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.00 m, 短軸 4.48 m の長方形で, 主軸方向は N - 10° - W である。壁高は 25 ~ 27 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 北部を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は, 確認面から 36 ~ 52 cm 掘り込み, ロームブロックを含む第 7 ~ 9 層を埋土して構築されている。北壁・東壁・南壁の際から焼土塊 7 か所を確認した。東部の壁際から粘土塊 1 か所を確認した。

焼土塊・粘土塊土層解説 (E・F 共通)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 灰白色 炭化粒子中量, 粘土ブロック少量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 2 黄褐色 炭化粒子中量, 粘土ブロック少量 | 5 赤褐色 焼土ブロック多量 |
| 3 褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 焼土ブロック中量 |

炉 中央部やや東寄りに位置している。長径 85 cm, 短径 49 cm の楕円形で, 床面を 9 cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子微量 | 3 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 赤褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |

ピット 7 か所。P 1 ~ P 5 は深さ 7 ~ 20 cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 6 は深さ 11 cm で, 南壁際の際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7 は深さ 12 cm で, 性格不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径 84 cm, 短径 73 cm の楕円形で, 深さは 25 cm である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量 | |

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 7 ~ 9 層は貼床の構築土である。

土層解説

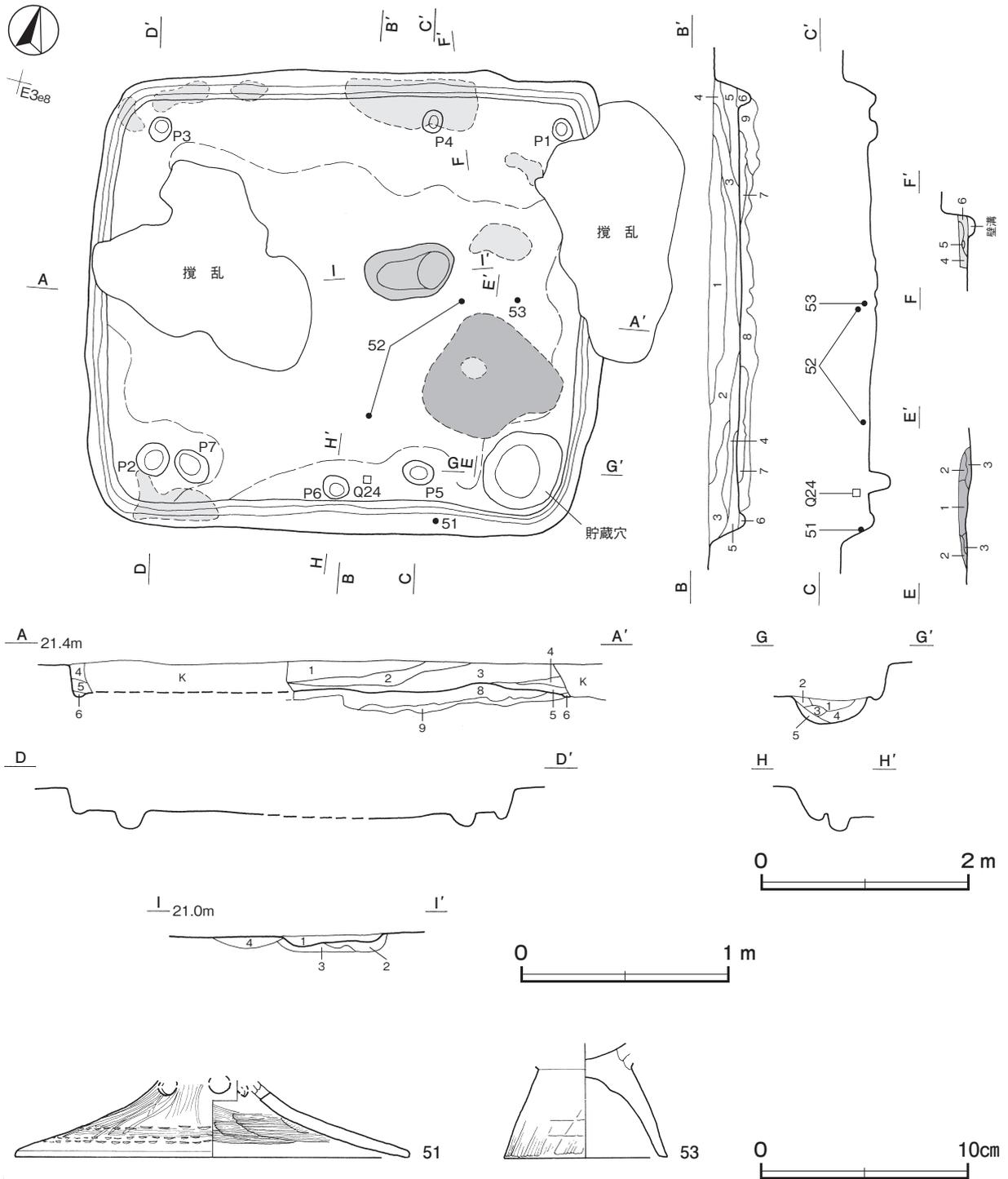
- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |

- 5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

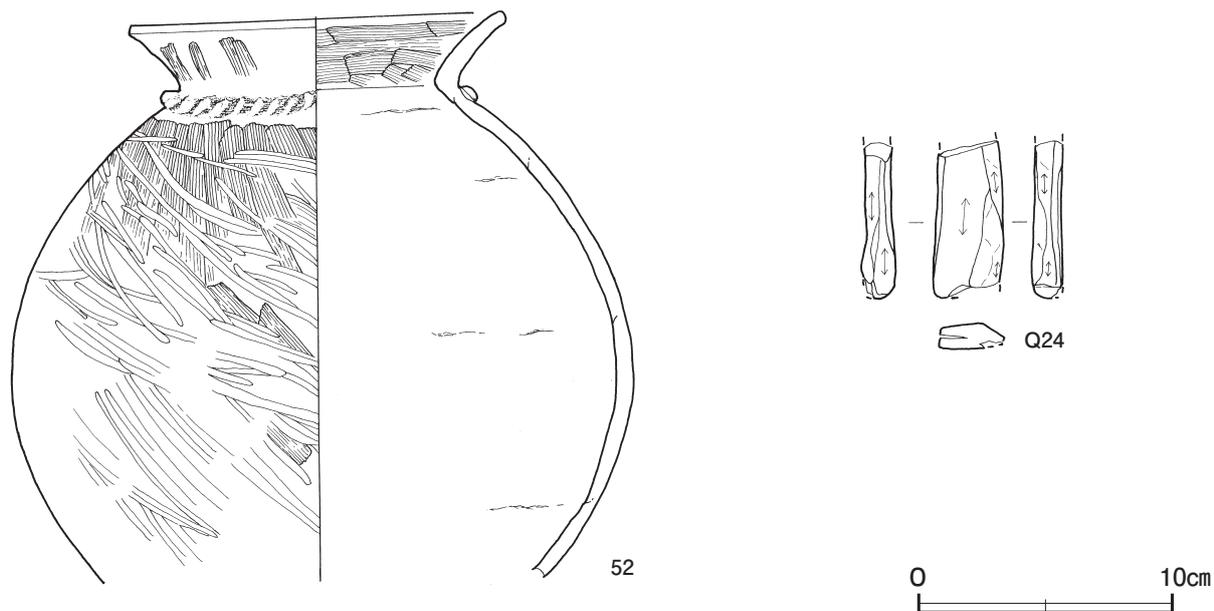
- 8 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 9 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 50 点 (埴 6, 器台 1, 台付甕 1, 甕類 42), 石器 3 点 (砥石), 鉄製品 1 点 (不明) が出土している。51 は南東部の南壁際, 52・53 は東部のそれぞれ覆土下層から出土している。Q 24 は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。壁際を中心に焼土塊を複数確認していることから, 焼失住居の可能性はある。



第 64 図 第 22 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 65 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 64・65 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
51	土師器	器台	-	(3.7)	[19.0]	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙	普通	裾部外面ヘラ磨き後ナデ 爪形文 内面ハケ目調整後横ナデ 脚部内孔5か所	覆土下層	25% PL24
52	土師器	壺	14.6	(22.4)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後横ナデ 体部外面ハケ目調整後ヘラ磨き 内面ナデ 頸部にキザミをもつ隆帯貼付	覆土下層	50% PL23
53	土師器	台付甕	-	(5.5)	7.8	長石・石英	黄橙	普通	脚部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 24	砥石	(6.2)	2.8	1.4	(25.4)	凝灰岩	砥面3面 他2面は破断面	覆土中層	PL31

第 23 号竪穴建物跡 (第 66 ~ 69 図)

位置 調査区中央部の E 3 e6 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部を第 4 号溝に掘り込まれ, 西部が調査区域外に延びているため, 長軸は 8.64 m で, 短軸は 7.47 m しか確認できなかった。方形または長方形と推定できる。主軸方向は N - 18° - W である。壁高は 31 ~ 36cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 壁際まで踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。南壁と直交する幅 32 ~ 48cm, 深さ 20 ~ 22cm で, 断面が逆台形の間仕切り溝 1 条を確認したが, 南部の中央が第 4 号溝に掘り込まれているため, 確認できた長さは 123cm である。また床面の広い範囲から焼土を検出した。貼床は, 確認面から 42 ~ 52cm ほど掘りくぼめているが, 北壁際から東壁際の一部にかけては, 土坑状に掘りくぼめている。床下土坑 1 の規模は, 西端が調査区域外に延びているため, 長さは 3.73 m しか確認できなかった。幅は 88 ~ 99cm, 深さ 68cm である。床下土坑 2 の規模は, 長さ 3.44 m, 幅 47 ~ 82cm, 深さ 28cm である。

炉 3 か所。炉 1 は中央部北寄りに位置している。長径 157cm, 短径 113cm の楕円形で, 床面を 21cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉 2 は南西部に位置している。長径 93cm, 短径 28cm の不定形で, 床面を 7cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉3は中央部南寄りに位置している。長径66cm、短径50cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変しており、硬化は弱い。炉1～炉3の新旧関係は不明で、同時に使用されていた可能性もある。

炉1土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | 炭化粒子多量、焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック少量 | 6 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量 | 7 赤褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子少量 |
| 4 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子中量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |

炉2土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量 | 4 褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量 | 5 褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

炉3土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-----------------|
| 1 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 | | |

ピット 6か所。P1～P3は深さ70～87cmで、規模と配置から支柱穴である。P4は深さ70cmで、位置や硬化面の広がりから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5・P6は深さ28cm・24cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径76cm、短径68cmの楕円形で、深さは67cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

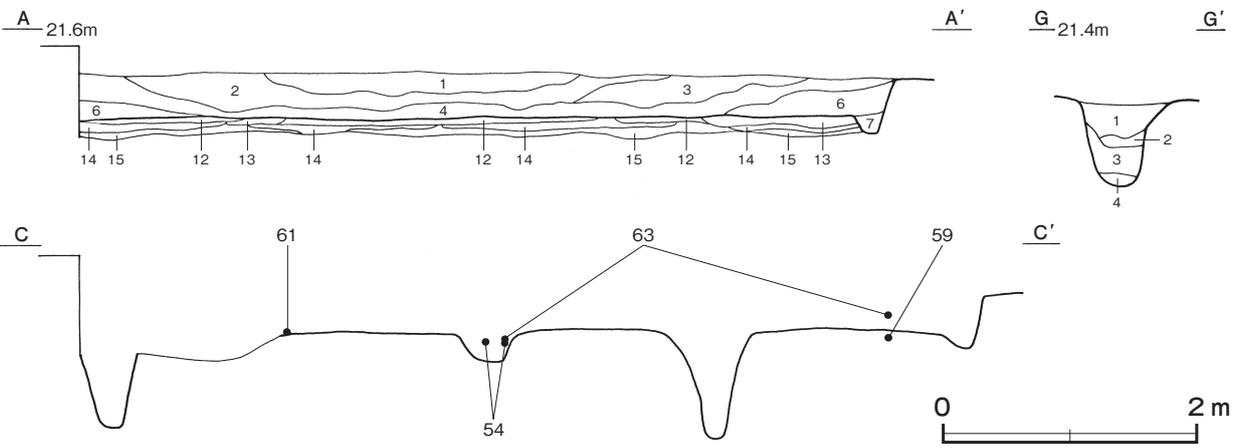
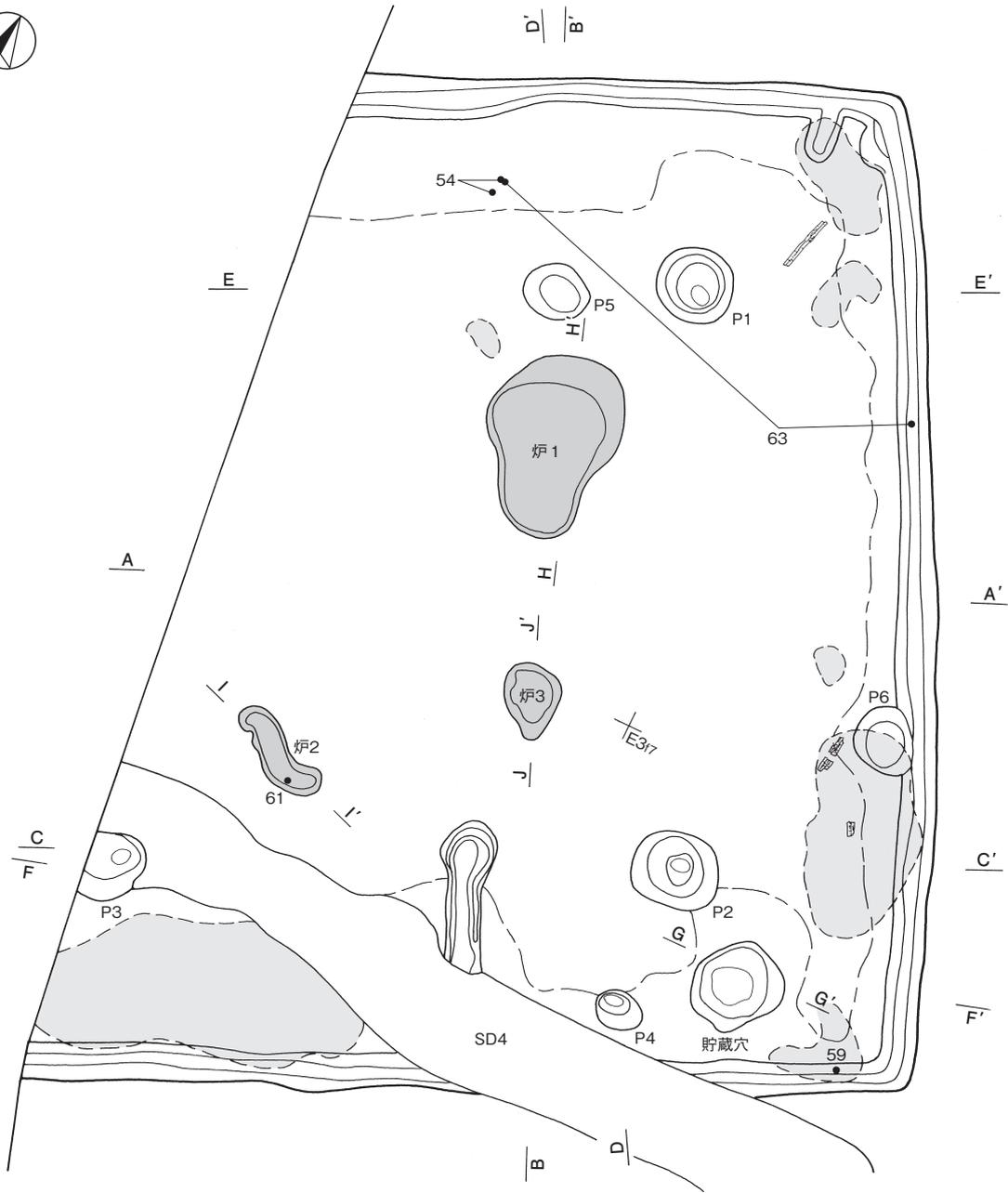
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第8～15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 13 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | 14 褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 7 褐色 | 炭化粒子少量 | 15 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 8 褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片763点（椀1、埴39、器台12、高坏12、小形壺6、甕類641、小形甕35、台付甕3、ミニチュア土器12、手捏土器2）のほか、剥片2点が、広い範囲の各層から出土している。57は床下土坑1の覆土中層から出土した破片が接合したものである。56は床下土坑1の覆土中層から、62・M3は床下土坑1、55は床下土坑2のそれぞれ覆土上層から出土している。58・60は床下土坑1の覆土上層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。59は南東コーナー部の壁溝から、61は南西部の炉2の覆土下層からそれぞれ出土している。54は北部の床面から、63は北部の床面と東壁際の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

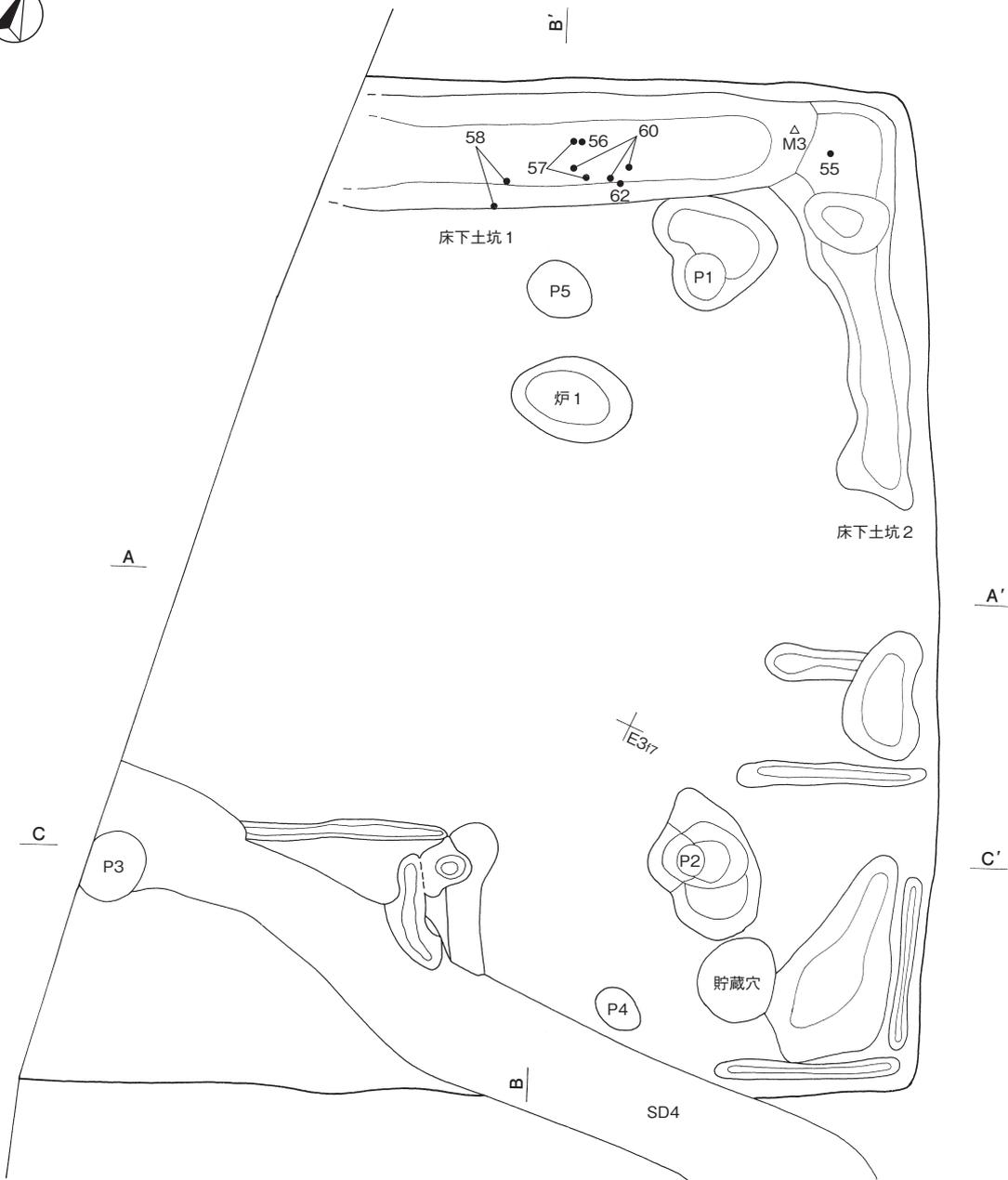
所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。54・63は広範囲に散在していた破片が接合しており、廃絶に際して行われた祭祀的行為に関わるものと考えられる。また、床面に焼土が点在していることから、本跡は焼失住居であると想定できる。



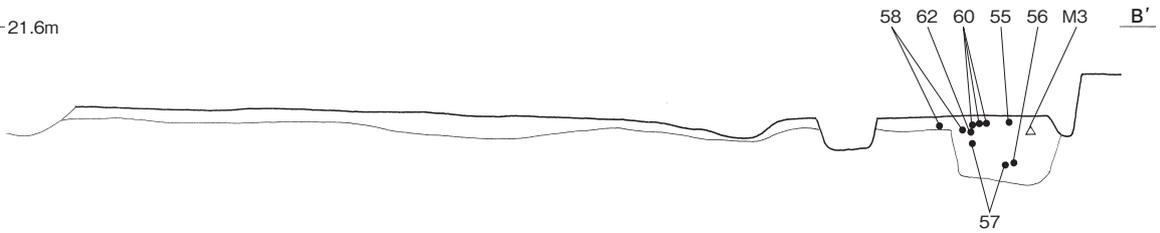
第66图 第23号竖穴建物迹实测图(1)



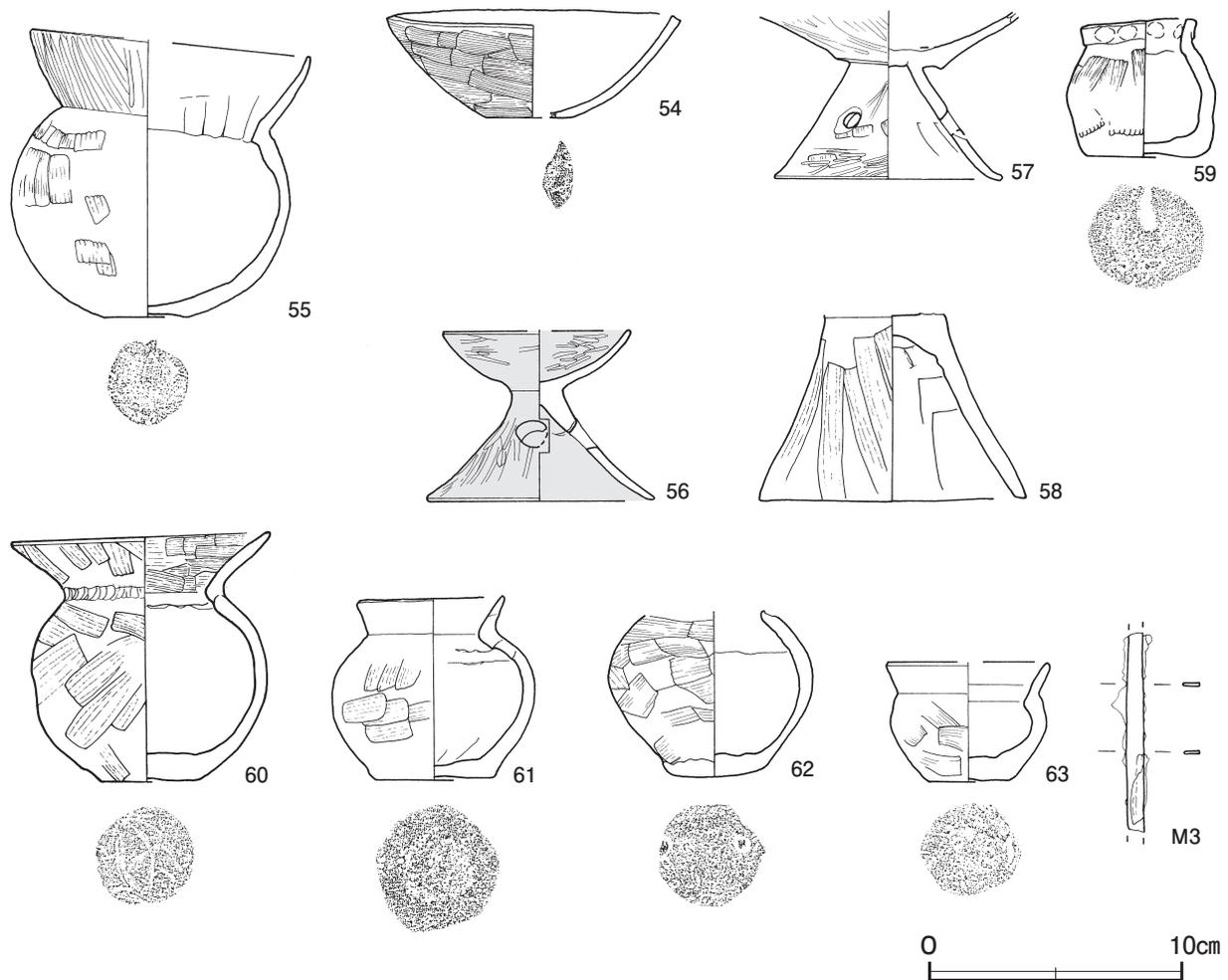
第 67 图 第 23 号竖穴建物跡实测图 (2)



B 21.6m



第 68 图 第 23 号竖穴建物跡実測图 (3)



第 69 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 69 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	土師器	椀	11.0	4.4	[3.2]	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	80% PL22
55	土師器	埴	[11.0]	11.6	3.2	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ	床下土坑 2 上層	90% PL24
56	土師器	器台	[7.4]	6.8	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤	普通	器受部外・内面ナデ後ヘラ磨き 脚部外面ナデ 後ヘラ磨き 内面ナデ 3窓カ	床下土坑 1 中層	50% PL24
57	土師器	高坏	-	(6.7)	9.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き 内面摩減 脚部外面ハケ目 調整後ヘラ磨き 内面ヘラナデ 3窓	床下土坑 1 中層	50%
58	土師器	台付甕	-	(7.5)	10.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	台部外面ハケ目調整 内面ヘラナデ	床下土坑 1 上層	5%
59	土師器	ミニチュア土器	4.5	5.5	4.5	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ 指頭痕	壁溝	100% PL28
60	土師器	ミニチュア土器	10.0	9.9	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整 体部外面ハケ目調 整後ナデ 内面ヘラナデ	床下土坑 1 上層	70% PL28
61	土師器	ミニチュア土器	5.6	7.3	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ハケ目調整後 ナデ 内面ヘラナデ	炉 2 下層	90% PL28
62	土師器	ミニチュア土器	-	(6.6)	3.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面上・中位ハケ目調整 下位ハケ目調整 後ナデ 内面ヘラナデ	床下土坑 1 上層	70%
63	土師器	ミニチュア土器	[6.2]	4.8	3.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ハケ目調整後 ナデ 内面ナデ	床面・覆土 中層	40% PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(7.9)	0.6	0.2	(6.2)	鉄	欠損 断面長方形	床下土坑 1 上層	PL34

第24号竪穴建物跡 (第70・71図)

位置 調査区中央部のD 3h1区、標高21 mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.20 m、短軸3.99 mの方形で、主軸方向はN - 20° - Wである。壁高は12 ~ 26cmで、外傾して立ち上がっている。

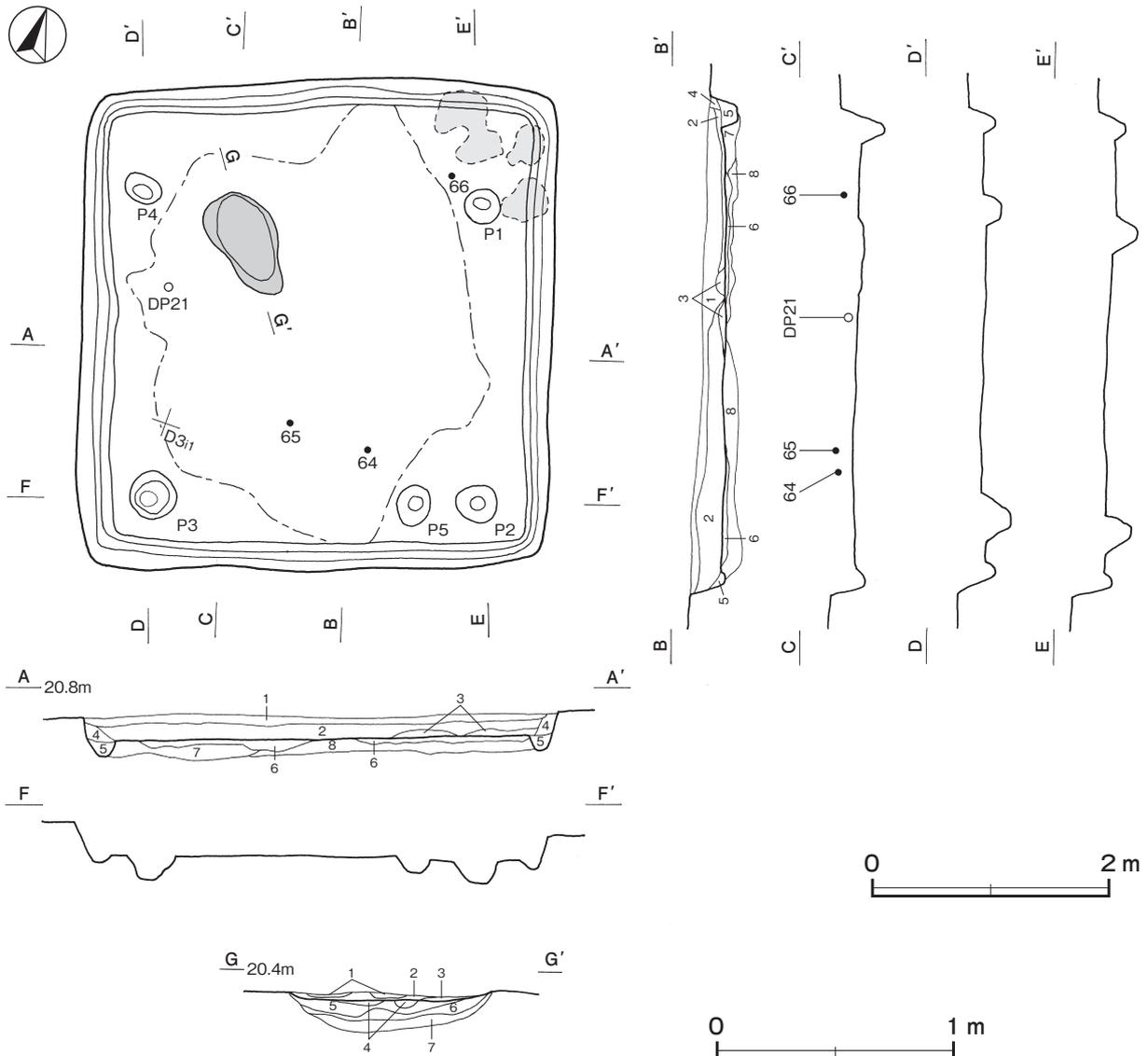
床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、確認面から21 ~ 45cm掘り込み、ロームブロックを主体とした第6 ~ 8層を埋土して構築されている。

炉 北西寄りに位置している。長径93cm、短径51cmの楕円形で、床面を17cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量 | 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 7 褐色 ロームブロック多量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量 | |

ピット 5か所。P 1 ~ P 4は深さ16 ~ 25cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ17cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第70図 第24号竪穴建物跡実測図

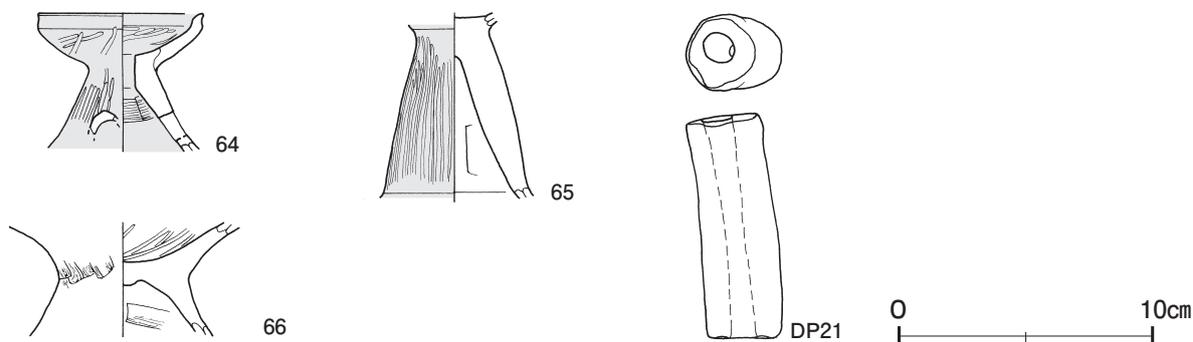
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6～8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片 196点 (埴 22, 器台 2, 高坏 1, 甕類 141, 台付甕 30), 土製品 1点 (管状土錘) が出土している。DP21 は西部の覆土下層から出土している。64・65 は南部, 66 は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。焼土塊を確認していることから, 焼失住居の可能性はある。



第 71 図 第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 71 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
64	土師器	器台	6.4	(5.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	器受部外・内面ナデ後ヘラ磨き 脚部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ハケ目調整後ナデ 器受部中央に貫通孔 3窓	覆土中層	60%
65	土師器	高坏	-	(7.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土中層	20%
66	土師器	台付甕	-	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 底部内面ナデ後ヘラ磨き 台部外面ナデ 内面ハケ目調整後ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP21	管状土錘	8.9	3.8	1.2	94.8	長石・石英・赤色粒子	ナデ 二方向からの穿孔	覆土下層	PL30

第 25 号竪穴建物跡 (第 72 ~ 75 図)

位置 調査区中央部の D 3 e2 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.56 m, 短軸 4.98 m の長方形で, 主軸方向は N - 16° - W である。壁高は 7 ~ 20cm で, 外傾して立ち上がっている。

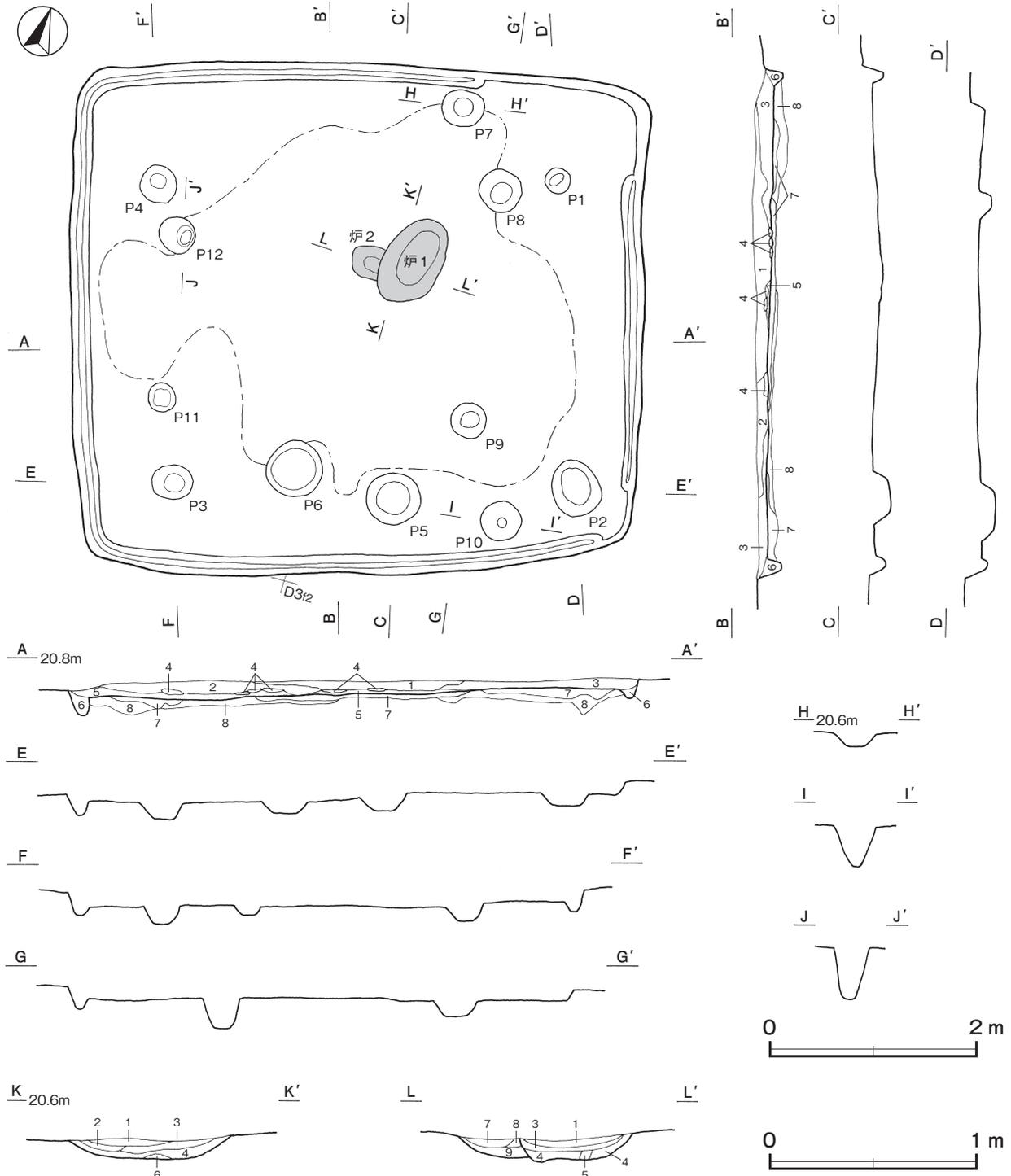
床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。北東と南東のコーナー部を除いた壁下には, 壁溝が巡っている。貼床は, 中央部を浅く, 壁際に向かって深く掘り込み, ロームブロックを主体とした第 7・8 層を埋土して構築されている。

炉 2 か所。炉 1・炉 2 とともに中央部北寄りに位置している。炉 1 は長径 91cm, 短径 53cm の楕円形で, 床面を 11cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉 2 は, 東部を炉 1 に掘り

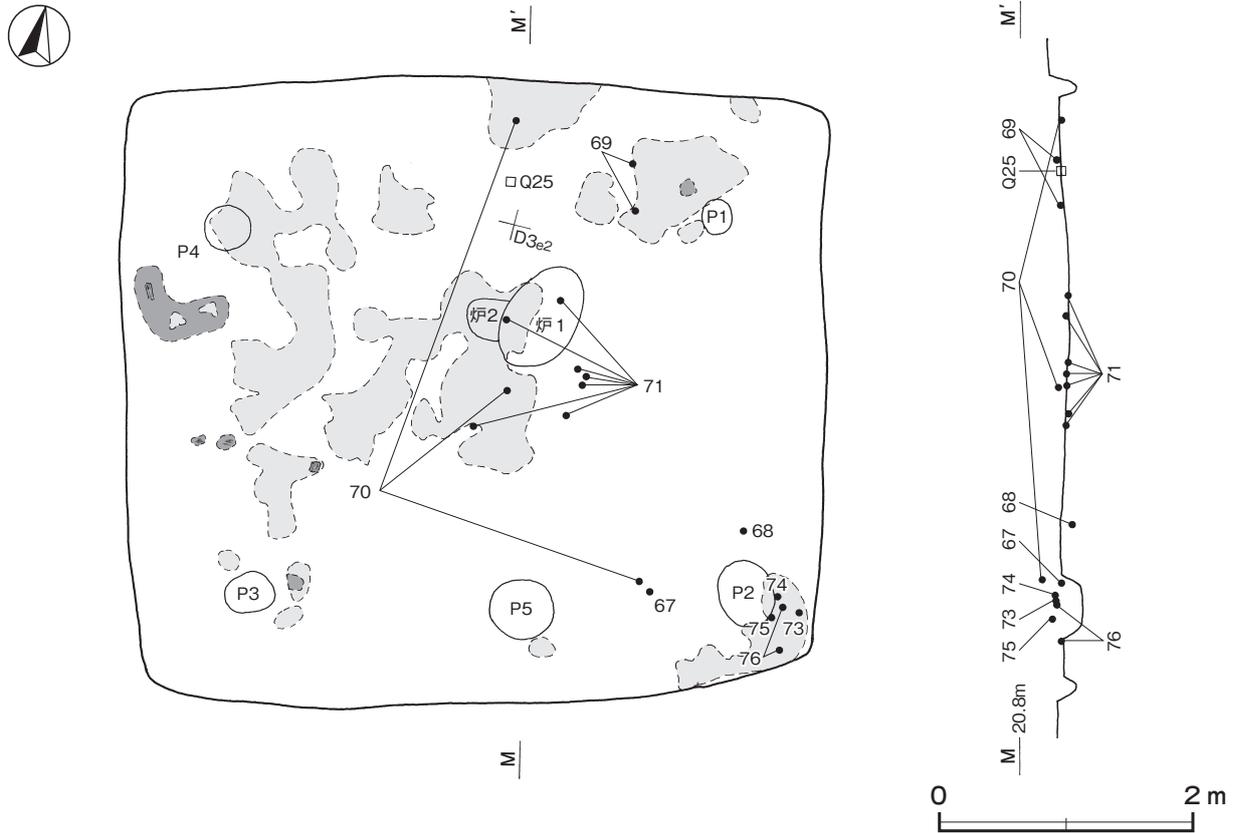
込まれているため、南北径は34cmで、東西径は27cmしか確認できなかった。円形または楕円形と推定でき、床面を9cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。炉1が炉2を掘り込んでいることから、炉1が新しい。

炉土層解説 (炉1・炉2共通)

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量 | 6 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 ローム粒子多量 | 9 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 焼土粒子微量 | |



第72図 第25号竪穴建物跡実測図(1)



第 73 図 第 25 号竪穴建物跡実測図 (2)

ピット 12か所。P 1～P 4は深さ 10～16cmで、規模と配置から支柱穴である。P 5は深さ 16cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 12は深さ 8～48cmで、性格不明である。

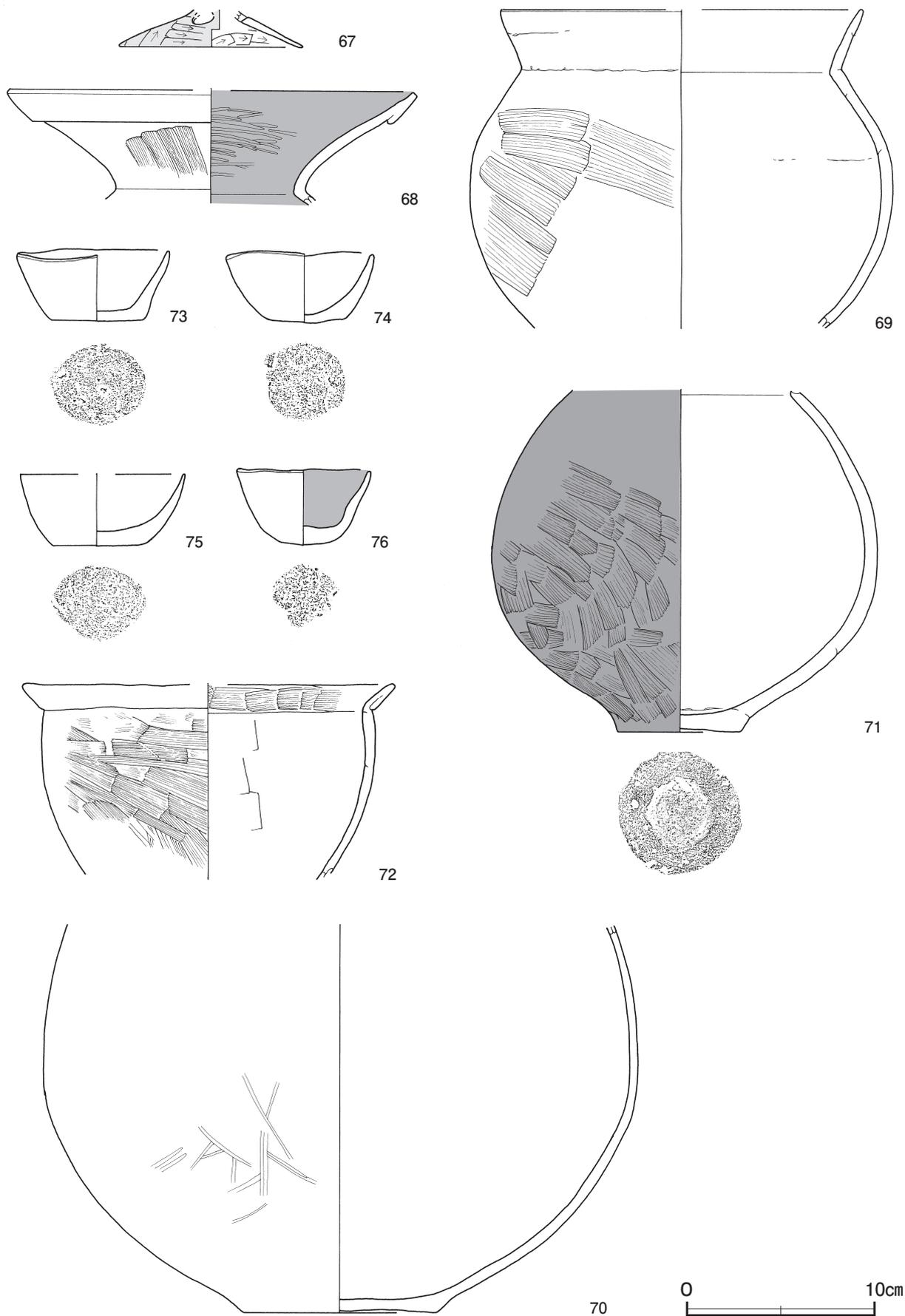
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームや焼土のブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

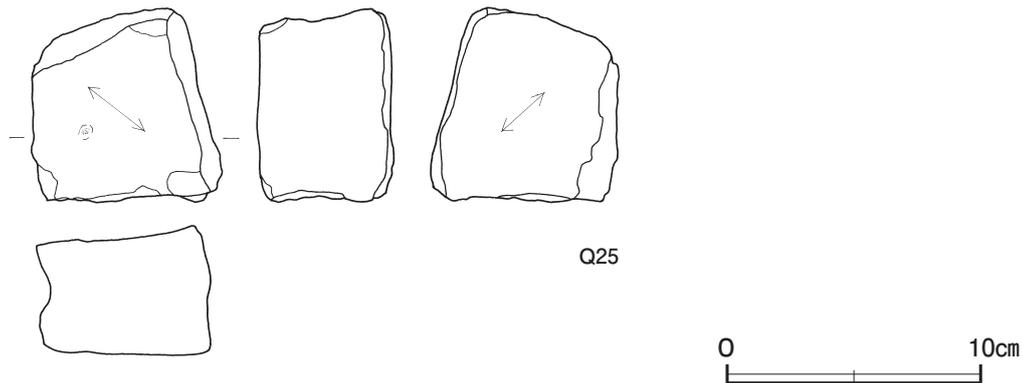
- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 6 褐色 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 7 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 赤褐色 焼土ブロック中量 | 8 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 224 点 (埴 8, 器台 4, 高坏 7, 壺 1, 甕類 179, 甑 2, ミニチュア土器 17, 手捏土器 6), 石器 1 点 (砥石) が、広い範囲の各層から出土している。67・68 は南東部, Q 25 は北部のそれぞれ床面から出土している。69 は北東部, 71 は中央部のそれぞれ床面から出土した破片が接合したものである。76 は南東コーナー部の床面と覆土下層, 70 は北部, 中央部, 南東部の床面から覆土上層にかけて出土した破片が接合したものである。73・74 は南東コーナー部の覆土下層, 75 は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。72 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、4 世紀中葉に比定できる。69～71・76 は広範囲に散在していた破片が接合しており、また、ミニチュア土器が複数出土していることから、これらは廃絶に際して行われた祭祀的行為に関わるものと考えられる。床面の広範囲から焼土塊が出土していることから、焼失住居であると想定できる。



第74図 第25号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 75 図 第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 74・75 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	土師器	器台	-	(2.0)	9.7	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	脚部外・内面ヘラ削り後ナデ 3窓	床面	50%
68	土師器	壺	[21.4]	(6.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ後ヘラ磨き	床面	5%
69	土師器	甕	[19.0]	(17.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	25%
70	土師器	甕	-	(20.8)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	床面・覆土上層	30%
71	土師器	甕	-	(18.4)	6.5	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整 内面ナデ	床面	25%
72	土師器	甗	[19.5]	(10.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ	覆土中	20%
73	土師器	ミニチュア土器	8.0	3.9	4.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	95% PL27
74	土師器	ミニチュア土器	7.7	3.9	4.0	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	95% PL27
75	土師器	ミニチュア土器	[8.7]	3.9	4.6	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	外・内面ナデ	覆土中層	75% PL27
76	土師器	ミニチュア土器	6.9	4.1	2.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面ナデ	床面・覆土下層	80% PL27

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 25	砥石	7.7	7.5	5.4	486	雲母片岩	砥面 2 面 他は破断面	床面	PL31

第 26 号竪穴建物跡 (第 76 ~ 78 図)

位置 調査区中央部の D 3 a3 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 6.34 m, 短軸 4.88 m の長方形で, 主軸方向は N - 26° - W である。壁高は 7 ~ 12cm で, 外傾して立ち上がっている。

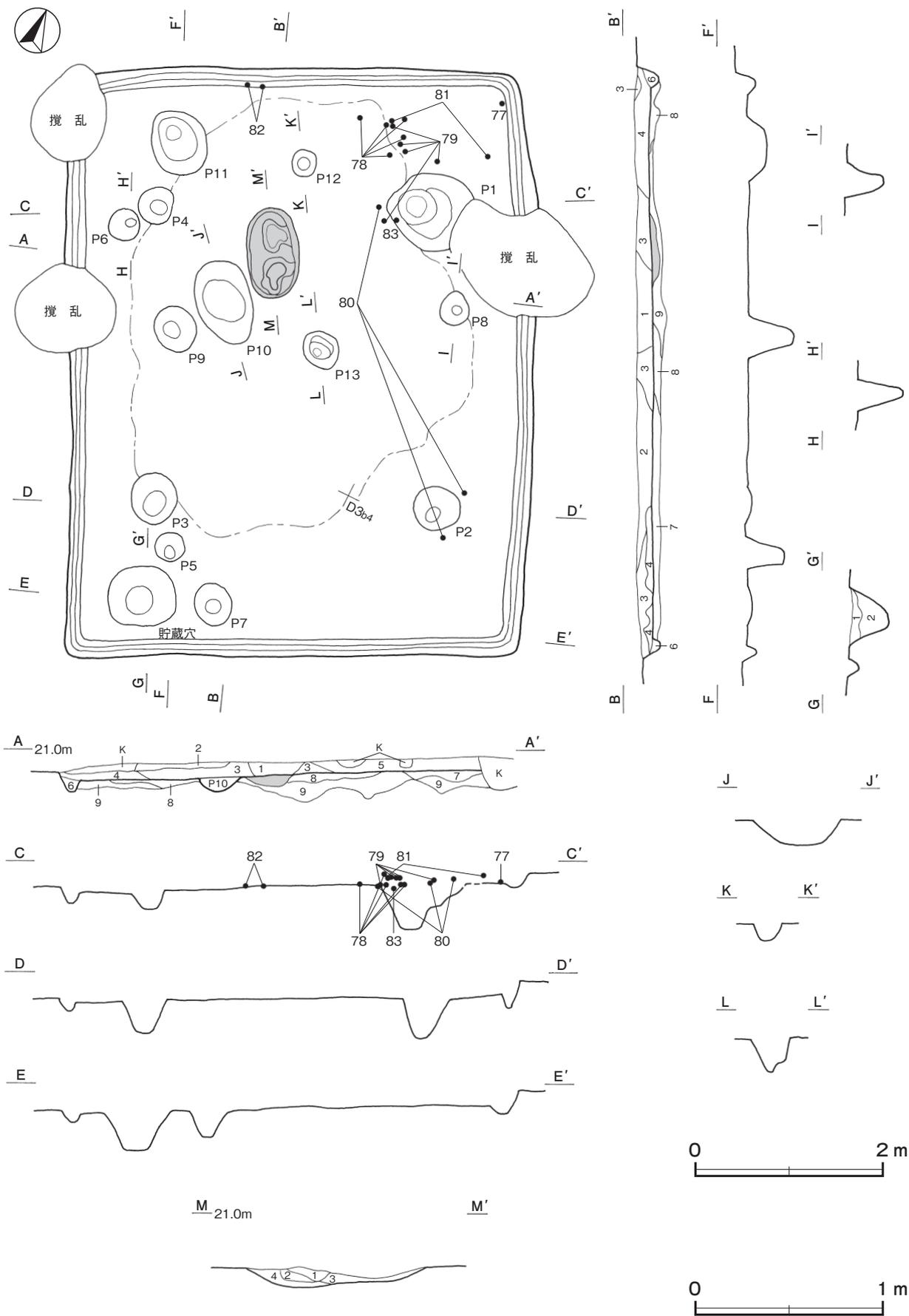
床 平坦な貼床で, 北西部から中央部にかけて踏み固められている。貼床は, 確認面から 14 ~ 42cm 掘り込み, ロームのブロックや粒子を主体とした第 7 ~ 9 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。

炉 中央部北西寄りに位置している。長径 98cm, 短径 57cm の楕円形で, 床面を 11cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 | 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック多量, 炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量 |

ピット 13 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 49cm で, 規模と配置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ 42cm・48cm で, 位置的にみて補助柱穴と考えられる。P 7 は深さ 29cm で, 南部の壁際に位置していることから, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8 ~ P 13 は深さ 19 ~ 51cm で, 性格不明である。



第76图 第26号竖穴建物跡实测图

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径 74cm, 短径 63cmの楕円形で, 深さは 43cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。第7～9層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

6 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子中量

7 褐色 ローム粒子多量

3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

8 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

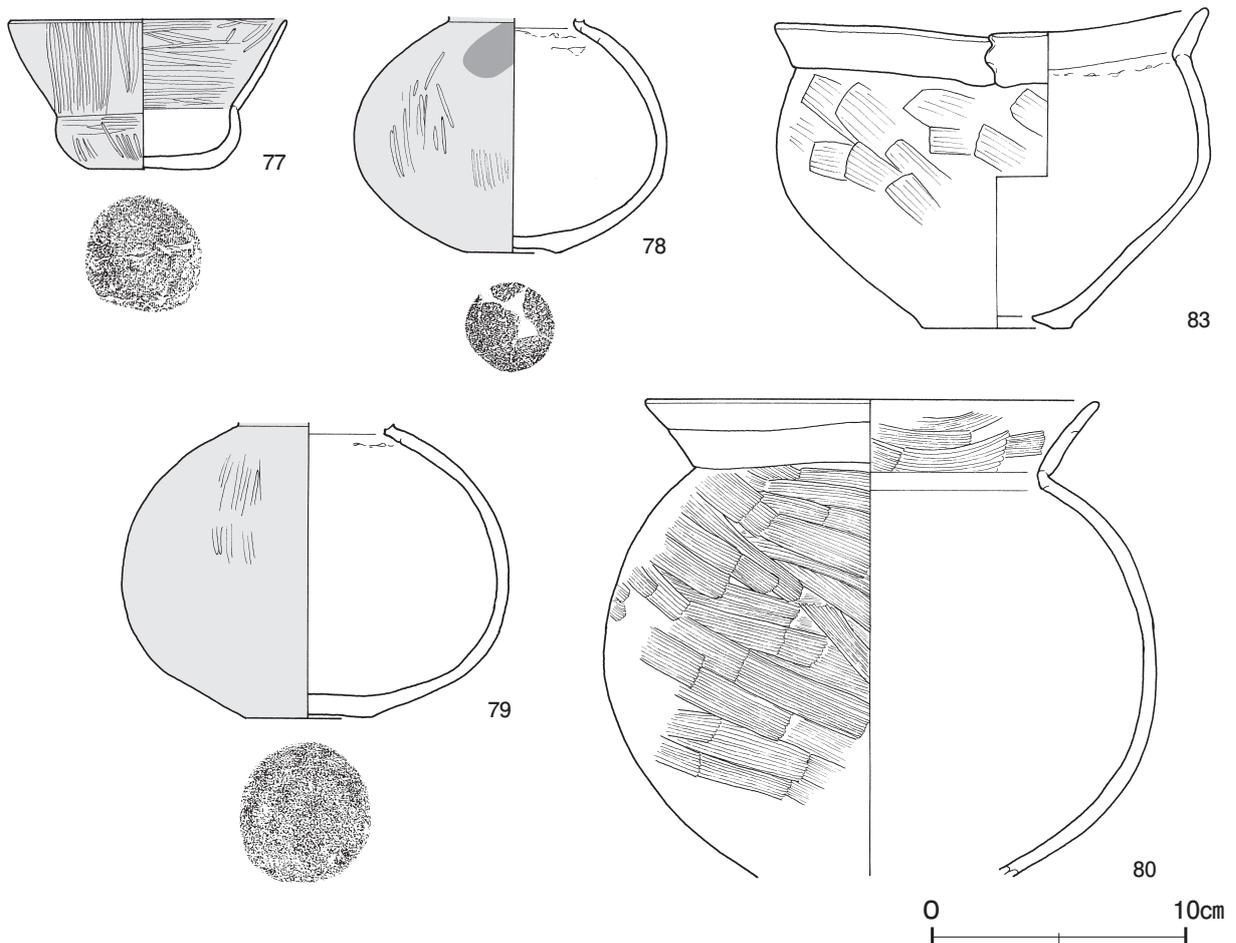
4 褐色 ロームブロック少量

9 褐色 ロームブロック中量

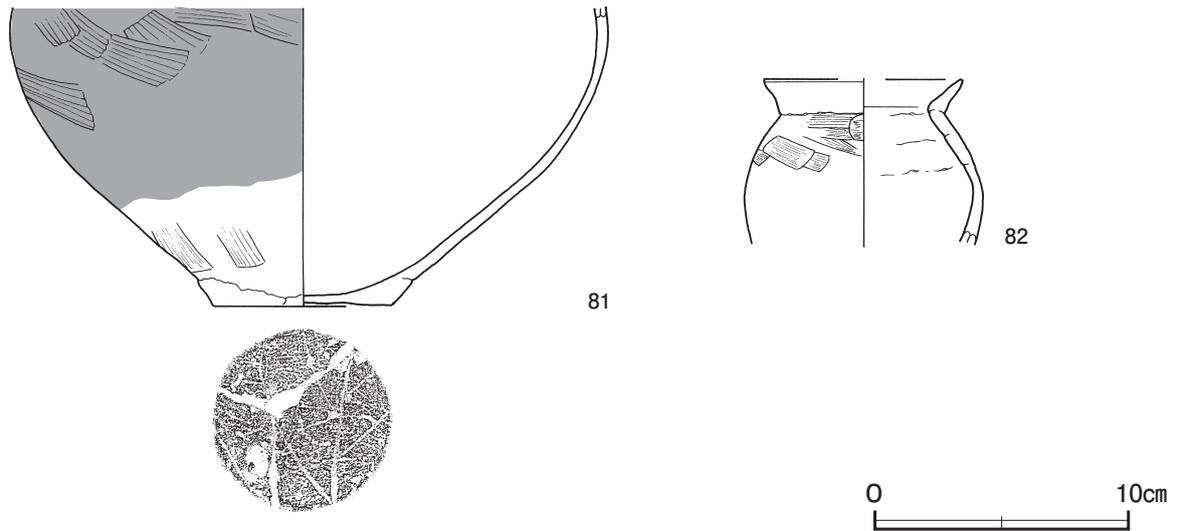
5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片 152点 (埴 19, 高坏 12, 鉢 1, 甕類 111, 台付甕 2, 小形甕 1, ミニチュア土器 5, 手捏土器 1) が出土している。83は北部の床面から出土している。82は北西部の壁溝から出土した破片が接合したものである。78は北部の床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。79は北部, 80は北部と東部のそれぞれ床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。77は北コーナー部の覆土下層から出土している。81は北部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 4世紀後葉に比定できる。78～82は広範囲に散在していた破片が接合しており, 埋め戻しの段階で投棄されたものと考えられる。



第 77 図 第 26 号 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第 78 図 第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 77・78 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
77	土師器	埴	10.8	6.0	4.5	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ナデ後ヘラ磨き 体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	覆土下層	90% PL22
78	土師器	埴	-	(9.3)	3.5	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面ナデ	床面・覆土中層	50%
79	土師器	埴	-	(11.7)	5.0	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	黄橙	普通	体部外面ナデ後ヘラ磨き 内面摩滅	床面・覆土中層	30%
80	土師器	甕	17.5	(19.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面ナデ 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面・覆土中層	30% PL25
81	土師器	甕	-	(11.8)	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	30%
82	土師器	小形甕	[7.7]	(6.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	壁溝	40%
83	土師器	甕	16.7	12.8	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面上半ハケ目調整後ナデ 下半ナデ 内面摩滅	床面	60% PL28

第 28 号竪穴建物跡（第 79～82 図）

位置 調査区北部の C 3h4 区，標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 94・101・102 号土坑に掘り込まれている。

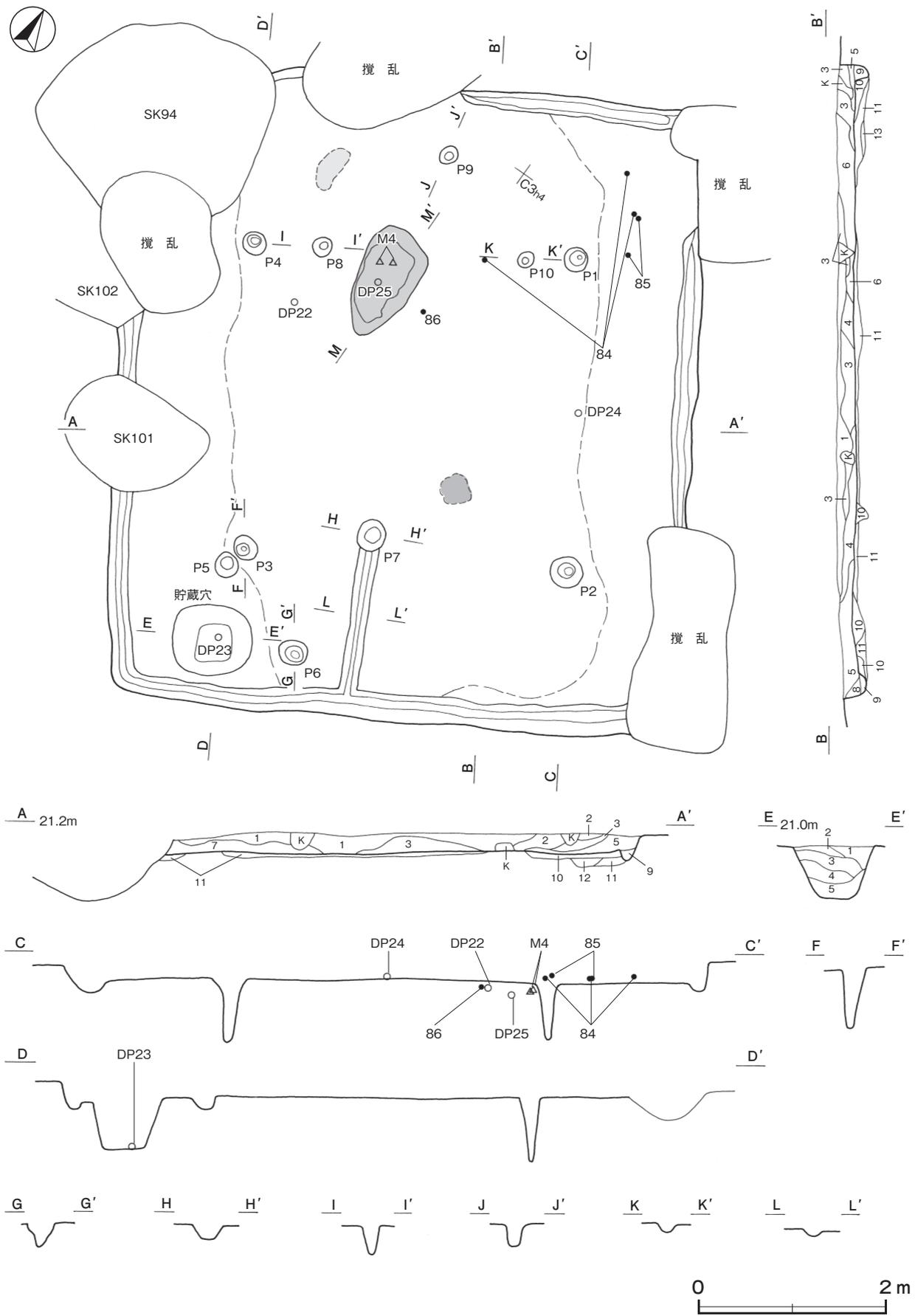
規模と形状 長軸 6.85 m，短軸 6.24 m の方形で，主軸方向は N - 28° - W である。壁高は 14～20cm で，外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で，北東壁寄りと南西壁寄りを除く，北西壁際から南東壁際にかけての中央部が踏み固められている。貼床は，確認面から 15～34cm 掘り込み，ロームのブロックや粒子を主体とした第 10～13 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。南東壁のほぼ中央部から P 7 に向かう，長さ 150cm，幅 18～23cm，深さ 8～15cm で，断面が浅い U 字状の間仕切り溝 1 条を確認した。北西部で焼土塊を，中央部で粘土塊を検出した。

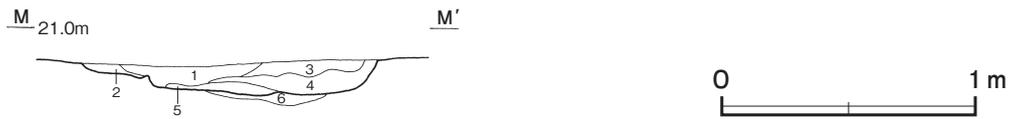
炉 中央部北西寄りに位置している。長径 113cm，短径 67cm の不整楕円形で，床面を 14cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変しており，硬化は弱い。

炉土層解説

- | | |
|-----------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子微量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 5 にぶい赤褐色 焼土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 焼土ブロック微量 | 6 にぶい赤褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量 |



第 79 图 第 28 号竖穴建物迹实测图 (1)



第80図 第28号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 10か所。P1～P4は深さ60～70cmで、規模と配置から支柱穴である。P5は深さ13cmで、位置から補助柱穴と考えられる。P6は深さ26cmで、南東壁に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ16cmで、間仕切り溝に関わるピットと考えられる。P8～P10は深さ10～34cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径85cm、短径75cmの楕円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量		

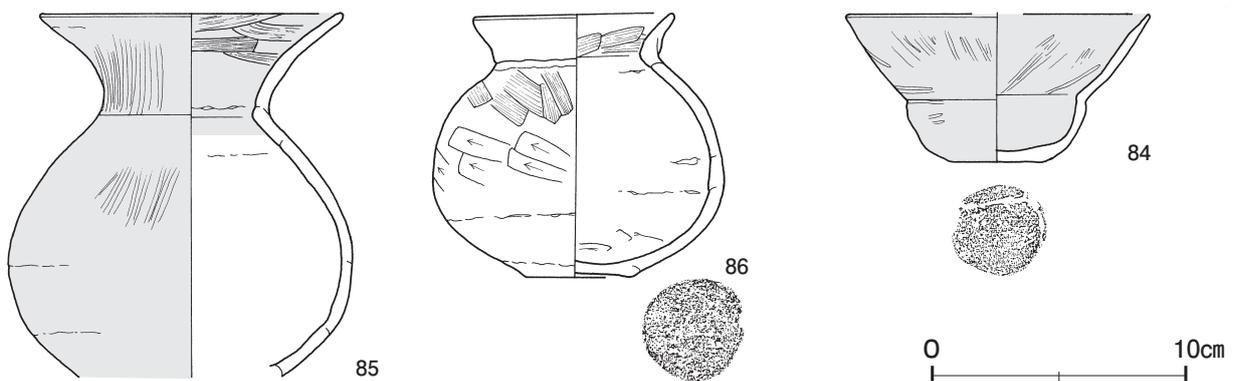
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

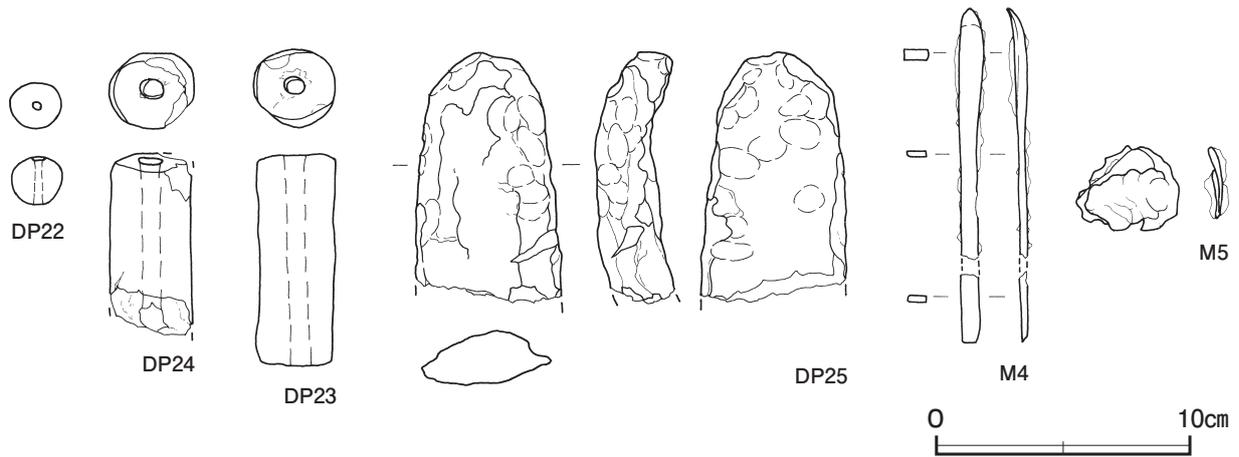
1 黒褐色	ローム粒子少量	8 極暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ロームブロック微量	11 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
5 極暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	13 褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片151点(埴22, 器台4, 高坏7, 鉢1, 壺1, 甕類114, 小形甕1, ミニチュア土器1), 土製品5点(土玉1, 管状土錘3, 翼状土製品1), 鉄器・鉄製品2点(槍鉋, 不明)が出土している。DP23は貯蔵穴の底面から, DP25・M4は炉床面からそれぞれ出土している。86・DP22は中央部, DP24は北東部のそれぞれ床面から出土している。84・85は, それぞれ北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M5は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀後葉に比定できる。炉床面から出土したDP25とM4は, いずれも火を受けた痕跡は認められないことから, これらは炉の使用を終えた後に置かれた状況を示唆している。床面から焼土を検出していることから, 焼失住居の可能性はある。



第81図 第28号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 82 図 第 28 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 81・82 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	土師器	埴	[11.8]	5.9	3.4	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口縁部外・内面ナデ後ヘラ磨き ナデ後ヘラ磨き	体部外・内面	覆土下層 40% PL22
85	土師器	小形壺	11.5	(14.4)	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面ナデ後ヘラ磨き ナデ 体部外面ナデ後ヘラ磨き	内面ハケ目調整後 内面ナデ	覆土下層 50% PL23
86	土師器	小形甕	7.6	10.5	4.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外面横ナデ 下部ナデ 内面ヘラナデ	内面ハケ目調整後ナデ 中位ヘラ削り	床面 95% PL26

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP22	土玉	1.8	2.0	0.3	6.9	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL30
DP23	管状土錘	8.4	3.2	0.9	101.9	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	貯蔵穴底面	PL30
DP24	管状土錘	(7.2)	3.3	0.9	(72.3)	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP25	翼状土製品	(10.0)	5.8	3.1	(114.4)	長石・石英・細礫	ナデ 指頭痕	炉床面	PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	槍鉾	(12.7)	1.2	0.3~0.5	(9.5)	鉄	一部欠損	炉床面	PL34
M5	不明	3.3	4.0	1.0	12.8	鉄	折り畳まれている	覆土中	PL34

第 29 号竪穴建物跡 (第 83 ~ 86 図)

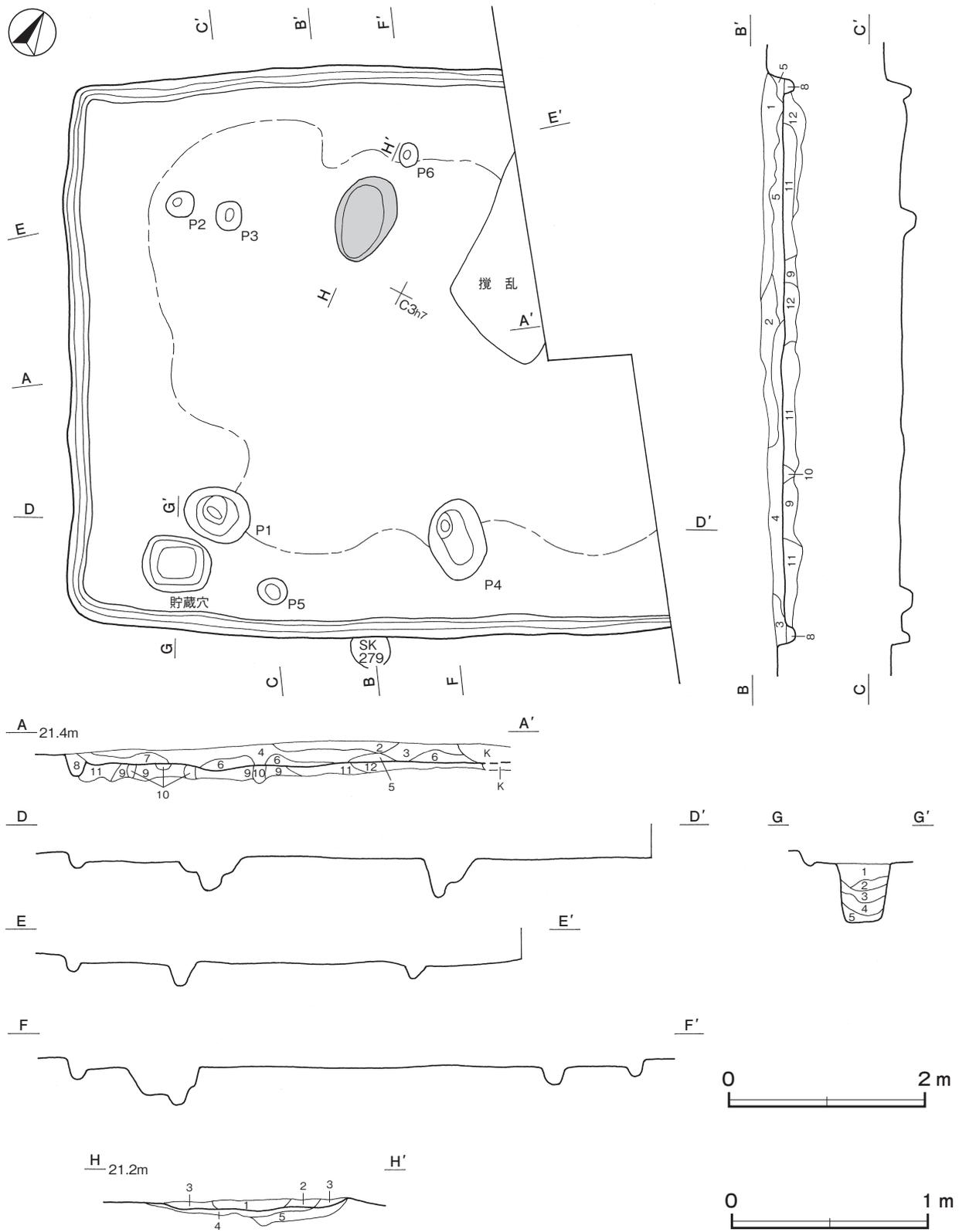
位置 調査区北部の C 3h6 区、標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 279 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は 5.82 m で、北東・南西軸は 6.06 m しか確認できなかった。平面形は長方形で、北西・南東軸方向は N - 29° - W である。壁高は 10 ~ 25cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて中央部が踏み固められている。貼床は、確認面から 25 ~ 44cm 掘り込み、ローブロックを主体とした第 9 ~ 12 層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。床面の広範囲にわたって、焼土と炭化物を検出した。

炉 北西壁寄りに位置している。長軸 92cm、短軸 63cm の隅丸長方形で、床面を 13cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。



第83図 第29号竪穴建物跡実測図(1)

炉土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック多量 | 4 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子少量 | |



第 84 図 第 29 号竪穴建物跡実測図 (2)

ピット 6か所。P 1・P 2は深さ 33cm・23cmで、規模と配置から支柱穴である。P 3は深さ 14cmで、位置から補助柱穴と考えられる。P 4は深さ 37cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5・P 6は深さ 11cm・17cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径 76cm, 短径 60cmの楕円形で、深さは 61cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|--------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | | |

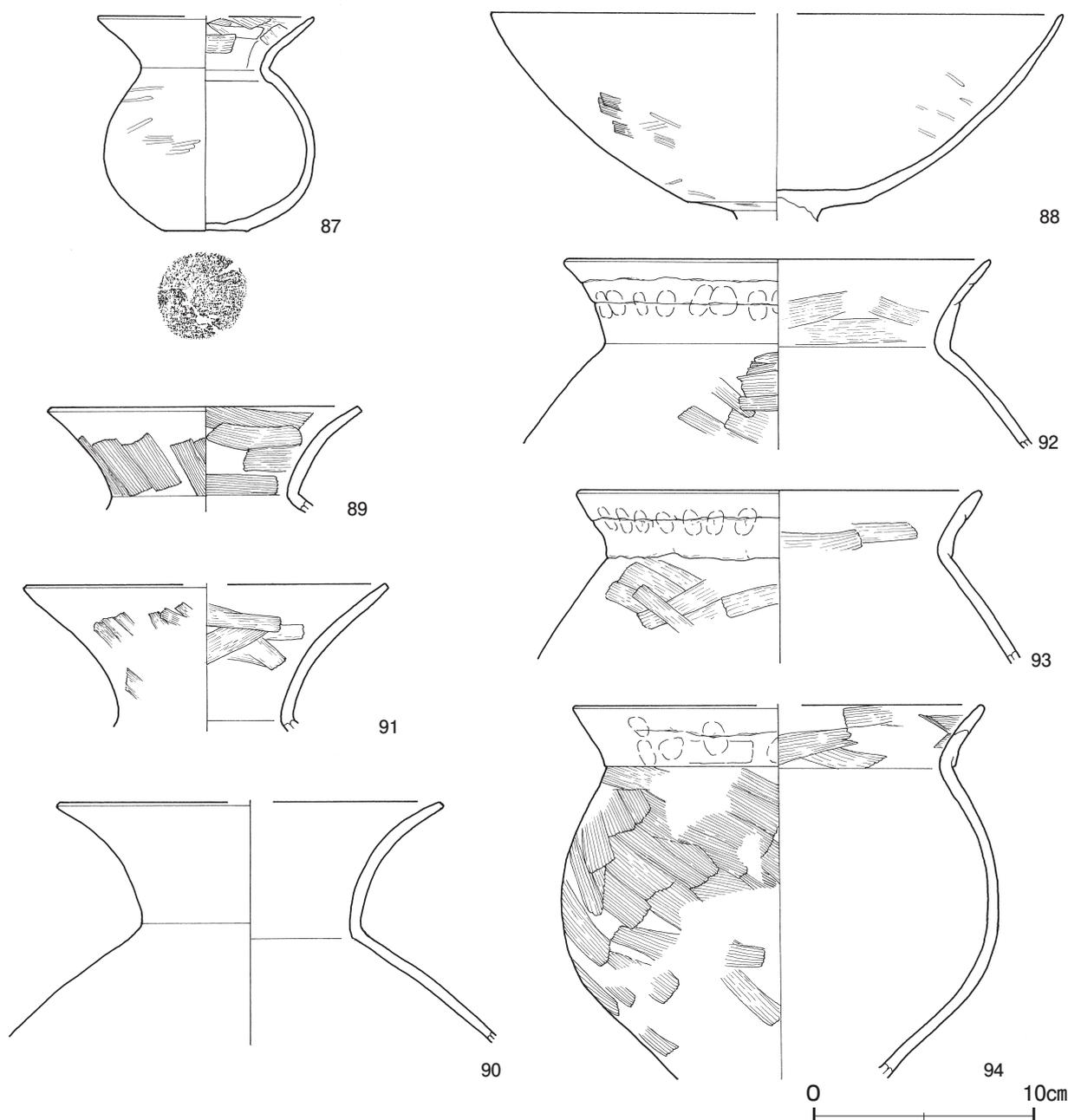
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第9～12層は貼床の構築土である。

土層解説

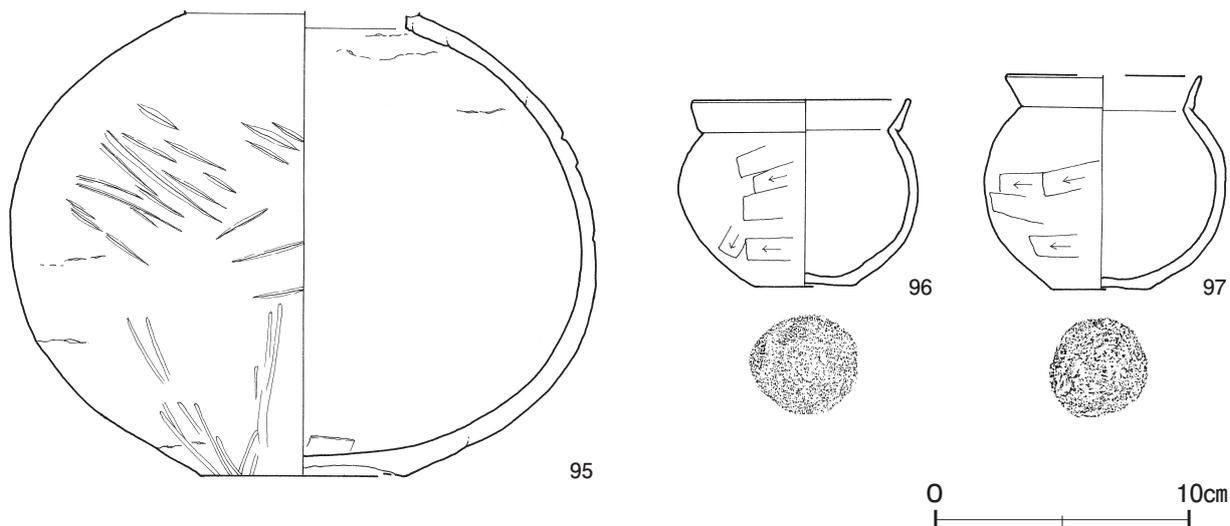
- | | | | |
|-------|-------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 345 点（埴 21，器台 1，高坏 1，壺 20，甕類 297，小形甕 5），炭化植物（野蒜 5，種子 13,468）が，壁際の床面から覆土中層を中心に出土している。96 は貯蔵穴の底面から出土している。95 は，貯蔵穴の下層と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。87・97 は，いずれも南西壁際の床面から出土している。88・90・93 は西部，94 は中央部と西部の，いずれも床面から出土した破片が接合したものである。92 は南部と北西部の床面と覆土下層から，89 は東部と南部の床面と覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。91 は北西部の覆土下層から出土している。炭化植物は東部床面の調査区域際で確認し，約 2.9m²の範囲にわたって出土している。

所見 時期は，出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。焼土や炭化物を床面から多数検出していることから，焼失住居であると考えられる。炭化種子は東部の限られた範囲で出土していることから，貯蔵していたものが廃絶時に遺棄された可能性もあるが判然としない。



第 85 図 第 29 号竖穴建物跡出土遺物実測図（1）



第 86 図 第 29 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 29 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 85・86 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
87	土師器	埴	[9.6]	9.9	3.8	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外面横ナデ 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ナデ後へラ磨き 内面ナデ	床面	90% PL24
88	土師器	高坏	[26.0]	(9.5)	-	長石・石英	赤	普通	坏部外面ハケ目調整後へラ磨き 内面ナデ後へラ磨き 赤彩残存	床面	40% PL23
89	土師器	壺	13.8	(4.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後横ナデ	床面・覆土中層	10%
90	土師器	壺	[17.2]	(11.2)	-	長石・石英	橙	普通	外・内面摩滅	床面	5%
91	土師器	壺	[16.4]	(6.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ	覆土下層	5%
92	土師器	甕	19.2	(8.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面輪積み痕を残すナデ 指頭痕 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面・覆土下層	10%
93	土師器	甕	18.0	(8.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面輪積み痕を残すナデ 指頭痕 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	10%
94	土師器	甕	[18.4]	(17.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ナデ 指頭痕 内面ハケ目調整後ナデ 体部外面ハケ目調整後ナデ 内面ナデ	床面	40%
95	土師器	甕	-	(18.4)	7.9	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	体部外面ナデ後へラ磨き 内面へラナデ	貯蔵穴下層・床面	70% PL26 砥石転用
96	土師器	小形甕	8.5	7.5	4.0	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	貯蔵穴底面	95% PL26
97	土師器	小形甕	[7.6]	8.5	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	95% PL26

第 31 号竪穴建物跡 (第 87・88 図)

位置 調査区北部の C 2a9 区, 標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 186 号土坑に掘り込まれている。

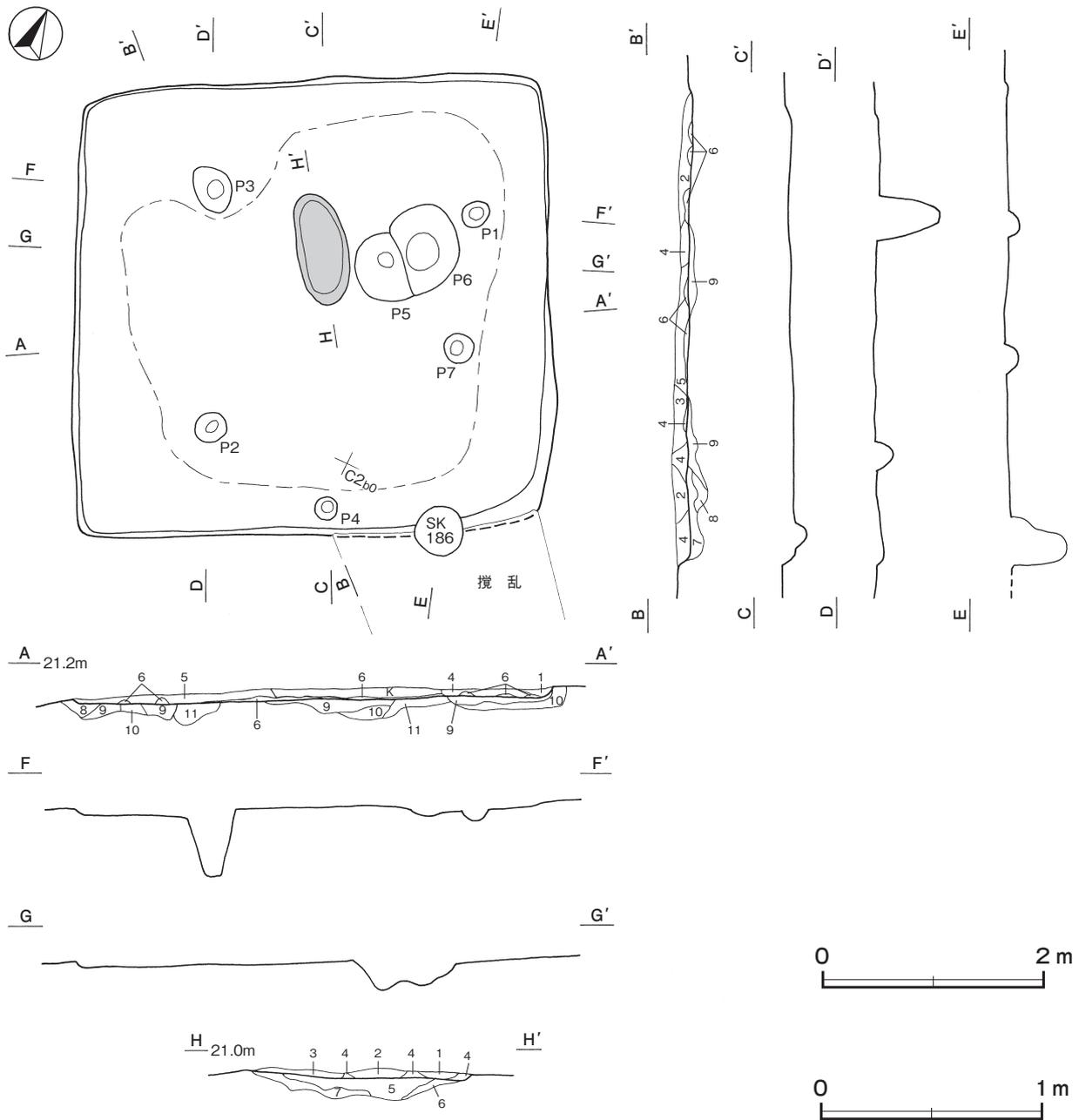
規模と形状 長軸 4.28 m, 短軸 4.20 m の方形で, 主軸方向は N - 28° - W である。壁高は 4 ~ 6 cm である。

床 平坦な貼床で, 壁際を除く中央部が踏み固められている。貼床は, 確認面から 8 ~ 27cm 掘り込み, ロームのブロックや粒子を主体とした第 7 ~ 11 層を埋土して構築されている。

炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径 104cm, 短径 46cm の楕円形で, 床面を 16cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------|------|-------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量, 炭化粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子多量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量 | | |



第 87 図 第 31 号竪穴建物跡実測図

ピット 7か所。P 1～P 3は深さ 14～60cmで、規模と配置から主柱穴である。P 4は深さ 14cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5～P 7は深さ 12～25cmで、性格不明である。

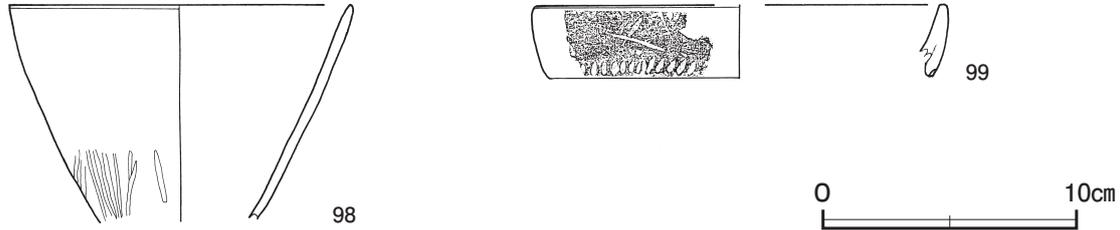
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 7～11 層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 |
| 5 暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片 73 点（埴 5，器台 4，高坏 1，甕類 62，台付甕 1），自然遺物 26 点（炭化種子）が出土している。98・99 は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。



第 88 図 第 31 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 31 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 88 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	土師器	埴	13.3	(8.6)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面へラ磨き 内面摩滅 赤彩残存	覆土中	30% PL24
99	土師器	壺	[15.7]	(2.9)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 端部キザミ 赤彩残存	覆土中	5%

第 32 号竪穴建物跡（第 89・90 図）

位置 調査区北部の B 2 g0 区，標高 21 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 209 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため，東西軸は 4.53 m で，南北軸は 4.04 m しか確認できなかった。炉やピットの配置から方形または長方形と推定でき，主軸方向は N - 4° - E である。壁高は 12 ~ 14cm で，壁は外傾して立ち上がっている。

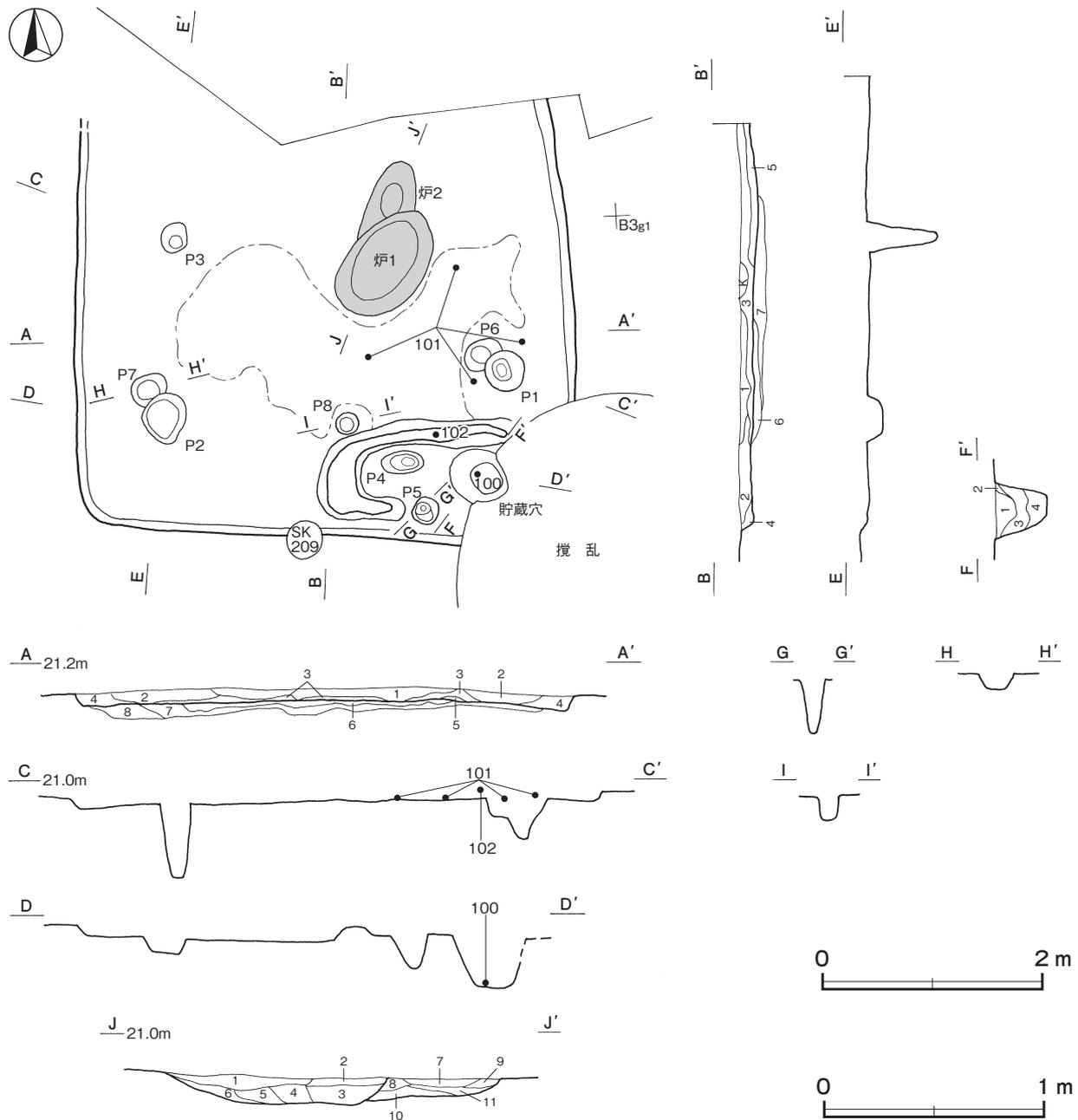
床 平坦な貼床で，中央部から南部にかけて踏み固められている。貼床は，確認面から 12 ~ 25cm 掘り込み，ロームブロックを主体とした第 6 ~ 8 層を埋土して構築されている。南東部の貯蔵穴と P 4・P 5 の周囲に，幅 24 ~ 39cm，高さ 6 ~ 8cm の馬蹄形の高まりを確認した。

炉 2 か所。炉 1 は中央部東寄りに位置している。長径 112cm，短径 64cm の楕円形で，床面を 13cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉 2 は炉 1 の北側に位置している。炉 1 に掘り込まれているため，長径 84cm，短径 40cm しか確認できなかった。楕円形と推定でき，床面を 10cm ほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説（炉 1・炉 2 共通）

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 炭化粒子多量，焼土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量 | 9 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック多量，炭化粒子中量 | 10 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 11 褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | |

ピット 8 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 16 ~ 66cm で，規模と配置から主柱穴である。P 4・P 5 は深さ 33cm・49cm で，南壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられるが，同時期に機能していたかは不明である。P 6・P 7 は深さ 20cm・12cm で，配置からそれぞれ P 1・P 2 の立て替え前の柱穴の可能性がある。P 8 は深さ 23cm で，性格不明である。



第 89 図 第 32 号竪穴建物跡実測図

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。南東半部が削平されているため、北東・南西径は 50cm で、北西・南東径は 58cm しか確認できなかった。楕円形と推定できる。深さは 48cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|--------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第6～8層は貼床の構築土である。

土層解説

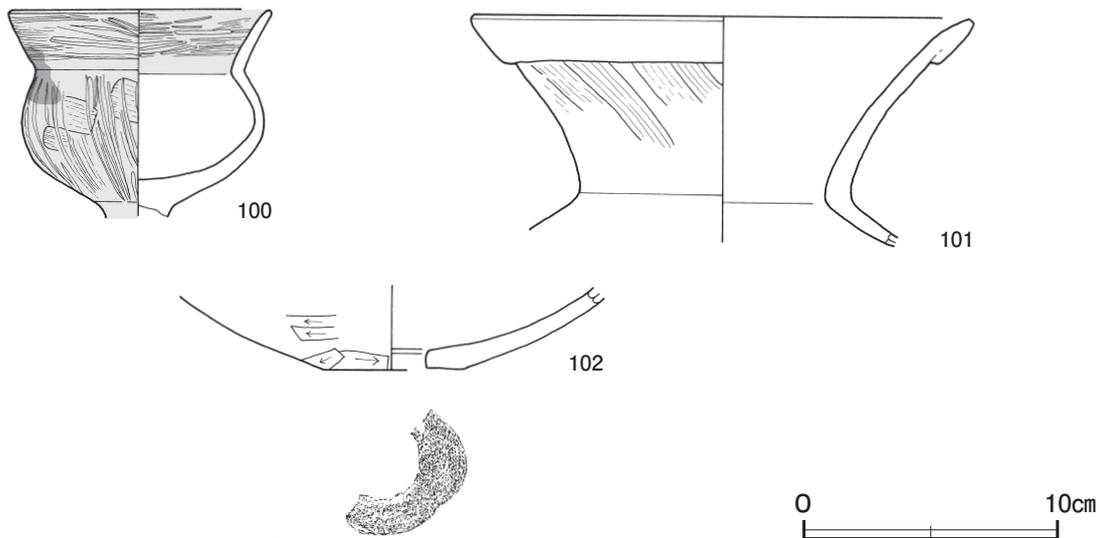
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 3 極暗褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

5 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
 6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

7 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 8 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片 205 点（埴 2, 脚付埴 1, 高坏 4, 壺 2, 甕類 191, 台付甕 4, 甑 1）が, 南西部を除く広い範囲の床面から覆土下層にかけて出土している。100 は貯蔵穴の底面から, 102 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。101 は東部と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。



第 90 図 第 32 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
100	土師器	脚付埴	10.0	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面ナデ後ヘラ磨き 体部外面上半ハケ目調整後ヘラ磨き 内面ナデ 下半ナデ後ヘラ磨き	貯蔵穴底面	60% PL24
101	土師器	壺	19.4	(9.0)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後横ナデ 内面横ナデ	床面	20%
102	土師器	壺	-	(3.3)	[5.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ 焼成前穿孔	覆土下層	5%

表 6 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位 置	平面形	主軸方向	規 模 長軸×短軸 (m)	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口	ビット	炉・竈	貯蔵穴				
1	E4g2	[方形]	N - 120° - W	[3.8 × 3.6]	-	平坦	-	4	1	-	炉 1	-	-	土師器片	4 世紀代	本跡→SK2
2	F4b3	長方形	N - 22° - W	5.00 × 4.40	8 ~ 20	平坦	全周	4	-	-	炉 1	1	自然	土師器片, 石器	4 世紀後葉	
3	F3b0	方形	N - 44° - W	8.38 × 7.75	24 ~ 40	平坦	全周	4	1	4	炉 2	1	自然・人為	土師器片, 土製品, 石器	4 世紀中葉	
5	F4a6	隅丸長方形	N - 37° - W	5.20 × 4.60	12 ~ 20	平坦	全周	4	1	1	炉 1	1	人為	土師器片, 土製品, 石器, 鉄器・鉄製品	4 世紀後葉	本跡→SK18 ~ 21
6	E3g9	方形	N - 27° - W	3.82 × 3.68	6 ~ 10	平坦	-	3	2	1	-	-	人為	土師器片	4 世紀後葉	
7	E4e1	長方形	N - 31° - W	4.20 × 3.33	5 ~ 15	平坦	全周	4	1	1	炉 2	1	人為	土師器片, 土製品	4 世紀後葉	本跡→SK39
8	F4f5	長方形	N - 61° - W	3.59 × 2.80	2 ~ 4	平坦	全周	4	1	1	炉 1	-	人為	土師器片	4 世紀代	
9	F4g6	方形	N - 72° - W	3.90 × 3.78	2 ~ 8	平坦	-	4	1	-	炉 1	-	不明	土師器片	4 世紀代	
10	F4e1	[方形・長方形]	N - 42° - W	(3.92 × 3.41)	13 ~ 22	平坦	[全周]	1	-	-	-	-	人為	土師器片	4 世紀後葉	
11	F4e6	[方形・長方形]	不 明	(2.35 × 0.80)	5 ~ 12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器片	4 世紀中葉	SI12 → 本跡
12	F4e6	[方形・長方形]	N - 3° - W	[4.3 × 1.5]	-	平坦	-	2	1	-	-	-	-	土師器片	4 世紀代	本跡→SI11

番号	位置	平面形	主軸方向	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
13	E4c1	長方形	N - 36° - W	5.16 × 4.40	4 ~ 7	平坦	全周	4	1	2	炉1	1	人為	土師器片, 鉄器	4世紀中葉	
17	D3j0	[方形・長方形]	N - 60° - E	(3.31 × 2.30)	3	平坦	-	4	1	-	炉1	-	不明	土師器片	4世紀代	SI14 → 本跡 → SK244
20	D3i9	長方形	N - 29° - W	5.10 × 4.48	25 ~ 36	平坦	一部	4	1	-	炉1	-	人為	土師器片	4世紀前葉	本跡 → SD3, SK54
21	E3a7	長方形	N - 31° - W	4.94 × 4.30	16 ~ 22	平坦	ほぼ全周	4	1	-	炉2	1	人為	土師器片, 自然遺物	4世紀中葉	本跡 → SD6
22	E3e8	長方形	N - 10° - W	5.00 × 4.48	22 ~ 28	平坦	全周	5	1	1	炉1	1	人為	土師器片, 石製品, 鉄製品	4世紀中葉	
23	E3e6	[方形・長方形]	N - 18° - W	8.64 × (7.47)	31 ~ 38	平坦	全周	3	1	2	炉3	1	人為	土師器片	4世紀後葉	本跡 → SD4
24	D3h1	方形	N - 20° - W	4.20 × 3.99	12 ~ 26	平坦	全周	4	1	-	炉1	-	人為	土師器片, 土製品	4世紀後葉	
25	D3e2	長方形	N - 16° - W	5.56 × 4.98	7 ~ 20	平坦	ほぼ全周	4	1	7	炉2	-	人為	土師器片, 石器	4世紀中葉	
26	D3a3	長方形	N - 26° - W	6.34 × 4.88	7 ~ 12	平坦	ほぼ全周	4	1	8	炉1	1	人為	土師器片	4世紀後葉	
28	C3h4	方形	N - 28° - W	6.85 × 6.24	14 ~ 20	平坦	[全周]	4	1	5	炉1	1	人為	土師器片, 土製品, 鉄器・鉄製品	4世紀後葉	本跡 → SK94・ 101・102
29	C3h6	長方形	N - 29° - W	(6.06) × 5.82	10 ~ 25	平坦	[全周]	2	1	3	炉1	1	人為	土師器片, 自然遺物	4世紀後葉	SK279 → 本跡
31	C2a9	方形	N - 28° - W	4.28 × 4.20	4 ~ 6	平坦	-	3	1	3	炉1	-	人為	土師器片, 自然遺物	4世紀後葉	本跡 → SK186
32	B2g0	[方形・長方形]	N - 4° - E	4.53 × (4.04)	12 ~ 14	平坦	-	3	2	3	炉2	1	人為	土師器片	4世紀後葉	本跡 → SK209

(2) 土坑

確認した土坑 33 基のうち、出土遺物が図示できる 1 基について本文と実測図を記載する。遺物が細片のため図示できないその他 32 基の土坑については、実測図と一覧表を掲載する。

第 53 号土坑 (第 91 図)

位置 調査区南部の F 4 b4 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.51 m の円形で、深さは 23cm、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。

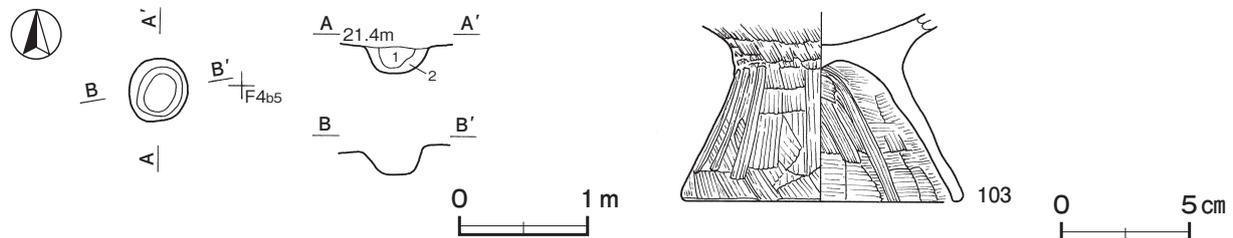
覆土 2 層に分層できる。両層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 2 点 (埴, 台付甕) が出土している。103 は覆土中から出土している。

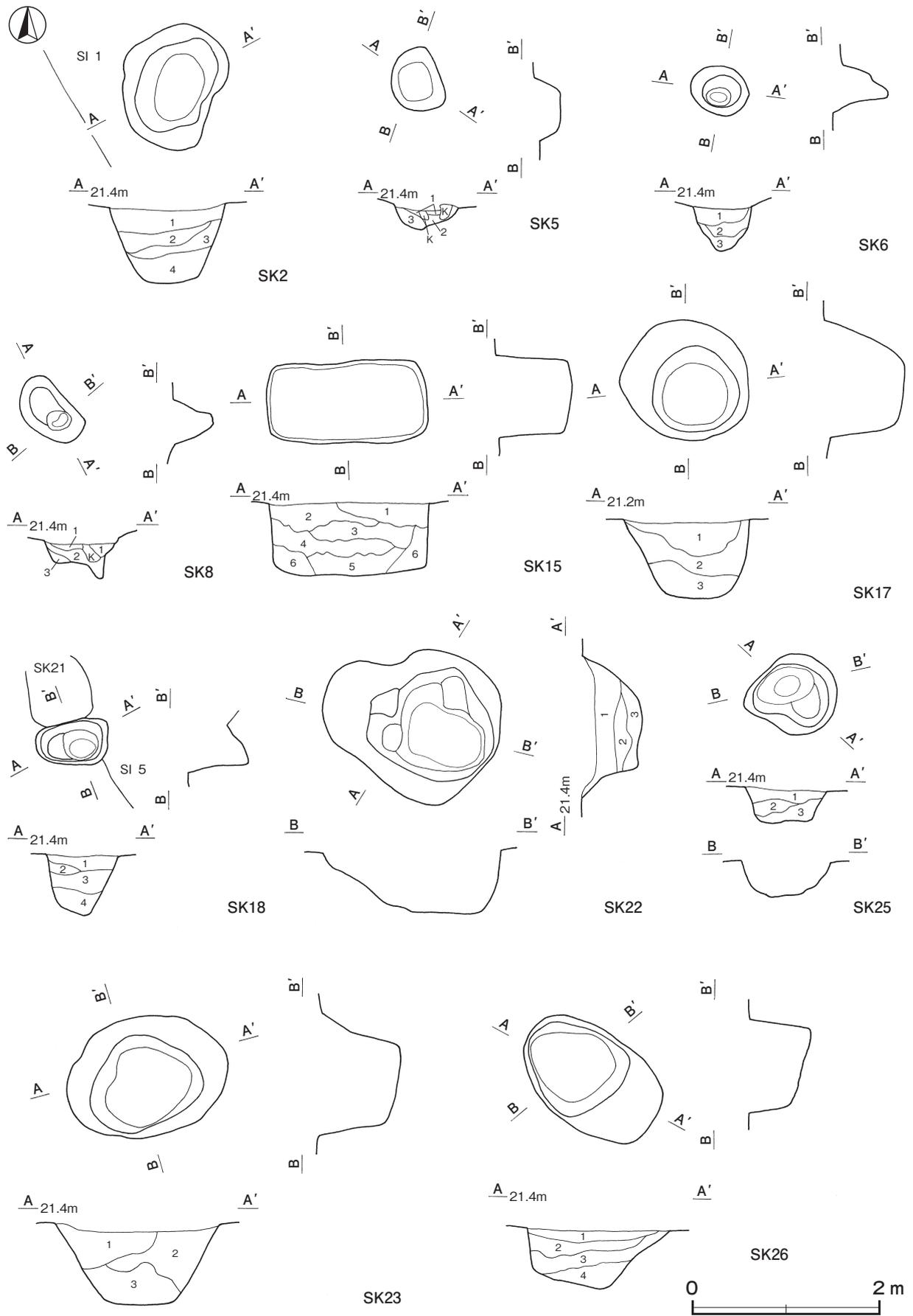
所見 時期は、出土土器から 4 世紀中葉から後葉と考えられる。性格は不明である。



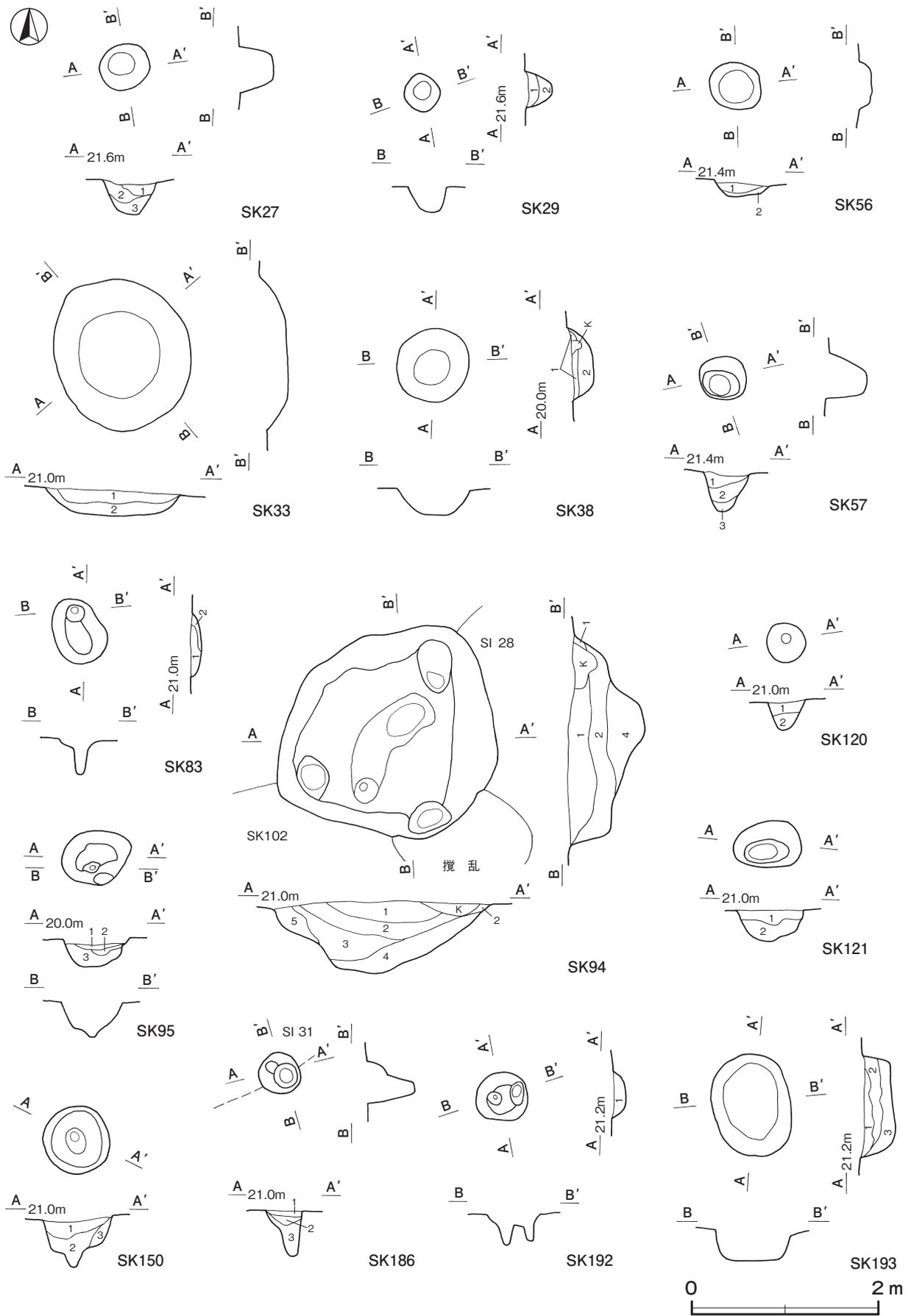
第 91 図 第 53 号土坑・出土遺物実測図

第 53 号土坑出土遺物観察表 (第 91 図)

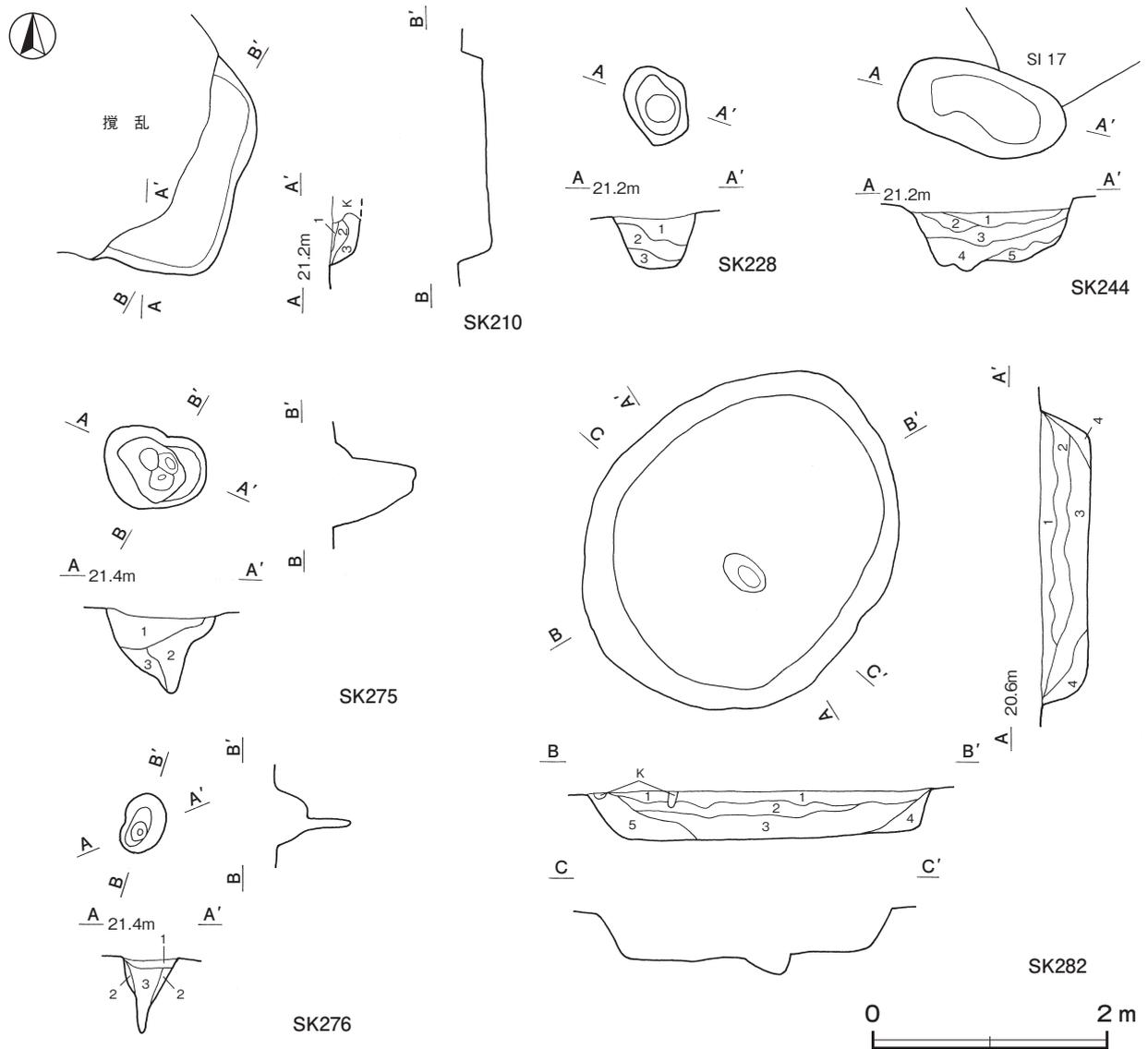
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	土師器	台付甕	-	(7.4)	11.0	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	台部外・内面ハケ目調整	覆土中	10%



第 92 図 古墳時代土坑実測図 (1)



第 93 图 古墳時代土坑実測図 (2)



第94図 古墳時代土坑実測図（3）

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

第17号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第18号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 22 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 23 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 25 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 26 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 27 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 29 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 33 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 38 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 57 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 83 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 94 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

第 95 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 120 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 121 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 150 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 186 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 192 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 193 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 赤色粒子微量

第 210 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 228 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 244 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 275 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 276 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 282 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量

表7 古墳時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
2	E4g2	N - 16° - E	楕円形	0.81 × 0.50	83	平坦	外傾	人為	土師器片, 鉄製品	SI1 →本跡
5	E4j2	N - 48° - W	楕円形	0.70 × 0.62	27	平坦	緩斜	自然	土師器片	
6	E4i3	N - 78° - W	楕円形	0.63 × 0.51	55	凹凸	外傾	自然	土師器片	
8	E4i2	N - 41° - W	楕円形	0.79 × 0.50	44	凹凸	外傾	自然	土師器片	
15	F4f4	N - 88° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.87	80	平坦	直立	人為	土師器片, 鉄製品	
17	D4f1	-	円形	1.38 × 1.28	82	平坦	外傾	人為	土師器片	
18	F4a6	N - 80° - E	[楕円形]	0.78 × (0.47)	57	皿状	直立・緩斜	人為	土師器片	SI5 →本跡 → SK21
22	E4g4	N - 75° - W	不整楕円形	1.91 × 1.64	68	凹凸	直立・緩斜	人為	土師器片	
23	E4j4	N - 76° - E	楕円形	1.74 × 1.31	87	平坦	直立	人為	土師器片	
25	E4e5	N - 75° - E	不整楕円形	1.00 × 0.79	38	凹凸	外傾	人為	土師器片	
26	E4c4	N - 48° - W	楕円形	1.62 × 1.05	74	傾斜	直立	人為	土師器片, 縄文土器片	
27	E4i1	N - 83° - E	楕円形	0.55 × 0.50	34	平坦	外傾	人為	土師器片	
29	E3h0	N - 18° - W	楕円形	0.40 × 0.35	27	皿状	外傾	自然	土師器片	
33	E4f9	N - 39° - W	楕円形	1.66 × 1.48	26	平坦	緩斜	自然	土師器片, 縄文土器片	
38	G4c5	-	円形	0.78 × 0.77	28	平坦	緩斜	自然	土師器片	
53	F4b4	-	円形	0.51 × 0.47	23	平坦	緩斜	人為	土師器片	
56	E4j3	-	円形	0.54 × 0.51	12	平坦	緩斜	自然	土師器片	
57	F4b4	-	円形	0.52 × 0.48	43	平坦	外傾	自然	土師器片	
83	D3e4	N - 30° - W	楕円形	0.74 × 0.50	40	凹凸	緩斜	人為	土師器片	
94	C3h3	N - 58° - E	不整楕円形	2.50 × 2.19	77	凹凸	外傾	人為・自然	土師器片, 縄文土器片	SI28・SK102 → 本跡
95	D3b1	N - 74° - E	楕円形	0.77 × 0.59	37	凹凸	外傾	人為	土師器片	
120	D3e7	-	円形	0.43 × 0.40	38	鍋底状	外傾	人為	土師器片	
121	D3d4	N - 84° - E	楕円形	0.73 × 0.50	33	皿状	緩斜	人為	土師器片	
150	D3c4	-	円形	0.70 × 0.70	33	凹凸	外傾	人為	土師器片, 縄文土器片	
186	C2b0	-	円形	0.43 × 0.43	49	皿状	直立	自然	土師器片	SI31 →本跡
192	C3j7	-	円形	0.57 × 0.52	33	凹凸	緩斜	自然	土師器片	
193	C3j6	N - 9° - W	楕円形	1.08 × 0.83	36	平坦	外傾	人為	土師器片, 縄文土器片	
210	B3g1	-	[方形・長方形]	1.94 × (0.80)	25	平坦	外傾	人為	土師器片, 縄文土器片	
228	B3j2	N - 38° - W	楕円形	0.68 × 0.52	48	平坦	外傾	人為	土師器片	
244	D3j9	N - 77° - W	楕円形	1.52 × 0.73	55	平坦	外傾	自然	土師器片	SI17 →本跡
275	C3i6	N - 62° - W	楕円形	0.90 × 0.68	60	凹凸	緩斜	人為	土師器片	
276	C3i7	N - 5° - E	楕円形	0.51 × 0.36	63	鍋底状	緩斜	人為	土師器片	
282	A1i9	N - 28° - E	楕円形	3.08 × 2.54	44	平坦	緩斜	人為	土師器片, 縄文土器片	

4 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明らかでない竪穴建物跡1棟、井戸跡1基、土坑230基、溝跡12条、ピット群12か所を確認した。竪穴建物跡、井戸跡、溝跡、ピット群は文章を記載し、土坑については実測図と一覽表のみを掲載する。

(1) 竪穴建物跡

第15号竪穴建物跡 (第95図)

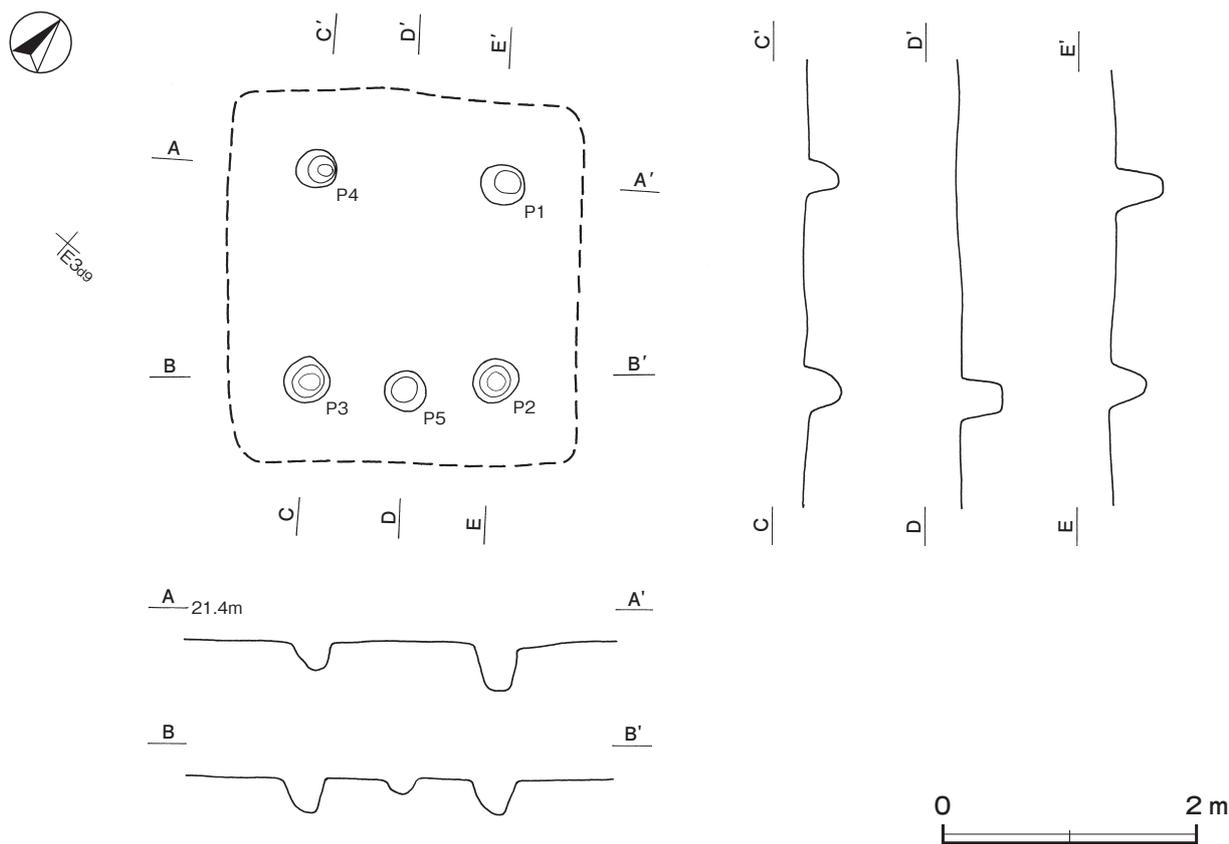
位置 調査区中央部のE3c9区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 床面まで削平されており、ピットのみを確認した。

規模と形状 ピットの配置から、長軸 2.9 mほど、短軸 2.8 mほどの方形で、主軸方向はN - 39° - Wと推定できる。

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 21～36cmで、規模と配置から支柱穴と推定できる。P 5は深さ 35cmで、支柱穴との位置関係から、出入口施設に伴うピットと考えられる。

所見 時期は、土器が出土していないことから不明である。

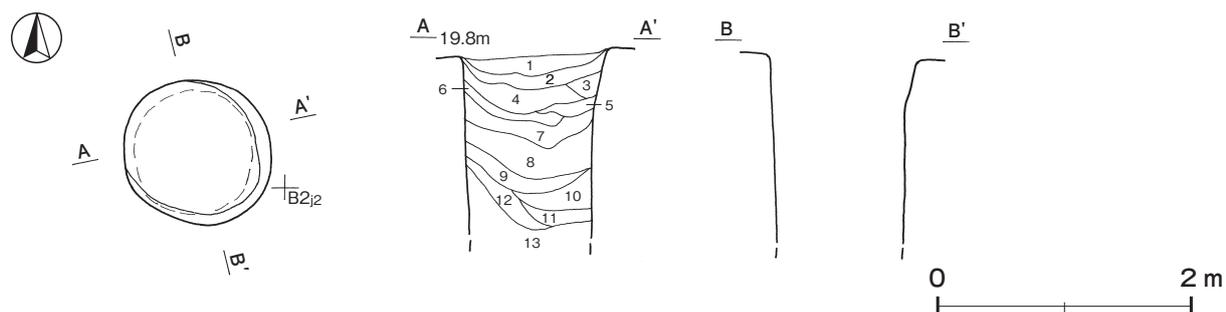


第 95 図 第 15 号竪穴建物跡実測図

(2) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 96 図)

位置 調査区北西部の B 2 h1 区、標高 20 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 96 図 第 1 号井戸跡実測図

規模と形状 確認面は径 1.21 m の円形で、円筒状に掘り下げている。深さ 148cm まで掘り下げた時点で崩落の危険があることから、下部の調査を断念した。

覆土 13 層に分層できる。多くの層にロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 4 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 11 灰褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 6 灰褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| | | 13 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |

所見 素掘りの構造である。時期は、土器が出土していないことから不明であるが、本跡周辺から近現代の住居の痕跡が確認されていることから、明治期以降の可能性はある。

(3) 土坑 (第 97 ~ 108 図)

第 4 号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 暗褐色
- 4 褐色
- 5 暗褐色

第 7 号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 褐色
- 3 暗褐色
- 4 褐色

第 10 号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 暗褐色

第 11 号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 暗褐色
- 3 暗褐色

第 14 号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 にぶい褐色
- 3 極暗褐色
- 4 暗褐色

第 19 号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 褐色
- 3 褐色

第 20 号土坑土層解説

- 1 黒褐色
- 2 暗褐色
- 3 黒褐色

第 24 号土坑土層解説

- 1 黒褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色

第 28 号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 暗褐色

第 30 号土坑土層解説

- 1 暗褐色

第 31 号土坑土層解説

- 1 暗褐色

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色

第 34 号土坑土層解説

- 1 暗褐色
- 2 褐色

第 39 号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 暗褐色
- 3 褐色

第 40 号土坑土層解説

- 1 褐色
- 2 褐色
- 3 褐色

第 41 号土坑土層解説

- 1 明褐色
- 2 褐色

第 42 号土坑土層解説

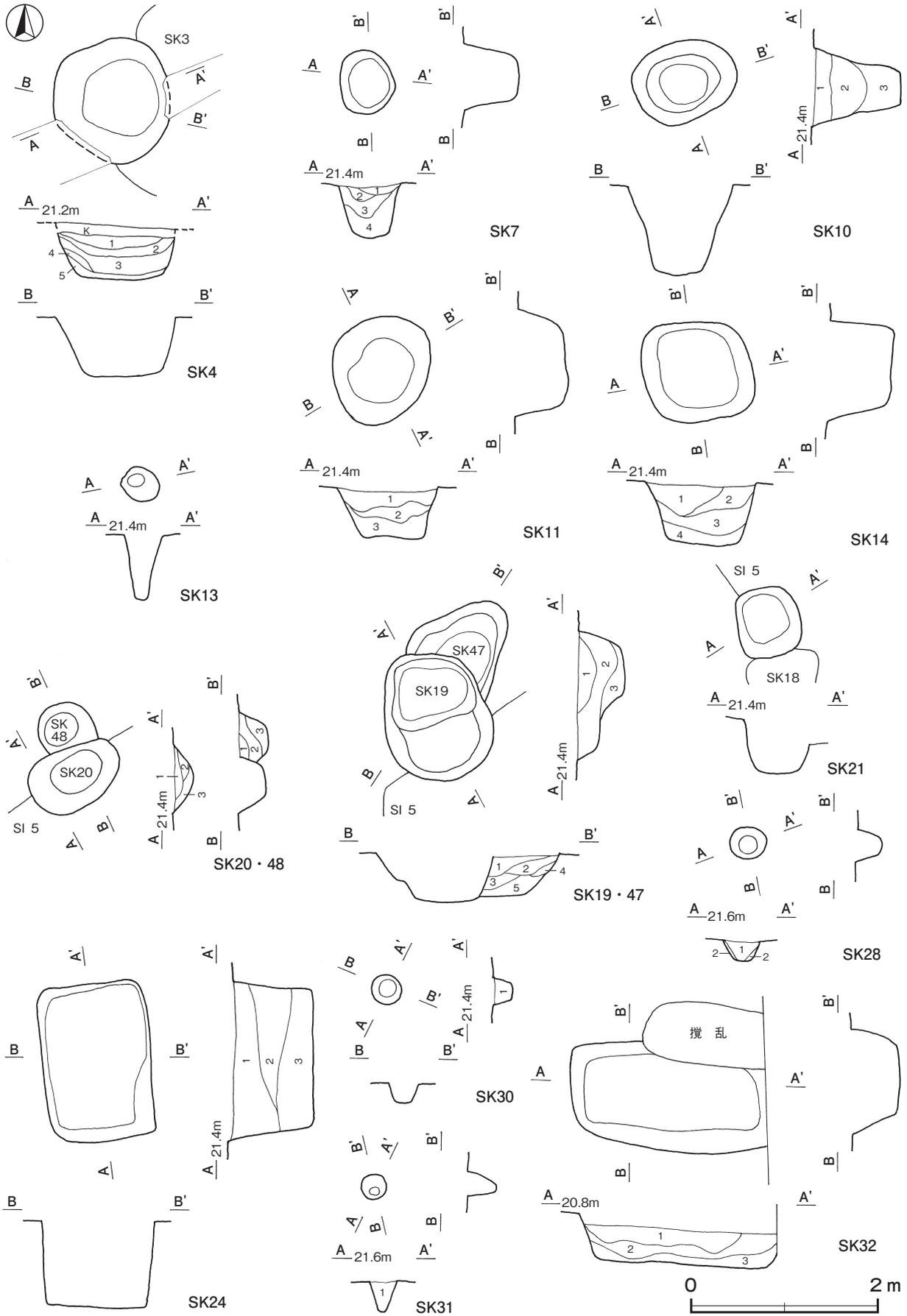
- 1 暗褐色
- 2 暗褐色

第 44 号土坑土層解説

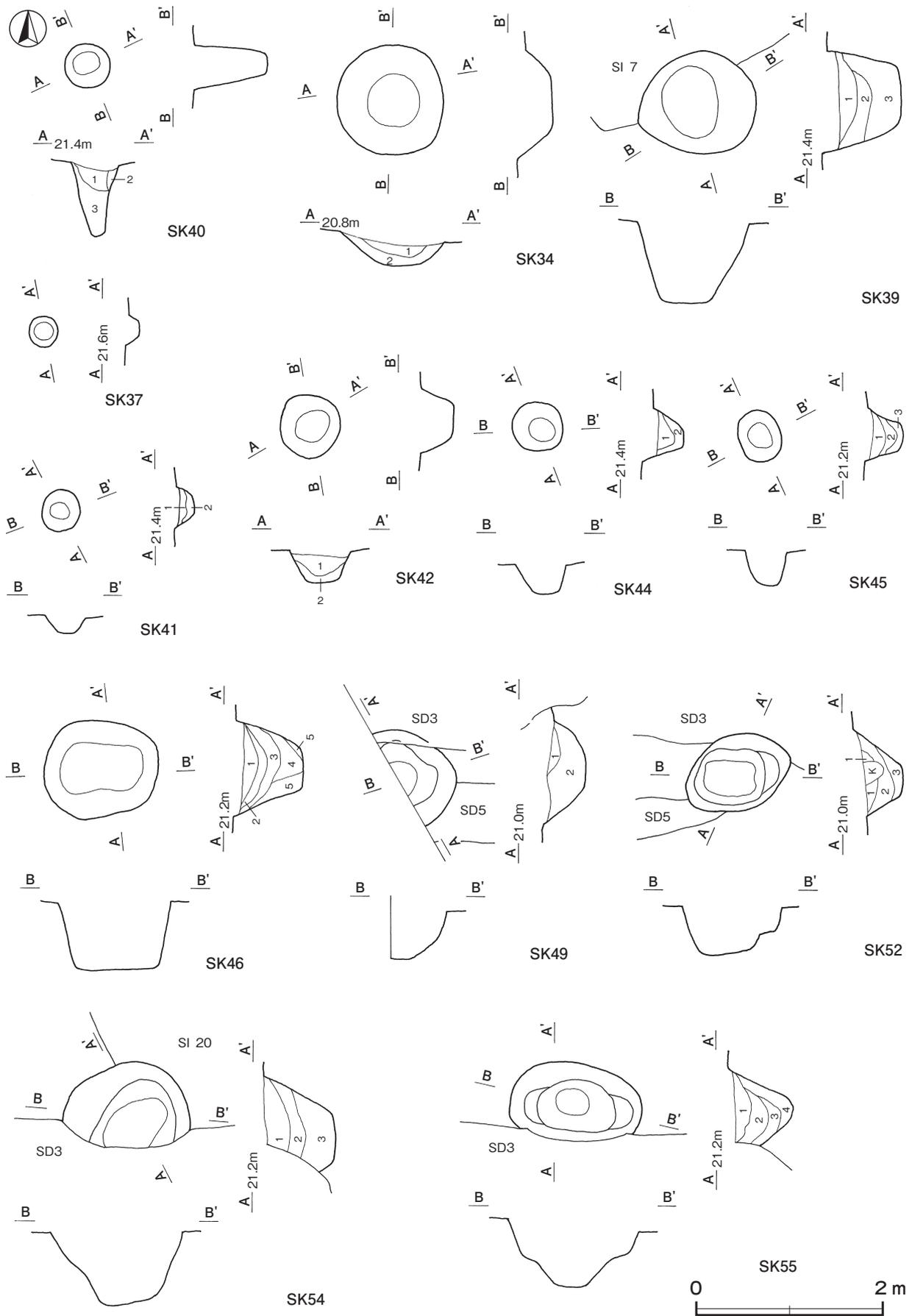
- 1 暗褐色
- 2 褐色

第 45 号土坑土層解説

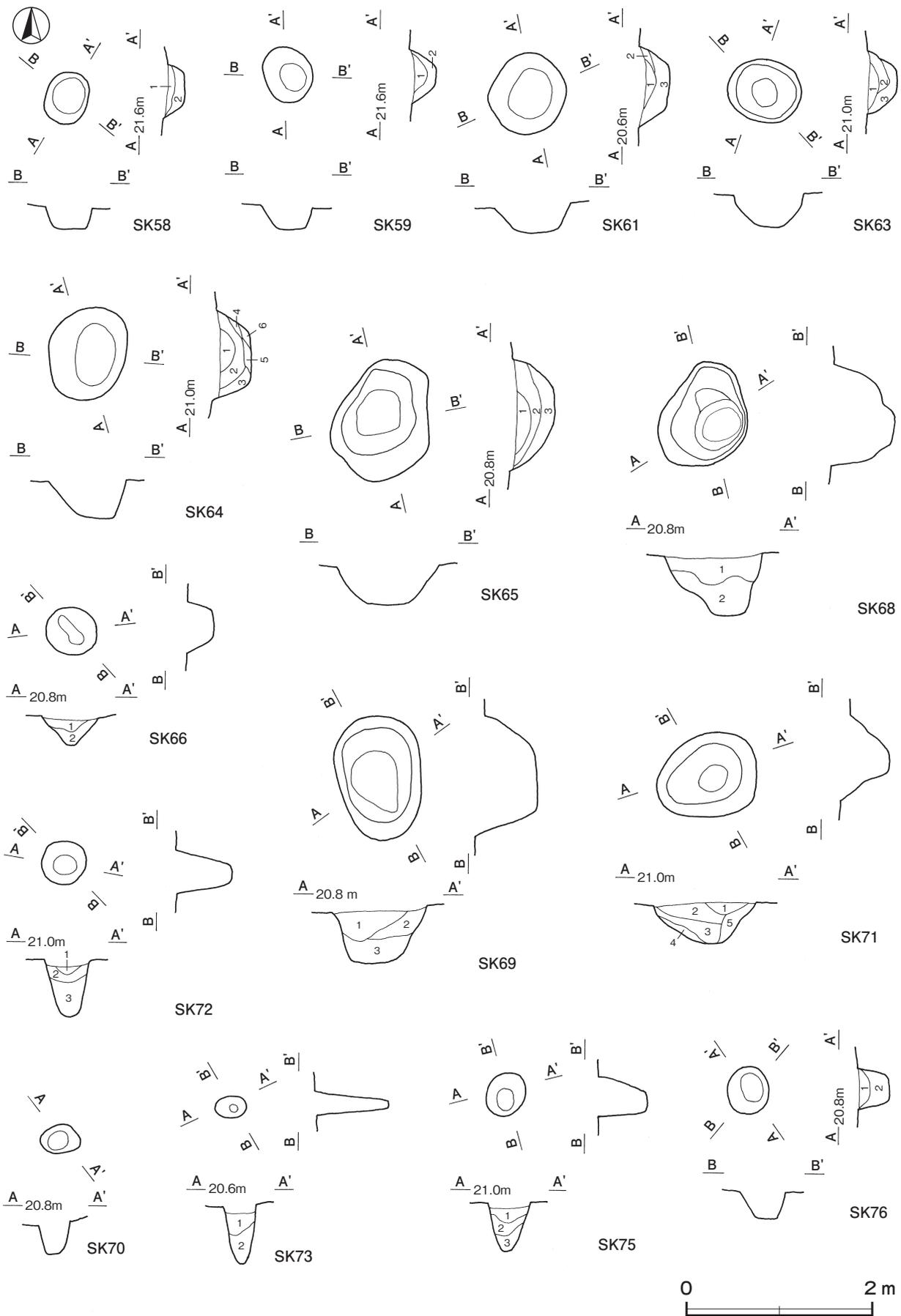
- 1 暗褐色
- 2 褐色
- 3 暗褐色



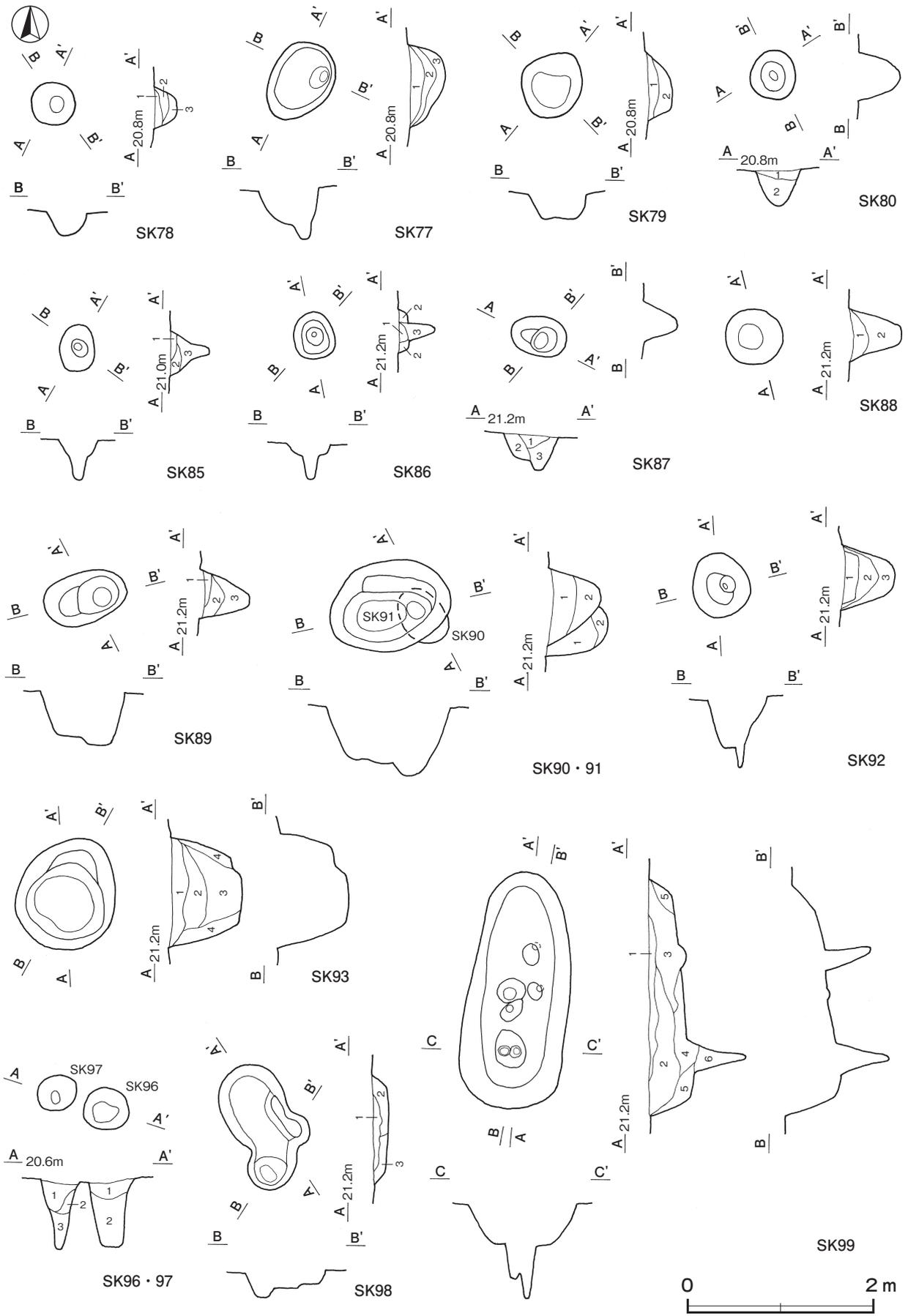
第97図 その他の土坑実測図(1)



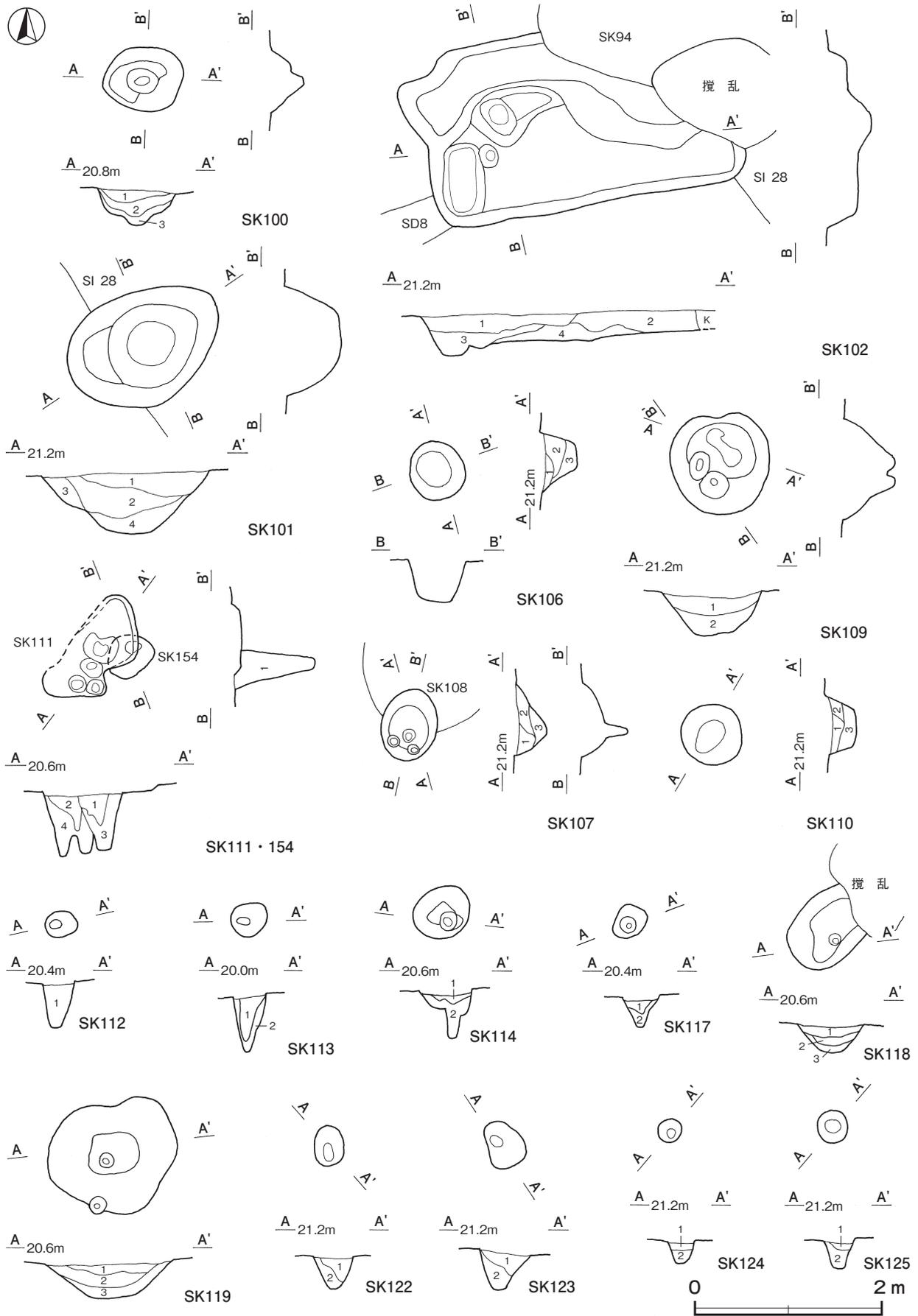
第 98 図 その他の土坑実測図 (2)



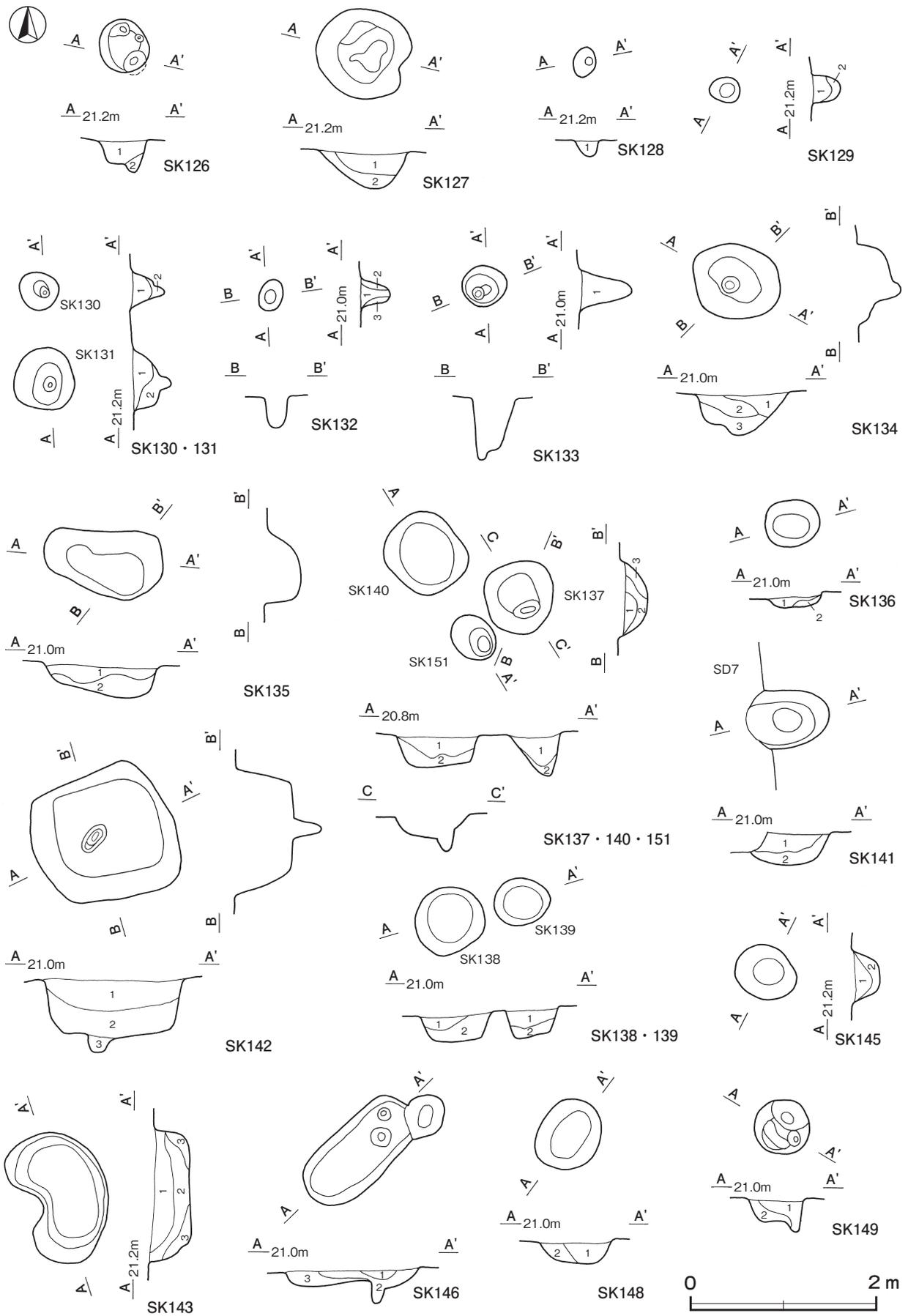
第99図 その他の土坑実測図(3)



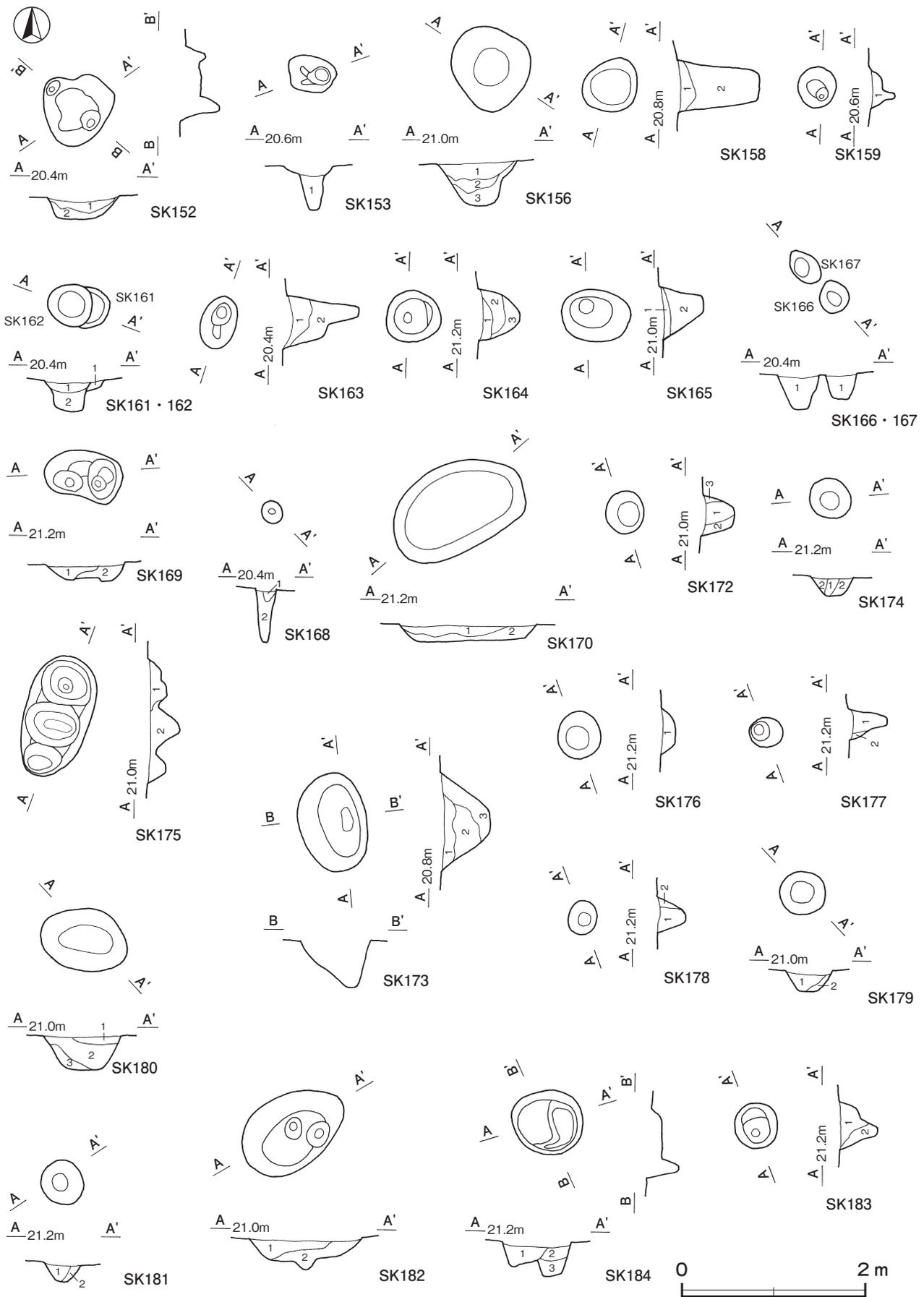
第 100 図 その他の土坑実測図 (4)



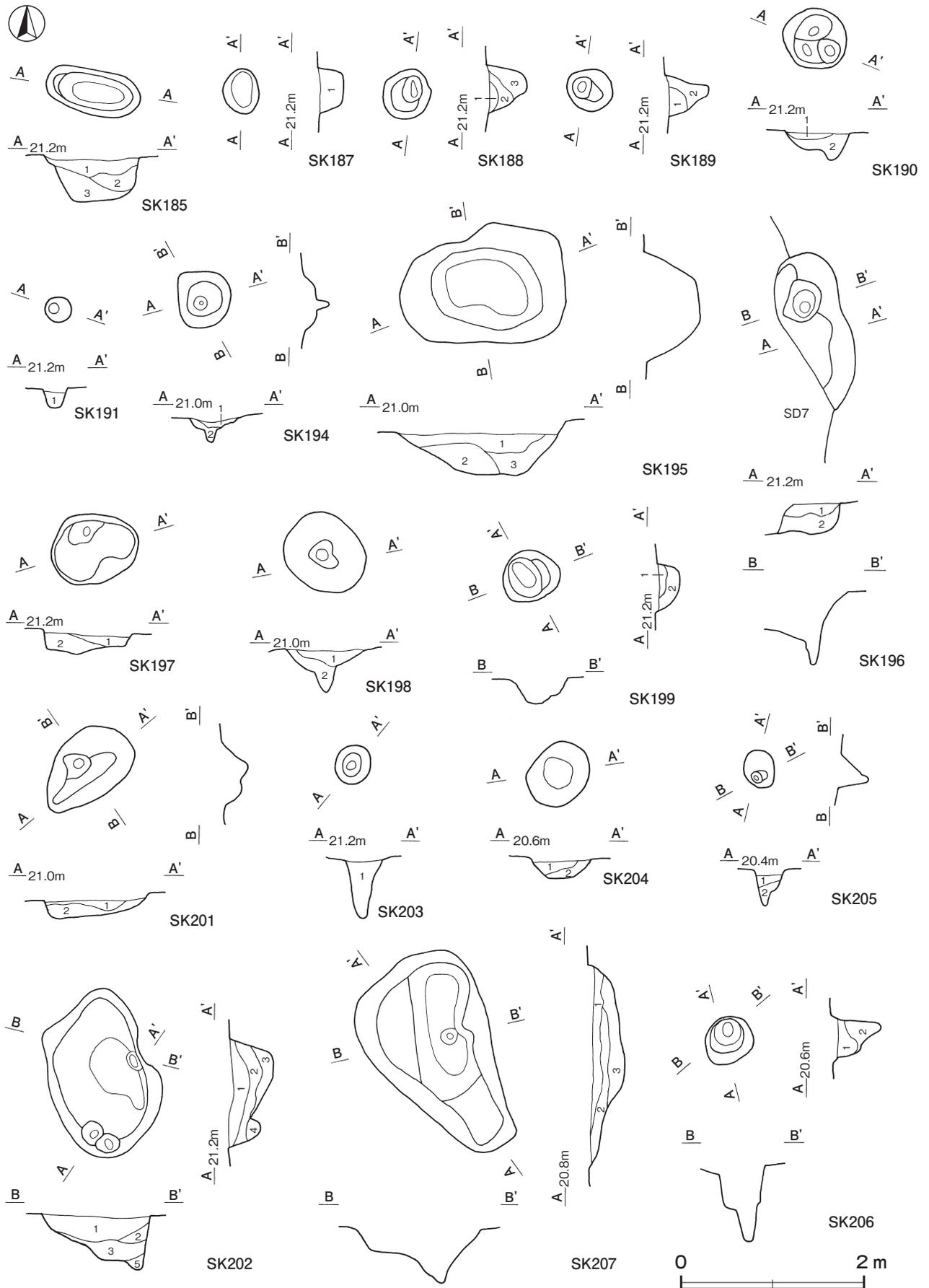
第 101 図 その他の土坑実測図 (5)



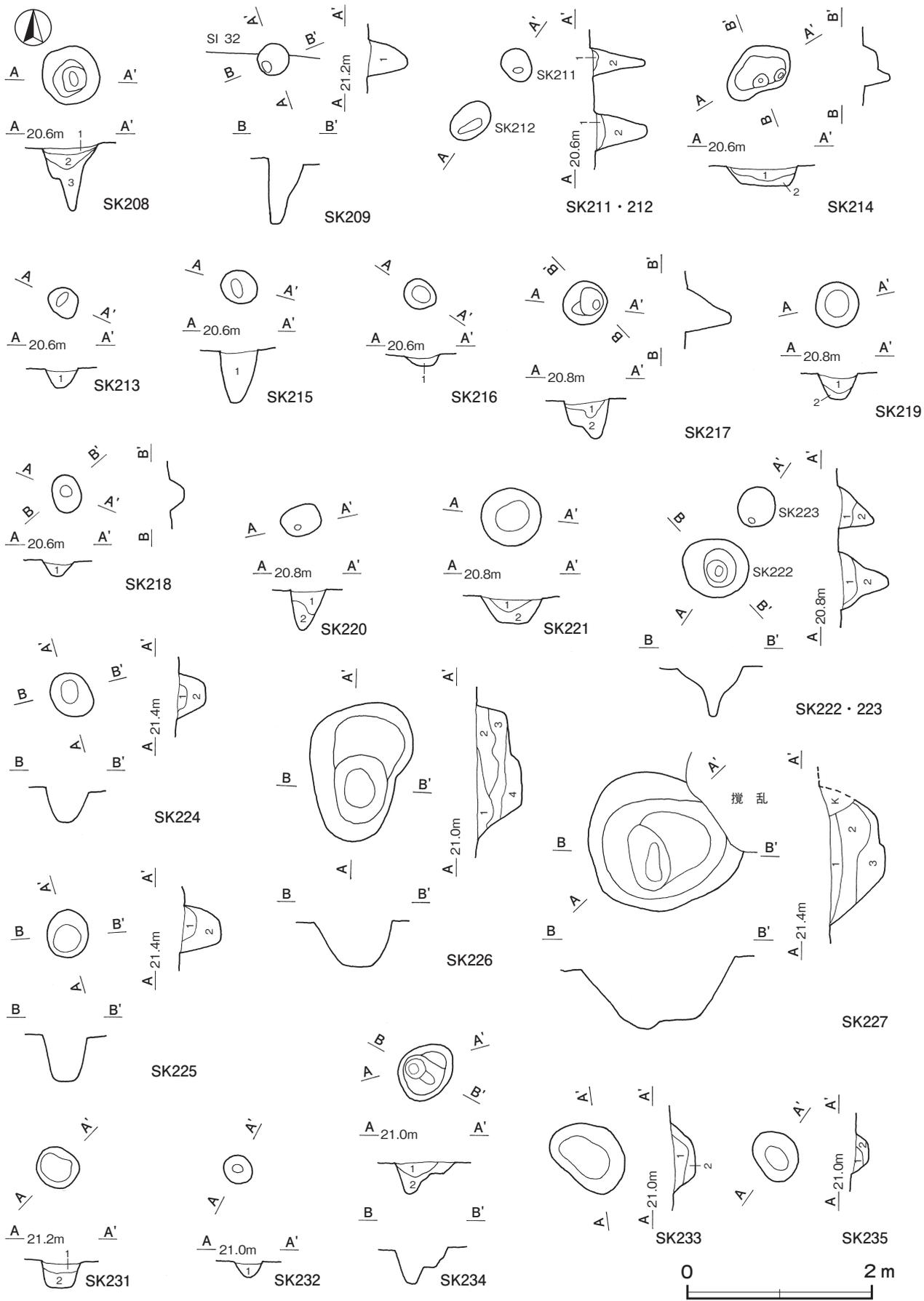
第 102 図 その他の土坑実測図 (6)



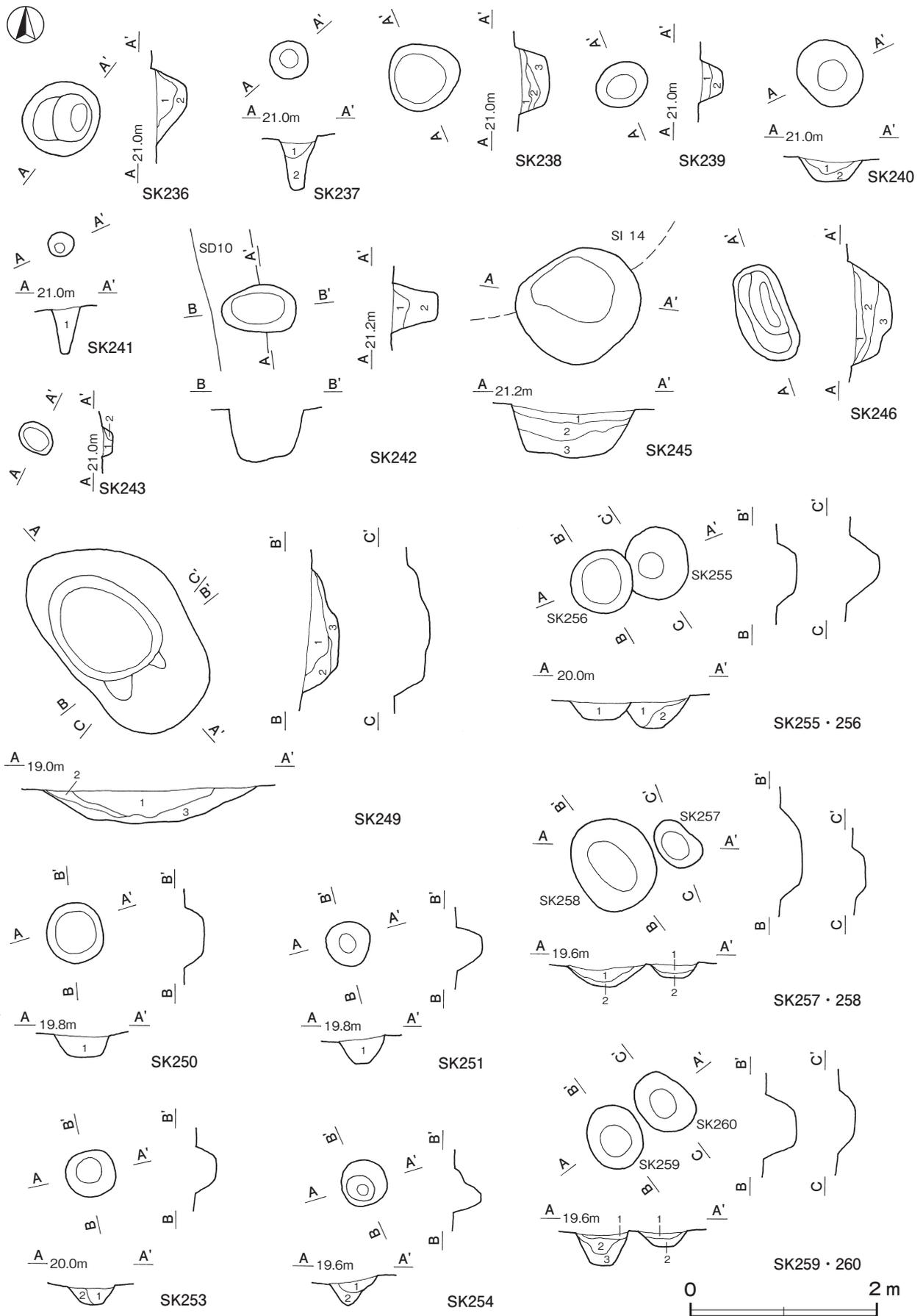
第 103 図 その他の土坑実測図 (7)



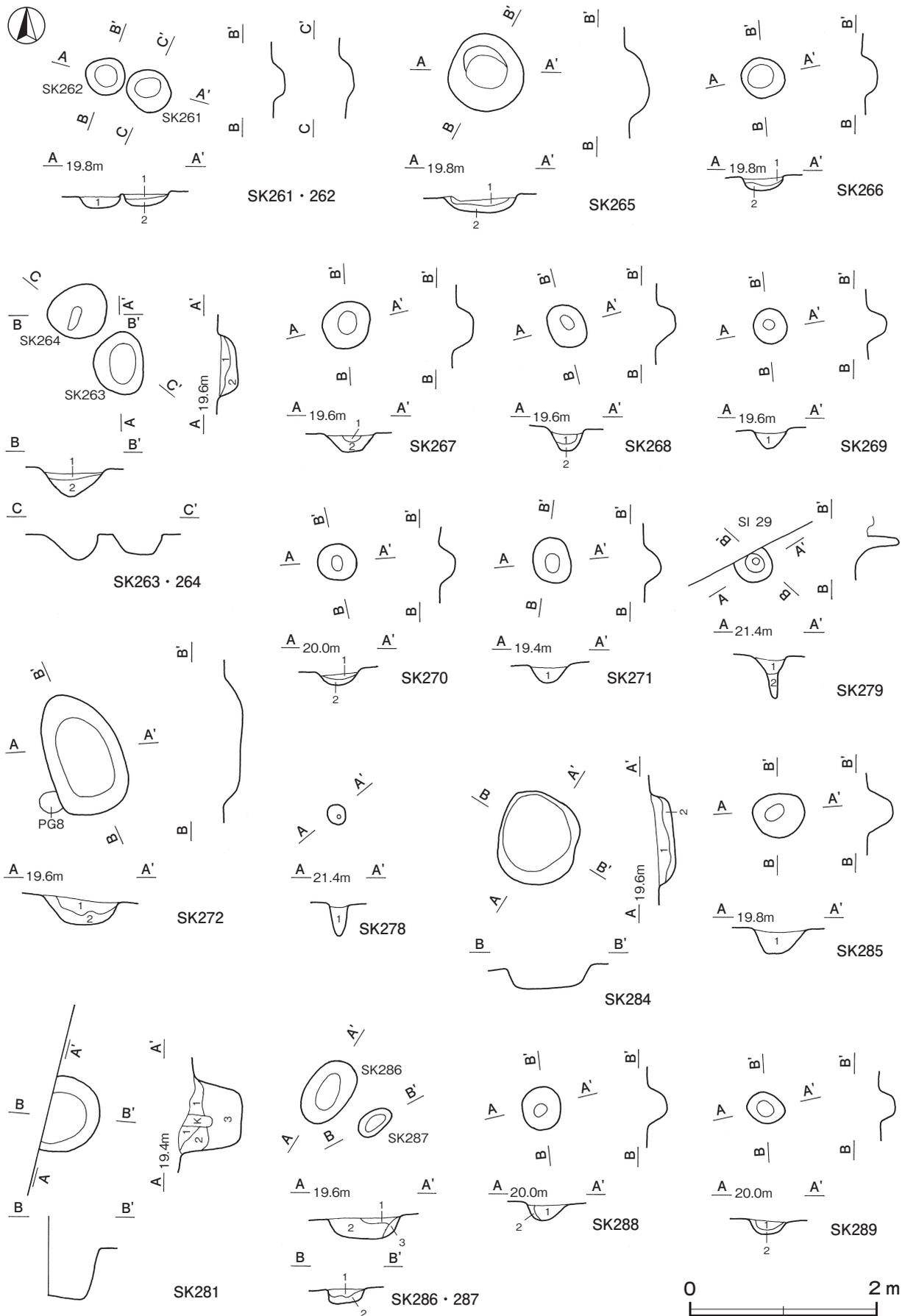
第 104 図 その他の土坑実測図 (8)



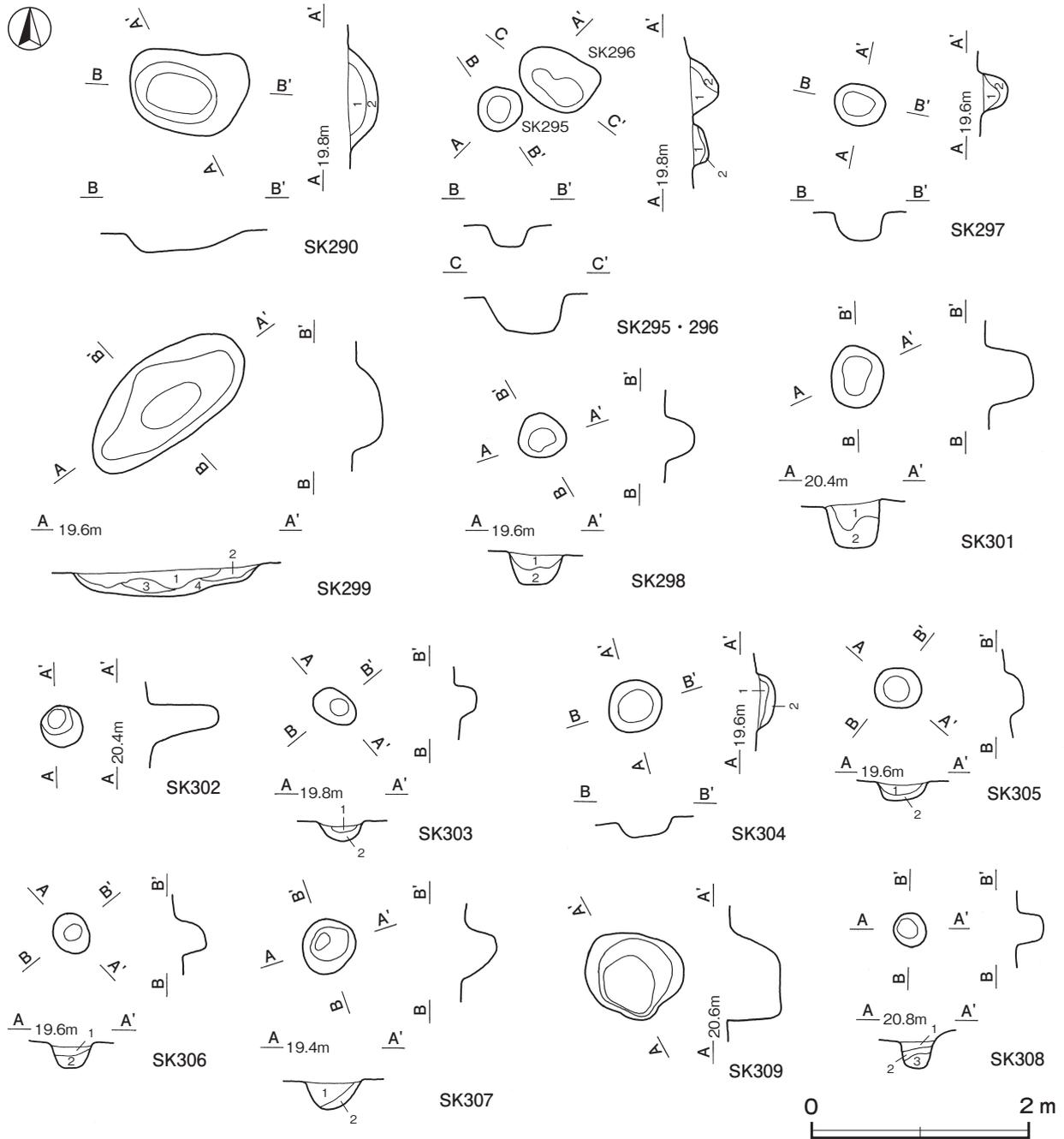
第 105 図 その他の土坑実測図 (9)



第 106 図 その他の土坑実測図 (10)



第 107 図 その他の土坑実測図 (11)



第 108 図 その他の土坑実測図 (12)

第 46 号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 47 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 48 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 49 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 52 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 55 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

第 58 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 59 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 61 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 63 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量

第 64 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 6 褐 色 ロームブロック少量

第 65 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 66 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 68 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第 69 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量

第 71 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 炭化粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 72 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子微量

第 73 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 75 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量

第 76 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 77 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 78 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 79 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 80 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量

第 85 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 86 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化材微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 87 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化材微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 88 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 89 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 90 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子微量

第 91 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 92 号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 93 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 4 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量

第 96 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 97 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 炭化粒子多量

第 98 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 99 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 褐 色 ローム粒子中量

第 100 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第 101 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 102 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ローム粒子中量

第 106 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 107 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 109 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 110 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 111 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 112 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 113 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 114 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 117 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 118 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 119 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第 122 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 123 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 124 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 125 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 126 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 127 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 128 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 129 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 130 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 131 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 明 褐 色 ローム粒子多量

第 132 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第 133 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量

第 134 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 135 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 137 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 炭化材・ローム粒子少量

第 138 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 139 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 140 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 142 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 145 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 146 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 148 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 149 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 151 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 152 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 153 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック少量

第 154 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量

第 156 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 158 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 159 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 161 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 162 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 163 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量

第 164 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第 165 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 166 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 167 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

第 168 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 169 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 170 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子微量

第 172 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 173 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 174 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 175 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 176 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 177 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 178 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 179 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量

第 180 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 181 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 182 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 183 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 184 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 185 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 187 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 188 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 189 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 190 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 191 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子少量

第 194 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第 195 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 196 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 197 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 198 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 199 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 201 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 202 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ローム粒子少量
- 5 褐 色 ローム粒子中量

第 203 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 204 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 205 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子微量

第 206 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 207 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ローム粒子微量

第 208 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 209 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 211 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 212 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 213 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 214 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 215 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 216 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第 217 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 218 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子少量

第 219 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第 220 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 221 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 222 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 223 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 224 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 225 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 226 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 227 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 231 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量

第 232 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 233 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 234 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 235 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 236 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 237 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量

第 238 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 239 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 240 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 241 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 242 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 243 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 245 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 246 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第 249 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 におい黄褐色 粘土ブロック多量

第 250 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 251 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 253 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子微量

第 254 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 255 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 256 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 257 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 258 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 259 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 260 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 261 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 262 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 263 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 264 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量

第 265 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 266 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 267 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 268 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 269 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量

第 270 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量

第 271 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 272 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 278 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 279 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子少量

第 281 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 284 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 285 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 286 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 287 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子微量

第 288 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 289 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子中量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第 290 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量

第 295 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 296 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 297 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 298 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 299 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 301 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 303 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 304 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 305 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 306 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 307 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第 308 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

表8 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	E4c6	-	円形	1.36 × 1.25	60	平坦	外傾	自然		SK3 →本跡
7	E4i3	N - 1° - W	楕円形	0.70 × 0.60	60	平坦	外傾	自然	土師器片, 土師質土器片, 陶器片	
10	E3h9	N - 86° - E	楕円形	1.13 × 0.85	97	平坦	外傾	人為		
11	E4g1	N - 12° - E	楕円形	1.20 × 1.05	55	平坦	外傾	人為		
13	E3h9	N - 60° - W	楕円形	0.40 × 0.35	70	平坦	直立	-		
14	F4e6	N - 83° - E	方形	1.18 × 1.08	68	平坦	直立	人為		
19	E4j6	N - 15° - W	楕円形	1.44 × 1.13	40	平坦	緩斜	人為	土製品	SK47 →本跡
20	E4j6	N - 55° - E	楕円形	1.00 × 0.60	25	平坦	緩斜	人為		SK48 →本跡
21	F4a6	N - 16° - W	隅丸方形	0.73 × 0.68	53	平坦	外傾	-		SI5, SK18 →本跡
24	E4i5	N - 8° - W	長方形	1.70 × 1.15	94	平坦	直立	人為	土師器片, 土師質土器片, 陶器片, 瓦片	
28	E3h0	N - 70° - E	楕円形	0.39 × 0.35	26	皿状	外傾	自然		
30	E3g0	-	円形	0.32 × 0.30	22	皿状	外傾	自然		
31	E3g0	-	円形	0.26 × 0.26	29	皿状	外傾	自然	陶器片	
32	E4f9	N - 88° - W	長方形	(2.09) × 1.13	50	平坦	外傾	人為	土師器片, 土師質土器片, 瓦片	
34	E4f9	-	円形	1.16 × 1.13	30	平坦	緩斜	自然		
37	E3h0	-	円形	0.32 × 0.32	14	平坦	緩斜	-		
39	E4f1	N - 75° - E	楕円形	1.30 × 1.07	65	平坦	外傾・緩斜	人為		SI7 →本跡
40	E3b6	-	円形	0.49 × 0.48	72	平坦	直立	人為		
41	E3b5	N - 120° - E	楕円形	0.47 × 0.40	18	平坦	緩斜	人為		
42	E3b5	-	円形	0.68 × 0.63	34	平坦	外傾	人為		
44	E3a5	-	円形	0.53 × 0.53	40	平坦	外傾	自然		
45	E3a5	N - 24° - W	楕円形	0.56 × 0.43	38	皿状	外傾	自然		
46	E3a5	N - 70° - E	楕円形	1.30 × 1.05	70	平坦	直立	自然		
47	E4j6	N - 30° - E	[楕円形]	(0.83) × 0.80	38	平坦	緩斜	自然・人為		本跡 → SK19
48	E4j6	N - 54° - E	[円形・楕円形]	0.60 × (0.53)	32	平坦	緩斜	自然・人為		本跡 → SK20
49	D3i3	-	[円形]	1.13 × (0.58)	37	皿状	緩斜	人為		SD5 →本跡 → SD3
52	D3i4	N - 63° - E	楕円形	1.17 × 0.80	46	平坦	外傾・緩斜	自然		SD3・5 →本跡
54	D3i8	-	[円形・楕円形]	1.32 × (0.90)	73	平坦	外傾	人為		SI20 →本跡 → SD3
55	D3i0	N - 82° - W	楕円形	1.40 × (0.77)	62	皿状	外傾	人為		本跡 → SD3
58	E4i1	N - 30° - E	楕円形	0.55 × 0.45	23	平坦	外傾	人為		
59	E4h2	N - 43° - W	楕円形	0.62 × 0.53	25	平坦	緩斜	自然		
61	D3g1	N - 20° - E	楕円形	0.87 × 0.77	28	平坦	緩斜	自然		
63	D3i3	N - 70° - W	楕円形	0.77 × 0.66	36	皿状	緩斜	自然		
64	D3h3	N - 15° - E	楕円形	1.04 × 0.83	43	平坦	緩斜	自然		
65	D3g3	N - 21° - E	楕円形	1.33 × 1.07	44	皿状	緩斜	人為		
66	D3g2	-	円形	0.56 × 0.52	32	平坦	外傾・緩斜	人為		
68	D3g2	N - 14° - E	楕円形	1.18 × 0.90	67	段状	外傾・緩斜	人為		
69	D3h2	N - 7° - W	楕円形	1.34 × 0.92	60	平坦	緩斜	自然・人為		
70	D3h2	N - 71° - E	楕円形	0.41 × 0.30	27	平坦	外傾	-		
71	D3i2	N - 66° - E	楕円形	1.14 × 0.92	50	平坦	緩斜	人為		
72	D3h3	-	円形	0.48 × 0.46	60	平坦	外傾	自然		
73	D3g1	N - 85° - E	楕円形	0.34 × 0.23	78	鍋底状	直立	自然		
75	D3i3	N - 28° - E	楕円形	0.50 × 0.41	53	平坦	外傾	自然		
76	D3c2	N - 6° - E	楕円形	0.51 × 0.45	32	平坦	外傾	自然		
77	D3b2	N - 25° - E	楕円形	0.90 × 0.66	58	皿状	直立・緩斜	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
78	D3b3	-	円形	0.45 × 0.45	26	平坦	外傾	自然		
79	D3c3	N - 27° - E	楕円形	0.76 × 0.64	32	平坦	外傾・緩斜	人為		
80	D3a2	-	円形	0.53 × 0.49	45	皿状	外傾	人為		
85	D3e5	N - 10° - E	楕円形	0.51 × 0.36	44	皿状	外傾	人為		
86	D3h5	N - 17° - W	楕円形	0.48 × 0.42	40	凹凸	外傾	人為		
87	D3h5	N - 72° - W	楕円形	0.60 × 0.41	39	段状	外傾	人為		
88	D3h5	-	円形	0.69 × 0.62	57	平坦	外傾	人為		
89	D3i6	N - 69° - E	楕円形	0.90 × 0.56	58	鍋底状	外傾	人為		
90	D3i6	N - 34° - W	[楕円形]	[0.6 × 0.5]	75	皿状	外傾	人為		本跡→SK91
91	D3i6	N - 72° - E	楕円形	1.33 × 0.95	61	皿状	緩斜・外傾	人為		SK90→本跡
92	D3i7	N - 25° - W	楕円形	0.68 × 0.60	77	鍋底状	外傾	自然		
93	D3h7	N - 23° - E	楕円形	1.25 × 1.04	76	平坦	外傾	自然		
96	D2c0	N - 73° - W	楕円形	0.50 × 0.44	73	平坦	直立	人為		
97	D2c0	N - 66° - E	楕円形	0.43 × 0.36	75	鍋底状	直立	人為		
98	D3e8	N - 10° - W	不整楕円形	1.37 × 0.79	26	凹凸	外傾	人為	縄文土器片, 土師器片	
99	D3e8	N - 4° - E	楕円形	2.56 × 1.07	102	凹凸	外傾・緩斜	自然・人為	縄文土器片, 土師器片, 陶器片	
100	C3j2	N - 76° - W	楕円形	0.79 × 0.71	36	鍋底状	緩斜	自然		
101	C3i3	N - 62° - E	楕円形	1.55 × 1.26	66	皿状	外傾・緩斜	人為		SI28→本跡
102	C3h2	N - 79° - E	長方形	3.38 × 1.93	30	凹凸	緩斜	人為	土師器片, 瓦片	SI28, SD8→本跡→SK94
106	D3b8	-	円形	0.63 × 0.59	45	平坦	外傾	自然		
107	D3b8	N - 9° - E	楕円形	0.76 × 0.59	50	鍋底状	緩斜	人為		SK108→本跡
109	D3c9	-	円形	1.12 × 1.08	57	凹凸	緩斜	人為		SI27→本跡
110	D3d7	-	円形	0.66 × 0.66	27	平坦	外傾	自然		
111	D2b0	N - 41° - E	不定形	1.32 × (0.60)	75	凹凸	外傾	人為		SK154→本跡
112	D2b9	N - 59° - E	楕円形	0.35 × 0.27	50	鍋底状	直立・外傾	人為	土師器片, 磁器片, 鉄製品	
113	D2b9	N - 50° - E	楕円形	0.41 × 0.35	64	鍋底状	直立・外傾	人為		
114	D2b0	N - 35° - E	楕円形	0.63 × 0.54	50	鍋底状	外傾	人為		
117	C2j8	N - 34° - E	楕円形	0.38 × 0.30	33	皿状	外傾	人為		
118	C2h8	N - 50° - E	[楕円形]	(0.88) × 0.68	40	凹凸	緩斜	人為		
119	C2g9	N - 84° - E	不整楕円形	1.41 × 1.26	59	凹凸	緩斜	人為		
122	D3e8	N - 6° - W	楕円形	0.42 × 0.32	38	皿状	外傾	人為		
123	D3d7	N - 32° - W	楕円形	0.52 × 0.40	46	皿状	外傾・緩斜	人為		
124	D3e7	-	円形	0.26 × 0.24	26	皿状	外傾	人為		
125	D3e7	-	円形	0.34 × 0.33	31	皿状	外傾	人為		
126	D3e9	-	円形	0.58 × 0.53	36	凹凸	外傾	人為		
127	D3e9	-	円形	0.95 × 0.95	38	皿状	緩斜	自然		
128	D3d9	N - 4° - E	楕円形	0.34 × 0.24	17	皿状	外傾	人為		
129	D3d8	N - 90°	楕円形	0.34 × 0.23	35	皿状	外傾	自然		
130	D3c7	-	円形	0.67 × 0.65	40	皿状	外傾	人為		
131	D3b7	-	円形	0.43 × 0.40	38	皿状	外傾・緩斜	人為		
132	D3e4	N - 25° - E	楕円形	0.35 × 0.25	35	皿状	直立	人為		
133	D3e4	N - 81° - E	楕円形	0.50 × 0.43	69	凹凸	直立・緩斜	人為		
134	D3e4	N - 61° - W	楕円形	1.02 × 0.80	44	凹凸	外傾・緩斜	自然		
135	D3e4	N - 76° - W	楕円形	1.28 × 0.73	38	皿状	外傾・緩斜	自然		
136	D3d4	N - 79° - E	楕円形	0.58 × 0.52	10	平坦	緩斜	人為		
137	D3d3	-	円形	0.82 × 0.77	40	凹凸	緩斜	人為		
138	D3d3	-	円形	0.77 × 0.75	27	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
139	D3d3	N-77°-E	楕円形	0.60×0.50	30	平坦	外傾	人為		
140	D3d3	N-33°-W	隅丸長方形	0.87×0.76	33	平坦	外傾	自然	土師器片, 陶器片	
141	D3e6	N-87°-E	[楕円形]	(0.86)×0.64	43	皿状	緩斜	自然		本跡→SD7
142	D3c4	N-75°-E	隅丸方形	1.50×1.43	93	凹凸	外傾	人為		
143	D3b6	N-21°-W	不定形	1.43×0.70	43	平坦	外傾	自然		
145	D3c4	N-60°-W	楕円形	0.65×0.56	28	皿状	緩斜	自然		
146	D3b4	N-45°-E	不定形	1.70×0.68	59	凹凸	緩斜	人為		
148	D3c3	N-32°-E	楕円形	0.80×0.65	27	平坦	外傾・緩斜	人為		
149	D3c4	-	円形	0.59×0.59	36	凹凸	直立・外傾	人為		
151	D3d3	N-41°-W	楕円形	0.53×0.45	43	皿状	外傾・緩斜	人為		
152	D2a0	-	不定形	0.79×0.78	42	凹凸	外傾・緩斜	自然		
153	D2b0	N-67°-W	楕円形	0.50×0.38	47	鍋底状	外傾	自然		
154	D2b0	N-38°-E	[楕円形]	0.49×[0.43]	85	鍋底状	外傾	人為		本跡→SK111
156	D3c3	-	円形	0.93×0.85	47	皿状	緩斜	自然		
158	D3d3	N-40°-E	楕円形	0.67×0.56	90	平坦	外傾	自然		
159	D3c3	-	円形	0.44×0.40	27	鍋底状	緩斜	自然		
161	D2b0	-	[円形]	0.44×(0.20)	11	平坦	外傾	自然		本跡→SK162
162	D2b0	-	円形	0.43×0.26	33	平坦	緩斜	自然		SK161→本跡
163	D3b1	N-13°-E	楕円形	0.56×0.37	82	鍋底状	外傾・緩斜	人為		
164	D3b4	-	円形	0.57×0.56	45	皿状	緩斜	自然		
165	D3b4	N-74°-W	楕円形	0.73×0.56	50	皿状	外傾・緩斜	自然		
166	D2b9	-	円形	0.35×0.32	30	平坦	外傾	人為		
167	D2b9	N-45°-W	楕円形	0.42×0.25	40	平坦	外傾	人為		
168	D2b9	-	円形	0.24×0.22	60	鍋底状	外傾	人為		
169	D3b5	N-80°-W	楕円形	0.83×0.50	34	凹凸	緩斜	人為		
170	D3b5	N-55°-E	楕円形	1.50×0.95	16	平坦	緩斜	自然		
172	D3b4	N-33°-W	楕円形	0.45×0.40	37	平坦	外傾	人為		
173	D3g3	N-6°-W	楕円形	1.07×0.73	54	皿状	外傾・緩斜	自然		
174	D3b5	-	円形	0.45×0.44	22	平坦	緩斜	人為		
175	D3d5	N-16°-E	楕円形	1.34×0.69	39	凹凸	緩斜	人為		
176	D3a4	N-4°-E	楕円形	0.53×0.46	14	平坦	緩斜	自然		
177	D3a4	-	円形	0.36×0.30	40	鍋底状	外傾	人為		
178	D3a4	N-10°-E	楕円形	0.35×0.30	30	皿状	外傾	人為		
179	D3a4	-	円形	0.49×0.49	24	平坦	緩斜	人為		
180	D3a4	N-88°-W	楕円形	0.95×0.70	38	平坦	緩斜	人為		
181	C3i3	N-33°-W	楕円形	0.50×0.44	21	皿状	緩斜	人為		
182	C3i3	N-58°-E	楕円形	1.21×0.78	37	凹凸	緩斜	人為		
183	D3a7	N-20°-W	楕円形	0.50×0.45	43	皿状	外傾	人為		
184	D3a7	N-78°-W	楕円形	0.77×0.68	34	凹凸	外傾	人為		
185	C3j8	N-75°-W	楕円形	1.04×0.50	50	平坦	外傾	自然		
187	C3j4	N-2°-W	楕円形	0.48×0.38	29	平坦	外傾	人為		
188	C3j4	-	円形	0.53×0.53	43	皿状	外傾	自然		
189	C3j4	-	円形	0.49×0.45	47	皿状	外傾	自然		
190	C3j4	-	円形	0.71×0.67	39	凹凸	緩斜	自然		
191	C3j4	-	円形	0.27×0.27	25	平坦	外傾	自然		
194	C3f1	-	円形	0.65×0.65	30	皿状	緩斜	人為		
195	C3f1	N-64°-E	楕円形	1.87×1.20	60	平坦	緩斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
196	D3c6	N - 14° - W	[不整楕円形]	1.75 × (0.81)	80	皿状	外傾	自然		本跡→SD7
197	C3d3	N - 74° - E	楕円形	0.97 × 0.78	49	凹凸	直立	自然		
198	C3e2	N - 33° - W	楕円形	0.94 × 0.80	52	皿状	緩斜	自然		
199	C3i6	N - 64° - E	楕円形	0.65 × 0.54	27	皿状	外傾・緩斜	自然		
201	C3g1	N - 51° - E	楕円形	1.13 × 0.71	28	凹凸	外傾・緩斜	自然		
202	C3d2	N - 2° - W	不整楕円形	1.83 × 1.21	59	凹凸	直立・緩斜	自然		
203	C3d2	-	円形	0.43 × 0.40	66	皿状	外傾	自然		
204	C2f9	N - 38° - E	楕円形	0.71 × 0.60	21	皿状	緩斜	自然		
205	C2h8	N - 12° - W	楕円形	0.42 × 0.31	38	鍋底状	直立	自然		
206	C2g9	N - 38° - E	楕円形	0.56 × 0.50	80	鍋底状	直立	人為		
207	C2h0	N - 31° - W	不定形	2.30 × 1.43	58	凹凸	緩斜	自然	土師器片、陶器片	
208	C2g9	N - 53° - W	楕円形	0.69 × 0.63	73	鍋底状	外傾	自然		
209	B2g0	N - 30° - E	楕円形	0.34 × 0.30	74	鍋底状	直立・外傾	自然		SI32 →本跡
211	C2i9	N - 33° - W	楕円形	0.35 × 0.28	59	鍋底状	外傾	人為		
212	C2i9	N - 52° - E	楕円形	0.48 × 0.33	60	鍋底状	外傾	人為		
213	C2j9	N - 29° - W	楕円形	0.35 × 0.30	22	皿状	緩斜	自然		
214	C2j9	N - 55° - E	不定形	0.80 × 0.52	30	凹凸	外傾・緩斜	自然		
215	C2j0	N - 72° - W	楕円形	0.40 × 0.36	60	鍋底状	外傾	自然		
216	C2j0	N - 58° - W	楕円形	0.37 × 0.31	12	平坦	緩斜	自然		
217	C2i0	-	円形	0.49 × 0.45	50	鍋底状	外傾・緩斜	人為		
218	C2g9	N - 8° - W	楕円形	0.39 × 0.30	18	皿状	外傾・緩斜	自然		
219	C2h0	-	円形	0.48 × 0.47	28	平坦	外傾	自然		
220	C2h0	N - 67° - E	楕円形	0.43 × 0.35	46	皿状	外傾	人為		
221	C2i0	-	円形	0.65 × 0.61	30	平坦	緩斜	自然		
222	C3j1	N - 86° - W	楕円形	0.72 × 0.65	55	皿状	外傾・緩斜	自然		
223	C3i1	N - 31° - E	楕円形	0.45 × 0.40	40	皿状	外傾・緩斜	自然		
224	C3f4	N - 45° - W	楕円形	0.50 × 0.42	35	平坦	外傾	自然		
225	C3f4	N - 4° - E	楕円形	0.50 × 0.42	50	平坦	外傾	自然		
226	B2i8	N - 1° - E	楕円形	1.49 × 1.10	47	皿状	外傾・緩斜	人為	土師器片、土師質土器片	
227	C3b2	-	円形	1.65 × 1.51	76	皿状	緩斜	人為		
231	B3i2	N - 43° - W	楕円形	0.44 × 0.40	30	平坦	直立	自然		
232	B2g9	N - 53° - W	楕円形	0.34 × 0.29	17	皿状	緩斜	自然		
233	B2c6	N - 58° - W	楕円形	0.83 × 0.65	23	平坦	緩斜	自然		
234	B2f6	N - 28° - E	楕円形	0.67 × 0.55	36	鍋底状	外傾・緩斜	自然		
235	B2f8	N - 44° - W	楕円形	0.53 × 0.44	20	平坦	緩斜	自然		
236	B2f8	-	円形	0.81 × 0.79	38	皿状	外傾・緩斜	自然		
237	B2d7	-	円形	0.41 × 0.40	58	平坦	外傾	人為		
238	B2e7	N - 34° - E	楕円形	0.58 × 0.48	37	平坦	外傾	人為		
239	B2e7	N - 70° - E	楕円形	0.57 × 0.47	26	平坦	外傾	人為		
240	B2e7	N - 46° - W	楕円形	0.72 × 0.65	23	平坦	緩斜	自然		
241	B2e8	-	円形	0.27 × 0.25	53	鍋底状	外傾	自然		
242	B3j1	N - 87° - E	楕円形	0.79 × 0.50	56	平坦	外傾	人為		SD10 →本跡
243	B2g9	N - 58° - W	楕円形	0.40 × 0.28	10	平坦	外傾	人為		
245	E4a1	N - 50° - E	楕円形	1.30 × 1.14	51	平坦	外傾	人為		SI14 →本跡
246	D3j9	N - 19° - W	楕円形	1.09 × 0.56	46	皿状	外傾・緩斜	自然		
249	B1e5	N - 42° - W	楕円形	2.03 × 1.43	35	平坦	緩斜	人為		
250	C2e4	-	円形	0.65 × 0.61	22	平坦	緩斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
251	C2e3	-	円形	0.48 × 0.47	25	平坦	緩斜	人為		
253	C2b2	-	円形	0.53 × 0.53	23	平坦	緩斜	人為		
254	C2b2	-	円形	0.52 × 0.49	29	鍋底状	緩斜	人為		
255	C2a3	N - 22° - E	楕円形	0.78 × 0.70	33	皿状	緩斜	自然		本跡→SK256
256	C2a3	-	円形	0.70 × 0.67	23	平坦	緩斜	自然		SK255→本跡
257	C2f3	N - 40° - W	楕円形	0.56 × 0.40	14	平坦	緩斜	人為		
258	C2f3	N - 43° - W	楕円形	1.00 × 0.85	25	平坦	緩斜	人為		
259	C2f3	N - 11° - W	楕円形	0.70 × 0.59	36	平坦	緩斜	人為		
260	C2f3	N - 52° - W	楕円形	0.71 × 0.52	18	平坦	緩斜	人為		
261	C2f3	N - 34° - W	楕円形	0.49 × 0.42	14	皿状	緩斜	人為		
262	C2f3	-	円形	0.41 × 0.41	15	皿状	緩斜	人為		
263	C2f3	N - 2° - E	楕円形	0.67 × 0.55	22	平坦	緩斜	人為		
264	C2f2	N - 22° - E	楕円形	0.63 × 0.55	30	鍋底状	緩斜	人為		
265	C2f3	-	円形	0.83 × 0.80	25	皿状	緩斜	人為		
266	C2e4	-	円形	0.47 × 0.44	16	皿状	緩斜	人為		
267	C2e2	-	円形	0.53 × 0.51	23	平坦	緩斜	人為		
268	C2d2	N - 33° - W	楕円形	0.48 × 0.38	24	皿状	緩斜	自然		
269	C2e2	-	円形	0.37 × 0.37	23	皿状	緩斜	人為		
270	C2b3	-	円形	0.40 × 0.40	21	皿状	緩斜	人為		
271	C2b1	N - 14° - W	楕円形	0.49 × 0.41	21	皿状	緩斜	人為		
272	B1i6	N - 23° - W	楕円形	1.33 × 0.78	23	平坦	緩斜	人為		PG8→本跡
278	C3i8	N - 34° - W	楕円形	0.23 × 0.20	37	鍋底状	外傾	人為		
279	C3h7	N - 59° - E	[楕円形]	0.38 × (0.30)	45	鍋底状	直立	人為		本跡→SI29
281	B1h6	-	[円形]	0.82 × (0.51)	60	平坦	外傾	人為		
284	B1h0	N - 11° - W	楕円形	1.02 × 0.79	25	平坦	外傾	自然		
285	B2g1	N - 63° - E	楕円形	0.54 × 0.48	27	平坦	緩斜	人為		
286	B1b6	N - 32° - E	楕円形	0.74 × 0.46	26	平坦	外傾	人為		
287	B1b6	N - 55° - E	楕円形	0.40 × 0.24	15	平坦	外傾	人為		
288	B2f1	N - 5° - W	楕円形	0.46 × 0.41	20	皿状	緩斜	自然		
289	B2f1	N - 75° - W	楕円形	0.40 × 0.34	18	平坦	緩斜	自然		
290	B1e9	N - 72° - W	不定形	1.07 × 0.80	27	皿状	緩斜	自然		
295	B2i1	-	円形	0.40 × 0.40	20	平坦	外傾	自然		
296	B2i2	N - 58° - W	楕円形	0.75 × 0.54	33	皿状	直立・緩斜	自然		
297	C2a2	N - 78° - W	楕円形	0.46 × 0.38	27	皿状	外傾	自然		
298	C2h4	-	円形	0.43 × 0.41	29	平坦	外傾	人為		
299	C2h3	N - 52° - E	楕円形	1.70 × 0.80	27	皿状	緩斜	人為		
301	B1b0	N - 9° - E	楕円形	0.57 × 0.49	46	平坦	外傾	自然		
302	B1b0	-	円形	0.40 × 0.37	63	平坦	直立・外傾	-		
303	B1f8	N - 52° - W	楕円形	0.42 × 0.29	22	平坦	外傾	自然		
304	B1e8	-	円形	0.50 × 0.50	16	平坦	外傾	自然		
305	B1e8	N - 89° - E	楕円形	0.44 × 0.37	19	平坦	外傾	自然		
306	B1d8	N - 44° - W	楕円形	0.38 × 0.34	27	皿状	外傾	自然		
307	C1a0	-	円形	0.51 × 0.47	32	皿状	外傾・緩斜	人為		
308	C3j2	-	円形	0.31 × 0.30	26	平坦	外傾	人為		
309	C3j2	N - 90°	不整楕円形	0.90 × 0.80	49	平坦	直立・緩斜	-		

(4) 溝跡

第1号溝跡 (第109図・付図)

位置 調査区中央部のE 4 b3～E 4 f4区, 標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 E 4 f4区から北方向(N-8°-W)に直線状に延びている。規模は, 長さ17.55 mで, 上幅0.24～0.35 m, 下幅0.08～0.18 m, 深さ9～20cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

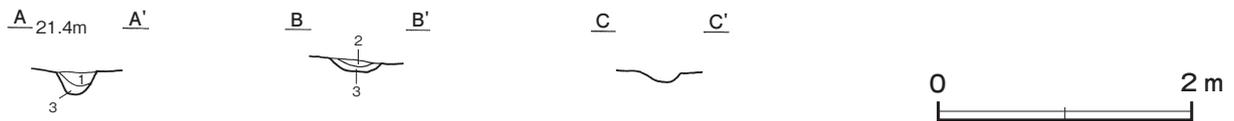
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢), 土師器片13点(器台1, 甕11, 小形甕1), 石器1点(磨石)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 現代の地籍図とほぼ一致することから, 区画溝と考えられる。時期は, 伴う土器が出土していないことから不明である。



第109図 第1号溝跡実測図

第2号溝跡 (第110図・付図)

位置 調査区中央部のE 3 b8～E 3 e8区, 標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

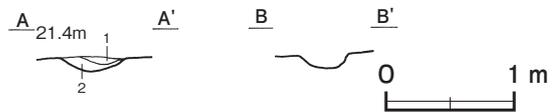
規模と形状 E 3 e8区から北方向(N-3°-E)に直線状に延びている。規模は, 長さ12.12 mで, 上幅0.23～0.50 m, 下幅0.06～0.19 m, 深さ8cmである。断面は浅いU字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック微量

所見 現代の地籍図とほぼ一致することから, 区画溝と考えられる。時期は, 土器が出土していないことから不明である。



第110図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡 (第111図・付図)

位置 調査区中央部のD 3 i3～D 4 i4区, 標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20号竪穴建物跡, 第50・51・54・55号土坑, 第7号溝跡を掘り込み, 第52号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 D 3 i3区から, D 3 i5区でやや屈曲するものの, 全体をとおして東方向(N-90°-E)に直線状に延び, 調査区域外へ至っている。東端・西端ともに調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは45.84 mである。規模は上幅1.06～1.50 m, 下幅0.08～0.24 m, 深さ65～95cmである。断面はV字状で, 壁

は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

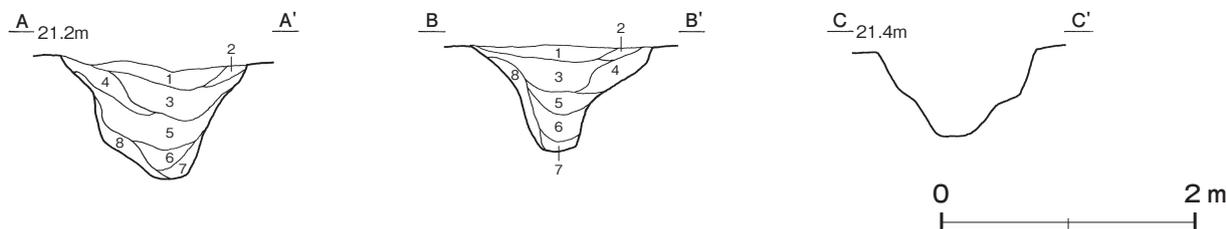
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢), 土師器片9点(器台1, 甕8), 土師質土器片1点(鍋), 瓦質土器片1点(置き竈), 磁器片8点(碗7, 急須1), 瓦片14点(平瓦8, 不明6), 鉄製品4点(不明)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 現農道に沿っており, 現代の地籍図とほぼ一致することから, 区画溝と考えられる。時期は, 伴う土器が出土していないことから不明である。



第111図 第3号溝跡実測図

第4号溝跡 (第112図・付図)

位置 調査区中央部のE3f6～E3g8区, 標高21mほどの台地平坦部に位置している。

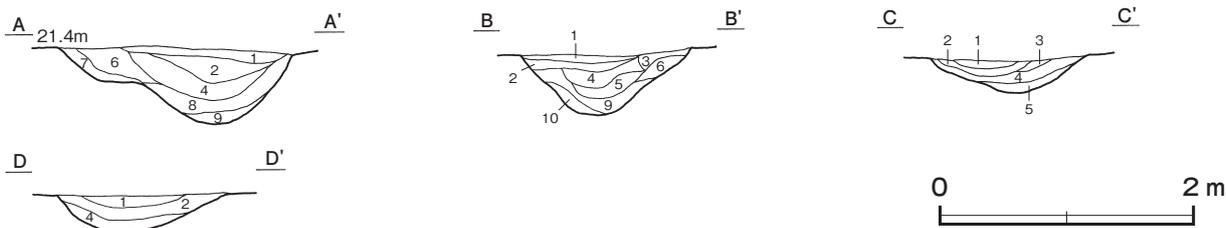
重複関係 第23号竪穴建物跡を掘り込んでいます。

規模と形状 E3g8区から北方向(N-4°-W)に直線状に延び, E3f8区の西部で屈曲して西方向(N-86°-W)に直線状に延び, 調査区域外へ至っている。西端・南端ともに調査区域外へ延びているため, 確認できた長さは10.60mである。規模は上幅0.94～1.50m, 下幅0.18～0.36m, 深さ22～60cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は東部が高く, 西部に行くに従って低くなっている。

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック少量 |



第112図 第4号溝跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢),土師器片17点(埴2,高坏2,甕13),磁器片1点(碗),鉄製品1点(釘)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 他の区画溝と走向方向がほぼ一致することから,土地の区画や排水機能を有した溝と推定できる。時期は,伴う土器が出土していないことから不明である。

第5号溝跡(第113図・付図)

位置 調査区中央部のD3i3~D3i5区,標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49・52号土坑に掘り込まれている。

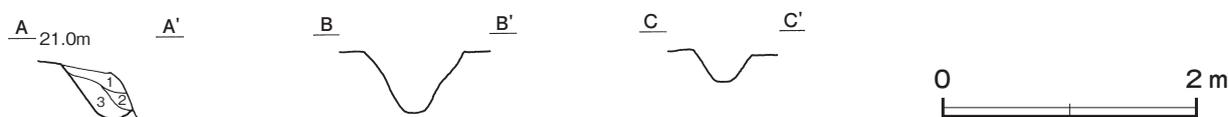
規模と形状 D3i3区から東方向(N-88°-E)に直線状に延びている。西端が調査区域外へ延びているため,確認できた長さは4.70mである。規模は上幅0.38~0.75m,下幅0.10~0.16m,深さ20~47cmである。断面はV字状で,壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は東部が高く,西部に行くに従って低くなっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化物微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量,炭化粒子微量 | |

所見 区画溝と考えられる第3号溝跡に隣接し,走向方向を同じくすることから,土地の区画に関わる溝と推定できる。時期は,土器が出土していないことから不明である。



第113図 第5号溝跡実測図

第6号溝跡(第114図・付図)

位置 調査区中央部のD3j6~D3j9区,標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号竪穴建物跡,第67号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 D3j6区から東方向(N-89°-E)に直線状に延びている。規模は,確認できた長さは15.08mで,上幅0.50~0.92m,下幅0.15~0.44m,深さ14~38cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は東部が高く,西部に行くに従って低くなっている。

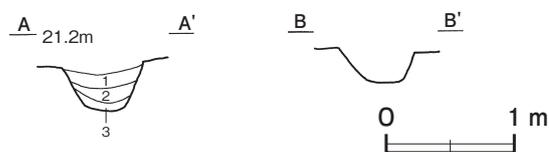
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片5点(深鉢),土師器片3点(甕),陶器片1点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 区画溝と考えられる第3号溝跡に隣接し,走向方向を同じくすることから,土地の区画に関わる溝と推定できる。時期は,伴う土器が出土していないことから不明である。



第114図 第6号溝跡実測図

第7号溝跡（第115図・付図）

位置 調査区北部から中央部にかけてのC3d4～D3i6区，標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第104・141・196号土坑を掘り込み，第3号溝，第5・12号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 D3i6区から北方向（N-8°-W）に直線状に延びている。北端は調査区域外へ延び，南端は第3号溝に掘り込まれているため，確認できた長さは63.24mである。規模は上幅0.52～1.88m，下幅0.28～0.72m，深さ24～65cmである。断面はU字状で，壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高は南部は高く，北部に行くに従って低くなっている。

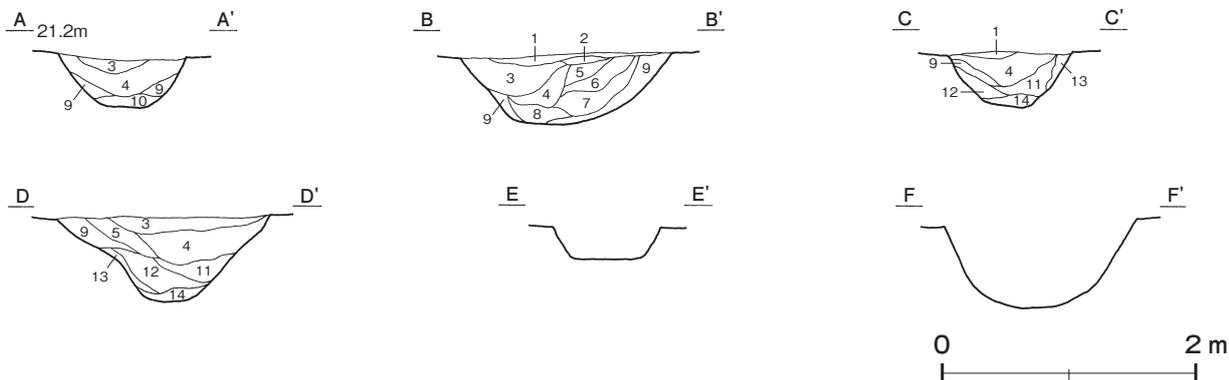
覆土 14層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------|-----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 にぶい褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 10 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量，炭化物微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 12 にぶい褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | 炭化物・ローム粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 にぶい褐色 | ロームブロック中量 | 14 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)，土師器片6点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 現代の地籍図とほぼ一致することから，区画溝と考えられる。時期は，伴う土器が出土していないことから不明である。



第115図 第7号溝跡実測図

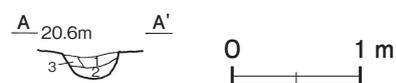
第8号溝跡（第116図・付図）

位置 調査区北部のC2i8～C3i2区，標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第102号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 C2i8区から東方向（N-81°-E）に直線状に延びている。東部が第102号土坑に掘り込まれているため，確認できた長さは15.55mである。規模は上幅0.33～0.56m，下幅0.18～0.44m，深さ20cmである。断面はU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。



土層解説

- | | |
|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |

第116図 第8号溝跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢),瓦片1点(平瓦)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 現代の土地区画とほぼ一致することから,区画溝と考えられる。時期は,伴う土器が出土していないことから不明である。

第9号溝跡(第117図・付図)

位置 調査区中央部のC3j4~D3d5区,標高21mほどの台地平坦部に位置している。

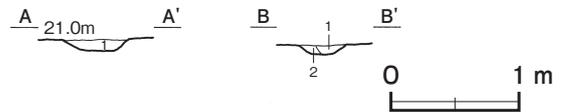
規模と形状 D3d5区から北方向(N-10°-W)に直線状に延びている。規模は,長さ15.75mで,上幅0.30~0.67m,下幅0.09~0.40m,深さ7~9cmである。断面はU字状で,壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況であることから自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

所見 区画溝と考えられる第7号溝跡に隣接し,走向方向を同じくすることから,土地の区画に関わる溝と推定できる。時期は,土器が出土していないことから不明である。



第117図 第9号溝跡実測図

第10号溝跡(第118図・付図)

位置 調査区北部のB3j1~C3b3区,標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第242号土坑に掘り込まれている。

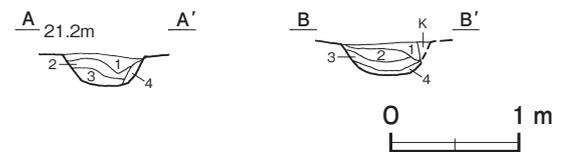
規模と形状 C3a3区から西方向(N-115°-W)に直線状に延び,C3b2区の北部で北方向(N-23°-W)にL字状に折れ曲がり,ほぼ直線状に延びている。規模は,長さ11.82mで,上幅0.50~0.75m,下幅0.29~0.53m,深さ13~30cmである。断面は逆台形形で,壁は外傾して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量,焼土粒子微量

所見 時期・性格ともに不明である。



第118図 第10号溝跡実測図

第11号溝跡(第119図・付図)

位置 調査区北西部のC1a6~C1c7区,標高19mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 C1c7区から北方向(N-21°-W)に直線状に延び,調査区域外へ至っている。南端・北端ともに調査区域外へ延びているため,確認できた長さは9.27mである。西部を第12号溝に掘り込まれているため,上幅は0.68~1.02mで,下幅は0.10~0.18mしか確認できなかった。深さは34~52cmである。断面はU字状で,壁は外傾して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

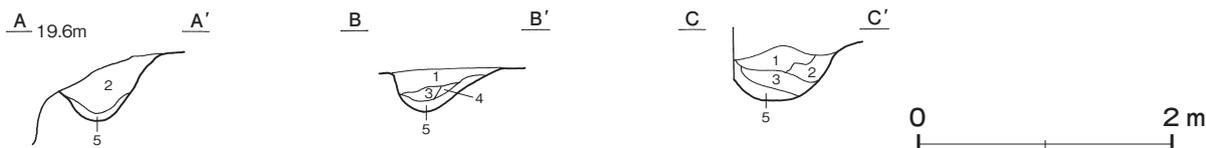
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢), 土師器片1点(甕), 土師質土器片2点(鍋, 鉢), 瓦片1点(平瓦), 鉄製品1点(不明)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 現代の地籍図とほぼ一致することから, 区画溝と考えられる。時期は, 伴う土器が出土していないことから不明である。



第119図 第11号溝跡実測図

第12号溝跡 (第120図・付図)

位置 調査区北西部のC1a6～C1c7区, 標高19mほどの台地緩斜面部に位置している。

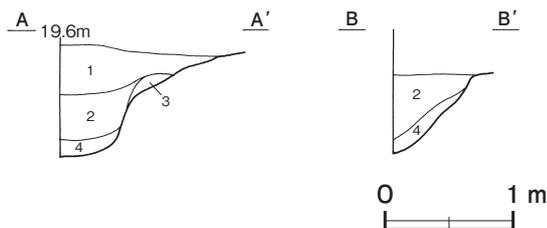
重複関係 第11号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 C1c7区から北方向(N-21°-W)に直線状に伸び, 調査区域外へ至っている。南端・北端ともに調査区域外へ伸びているため, 確認できた長さは8.07mである。西部が調査区域外へ伸びているため, 上幅は0.60～1.26mしか確認できなかった。深さは62～88cmである。断面はU字状で, 壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。底面の標高差はほとんど認められない。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|----------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |



遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢), 土師器片1点(甕)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 第11号溝を掘り込んでいることや走向方向を同じくすることから, 第11号溝を掘り直した区画溝と考えられる。時期は, 伴う土器が出土していないことから不明である。

第120図 第12号溝跡実測図

表9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	E4b3～E4f4	N-8°-W	直線	17.55	0.24～0.35	0.08～0.18	9～20	U字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 石器	
2	E3b8～E3e8	N-3°-E	直線	12.12	0.23～0.50	0.06～0.19	8	浅いU字状	緩斜	自然		
3	D3i3～D4i4	N-90°	直線	(45.84)	1.06～1.50	0.08～0.24	65～95	V字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 瓦質土器片, 磁器片, 瓦片, 鉄製品	SI20, SK50・51・54・55, SD7→本跡→SK52
4	E3f6～E3g8	N-4°-W N-86°-W	L字状	(10.60)	0.94～1.50	0.18～0.36	22～60	U字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 磁器片, 鉄製品	SI23→本跡
5	D3i3～D3i5	N-88°-E	直線	(4.70)	0.38～0.75	0.10～0.16	20～47	V字状	緩斜	人為		本跡→SK49・52
6	D3j6～D3j9	N-89°-E	直線	(15.08)	0.50～0.92	0.15～0.44	14～38	U字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片, 陶器片	SI21, SK67→本跡

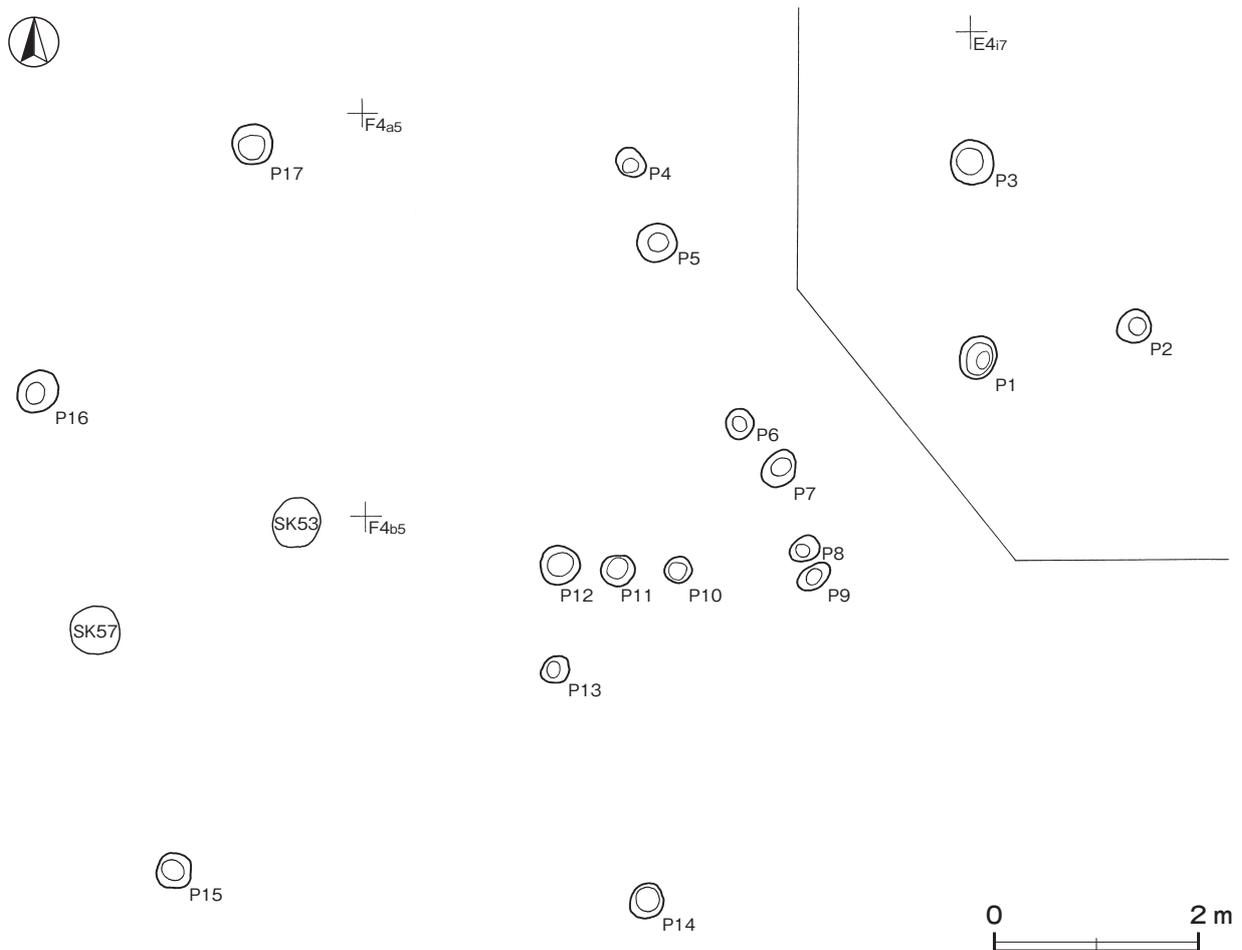
番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
7	C3d4 ~ D3i6	N - 8° - W	直線	(63.24)	0.52 ~ 1.88	0.28 ~ 0.72	24 ~ 65	U字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	SK104・141・196 → 本跡 → SD3, PG5・12
8	C2i8 ~ C3i2	N - 81° - E	直線	(15.55)	0.33 ~ 0.56	0.18 ~ 0.44	20	U字状	外傾	人為	縄文土器片, 瓦片	本跡 → SK102
9	C3j4 ~ D3d5	N - 10° - W	直線	15.75	0.30 ~ 0.67	0.09 ~ 0.40	7 ~ 9	U字状	緩斜	自然		
10	B3j1 ~ C3b3	N - 115° - W N - 23° - W	L字状	11.82	0.50 ~ 0.75	0.29 ~ 0.53	13 ~ 30	逆台形	外傾	人為		本跡 → SK242
11	C1a6 ~ C1c7	N - 21° - W	直線	(9.27)	(0.68 ~ 1.02)	(0.10 ~ 0.18)	34 ~ 52	U字状	外傾	人為	縄文土器片, 土師器片, 土師質土器片, 瓦片, 鉄製品	本跡 → SD12
12	C1a6 ~ C1c7	N - 21° - W	直線	(8.07)	(0.60 ~ 1.26)	-	(62 ~ 88)	U字状	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	SD11 → 本跡

(5) ピット群

今回の調査でピット群 12 か所を確認した。中央部に 8 か所、北西部に 4 か所が分布している。各ピットの配置、規模や形状から建物跡を想定することはできない。また、土器片などの遺物は出土しておらず、時期を判断することはできない。ここではピット群ごとに計測表と平面図を掲載するものとする。

第 1 号ピット群 (第 121 図)

位置 調査区中央部の E 4 i4 ~ F 4 b7 区, 標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 121 図 第 1 号ピット群実測図

規模と形状 東西 14 m, 南北 15 mほどの範囲にピット 17 基を確認した。形状は長径 28～44cm, 短径 22～42cmの円形または楕円形で, 深さは 13～29cmである。

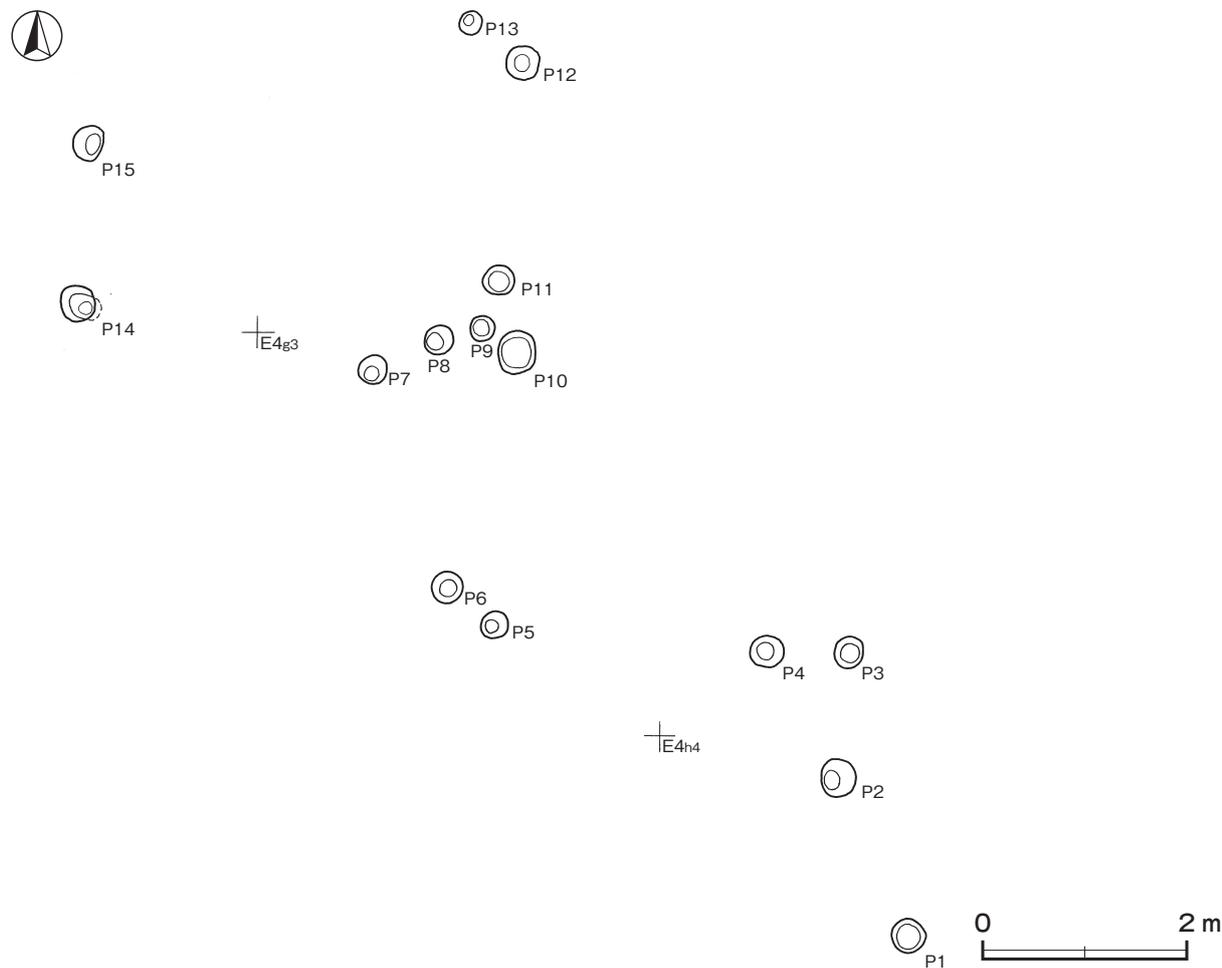
所見 時期・性格ともに不明である。

表 10 第 1 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	E4i7	楕円形	43	×	36	29	10	F4b5	円形	29	×	27	16
2	E4i7	円形	33	×	33	26	11	F4b5	円形	32	×	31	24
3	E4i7	円形	44	×	42	13	12	F4b5	円形	40	×	38	16
4	F4a5	楕円形	29	×	26	19	13	F4b5	円形	28	×	27	22
5	F4a5	円形	39	×	36	27	14	F4b5	円形	33	×	32	17
6	F4a5	円形	31	×	30	21	15	F4b4	円形	36	×	34	27
7	F4a6	楕円形	40	×	32	25	16	F4a4	楕円形	43	×	38	28
8	F4b6	楕円形	30	×	23	23	17	F4a4	円形	39	×	38	28
9	F4b6	楕円形	37	×	22	19							

第 2 号ピット群 (第 122 図)

位置 調査区中央部の E 4 f2～E 4 h4 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。



第 122 図 第 2 号ピット群実測図

規模と形状 東西 9 m, 南北 10 m ほどの範囲にピット 15 基を確認した。形状は長径 23 ~ 43cm, 短径 23 ~ 36cm の円形または楕円形で, 深さは 15 ~ 77cm である。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 11 第 2 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	E4h4	円形	34	×	32	19	9	E4f3	円形	23	×	23	42
2	E4h4	円形	36	×	35	43	10	E4g3	楕円形	43	×	36	26
3	E4g4	楕円形	33	×	28	23	11	E4f3	円形	30	×	28	15
4	E4g4	円形	32	×	31	22	12	E4f3	円形	33	×	33	25
5	E4g3	円形	27	×	25	26	13	E4f3	円形	24	×	23	77
6	E4g3	円形	30	×	29	23	14	E4f2	円形	34	×	32	67
7	E4g3	円形	28	×	27	52	15	E4f2	楕円形	35	×	26	48
8	E4g3	円形	27	×	27	39							

第 3 号ピット群 (第 123 図)

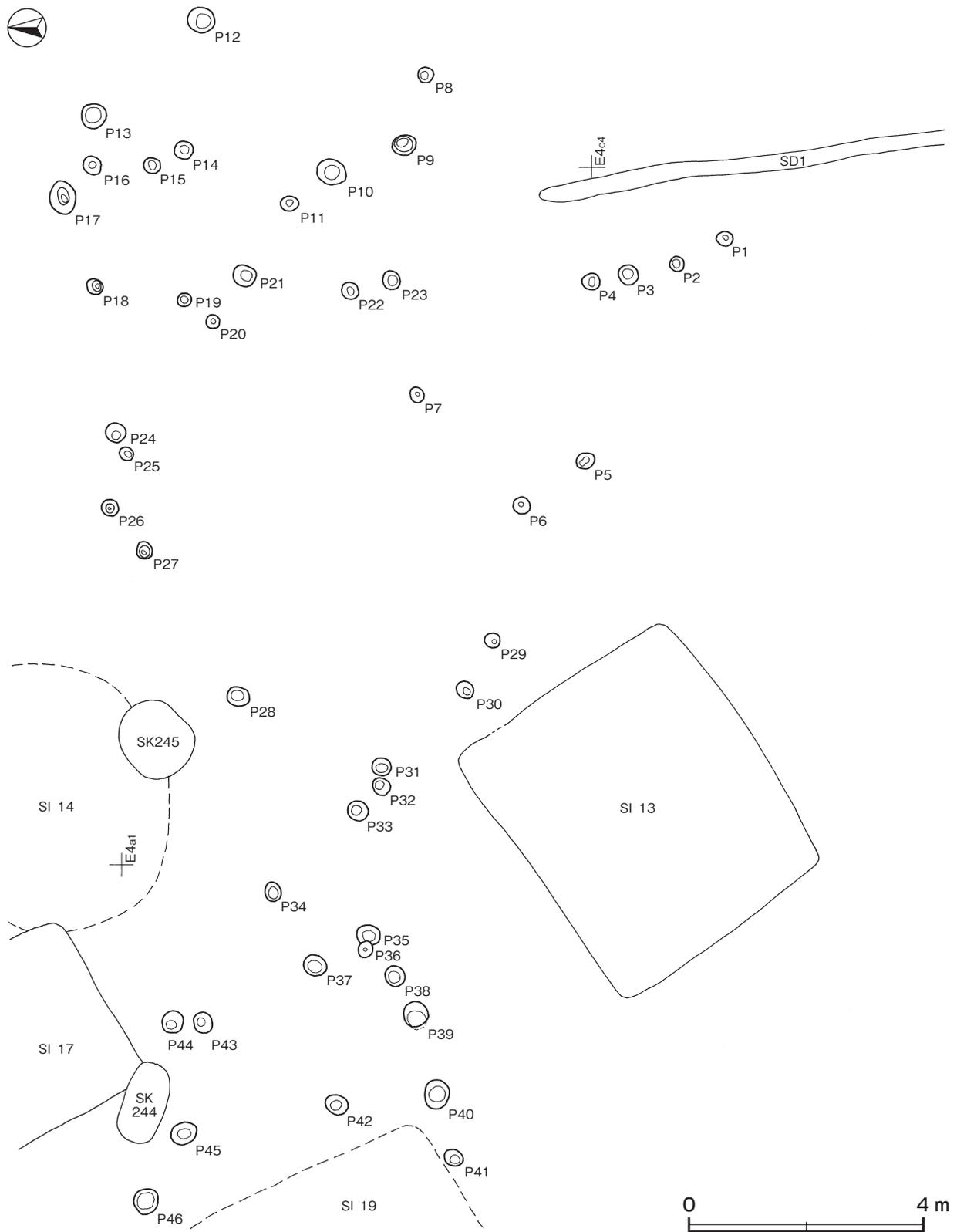
位置 調査区中央部の D 3 j9 ~ E 4 c4 区, 標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西 21 m, 南北 12 m ほどの範囲にピット 46 基を確認した。形状は長径 22 ~ 58cm, 短径 20 ~ 43cm の円形または楕円形で, 深さは 11 ~ 72cm である。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 12 第 3 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	E4c3	円形	25	×	25	43	21	E4a3	円形	38	×	36	22
2	E4c3	円形	25	×	24	20	22	E4a3	円形	28	×	27	20
3	E4c3	楕円形	33	×	30	43	23	E4b3	円形	31	×	30	20
4	E4b3	円形	28	×	28	17	24	D4j2	円形	32	×	32	37
5	E4b2	楕円形	33	×	26	62	25	E4a2	円形	22	×	21	19
6	E4b2	円形	27	×	27	50	26	D4j2	円形	26	×	25	69
7	E4b3	楕円形	23	×	20	53	27	E4a2	円形	29	×	27	72
8	E4b4	楕円形	30	×	27	26	28	E4a1	楕円形	37	×	31	23
9	E4b4	楕円形	40	×	33	37	29	E4b1	円形	24	×	22	60
10	E4a3	楕円形	48	×	42	15	30	E4b1	円形	28	×	26	35
11	E4a3	楕円形	28	×	25	29	31	E4b1	円形	29	×	28	17
12	E4a4	円形	44	×	43	34	32	E4b1	円形	30	×	29	23
13	D4j4	円形	41	×	39	19	33	E4b1	円形	34	×	33	18
14	E4a4	円形	32	×	31	21	34	E3a0	楕円形	34	×	25	25
15	E4a4	円形	30	×	28	29	35	E3b0	楕円形	39	×	34	30
16	D4j4	楕円形	33	×	29	46	36	E3b0	楕円形	27	×	23	66
17	D4j3	楕円形	58	×	41	43	37	E3a0	楕円形	40	×	35	24
18	D4j3	円形	28	×	26	32	38	E3b0	円形	33	×	32	11
19	E4a3	円形	24	×	22	17	39	E3b0	円形	42	×	40	52
20	E4a3	円形	22	×	22	68	40	E3b0	楕円形	44	×	41	24



第 123 図 第 3 号ピット群実測図

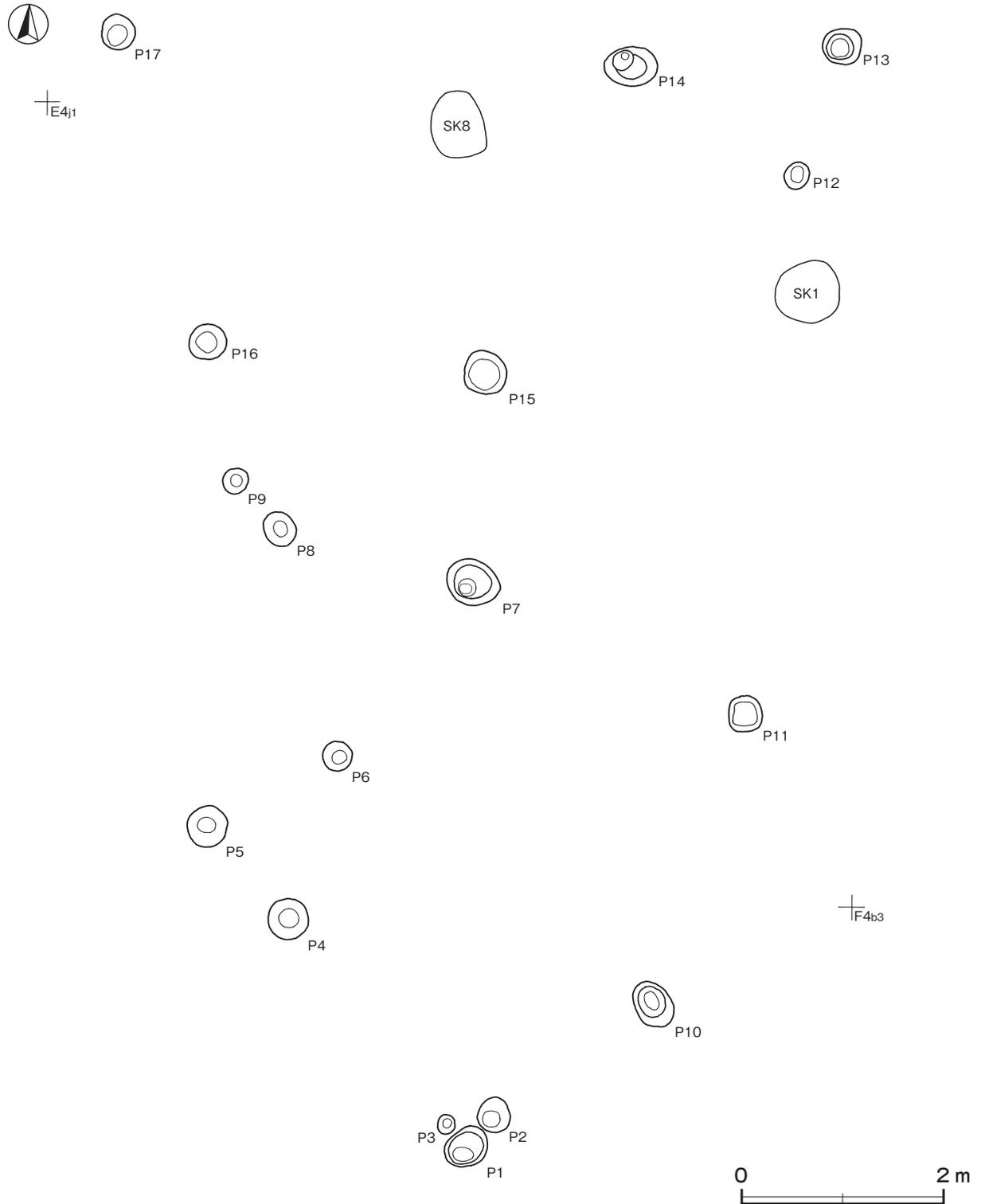
ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径 (軸)	短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	短径 (軸)	深さ
41	E3b9	楕円形	31	×	27	42					
42	E3a9	楕円形	36	×	32	45	E3a9	楕円形	42	×	33
43	E3a0	円形	33	×	31	21					
						46	E3a9	楕円形	54	×	37

第4号ピット群 (第124図)

位置 調査区中央部のE 4 i1 ~ F 4 b2区, 標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西8 m, 南北12 mほどの範囲にピット17基を確認した。形状は長径20 ~ 52 cm, 短径17 ~ 44 cmの円形または楕円形で, 深さは17 ~ 71 cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。



第124図 第4号ピット群実測図

表13 第4号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ	長径 (軸) × 短径 (軸)				深さ		
1	F4b2	楕円形	46 × 37	40	10	F4b2	楕円形	47 × 35	40		
2	F4b2	円形	33 × 31	71	11	F4a2	楕円形	37 × 32	22		
3	F4b2	楕円形	20 × 17	57	12	E4j2	楕円形	25 × 21	25		
4	F4b1	円形	41 × 39	29	13	E4i2	楕円形	39 × 38	30		
5	F4a1	円形	40 × 37	28	14	E4i2	楕円形	52 × 40	66		
6	F4a1	楕円形	30 × 27	24	15	E4j2	円形	45 × 41	21		
7	F4a2	楕円形	52 × 44	48	16	E4j1	円形	35 × 33	28		
8	F4a1	楕円形	35 × 31	42	17	E4i1	円形	34 × 32	21		
9	E4j1	楕円形	26 × 23	17							

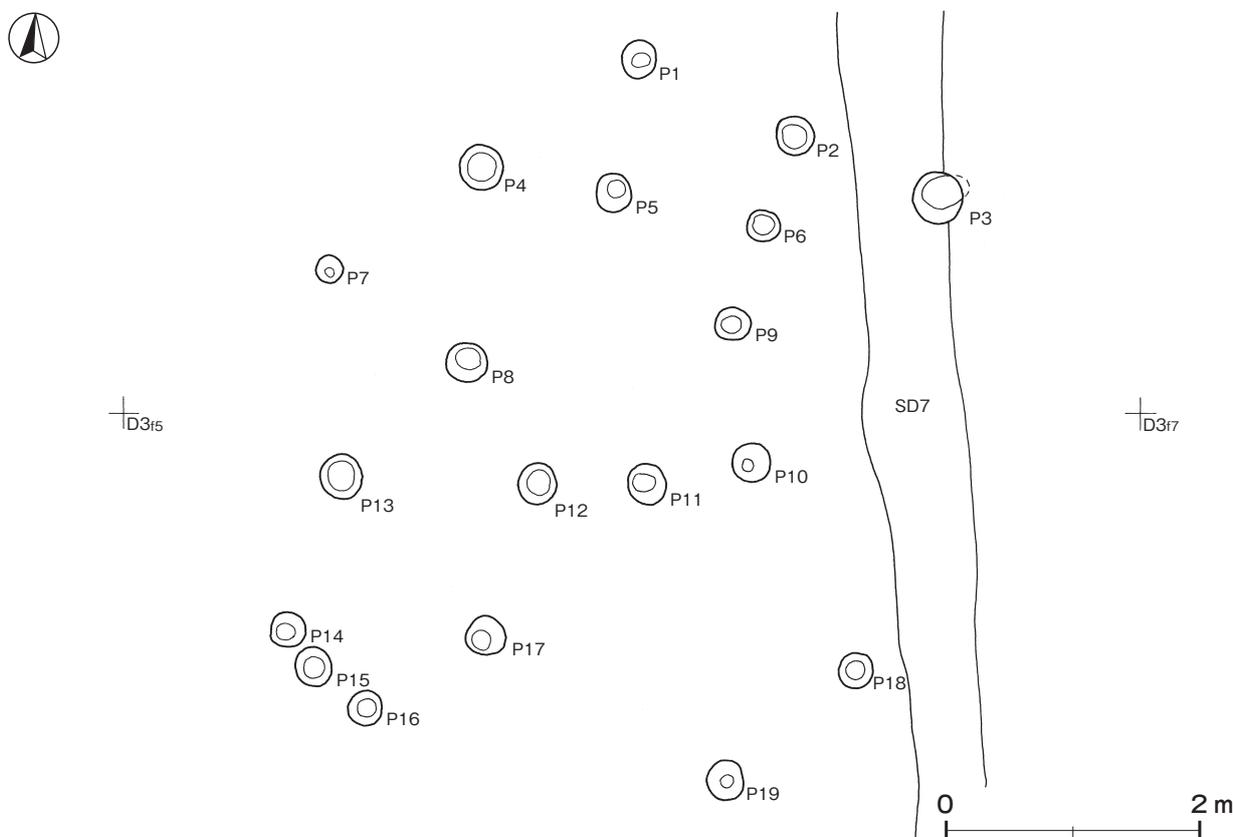
第5号ピット群 (第125図)

位置 調査区中央部のD3e5～D3f6区, 標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 P3が第7号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西6m, 南北6mほどの範囲にピット19基を確認した。形状は長径20～39cm, 短径19～37cmの円形または楕円形で, 深さ5～71cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。



第125図 第5号ピット群実測図

表 14 第5号ピット群ピット計測表

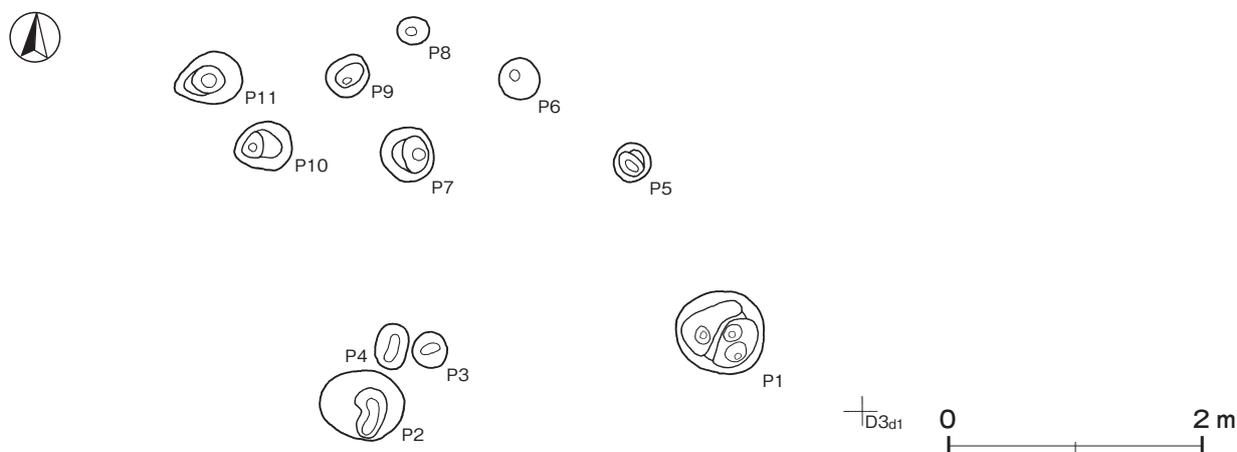
ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	D3e6	円形	27	×	27	10	11	D3f6	円形	29	×	28	23
2	D3e6	円形	29	×	28	6	12	D3f5	円形	30	×	29	8
3	D3e6	円形	39	×	37	71	13	D3f5	円形	33	×	31	48
4	D3e5	円形	33	×	33	15	14	D3f5	円形	27	×	25	21
5	D3e5	楕円形	31	×	27	28	15	D3f5	円形	30	×	29	30
6	D3e6	楕円形	24	×	21	5	16	D3f5	円形	25	×	24	21
7	D3e5	円形	20	×	19	35	17	D3f5	円形	30	×	29	23
8	D3e5	円形	30	×	28	13	18	D3f6	円形	27	×	26	13
9	D3e6	楕円形	28	×	23	13	19	D3f6	楕円形	31	×	28	33
10	D3f6	円形	31	×	29	32							

第6号ピット群 (第126図)

位置 調査区中央部のD2c9～D2c0区, 標高20mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西5m, 南北4mほどの範囲にピット11基を確認した。形状は長径24～72cm, 短径20～65cmの円形または楕円形で, 深さは29～66cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。



第126図 第6号ピット群実測図

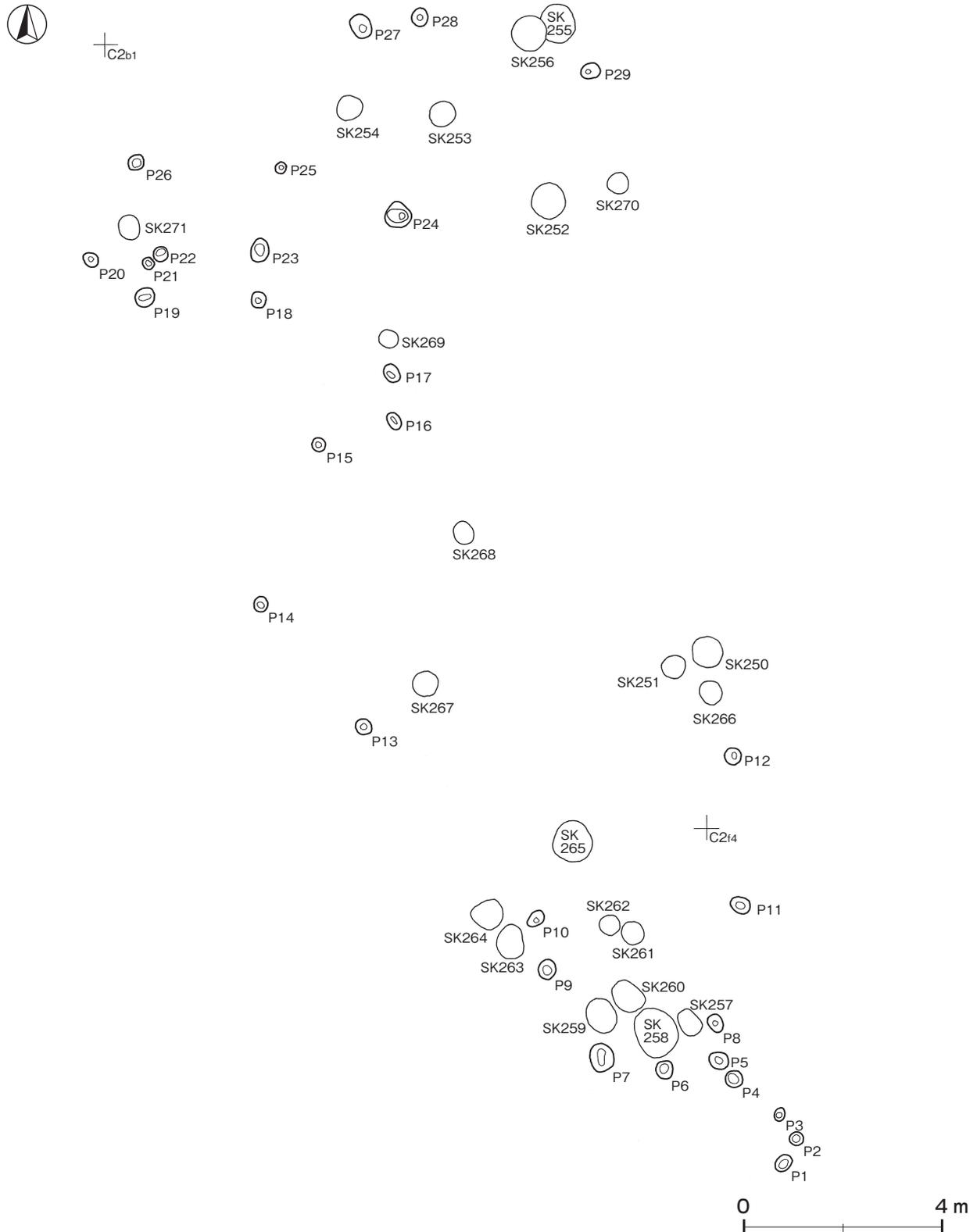
表 15 第6号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	D2c0	楕円形	72	×	65	63	7	D2c0	円形	42	×	41	44
2	D2c0	楕円形	66	×	55	56	8	D2c0	楕円形	24	×	20	29
3	D2c0	円形	30	×	28	66	9	D2c9	楕円形	33	×	29	33
4	D2c0	楕円形	35	×	24	31	10	D2c9	楕円形	46	×	40	33
5	D2c0	円形	30	×	30	39	11	D2c9	楕円形	55	×	42	56
6	D2c0	円形	33	×	32	48							

第7号ピット群 (第127図)

位置 調査区北西部のC 1 a0～C 2 g4区, 標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 東西14m, 南北24mほどの範囲にピット29基を確認した。形状は長径22～55cm, 短径21～46cmの円形・楕円形で, 深さは11～36cmである。



第127図 第7号ピット群実測図

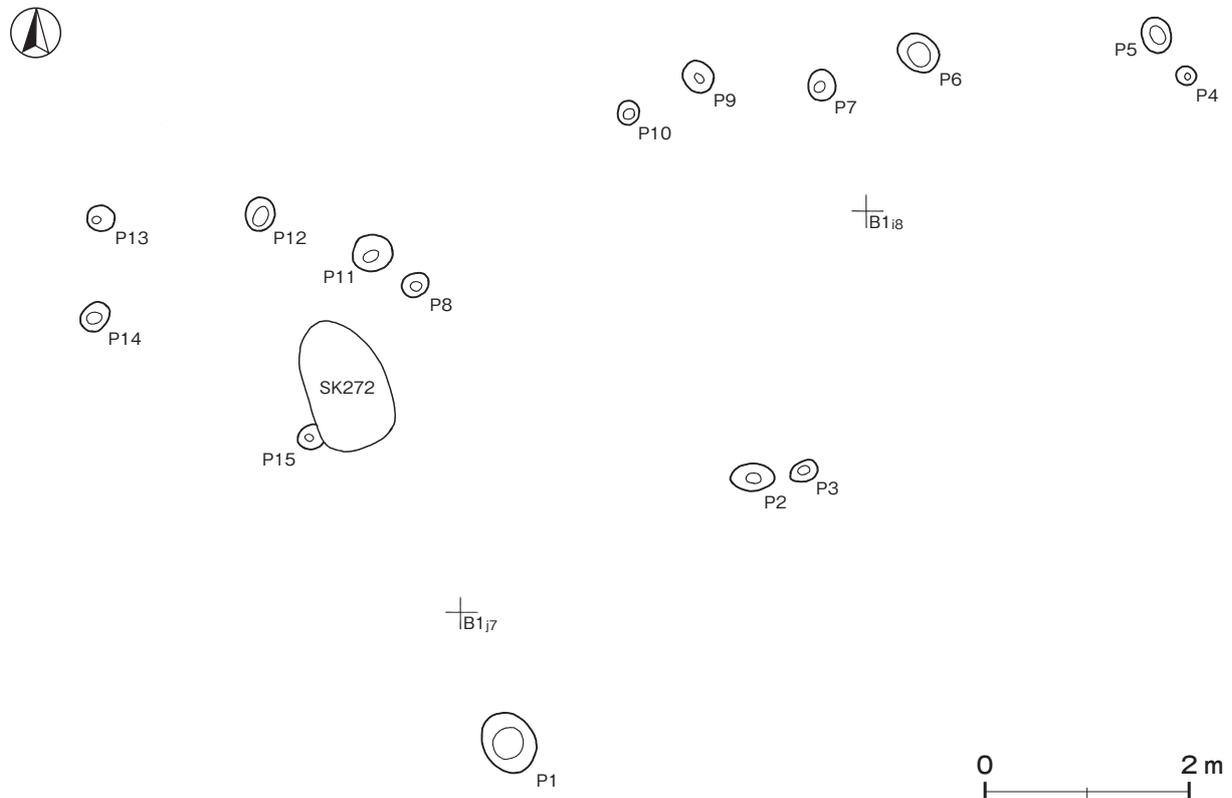
所見 時期・性格ともに不明である。

表 16 第7号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径 (軸)	× 短径 (軸)	深さ				長径 (軸)	× 短径 (軸)	深さ
1	C2g4	楕円形	39	× 31	18	16	C2c2	楕円形	36	× 26	22
2	C2g4	円形	30	× 28	15	17	C2c2	楕円形	33	× 26	27
3	C2g4	楕円形	28	× 25	11	18	C2c1	楕円形	30	× 27	30
4	C2g4	円形	36	× 35	13	19	C2c1	円形	40	× 37	36
5	C2g4	円形	39	× 37	13	20	C1c0	楕円形	33	× 26	15
6	C2g3	楕円形	40	× 35	11	21	C2c1	円形	24	× 22	19
7	C2g3	楕円形	55	× 46	15	22	C2c1	円形	28	× 27	18
8	C2f4	楕円形	36	× 29	16	23	C2c1	楕円形	46	× 37	23
9	C2f3	楕円形	40	× 35	14	24	C2b2	楕円形	52	× 46	27
10	C2f3	楕円形	40	× 26	17	25	C2b1	円形	22	× 21	18
11	C2f4	楕円形	38	× 30	15	26	C2b1	楕円形	34	× 26	19
12	C2e4	円形	35	× 32	19	27	C2a2	楕円形	52	× 35	19
13	C2e2	円形	30	× 28	16	28	C2a2	円形	32	× 32	22
14	C2d1	楕円形	27	× 24	13	29	C2b3	円形	37	× 35	22
15	C2d2	円形	25	× 25	12						

第8号ピット群 (第128図)

位置 調査区北西部のB1h6～B1j8区, 標高19mほどの台地緩斜面部に位置している。



第128図 第8号ピット群実測図

重複関係 P 15 が第 272 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西 11 m, 南北 8 m ほどの範囲にピット 15 基を確認した。形状は長径 17 ~ 61cm, 短径 17 ~ 53cm の円形または楕円形で、深さは 5 ~ 28cm である。

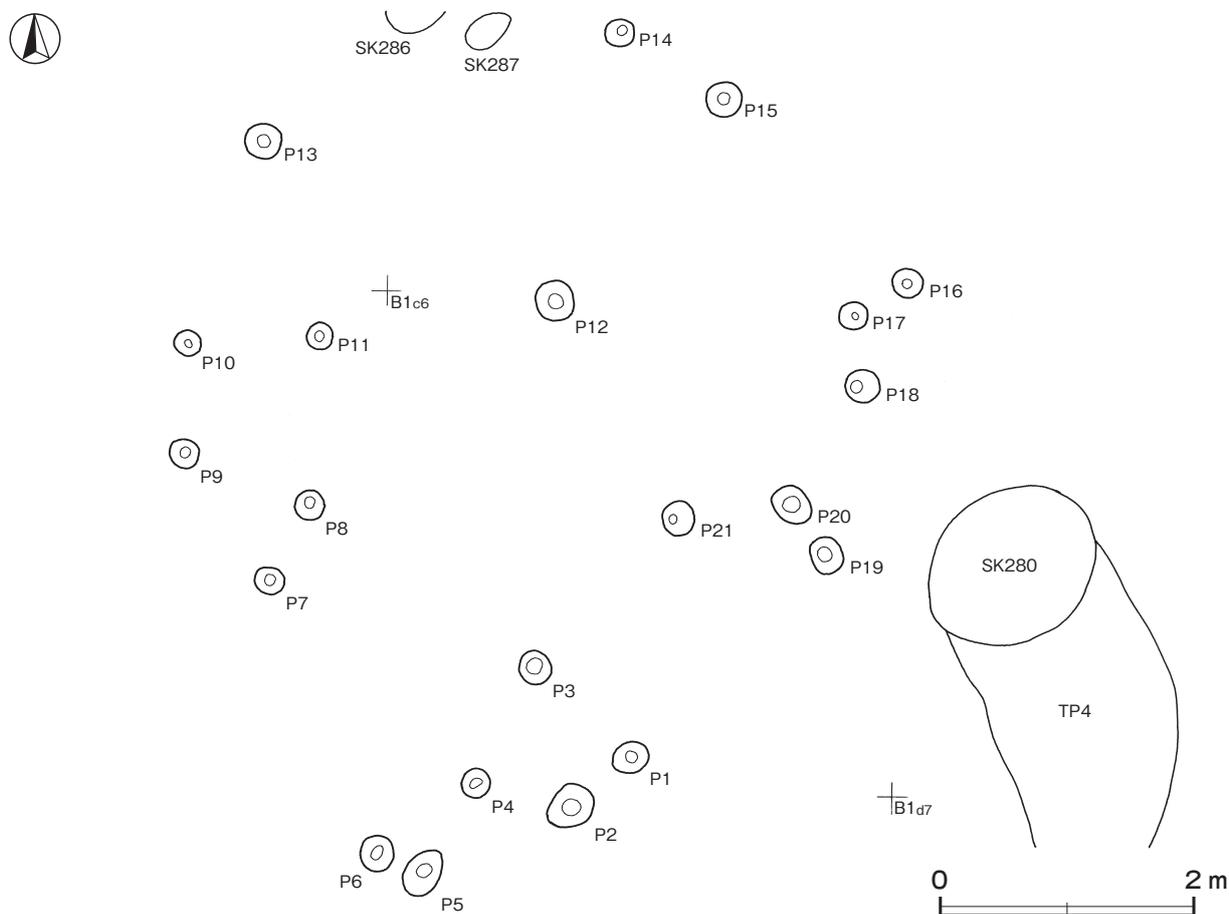
所見 時期・性格ともに不明である。

表 17 第 8 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	B1j7	楕円形	61	×	53	23	9	B1h7	円形	32	×	31	20
2	B1i7	楕円形	43	×	29	13	10	B1h7	円形	23	×	23	13
3	B1i7	楕円形	28	×	19	10	11	B1i6	楕円形	40	×	36	27
4	B1h8	円形	17	×	17	5	12	B1i6	楕円形	33	×	28	22
5	B1h8	楕円形	35	×	30	15	13	B1i6	楕円形	27	×	25	17
6	B1h8	楕円形	42	×	33	25	14	B1i6	楕円形	31	×	25	8
7	B1h7	楕円形	28	×	25	15	15	B1i6	[円形・楕円形]	(22)	×	22	15
8	B1i6	円形	25	×	24	28							

第 9 号ピット群 (第 129 図)

位置 調査区北西部の B 1 b5 ~ B 1 d7 区, 標高 19 m ほどの台地緩斜面部に位置している。



第 129 図 第 9 号ピット群実測図

規模と形状 東西7m, 南北7mほどの範囲にピット21基を確認した。形状は長径19～41cm, 短径19～32cmの円形または楕円形で、深さは9～35cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。

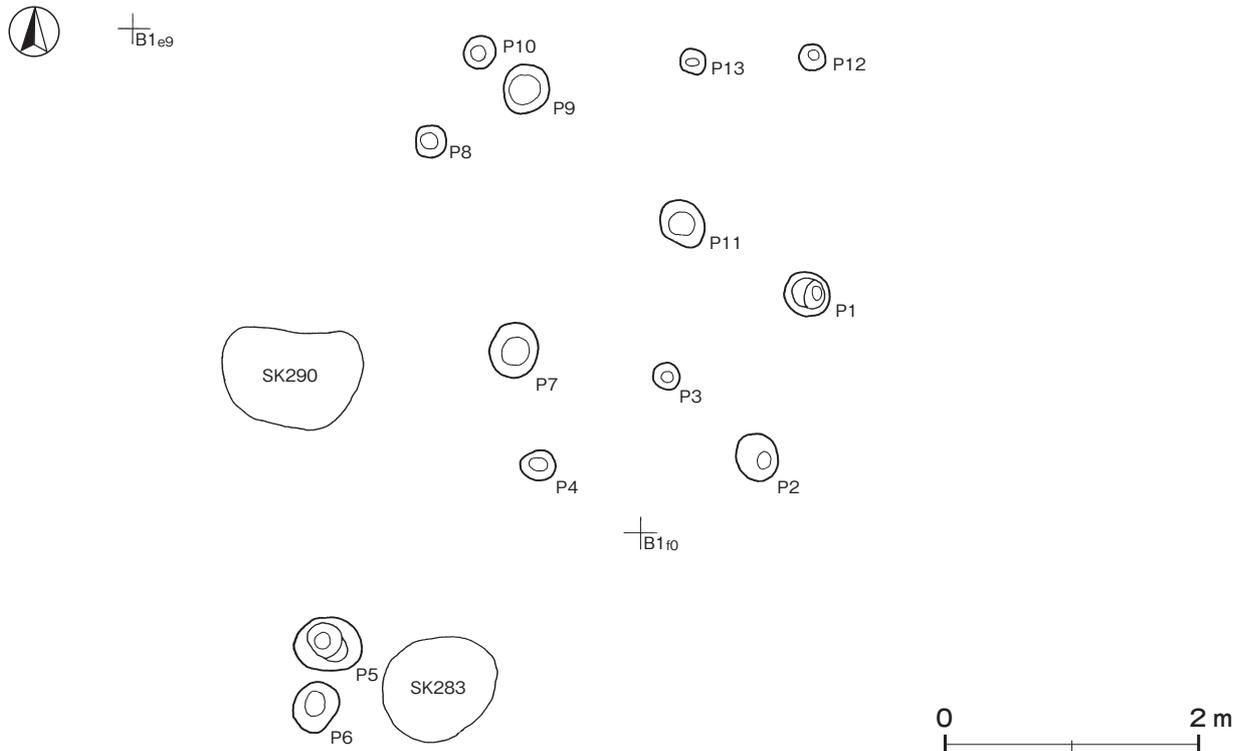
表18 第9号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	B1c6	楕円形	29	×	24	10	12	B1c6	円形	32	×	30	35
2	B1d6	楕円形	38	×	32	16	13	B1b5	円形	27	×	26	13
3	B1c6	円形	25	×	25	11	14	B1b6	楕円形	23	×	20	12
4	B1c6	円形	22	×	22	12	15	B1b6	円形	27	×	27	13
5	B1d6	楕円形	41	×	27	13	16	B1b7	円形	22	×	22	11
6	B1d5	円形	27	×	27	11	17	B1c6	円形	22	×	21	14
7	B1c5	楕円形	22	×	20	10	18	B1c6	円形	26	×	26	20
8	B1c5	円形	23	×	22	9	19	B1c6	楕円形	28	×	25	11
9	B1c5	円形	21	×	21	9	20	B1c6	楕円形	32	×	26	13
10	B1c5	円形	19	×	19	12	21	B1c6	楕円形	27	×	24	10
11	B1c5	円形	21	×	20	13							

第10号ピット群 (第130図)

位置 調査区北西部のB1e9～B1f0区, 標高20mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 東西5m, 南北6mほどの範囲にピット13基を確認した。形状は長径19～52cm, 短径19～43cmの円形または楕円形で、深さは10～25cmである。



第130図 第10号ピット群実測図

所見 時期・性格ともに不明である。

表 19 第 10 号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規 模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	B1e0	円形	36	×	35	24	8	B1e9	円形	24	×	24	15
2	B1e0	楕円形	38	×	34	15	9	B1e9	円形	39	×	36	16
3	B1e0	円形	21	×	20	10	10	B1e9	円形	25	×	25	14
4	B1e9	楕円形	27	×	23	14	11	B1e0	楕円形	40	×	33	18
5	B1f9	楕円形	52	×	43	25	12	B1e0	円形	19	×	19	10
6	B1f9	楕円形	40	×	33	17	13	B1e0	円形	21	×	20	11
7	B1e9	楕円形	42	×	37	17							

第 11 号ピット群 (第 131 図)

位置 調査区中央部の D 3 b7 ~ D 3 d0 区, 標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 131 図 第 11 号ピット群実測図

規模と形状 東西 12 m, 南北 11 mほどの範囲にピット 17 基を確認した。形状は長径 25～55cm, 短径 21～51cmの円形または楕円形で, 深さは 7～47cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 20 第 11 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径 (軸) × 短径 (軸)	深さ	長径 (軸) × 短径 (軸)				深さ		
1	D3c7	楕円形	41 × 35	14	10	D3d9	円形	44 × 41	47		
2	D3c7	楕円形	40 × 32	11	11	D3d9	楕円形	43 × 38	13		
3	D3c7	円形	41 × 41	11	12	D3d9	楕円形	55 × 51	39		
4	D3c7	楕円形	31 × 28	16	13	D3d8	円形	34 × 33	19		
5	D3c8	楕円形	39 × 34	19	14	D3c9	円形	35 × 33	30		
6	D3b8	円形	32 × 30	11	15	D3c9	楕円形	25 × 21	12		
7	D3c8	円形	45 × 42	32	16	D3c8	円形	32 × 32	12		
8	D3d9	円形	25 × 25	14	17	D3b8	楕円形	27 × 22	16		
9	D3c8	楕円形	32 × 28	7							

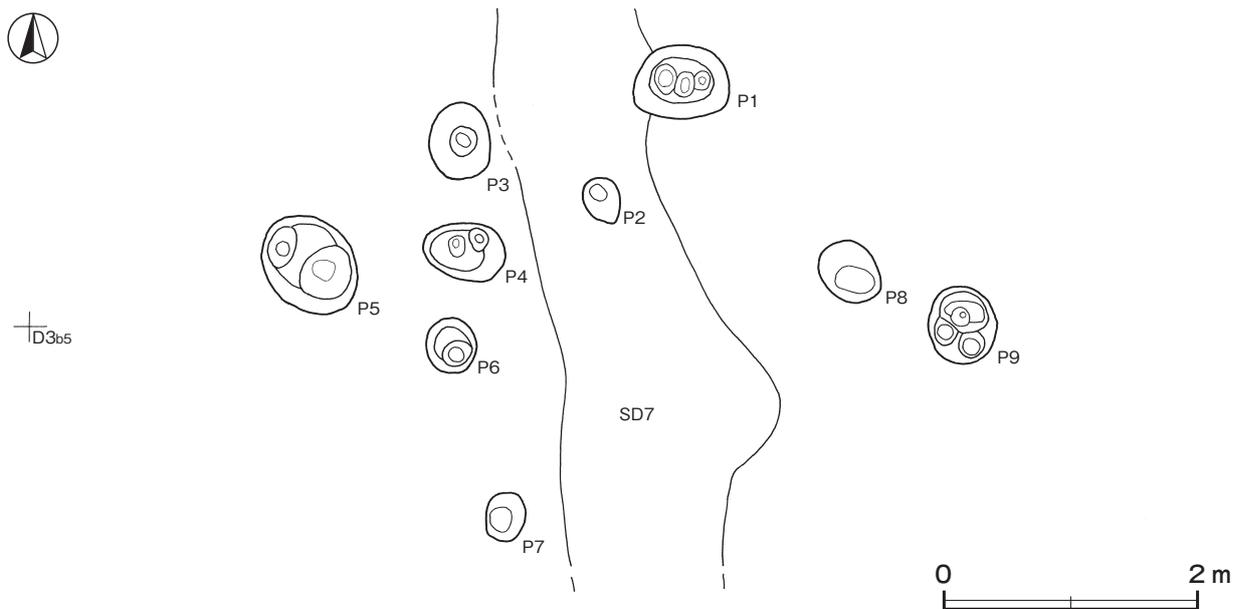
第 12 号ピット群 (第 132 図)

位置 調査区中央部の D 3 a5～D 3 b6 区, 標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 P 1・P 2が第 7号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西 6 m, 南北 4 mほどの範囲にピット 9 基を確認した。形状は長径 38～85cm, 短径 25～70 cmの円形または楕円形で, 深さは 15～78cmである。

所見 時期・性格ともに不明である。



第 132 図 第 12 号ピット群実測図

表21 第12号ピット群ピット計測表

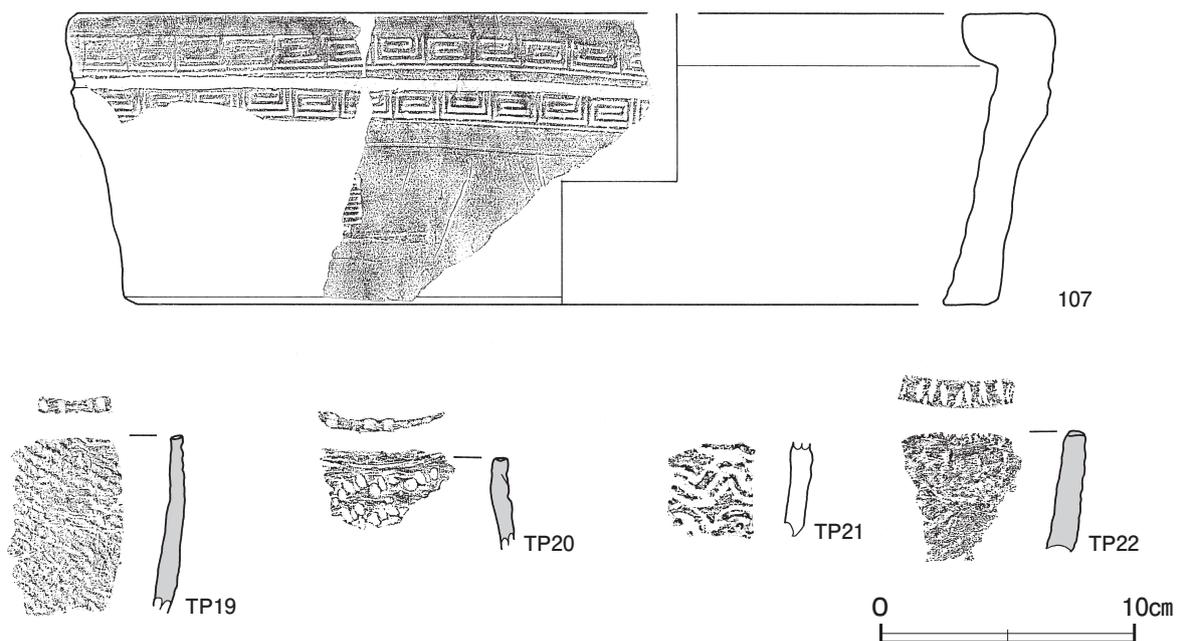
ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)				
			長径 (軸)	×	短径 (軸)				深さ	長径 (軸)	×	短径 (軸)	深さ
1	D3a6	楕円形	77	×	58	47	6	D3b5	円形	43	×	40	77
2	D3a6	楕円形	38	×	25	46	7	D3b5	楕円形	69	×	30	15
3	D3a5	楕円形	60	×	49	27	8	D3a6	楕円形	54	×	44	78
4	D3a5	楕円形	66	×	46	32	9	D3a6	楕円形	62	×	52	43
5	D3a5	楕円形	85	×	70	22							

表22 その他のピット群一覧表

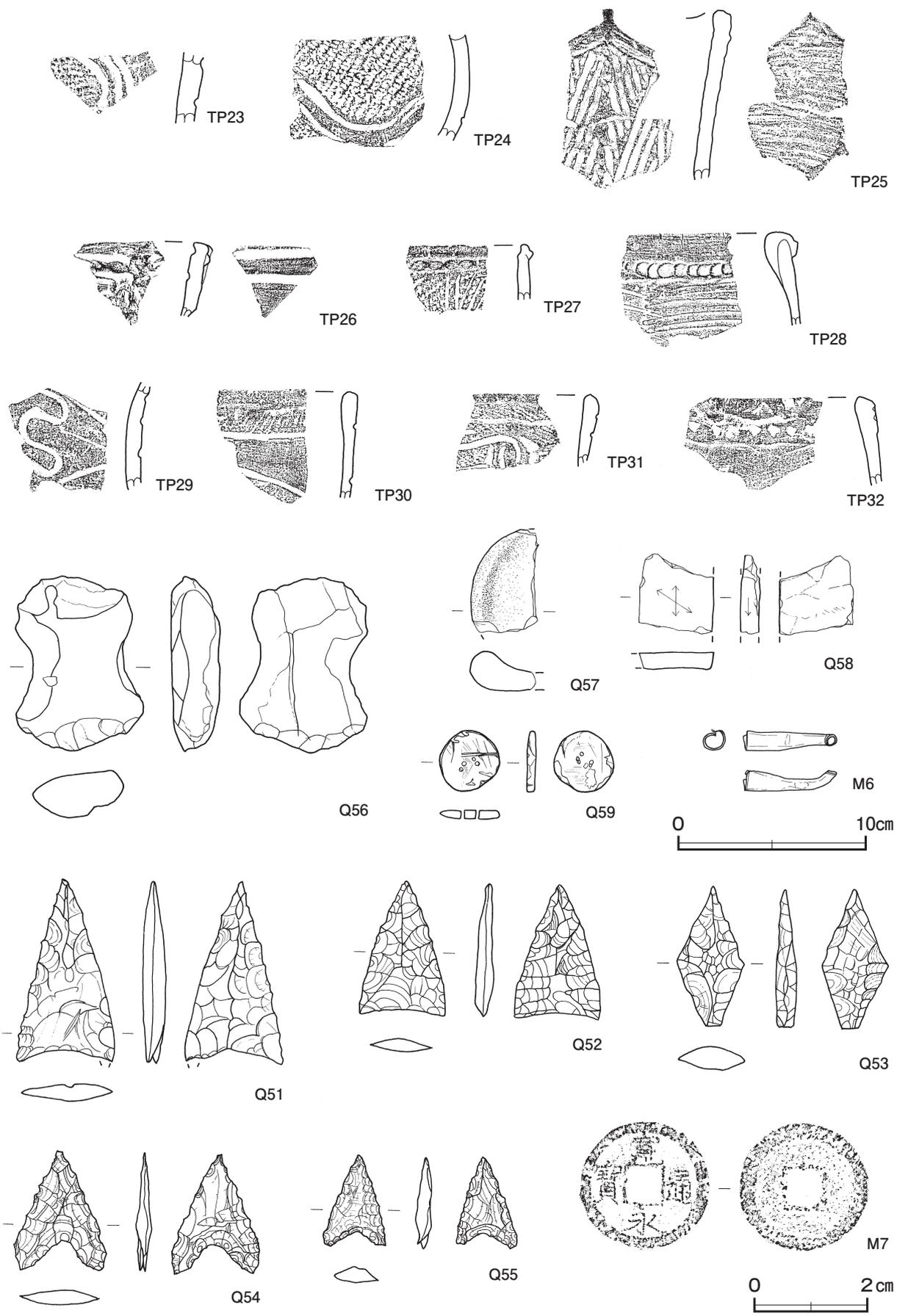
番号	位置	規模					主な出土遺物	備考 重複関係 (古→新)
		ピット数	平面形	長径 (軸)	短径 (軸)	深さ (cm)		
1	E 4 i4 ~ F 4 b7	17	円形・楕円形	28 ~ 44	22 ~ 42	13 ~ 29		
2	E 4 f2 ~ E 4 h4	15	円形・楕円形	23 ~ 43	23 ~ 36	15 ~ 77		
3	D 3 j9 ~ E 4 c4	46	円形・楕円形	22 ~ 58	20 ~ 43	11 ~ 72		
4	E 4 i1 ~ F 4 b2	17	円形・楕円形	20 ~ 52	17 ~ 44	17 ~ 71		
5	D 3 e5 ~ D 3 f6	19	円形・楕円形	20 ~ 39	19 ~ 37	5 ~ 71		SD7 → 本跡
6	D 2 c9 ~ D 2 c0	11	円形・楕円形	24 ~ 72	20 ~ 65	29 ~ 66		
7	C 2 a1 ~ C 2 g4	29	円形・楕円形	22 ~ 55	21 ~ 46	11 ~ 36		
8	B 1 h6 ~ B 1 j8	15	円形・楕円形	17 ~ 61	17 ~ 53	5 ~ 28		本跡 → SK272
9	B 1 b5 ~ B 1 d7	21	円形・楕円形	19 ~ 41	19 ~ 32	9 ~ 35		
10	B 1 e9 ~ B 1 f0	13	円形・楕円形	19 ~ 52	19 ~ 43	10 ~ 25		
11	D 3 b7 ~ D 3 d0	17	円形・楕円形	25 ~ 55	21 ~ 51	7 ~ 47		
12	D 3 a5 ~ D 3 b6	9	円形・楕円形	38 ~ 85	25 ~ 70	15 ~ 78		SD7 → 本跡

(6) 遺構外出土遺物

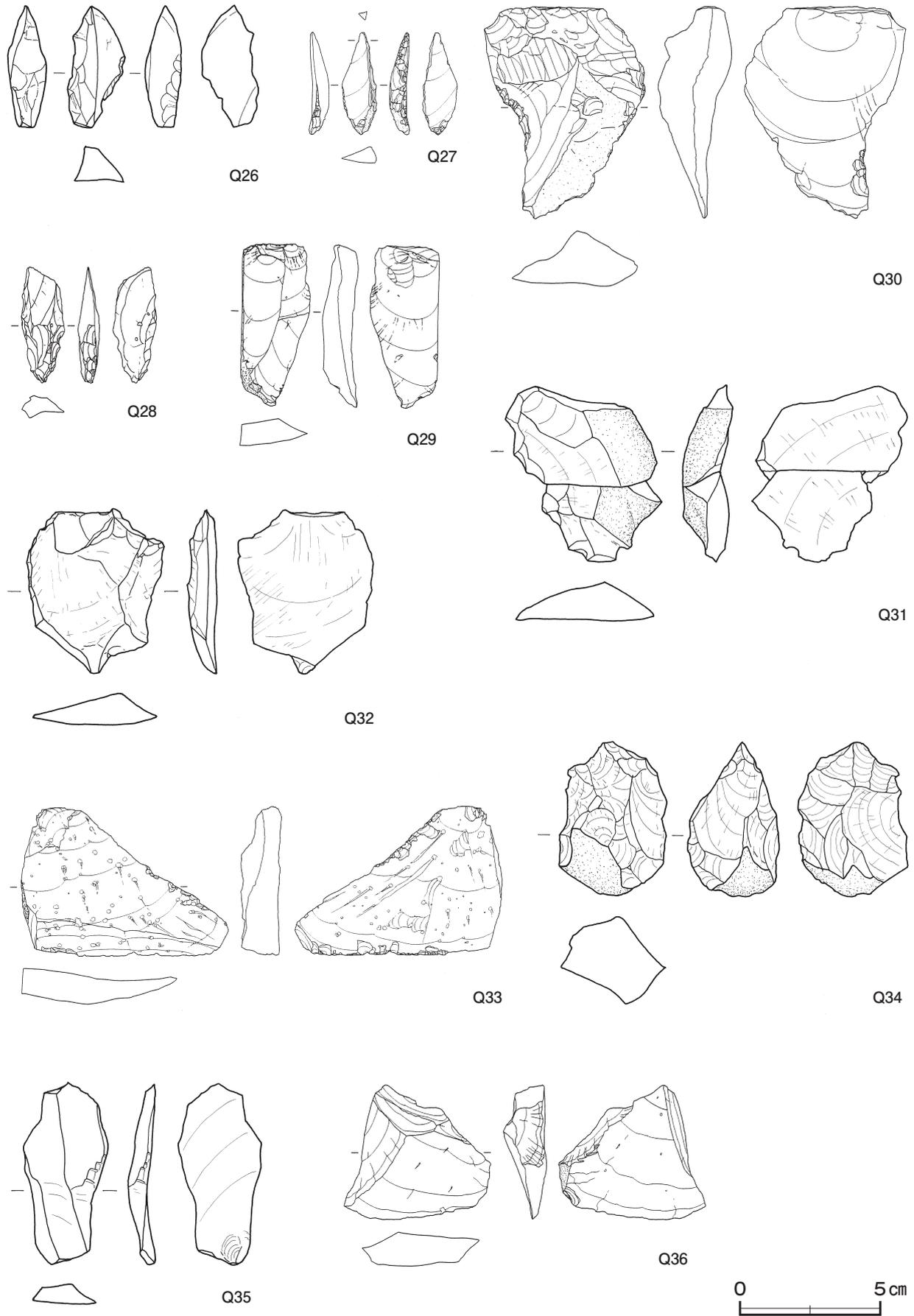
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



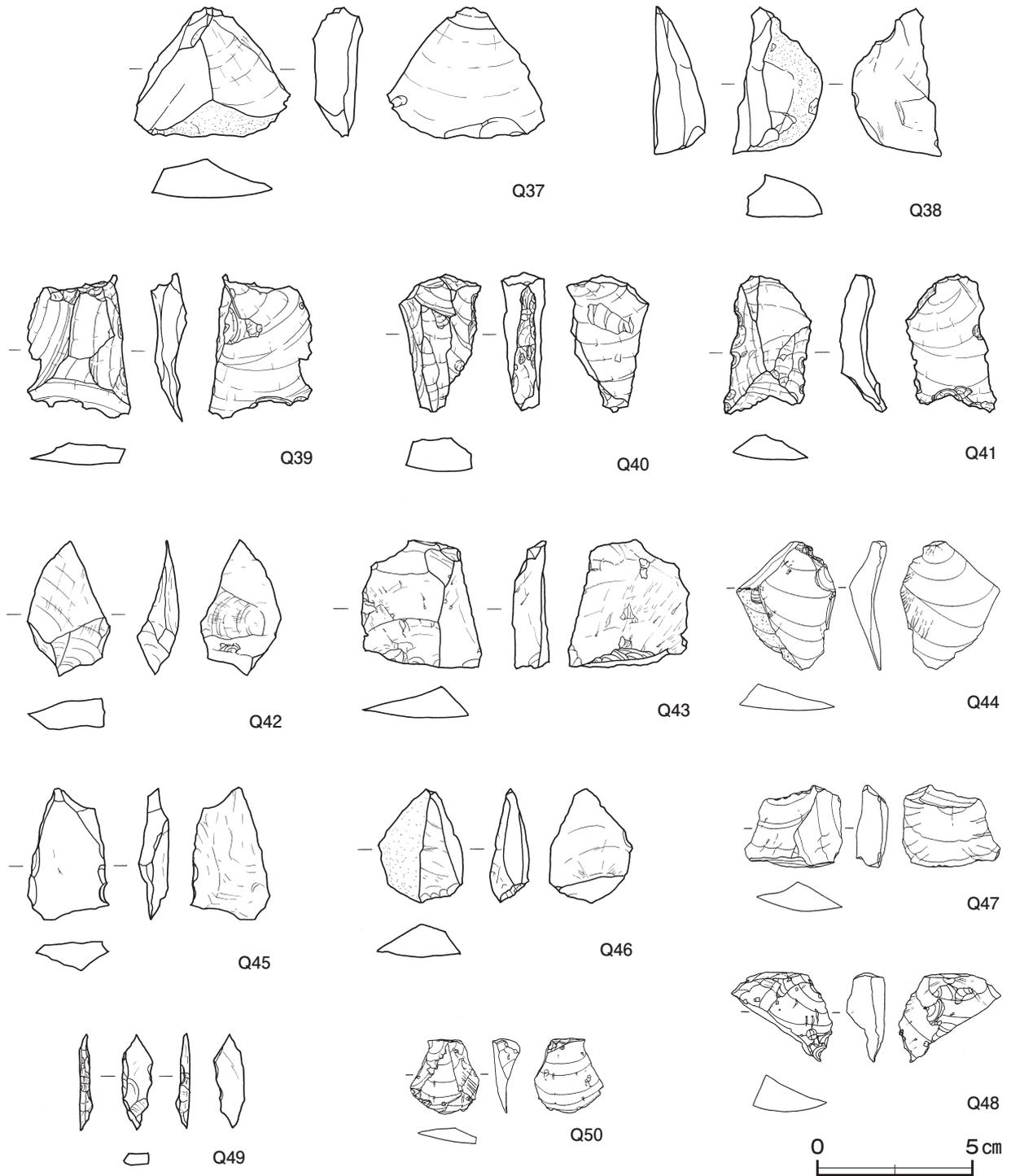
第133図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 134 图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第 135 図 遺構外出土遺物実測図 (3)



第 136 図 遺構外出土遺物実測図 (4)

遺構外出土遺物観察表 (第 133 ~ 136 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
107	瓦質土器	焜炉	[38.0]	11.6	[33.6]	長石・石英・雲母・細礫	オリブ黒	普通	ナデ 口縁部外面に1条の沈線 雷文施文	SK108	5%
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考				
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	口唇部押圧 Rの無節縄文	SI29	前期				
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	口唇部押圧 RLの単節縄文	SI20	前期				
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による波状の平行沈線文	SI17	前期				
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	口唇部キザミ	表土	前期				

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	LRの単節縄文 3条1組の沈線文	SI5	中期
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 黒色粒子	橙	RLの単節縄文 沈線文間磨消	SI21	中期
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部直下に沈線文 キザミをもつ隆帯垂下 沈線を密に施文 内面条痕文	表土	後期 PL29
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部直下に沈線文 隆帯剥離 内面2条の沈線文	表土	後期
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	口唇部直下に押圧を有する紐線文 LRの単節縄文 半載竹管 による平行沈線文	SI26	後期 PL29
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口縁部紐線文 条線文 口唇部肥厚	表土	後期 PL29
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	沈線による臍手文	表土	晩期
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	Lの無節縄文 沈線文間磨消	表土	晩期 PL29
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口縁部平行沈線文 三又入組文 口唇部肥厚	表土	晩期 PL29
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口縁部列点文	表土	晩期 PL29

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	ナイフ 形石器	4.4	2.1	1.3	8.9	珪質頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁に調整を施す	SI16	PL32
Q 27	ナイフ 形石器	3.7	1.2	0.7	2.4	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	SI23	PL32
Q 28	ナイフ 形石器	4.2	1.5	0.8	4.3	ガラス質安山岩	両縁調整	表土	PL32
Q 29	石刃	5.8	2.4	1.3	16.0	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	SI28	PL32
Q 30	剥片	7.6	5.8	2.6	65.7	珪質頁岩	平坦打面	表土	PL32
Q 31	剥片	6.3	5.6	1.8	45.6	ガラス質安山岩	打面は単剥離面 表面に原礫面を残す	SI16	PL32
Q 32	剥片	5.9	4.8	1.1	28.8	ガラス質安山岩	打面は単剥離面	表土	PL33
Q 33	剥片	5.4	7.4	1.5	39.0	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	SI26	PL33
Q 34	剥片	5.6	3.8	3.2	63.0	ガラス質安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 35	剥片	6.5	3.0	1.0	10.4	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 36	剥片	4.8	5.2	1.5	28.5	ガラス質安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面	集石2	PL33
Q 37	剥片	4.2	5.0	1.6	26.0	ガラス質安山岩	打面は単剥離面	SK3	PL33
Q 38	剥片	4.8	2.9	1.7	20.2	ガラス質安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 39	剥片	4.7	3.3	1.2	11.2	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 40	剥片	4.5	2.6	1.4	13.9	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 41	剥片	4.5	2.9	1.4	9.0	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 42	剥片	4.4	2.7	1.3	9.4	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	SI28	PL33
Q 43	剥片	4.1	3.9	1.3	14.9	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 44	剥片	4.3	3.2	1.2	6.4	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	SK309	PL33
Q 45	剥片	4.3	2.6	1.0	10.0	ガラス質安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 46	剥片	3.7	2.8	1.2	10.6	ガラス質安山岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表土	PL33
Q 47	剥片	2.7	3.2	1.0	8.0	ガラス質安山岩	打面は単剥離面	集石2	PL33
Q 48	剥片	2.9	3.3	1.2	6.3	黒曜石	縦長剥片 打面は単剥離面	SI26	PL33
Q 49	剥片	3.1	1.0	0.4	1.7	珪質頁岩	縦長剥片 打面は単剥離面	表採	PL33
Q 50	剥片	2.5	2.2	0.9	2.2	黒曜石	打面調整あり	表土	PL33
Q 51	石鎌	(3.3)	1.8	0.5	(1.8)	チャート	両面押圧剥離 片側脚部欠損	SI20	PL33
Q 52	石鎌	2.4	1.5	0.4	1.0	チャート	両面押圧剥離	SI25	PL33
Q 53	石鎌	2.5	1.2	0.4	1.0	チャート	両面押圧剥離	SI21	PL33
Q 54	石鎌	2.2	1.6	0.3	0.6	チャート	両面押圧剥離	SK57	PL33
Q 55	石鎌	1.6	1.1	0.3	0.3	黒曜石	両面押圧剥離	SI3	PL33
Q 56	打製石斧	9.5	6.9	2.7	158.2	凝灰岩	両面調整	SI21	
Q 57	石皿	(5.6)	(3.6)	2.1	(52.6)	凝灰岩	上面摩耗による皿状の凹み	表土	
Q 58	砥石	(4.3)	(4.0)	1.0	(26.5)	凝灰岩	砥面2面 他2面は破断面	表土	
Q 59	有孔円板	3.3	3.1	0.5	9.3	滑石	全面研磨 二方向からの穿孔 未穿孔穴複数	表土	PL33

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	煙管	(5.0)	(1.1)	1.1	(3.4)	銅	雁首部 火皿欠損 外面緑青	表土	PL34

番号	銭種	径	厚さ	孔幅	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M 7	寛永通寶	2.4	0.1	0.6	2.1	銅	1636	無背	表土	PL34

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、竪穴建物跡 31 棟（縄文時代 6, 古墳時代 24, 不明 1）, 陥し穴 5 基（縄文時代）, 井戸跡 1 基（不明）, 土坑 292 基（縄文時代 29, 古墳時代 33, 不明 230）, 集石遺構 2 か所（縄文時代）, 溝跡 12 条（不明）, 石器集中地点 3 か所（旧石器時代）などを確認した。当遺跡は、旧石器時代には石器製作地点として、縄文時代と古墳時代には集落跡であることが明らかになった。ここでは、当遺跡と周辺遺跡とを含めた旧石器・縄文・古墳の各時代の様相について述べるとともに、古墳時代前期における祭祀行為について若干の考察を加え、まとめとしたい。

2 各時代の様相

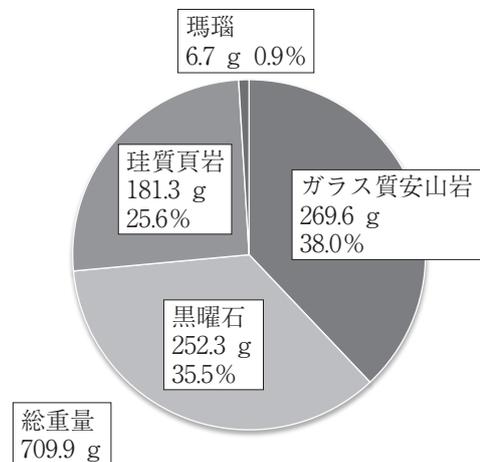
(1) 旧石器時代（第 137 図）

石器集中地点 3 か所及び遺構外から出土した石器の総重量は 709.9 g で、石材別の内訳は、ガラス質安山岩 269.6 g, 黒曜石 252.3 g, 珪質頁岩 181.3 g, 瑪瑙 6.7 g である。石材別・器種別の分類は表 23 のとおりである。石材についてはガラス質安山岩と黒曜石の 2 種類で、総重量の 73.5% を占めている。

石材の産地について、これまでの研究における成果¹⁾から述べていきたい。ガラス質安山岩については、県内の遺跡から出土した石器は、大洗海岸と栃木県武子川・姿川がその産地として挙げられている。大洗海岸産については、筑波山塊東側では量的に見られるものの、筑波山塊の南側及び西側ではほぼ確認されないことから、当遺跡のガラス質安山岩は、武子川・姿川を産地と推定できる。次に黒曜石の産地については、栃木県高原山や長野県霧ヶ峰などが挙げられるが、当遺跡出土の黒曜石は白い斑晶が入るものが大半で、その特徴から高原山産と推定できる。珪質頁岩は、県内では久慈川、里川や源氏川の流域が産地で、県北地域にその出土例が多い。県南地域における珪質頁岩の出土例は多くないことから、流通経路の検討が今後の課題となる。瑪瑙の産地は、本県周辺では栃木県茂木町周辺と考えられており、茂木町周辺産の瑪瑙が本県へ流入するルートは、那珂川の谷に沿ったルートと、鬼怒川に沿ったルートの 2 ルートが想定されている。当遺跡の瑪瑙が茂木町周辺産とするならば、当遺跡へは、鬼怒川に沿って運ばれてきたと推定できる。

表 23 高須賀中台東遺跡出土石器分類表

石材 器種	ガラス質 安山岩	黒曜石	珪質頁岩	瑪瑙	総計
ナイフ形 石器	1 点	2 点	2 点	—	5 点
石刃	—	—	3 点	—	3 点
剥片	12 点	25 点	7 点	6 点	50 点
総計	13 点	27 点	12 点	6 点	58 点



第 137 図 出土石材別重量割合図

当遺跡出土石器の層位については、基本層序の第3・4層からがその大半を占める。第3層下部はATを含む層と推定でき、石器がそれより下層から出土していることや、ナイフ形石器が出土していることなどから、当遺跡の石器集中地点は、編年上では常陸地域Ⅱ～Ⅲ期（武蔵野地域Ⅱa～Ⅱb期、下総地域Ⅱb～Ⅱc期）に該当すると考えられる²⁾。当遺跡から東南東へ約2.5kmに所在する下河原崎谷中台遺跡³⁾からは、当遺跡と時期を同じくする常陸地域Ⅱ～Ⅲ期の石器264点が出土しており、当遺跡を含む周辺地域は、後期旧石器時代から人々の活動が活発に行われていたと考えられる。

(2) 縄文時代

当時代の遺構として、竪穴建物跡6棟、陥し穴5基、土坑29基、集石遺構2か所を確認した。竪穴建物跡6棟はいずれも床面まで削平されているため、炉やピットの配置、土器の出土範囲などから平面形を推定した。平面形は、楕円形が3棟、隅丸長方形が2棟、隅丸方形が1棟である。出土土器の多くに縄文が生まれ、無節または単節の縄文が施文されていることなどから、前期前半に比定できる⁴⁾。当遺跡から南へ約500mに所在する高須賀中台遺跡⁵⁾では、黒浜式期の竪穴建物跡1棟を確認している。平面形は長方形、規模は1辺4～5mほどであり、当遺跡の竪穴建物跡とほぼ同規模で時期も近い。当遺跡の所在する台地は、現在は西側には小貝川が流れ、東側には谷津が入り込んでおり、南北に細長い形状を呈しており、当時代は東側・西側ともに海水が入り込んでいる地形であったと考えられている。高須賀中台遺跡はこの台地の南端部にあたり、当遺跡を含む周辺地域は、該期には水を得やすい地形を利用して、狩猟や採集、漁労などを行っていたものと推測できる。また、後期では、第274・283・291号土坑から、堀之内式・安行1式の土器片が出土しているほか、遺構外から、前期（関山式・黒浜式）、中期（加曾利E式）、後期（称名寺式・堀之内式・安行1・2式）、晩期（安行3b式）などの土器片が出土している。これらのことから、当遺跡とその近辺は、前期から晩期にかけて、人々が断続的に生活していたと考えられる。

(3) 古墳時代（第138図）

当時代の遺構として、竪穴建物跡24棟、土坑33基を確認し、土師器の埴、高坏や甕の形状などから、前期（4世紀代）に集落が営まれたことが明らかになった。最初に竪穴建物跡が確認できるのは4世紀前葉で、第20号竪穴建物跡の1棟である。調査区中央部に位置し、主軸方向はN-22°-Wで、床面積は23㎡ほどである。4世紀中葉になると竪穴建物の棟数が急増し、第3・11・13・21・22・25号竪穴建物跡の6棟を確認した。調査区中央部で、前葉の第20号竪穴建物跡から10～60mほどの範囲に位置し、主軸方向はN-10°～44°-Wで、前葉と同様、やや北西方向に振れている。床面積は20㎡台の建物が5棟で前葉のそれに近く、残りの1棟である第3号竪穴建物跡は65㎡台に達する大形の建物である。本跡からは炉を2か所確認したほか、南壁中央部に、南壁に直交する間仕切り溝が設けられているのが特徴であり、該期の集落における中心的な建物と想定できる。4世紀後葉は当遺跡における集落の最盛期で、第2・5～7・10・23・24・26・28・29・31・32号竪穴建物跡の12棟が確認されている。位置は、調査区の北部から南部で、南北におよそ160mの範囲に広がっている。主軸方向は第32号竪穴建物跡のみがやや北東方向に振れるものの、他の11棟はN-18°～42°-Wで、前葉・中葉と同様、やや北西方向に振れている。床面積は14㎡台とやや小規模のものが現れ、中葉と比較して床面積の差が大きくなっている。該期における最も大形の建物は第23号竪穴建物跡で、床面積は64㎡台である。炉を複数確認したほか、南壁中央部に、南壁に直交する間仕切り溝が設けられている。中葉の第3号竪穴建物跡と同様の特徴が見られ、該期の集落における中心的な建物と想定できる。これらのことから、当遺跡の4世紀代の様相は、前葉の



第 138 図 古墳時代前期竪穴建物跡全体図

第20号竪穴建物を皮切りに、中葉になると第3号竪穴建物を中心的な建物として一定のまとまりをもち、後葉になると第23号竪穴建物を中心的な建物として、集落としての範囲を拡大していったと概観することができる。

ここで当時代の集落について、当遺跡周辺に所在する高須賀中台遺跡と上郷神谷森遺跡⁶⁾と比較してみる。高須賀中台遺跡からは前期の竪穴建物跡2棟が確認されている。主軸方向、規模ともに当遺跡の竪穴建物跡とほぼ同様であり、当遺跡が所在する台地上に位置することから、当遺跡の集落との関連性が想定できる。また、北東約500mに所在する上郷神谷森遺跡からは竪穴建物跡28棟が確認されており、こちらも五領式期に比定されている。当遺跡と谷津を挟んで位置するものの、同時期に栄えた集落として、相互の関連性が想定できる。

当遺跡において集落が営まれていたのは、4世紀のわずか100年程度の期間である。この地で生活を営んでいた人々が、どこからやって来て、どこへ移動していったかは定かではない。考えられるのは、当遺跡の台地も上郷神谷森遺跡の台地も南北に細長く、東西の幅が500～750m程度であることから、これらの台地上では集落としての広がりに限界があったということである。そこで、当時の人々が、西谷田川から東側の台地へ、集落の拠点を移していったと想定してみたい。西谷田川と谷田川に挟まれた台地上では、下河原崎谷中台遺跡⁷⁾において5世紀代の竪穴建物跡44棟が確認されるとともに、元宮本前山遺跡⁸⁾からは、5世紀前葉及び前半の竪穴建物跡21棟が確認され、さらに島名熊の山遺跡⁹⁾では、当時代前期から平安時代にかけての竪穴建物跡2,300棟以上が確認されている。これらのことから、当時代の前期は、小貝川と西谷田川に挟まれた台地上で集落が形成されていた。中期以降になると、西谷田川と谷田川に挟まれた台地上に集落の中心が形成されたと想定することができる。古墳時代の人々は、小貝川沿いから谷田川沿い、西から東へと集落を移動していったと言える。

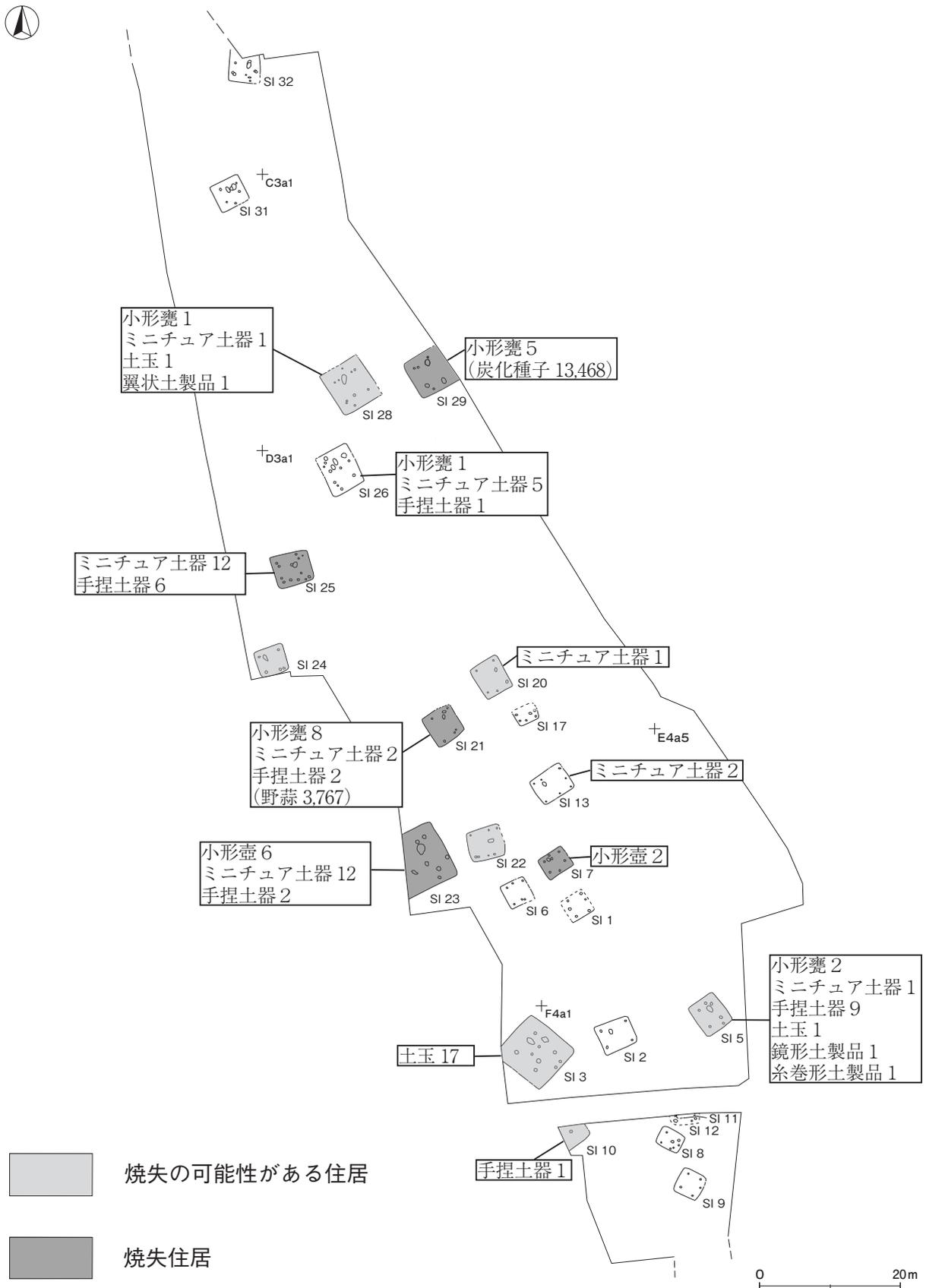
3 古墳時代前期の集落における祭祀的行為について（第139図）

今回の調査で、祭祀が行われたと想定できる竪穴建物跡を複数確認した。ここでは特に祭祀遺物が出土し、焼失したと考えられる竪穴建物跡を取り上げて述べていくことにする。

祭祀遺物と考えられる出土遺物は、小形壺、小形甕、ミニチュア土器、手捏土器、土玉や模造品などの土製品で、これらの遺物が出土したのは、第3・5・7・10・13・20・21・23・25・26・28・29号竪穴建物跡の12棟である。これは、当遺跡で確認した竪穴建物跡24棟の5割に上る。周辺遺跡での調査例を見ると、高須賀中台遺跡で確認した竪穴建物跡2棟のうち1棟で小形甕が出土しており、上郷神谷森遺跡では、確認した竪穴建物跡28棟のうち15棟から上記の遺物が出土している。どちらの遺跡も全体の5割またはそれを超える割合で確認されていることが分かる。

次に、焼失住居について確認したい。焼土や炭化材等の出土から、焼失住居と想定できるのは第7・21・23・25・29号竪穴建物跡の5棟、焼土の出土から焼失住居の可能性があると判断したものは第3・5・10・20・22・24・28号竪穴建物跡の7棟で、両者を合計すると12棟に上る。前述した高須賀中台遺跡では竪穴建物跡2棟のうち1棟が、上郷神谷森遺跡では同じく28棟のうち11棟が焼失住居であると報告されている。当遺跡を合わせた3遺跡で、全体の4割から5割の割合で建物が焼失していることが分かる。

さらに、祭祀遺物が出土し、かつ焼失もしくは焼失の可能性のある建物を挙げると、当遺跡では第3・5・7・10・20・21・23・25・28・29号竪穴建物跡の10棟に上る。高須賀中台遺跡では該当はないが、上郷神谷森遺跡では7棟を数える。これらのことから、祭祀遺物の出土と焼却行為は、一定の関係性をもっていると考えられるであろう。



第 139 図 焼失住居・祭祀遺物出土竪穴建物跡一覧

古墳時代の祭祀行為について榎村宣行氏は「五領の段階は、手捏土器を中心とする祭祀で、和泉Ⅱ期から鬼高Ⅰ期にかけては、石製模造品による祭祀が主流を占めるようになる」と述べている¹⁰⁾。当遺跡における石製模造品の出土は、表土からの有孔円板1点のみであり、これ以外の祭祀に関わる遺物としては、第139図に挙げている、小形の壺・甕、ミニチュア土器、手捏土器、土玉や模造品などの土製品などであることから、榎村氏が述べる祭祀的行為の様相と当遺跡の様相は一致していると言える。また、高い割合で祭祀遺物の出土と焼失住居が一致するということは、焼失は単なる失火ではなく、廃絶の際に何らかの意図をもち、火を放って焼失させたと想定することができる。さらに、4世紀中葉の第5号竪穴建物跡からは鏡形土製品と糸巻形土製品が、同じく4世紀中葉の第28号竪穴建物跡からは翼状土製品が、いずれも炉床面から出土している。翼状土製品は成沢遺跡¹¹⁾からの出土例があり、生活用具か祭祀用具かは不明であると報告されている。出土した土製品3点とも火を受けた痕跡が見られないことから、これらは炉の使用を終えた後に置かれた状況を示しており、土製品を遺して住居を廃絶し、焼却するという一連の祭祀的行為の流れをみて取ることができよう。

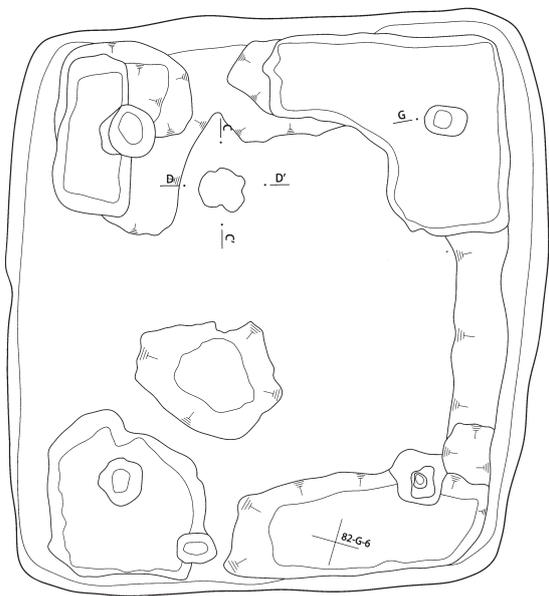
なお、当遺跡の第21号竪穴建物跡からは炭化した野蒜3,767点が、第29号竪穴建物跡からは炭化種子13,468点がいずれも床面から散在して出土している。阿見町赤太郎遺跡¹²⁾においても5世紀中葉の竪穴建物跡の床面から覆土下層にかけて炭化種子4,339点が出土している。いずれも焼失住居であることが共通しており、植物やその種子を遺棄する行為と建物を焼却する行為の関連性が想定できる。

4 第3・23号竪穴建物跡の床下から確認した土坑状の掘り込みについて（第140図）

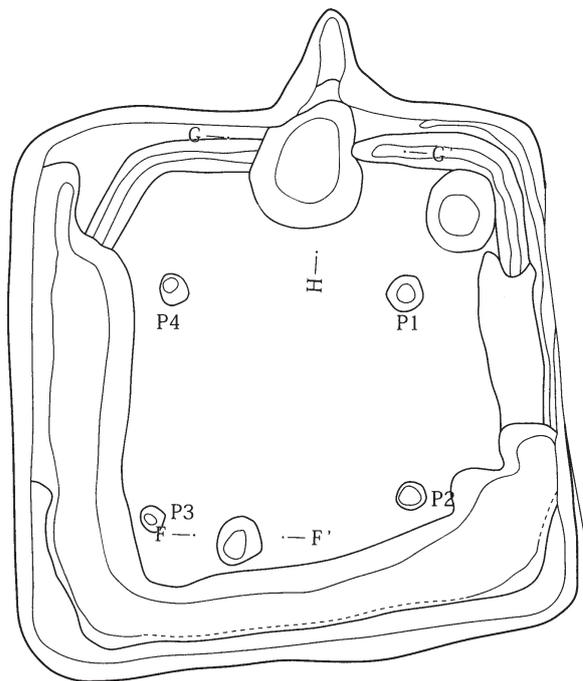
今回の調査で、古墳時代の多くの住居が貼床で構築されていることを確認した。そのうち、いずれも大形の住居である第3・23号竪穴建物跡の床下からは土坑状の掘り込みを確認するとともに、いずれの掘り込みからも遺物が出土した。第3号竪穴建物跡から出土した土玉17点のうち13点が、床下で確認した土坑状の掘り込みから出土している。第23号竪穴建物跡では、埴、器台、高坏、ミニチュア土器、不明鉄製品各1点が、同じく土坑状の掘り込みから出土している。これら土坑状の掘り込みが確認された例は近県でも多く報告されている。群馬県では荒砥前田Ⅱ遺跡¹³⁾において古墳時代前期初頭の住居跡で、同じく大道東遺跡¹⁴⁾において古墳時代後期の住居跡で複数確認している。いずれも遺物は出土していない。掘方からの遺物の出土については、県内では平北田遺跡¹⁵⁾において、6世紀後葉の竪穴建物跡の貼床の構築土から土玉1点が、島名熊の山遺跡¹⁶⁾においては、7世紀前葉の竪穴建物跡の貼床の構築土から土製小玉9点がそれぞれ出土している。他県の類例では栃木県清六Ⅲ遺跡¹⁷⁾において、古墳時代後期の竪穴建物跡の貼床の構築土から、五鈴鏡を模したと想定される鏡形土製品1点が出土し、同じく寺野東遺跡¹⁸⁾からは、古墳時代前期の竪穴建物跡の貼床の覆土中から球状土錘1点が出土している。いずれも住居の構築時における祭祀的な行為を想定させるが、現段階においては明確にすることができなかった。今後の類例の増加により解明できることを期待したい。

5 おわりに

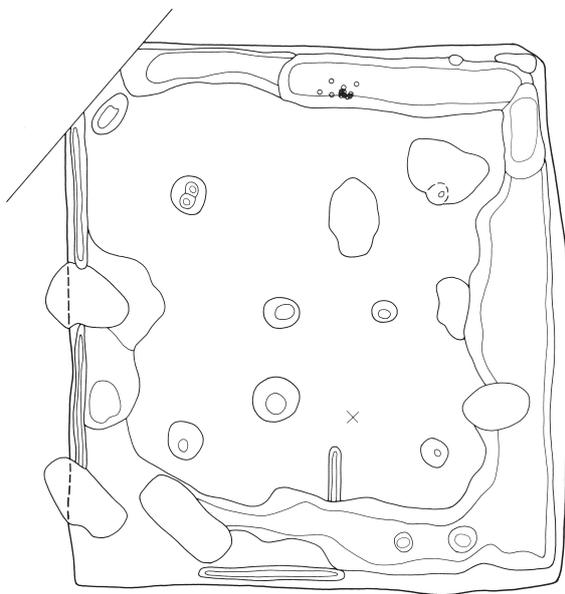
今回の調査によって、後期旧石器時代から古墳時代前期にかけて人々が断続的に生活を営んでいたこと、特に古墳時代前期においては、集落が1世紀程度の短期間で廃絶されたことが明らかになった。また、古墳時代前期の竪穴建物跡からは、構築時及び廃絶時における祭祀的な行為の一端を垣間見ることができた。当遺跡の全容については、今後の調査事例を含めたさらなる分析が必要であるが、今回の調査成果が、少しでも当地域における歴史解明の一助となれば幸いである。



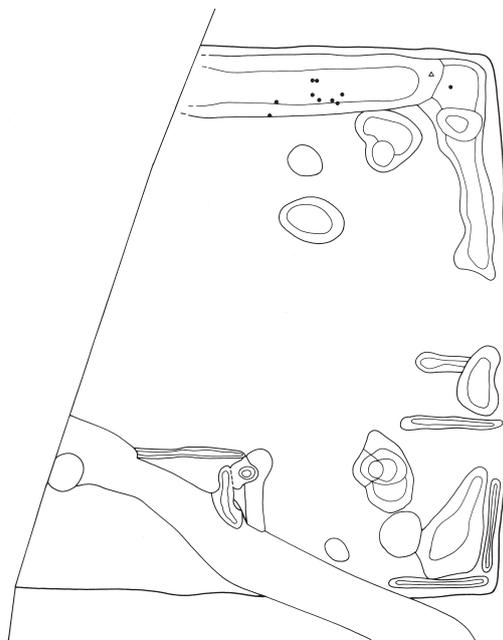
荒砥前田Ⅱ遺跡 2区10号住居



大道東遺跡 162号住居



高須賀中台東遺跡 第3号竪穴建物跡



高須賀中台東遺跡 第23号竪穴建物跡

第140図 掘方完掘平面図（北方向・縮尺は任意）

註

- 1) 柴田徹「茨城県内において剥片石器に使用された石材について」『茨城県における旧石器時代研究の到達点－その現状と課題－』
発表要旨・資料集 茨城県考古学協会 2002年12月
- 2) 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」『茨城県における旧石器時代研究の到達点－その現状と課題－』発表要旨・資
料集 茨城県考古学協会 2002年12月
- 3) a 高野裕壘「下河原崎谷中台遺跡 鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨
城県教育財団文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台遺跡 下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」
『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 縄文土器の編年については以下の文献に依拠した。
大川清 鈴木公雄 工楽善通編『日本土器事典』雄山閣 1996年12月
- 5) 茂木悦男「一般県道赤浜谷田部線県単道路改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 高須賀中台遺跡」『茨城県教育財団文化財
調査報告』第142集 1998年11月
- 6) 小泉光正「一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 神谷森遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第
66集 1991年3月
- 7) 註3)に同じ
- 8) 高野裕壘「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調
査報告』第265集 2006年3月
- 9) 清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団文化財
調査報告』第380集 2013年3月
- 10) 桜村宣行「茨城県の概要」『古墳時代の祭祀－祭祀関係の遺跡と遺物－』東日本埋蔵文化財研究会 1993年3月
- 11) 青木義夫 久野俊度「龍ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書6 成沢遺跡 屋代A遺跡」『茨城県教育財団文化財調査
報告ⅩⅣ』1982年3月
- 12) 櫻井完介「赤太郎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第377
集 2013年3月
- 13) 小島敦子「荒砥前田Ⅱ遺跡 一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書」『財団法人群馬県埋蔵文化財
調査事業団調査報告書』第472集 2009年9月
- 14) 新井仁 佐藤明人 岩崎泰一 女屋和志雄 神谷佳明「大道東遺跡(3)－弥生時代以降編2－ 北関東自動車道(伊勢崎～
県境)地域埋蔵文化財調査報告書」『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書』第506集 2010年10月
- 15) 舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財
調査報告』第336集 2011年3月
- 16) 小島敏 眞崎紀雄 白田正子 野田良直「(仮称)鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 熊
の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第133集 1998年3月
- 17) 上原康子 篠原祐一「清六Ⅲ遺跡Ⅲ 渡良瀬川下流域及び思川流域下水道処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木
県埋蔵文化財調査報告』第227集 1999年3月
- 18) 初山孝行 青柳平人 谷中隆 江原英「寺野東遺跡Ⅵ 小山市小山東部地区工業用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木
県埋蔵文化財調査報告』第201集 1997年3月

参考文献

- ・寺内久永 前島直人「西栗山遺跡2 根崎遺跡2 萱丸一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県
教育財団文化財調査報告』第349集 2011年3月
- ・石野博信 岩崎卓也 河上邦彦 白石太郎『古墳時代の研究 第3巻 生活と祭祀』雄山閣 1991年3月
- ・広瀬和雄 和田晴吾『日本の考古学講座 古墳時代』青木書店 2012年5月
- ・篠原祐一「マツリで使われる石製模造品と土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会 2008
年11月
- ・穂積裕昌『古墳時代の喪葬と祭祀』雄山閣 2012年5月

写 真 图 版

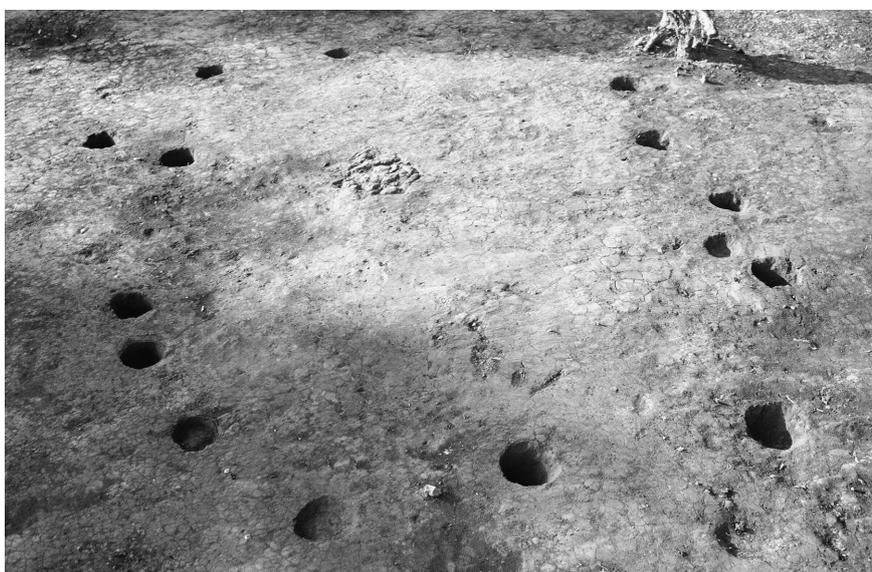


第5号竖穴建物跡出土遺物

第3号石器集中地点
遺物出土狀況



第4号豎穴建物跡
完掘狀況



第14号豎穴建物跡
完掘狀況



PL2



第16号竖穴建物跡
完掘状況



第18号竖穴建物跡
完掘状況

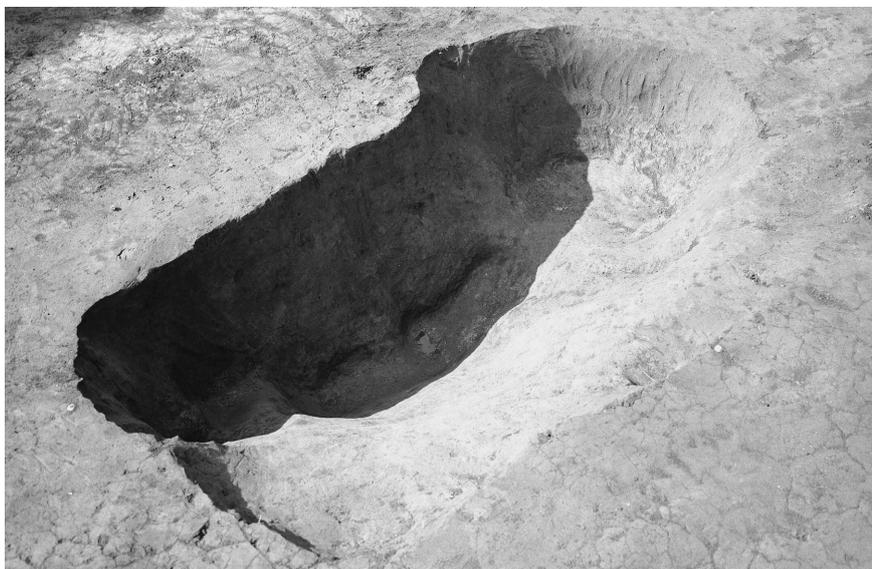


第19号竖穴建物跡
完掘状況

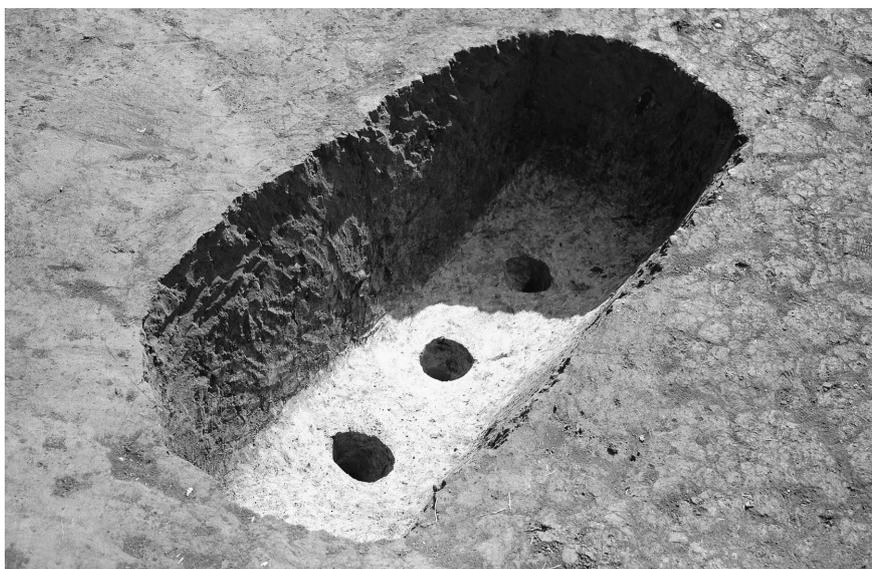
第27号竖穴建物跡
炉 1 確認 状 況



第 4 号 陥 し 穴
第 280 号 土 坑
完 掘 状 況



第 5 号 陥 し 穴
完 掘 状 況



PL4



第1号集石遺構
礫出土状況



第3号竖穴建物跡
遺物出土状況①



第3号竖穴建物跡
遺物出土状況②

第3号竖穴建物跡
炉1完掘状況



第3号竖穴建物跡
完掘状況



第5号竖穴建物跡
遺物出土状況①



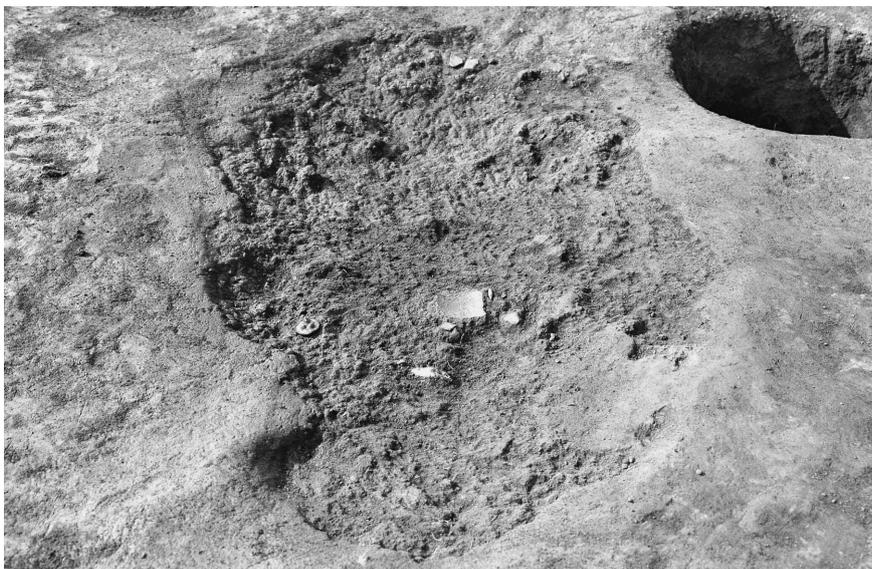
PL6



第5号竖穴建物跡
遺物出土状況②



第5号竖穴建物跡
遺物出土状況③



第5号竖穴建物跡
炉遺物出土状況

第5号竖穴建物跡
貯藏穴
遺物出土狀況



第5号竖穴建物跡
P 1 遺物出土狀況



第5号竖穴建物跡
完掘狀況



PL8



第6号竖穴建物跡
完掘狀況



第7号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第7号竖穴建物跡
完掘狀況

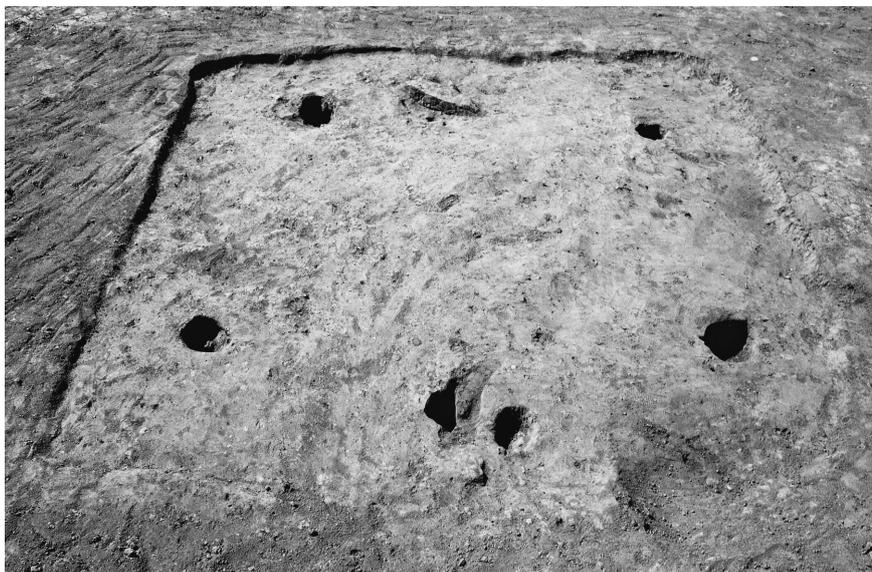
第8号竖穴建物跡
完掘狀況



第9号竖穴建物跡
炉土層断面



第9号竖穴建物跡
完掘狀況



PL10



第10号竖穴建物跡
遺物出土状況①



第10号竖穴建物跡
遺物出土状況②



第10号竖穴建物跡
完掘状況

第13号豎穴建物跡
貯藏穴中層
遺物出土狀況



第13号豎穴建物跡
貯藏穴下層
遺物出土狀況



第13号豎穴建物跡
完掘狀況



PL12



第17号豎穴建物跡
炉 確 認 状 況



第20号豎穴建物跡
完 掘 状 況



第21号豎穴建物跡
遺物出土狀況①



第21号豎穴建物跡
遺物出土狀況②



第21号豎穴建物跡
遺物出土狀況③



第21号豎穴建物跡
遺物出土狀況④



第21号竖穴建物跡
遺物出土状況⑤



第21号竖穴建物跡
炭化材出土状況



第21号竖穴建物跡
炭化種子出土状況

第21号竖穴建物跡
完掘狀況



第22号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第22号竖穴建物跡
完掘狀況



PL16



第23号竖穴建物跡
遺物出土状況①



第23号竖穴建物跡
遺物出土状況②



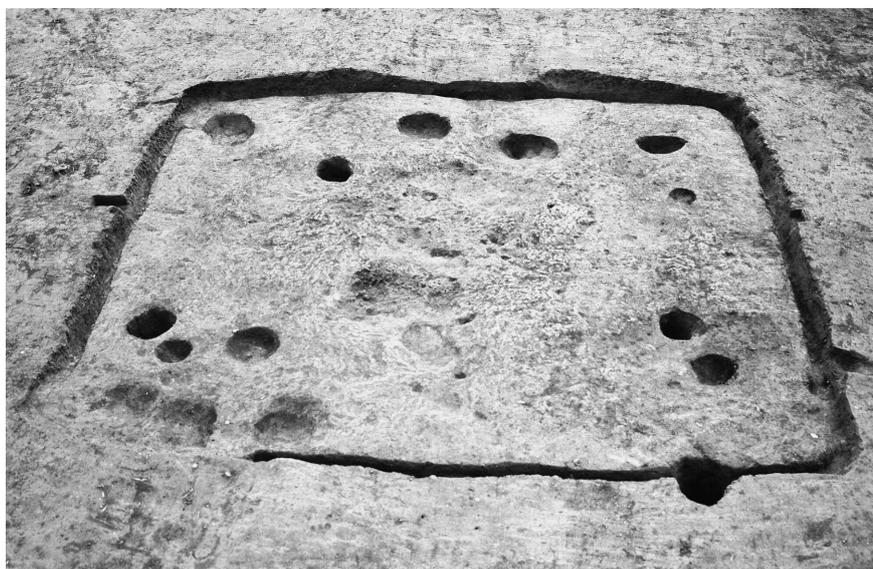
第23号竖穴建物跡
床下土坑1
遺物出土状況



第23号竖穴建物跡
完掘状況



第25号竖穴建物跡
遺物出土状況



第25号竖穴建物跡
完掘状況



第26号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第28号竖穴建物跡
完掘狀況



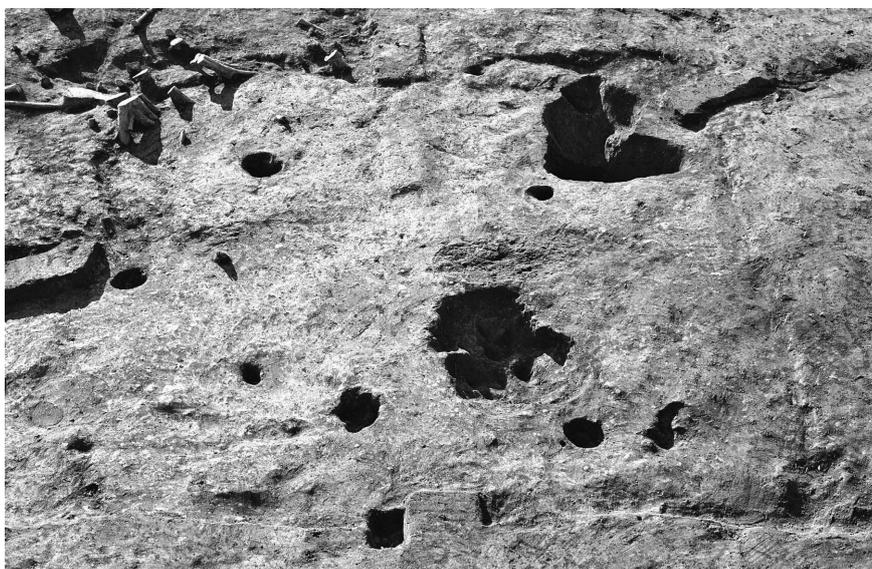
第29号竖穴建物跡
遺物出土狀況



第29号竖穴建物跡
炭化種子出土状況



第29号竖穴建物跡
完掘状況



第31号竖穴建物跡
完掘状況

PL20



第32号竖穴建物跡
完掘狀況



第53号土坑
遺物出土狀況



第1号溝跡
完掘狀況

第 3 号 沟 迹
完 掘 状 况



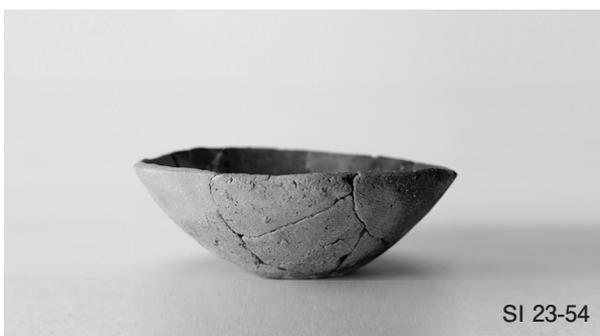
第 4 号 沟 迹
完 掘 状 况



第 7 号 沟 迹
完 掘 状 况



PL22



第3・5・10・21・23・26・28号竖穴建物跡出土土器



第3・5・22・28・29号竖穴建物跡出土土器

PL24



第20・22・23・29・31・32号竖穴建物跡出土土器

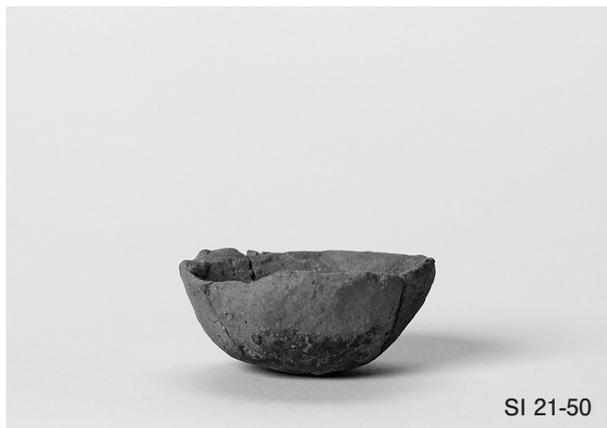


第3・21・26号竖穴建物跡出土土器

PL26



第13・20・28・29号竖穴建物跡出土土器

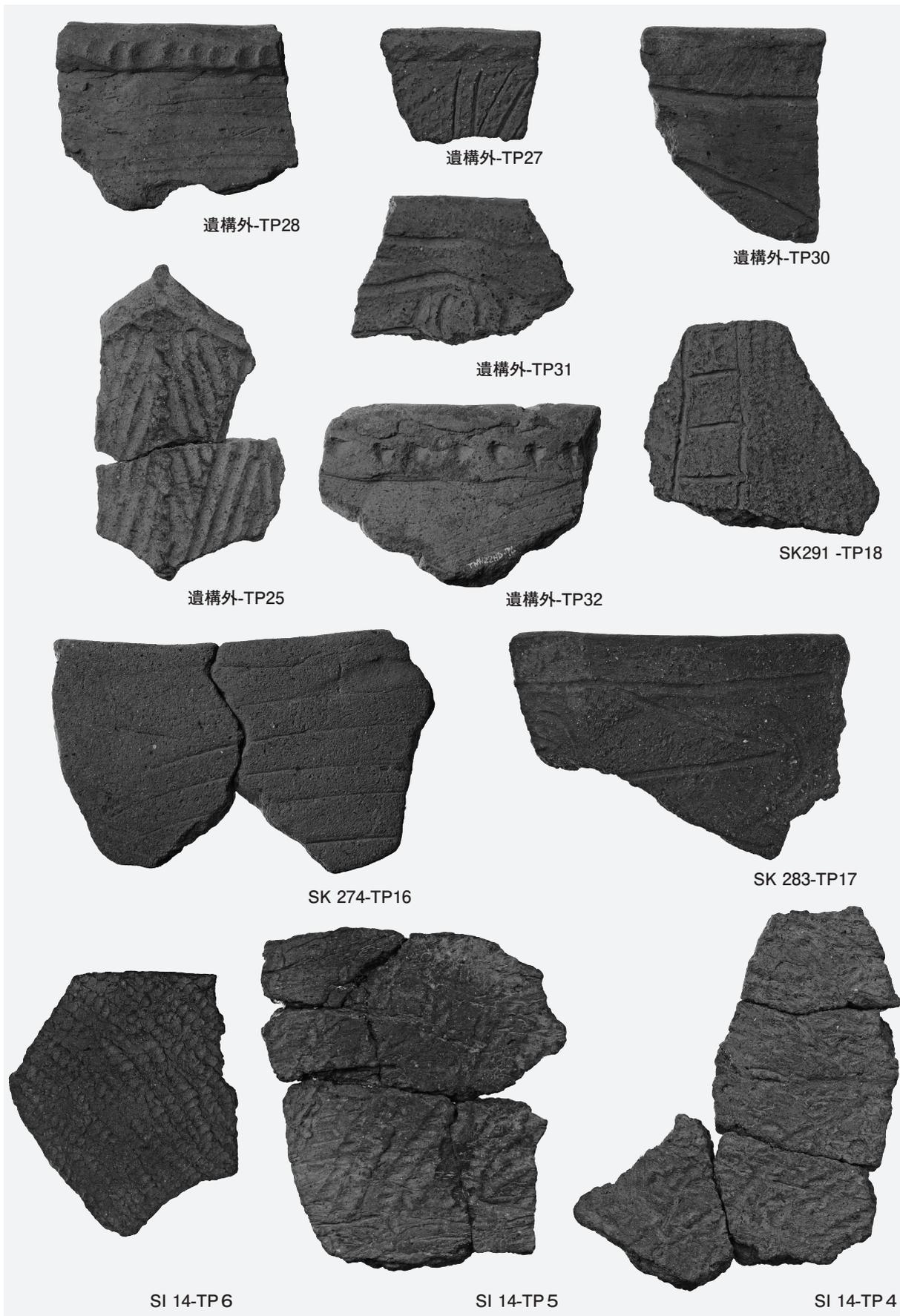


第10・13・21・23・25号竖穴建物跡出土土器

PL28



第5・13・21・23・26号竖穴建物跡出土土器



第14号竖穴建物跡，第274・283・291号土坑，遺構外出土土器

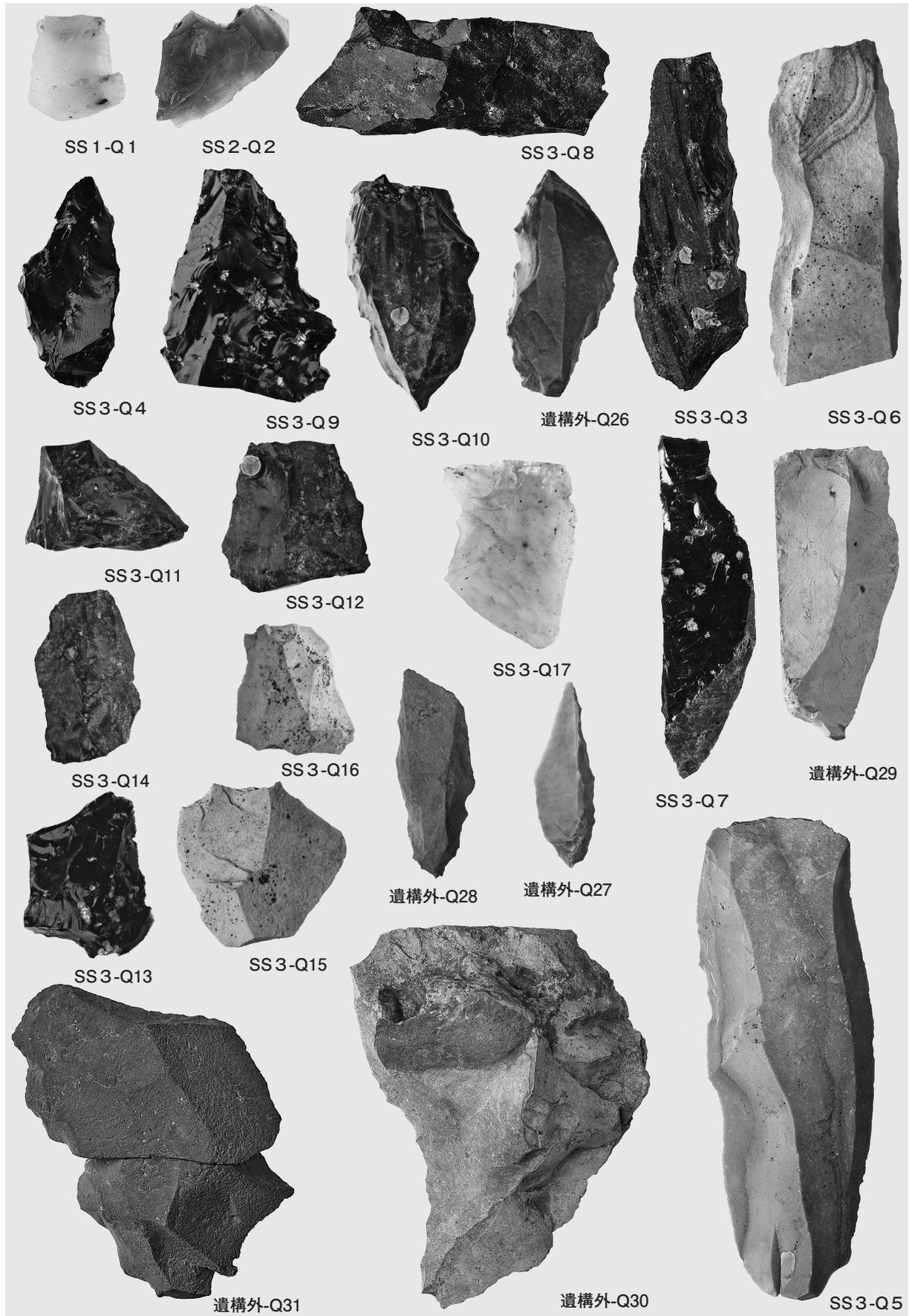
PL30



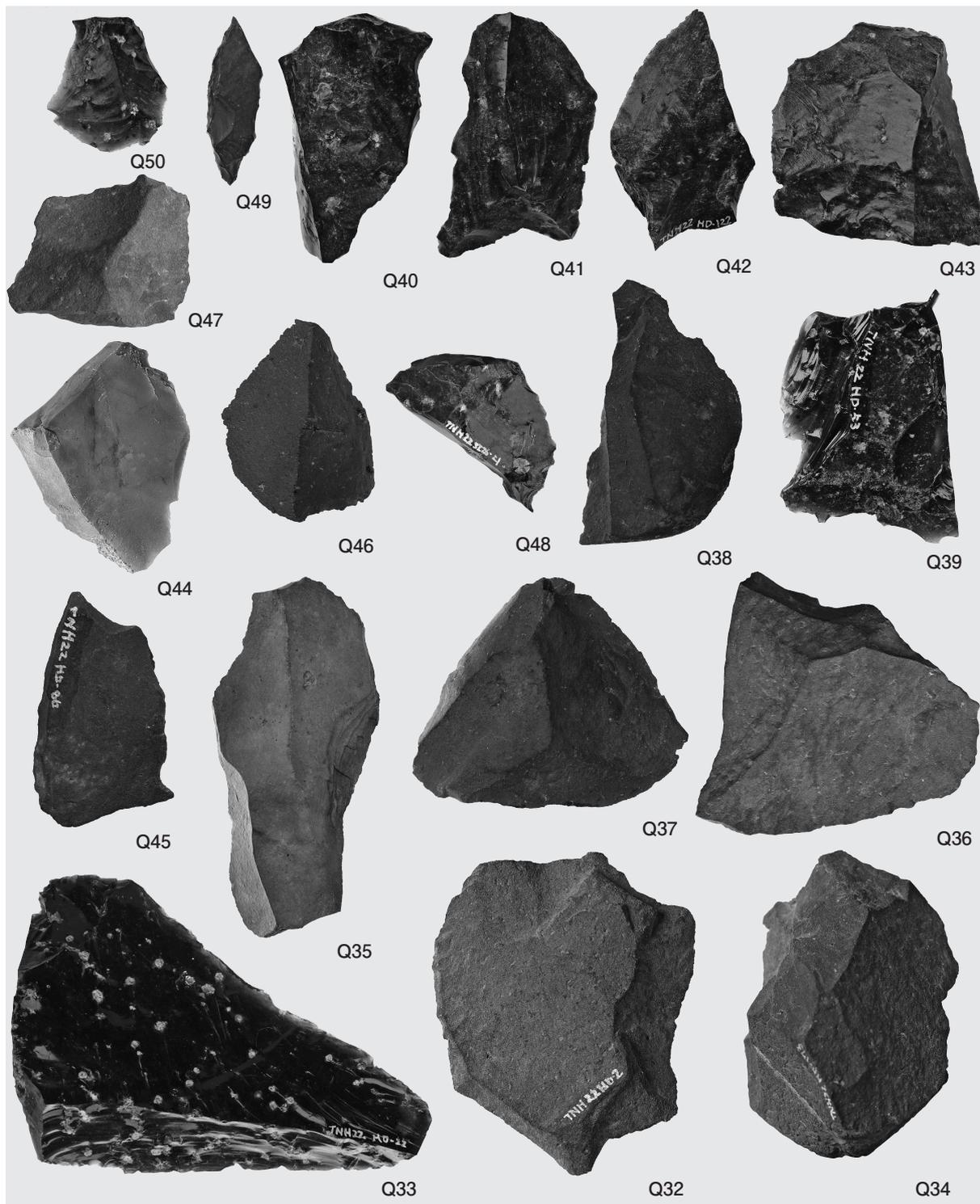
第21号竖穴建物跡出土土器，土製品（土玉・管状土錘・鏡形土製品・糸卷形土製品・翼状土製品）



石器 (磨石・砥石)

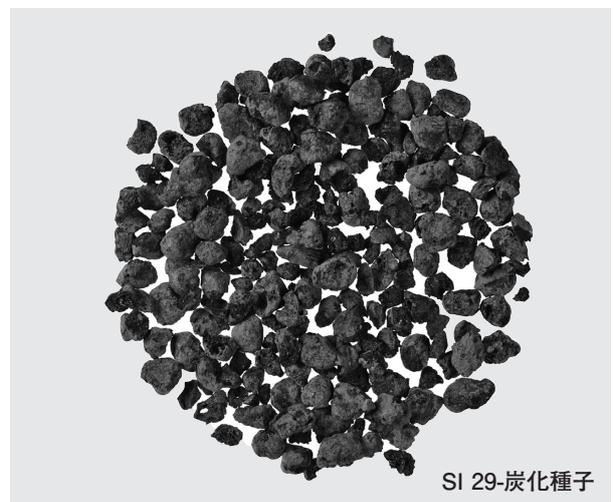
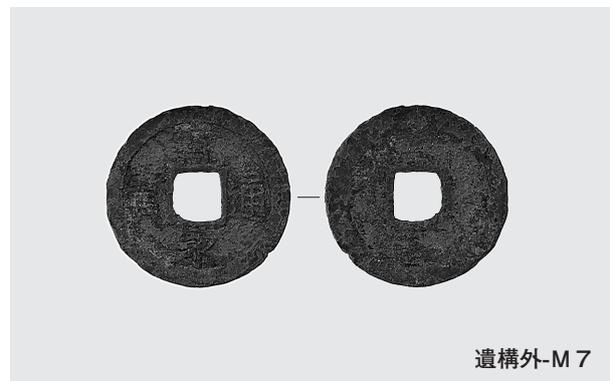


石器 (ナイフ形石器・石刃・剥片)



遺構外出土石器 (石鏃・剥片), 石製品 (有孔円板)

PL34



鉄器・鉄製品（鎌・鑿・槍鉋・不明），銅製品（煙管・錢貨），自然遺物（野蒜・炭化種子）

抄 録

ふりがな	たかすかなかだいひがしいせき							
書名	高須賀中台東遺跡							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第382集							
著者名	坂本勝彦							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2014(平成26)年3月12日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
たかすかなかだい 高須賀中台東遺跡	いばらきけん 茨城県つくば市高良 田元上新田字中臺 682番地の1ほか	08220 - 070	36度 4分 21秒	140度 0分 56秒	19 ~ 21m	20100701 ~ 20110331	11,942 m ²	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
高須賀中台東遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡	6棟	縄文土器(深鉢), 石器(磨石)		古墳時代前期の竪穴建物跡から、鏡形土製品、糸巻形土製品、翼状土製品がそれぞれ炉床面から、野蒜3,700点以上が床面から出土している。	
		古墳時代	竪穴建物跡	24棟	土師器(椀・埴・脚付埴・器台・高坏・壺・小形壺・台付甕・甕・小形甕・甑・炉器台), ミニチュア土器, 手捏土器, 土製品(土玉・管状土錘・鏡形土製品・糸巻形土製品・翼状土製品), 石器(砥石), 鉄器(刀子・鎌・鑿・槍鉋), 自然遺物(野蒜・炭化種子)			
			土坑	33基				
	時期不明	竪穴建物跡	1棟					
	狩猟場	縄文時代	陥し穴	5基				
	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点	3か所	石器(ナイフ形石器・石刃・剥片)			
その他	時期不明	土坑	230基	縄文土器, 土師器, 石器(石皿), 石製品(有孔円板), 銭貨(寛永通寶)				
要約	当遺跡は、後期旧石器時代には石器製作地点、縄文時代前期と古墳時代前期には集落として利用されていたことが明らかになった。古墳時代前期の竪穴建物跡では、焼失住居を複数確認するとともに、鏡形や糸巻形の土製品やミニチュア土器、土玉などが多数出土している。遺物の種類や出土状況から、住居の構築や廃絶時における祭祀的な行為が想定できる。							

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium Service Pack 1
レイアウト Adobe InDesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS5
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リユウミンPro・L基本
Adobe InDesign CS5
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線 口絵カラー210線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第382集

高須賀中台東遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成26（2014）年 3月10日 印刷

平成26（2014）年 3月12日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒311-4152 水戸市河和田1丁目1704番12号

TEL 0120-23-1473

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第 382 集

高須賀中台東遺跡遺構全体図



付図 高須賀中台東遺跡遺構全体図『茨城県教育財団文化財調査報告』第382集